

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

## 健康科学部

心理学科 ▶	理学療法学科 ▶	作業療法学科 ▶
救急救命学科 ▶	臨床検査学科 ▶	

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部

# 心理学科

カリキュラムマップ ▶

カリキュラム表 ▶

科目概要 ▶

健康科学部 ▶

- ▼ 1. 心理学科教育理念
- ▼ 2. カリキュラムのねらい
- ▼ 3. 各回生の到達目標
- ▼ 4. 学修領域について
- ▼ 5. 履修条件
- ▼ 6. 履修モデル
- ▼ 7. 大学院を希望する人へ
- ▼ 8. 取得できる資格

## 1. 心理学科教育理念

### (1) 教育研究上の目的

健康科学部は、心理、医療の各分野の専門的知識や技術を習得し、幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、新たな課題に対応できる問題解決能力を備えた人材を養成する。心理学科は、心理学の知識やカウンセリングのスキルなどを修得し、心の問題に適切に対応のできる専門的な人材の養成をめざす。

### (2) ディプロマポリシー（学位授与方針）

健康科学部心理学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養と心理学の専門的な理論・技法の修得を通じて、豊かな知識と人間性を基礎に、個人や家庭・学校・企業などの集団の抱える心の問題・課題に対して、その問題解決や成長・発展に貢献することのできる人材を養成することをめざしている。そのために心理学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（心理学）の学位を授与する。

- ① 心理学全般の基礎知識をバランスよく身につけている。
- ② こころとからだを併せ持つ人間に関する事象を、心理学的視点から捉えて、分析し、理解する能力を身につけている。
- ③ 臨床心理学、社会・産業心理学、発達・教育心理学、行動神経科学のいずれかの分野の専門性の高い理論・知識・研究法を身につけている。
- ④ 心理学的な視点と研究法により、社会の人々が直面している問題・課題に取り組む能力を身につけている。
- ⑤ 自己理解・他者理解にもとづくコミュニケーションを用いて、周囲の人々と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる能力を身につけている。

### (3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、健康科学部心理学科では、以下の方針で教育課程を編成する。

- ① 心理学科では、バランスよく心理学を学ぶために、専門分野に「共通領域」「行動神経科学領域」「臨床心理学領域」「社会・産業心理学領域」「発達・教育心理学領域」「医療と心理領域」の6領域を設定する。学生は、必修科目を履修することにより、すべての領域の入門の内容を修めることができる。学年進行とともに、各自の興味関心のある分野の学びを深めることができるよう、各領域により専門性の高い選択科目を用意する。これらは、コース制ではなく、各学生が学ぶ目的にあわせて、どの領域の科目も自由に選択して履修できる。（ただし、履修条件のある科目に注意が必要）

---

- ② 「共通領域」では、心理学の基礎と考えられる概論の講義科目と、心理学研究法に関する科目を配置する。1～2回生でこれらを履修・修得することが、後のより専門性の高い学習の礎となる。また、この領域には、今後の学業や卒業後の職場・家庭にも必要と考えられるコミュニケーション能力を養成するため、1回生時に「自己表現研究Ⅰ・Ⅱ」を配置する。

---

- ③ 「行動神経科学領域」では、人の心の成り立ちを科学的に解明するための理論や技術を学ぶ。知覚や認知、記憶といった心的活動が、脳のどのようなメカニズムによって実現されているかを探求するための科目を配置する。

---

- ④ 「臨床心理学領域」では、人の心の有り様や人々への支援について、臨床心理学のさまざまな理論に学ぶことと並行して、体験的学習を通して「臨床の知」を学べるよう、講義・演習及び実習を配置する。将来、医療・福祉・教育などの現場の援助職を希望する学生に適した学びの領域である。

---

- ⑤ 「社会・産業心理学領域」には、社会心理学と産業心理学の理論的学習を基礎として、実際の社会活動・企業活動に活用可能な高度なスキルを修得できる科目を配置する。将来、企業での活躍を希望する学生に適した科目を多く用意する。

---

- ⑥ 「発達・教育心理学領域」では、基礎理論の講義によって、他領域の学びにも必要な人間の発達の道すじを学ぶ。さらに専門的な、教育・発達支援の科目も配置する。

---

- ⑦ 「医療と心理領域」は、臨床心理学の発展系の領域である。心理学と、医学・哲学・文化・芸術・理学療法学等との交流による新しい視点からのユニークな科目を配置する。

---

- ⑧ 卒業研究では②～⑦の領域から学生が最も興味ある分野のテーマを設定して、3回生前期から4回生後期の間に、4年間の学びの集大成として、卒業論文を作成する。卒業研究は、心理学の高度な専門的知識・技法を修得し、学びを自己の人生に役立つものとする最適の課題である。

## 2. カリキュラムのねらい

心理学科のカリキュラムは、次の①から③の特長にあるように、学生のみなさんが心理学の基礎から応用まで、順次研究能力を修得しながら、さまざまな心理学分野をバランスよく学べるように構成されています。また、1年次・2年次に、自律的・積極的に学ぶ姿勢を養成する科目を配置して、今後の大学での学業や生活、さらには将来の社会生活や職業にも重要と考えられる自己理解・自己表現と他者理解やコミュニケーションの能力が育成されるように配慮されています。

### ① 心理学諸領域をバランスよく学ぶ。

大学における心理学教育では、心理学の諸領域をバランスよく学ぶことが重視されています。本学科のカリキュラムはこれを実現するよう、「共通領域」（研究法）、「臨床心理学領域」、「社会・産業心理学領域」、「発達・教育心理学領域」、「行動神経科学領域」、「医療と心理領域」から構成されています。「共通領域」では、心理学の基礎的な理論・研究法の修得をねらいとした科目と基礎分野の心理学が多数配置されており、心理学の基礎的理論の理解や研究能力を養成します。また、体験的に大学での学び方や学ぶ姿勢を養う科目が配置されています。

### ② 臨床心理学、社会・産業心理学、発達・教育心理学、行動神経科学の4つの専門領域を深く学び、『自立』に活かす。

4つの領域の心理学について、基礎理論から高次の専門性をもつ科目まで、2～4年次に配置しています。その中でも、特に臨床心理学と社会・産業心理学が充実しています。「臨床心理学領域」では、講義形式で理論やさまざまな知見を紹介する科目も実施されますが、対話型の授業や体験学習も多く取り入れ、将来、心の専門家になる人にも、一般企業に働く人にも、家庭生活にも役立つ臨床心理学を学べるようデザインされています。「社会・産業心理学領域」では、基礎理論から実践で役立つ高度なスキルまでを積み上げていく科目立てになっています。企業の、企画・開発やマーケティング、人事評価・労務管理などに活用できるスキルが身につきます。

③ 新しい視点の「医療と心理領域」で、自身の発達や職業・家庭生活に活かす『臨床の知』を身につけ、『共生』社会の構築に貢献することを旨とする。

人を心と身体に分けることのできない全人的な存在として捉え、心身の健康の維持や幸福、QOL (Quality Of Life) の向上に、心理・社会・身体的要因がどのような役割をもつかについて、医療および心理的側面から学ぶ領域です。臨床心理学の発展系としての性格がありますが、けっしてそれだけに止まらない広がりとししさがあります。この領域の科目の受講により、医療・福祉・教育などの現場に活かす『臨床の知』を涵養し、他者援助に活用して『共生』を目指しましょう。

### 3. 各回生の到達目標

ディプロマ・  
ポリシー(DP)

心理学全般の基礎知識を身につけている	心理学的視点から捉えて、分析し、理解する能力を身につけている	心理学の様々な分野のいずれかについて専門性の高い知識や研究法を身につけている	心理学的研究法により社会の人々が直面する問題や課題に取り組む能力を身につけている	周囲の人々と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる力を身につけている
--------------------	--------------------------------	--	--	--------------------------------------

4  
回  
生

心理学全般の知識を、日常生活に役立てる	実験・調査・臨床によるデータや事例を目的と照合して考察できる	自ら選んだ研究テーマに関する専門的知識と研究方法を身につける	社会での諸問題に対して、心理学的視点から解決を模索できる	地域社会など集団・組織に貢献できる力を身につける
---------------------	--------------------------------	--------------------------------	------------------------------	--------------------------

3  
回  
生

様々な領域の心理学の知見や理論を結びつけて考察できる	データ解析の方法や臨床実践を身につけ、その理解を深める	関連する先行研究を探索し、自らの研究テーマを構築する	家庭・学校・地域社会での諸問題について理解を深める	集団・組織の在りかたを理解し、自己との関係を構築する
----------------------------	-----------------------------	----------------------------	---------------------------	----------------------------

2  
回  
生

様々な領域の心理学の理論や知見を学び、理解を深める	データの解析や面接法など、心理学の実践を経験する	自らの研究テーマを探索しながら、深く学ぶ専門領域について考える	身近な社会での対人関係の諸問題について考える	他者への理解を深め、良好な対人関係の構築を試みる
---------------------------	--------------------------	---------------------------------	------------------------	--------------------------

1  
回  
生

幅広く心理学に触れ、興味の幅を広げる	心理学の実践(実験、統計、臨床等)の基礎を学ぶ	心理学の理論と研究法の基礎を学ぶ	身近な社会で自己と他者との関係について考える	自己理解・自己表現の力を養う
--------------------	-------------------------	------------------	------------------------	----------------

心理学全般の基礎知識の理解と統合(講義科目)	心理学全般の実践経験の習得(演習科目)	専門領域に特化した知識と研究法の習得(演習とゼミ)	心理学的視点から社会問題に取り組む姿勢を持つ(応用)	心理学的視点から地域社会への貢献を目指す(応用)
------------------------	---------------------	---------------------------	----------------------------	--------------------------

## 4. 学修領域について

専門分野の共通領域では、心理学の基礎的な理論である実験心理学や認知心理学などを学修し、心理学研究法・心理学統計法などのスキルを修得します。また医療・心理領域では、健康心理学や精神医学などを学修し、心と体の健康について学びます。下記の4つの領域には多くの科目が配置され、心理学の応用的な理論やスキルを深く学修します。

### 臨床心理学領域

子どもから青年・成人・高齢者までの心の健康、心の問題について学ぶ。心理臨床、教育、福祉などのさまざまな分野で他者を援助するための力を養成することを目標とする。将来、公認心理師・臨床心理士をめざす人には最適の導入学習領域。

### 社会・産業心理学領域

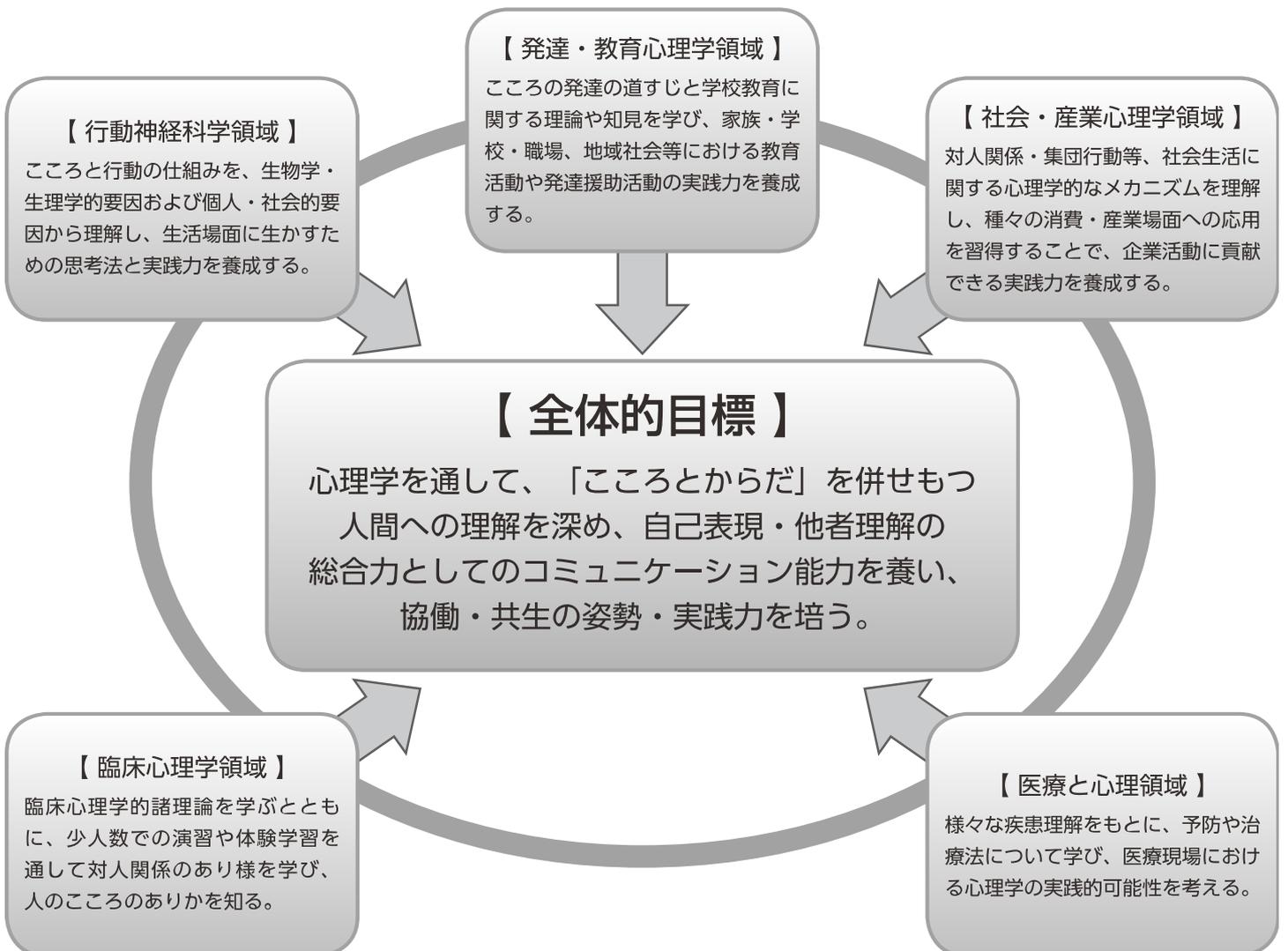
職場の人事・組織や消費者行動・マーケティングなどのビジネスに直結した産業心理学を学んでいく領域。職場のメンタルヘルスについても専門的な素養を育み、卒業後は職場の健康と生産性を高める戦力となるような職業人をめざす。

### 発達・教育心理学領域

小学校・中学校・高校の児童・生徒の心理を理解するとともに、思春期・青年期の心の問題への対処、ストレスマネジメントやソーシャルスキルなどの知識や技術を修得。卒業後は学校や教育相談機関、種々の福祉施設等への就職をめざす。

### 行動神経科学領域

人の心の成り立ちを、科学的に解明する。人間の脳の動きを動物の脳と比較することによって理解し、知覚や認知、記憶といった心的活動が、脳のどのようなメカニズムによって実現されているかを探求する。



## 5. 履修条件

対象科目	履修条件
心理学研究法 II	「心理学研究法 I」を修得済みであること
心理学統計法 II	「心理学統計法 I」を修得済みであること
心理学統計法 III (多変量解析)	「心理学統計法 II」または「心理学データ解析」を修得済みであること
心理的アセスメント II	「心理的アセスメント I」を修得済みであること
マーケティング調査演習	下記①②をともに満たすこと ①「社会・集団・家族心理学 I」、「社会・集団・家族心理学 II」、「産業・組織心理学」、「消費者行動論」のうち いずれか2科目を修得済みであること ②「心理学統計法 I」を修得し、かつ、「心理学統計法 II」または「心理学データ解析」を修得済みであること
社会心理学実験演習 I・II	「マーケティング調査演習」の履修条件に同じ なお、「社会心理学実験演習 I」と「社会心理学実験演習 II」は同時に履修すること
発達心理学 II	「発達心理学 I」を修得済みであること
心理演習	下記①②をともに満たすこと ① 3回生前期までの公認心理師指定科目を全て修得済みであること ただし、2回生編入者および2回生転入生は、それらの科目を初めて受講登録する場合に限り同時履修を認める ② 2回生終了時点で卒業要件修得単位数が70単位数以上であること
心理実習	下記①②をともに満たすこと ① 3回生後期までの公認心理師指定科目を全て修得済みであること ② 3回生終了時点で卒業要件修得単位数が110単位数以上であること

## 6. 履修モデル

下の科目表は、特定の領域を重点的に学ぶ履修モデルです。あくまでモデルであり、この通りに履修する必要はありません。複数領域から幅広く履修することもできます。

### 臨床心理学領域

48単位

	配当 回生	実施 期間
パーソナリティ心理学	1	後期
カウンセリング	2	前期
コミュニティ心理学	2	前期
よそおいの心理学	2	前期
発達臨床心理学	2	前期
対人援助論	2	前期
行動分析学	2	後期
健康・医療心理学	2	後期
福祉心理学	2	後期
社会・集団・家族心理学 II	2	後期
発達心理学 II	2	後期

### 社会・産業心理学領域

48単位

	配当 回生	実施 期間
パーソナリティ心理学	1	後期
学習・言語心理学	2	前期
実験心理学	2	前期
産業・組織心理学	2	前期
よそおいの心理学	2	前期
心理学統計法 II	2	前期
福祉心理学	2	後期
知覚・認知心理学	2	後期
社会・集団・家族心理学 II	2	後期
消費者行動論	2	後期
社会調査法 (社会心理調査)	2	後期

### 発達・教育心理学領域

48単位

	配当 回生	実施 期間
パーソナリティ心理学	1	後期
発達臨床心理学	2	前期
学習・言語心理学	2	前期
心理学統計法 II	2	前期
よそおいの心理学	2	前期
コミュニティ心理学	2	前期
福祉心理学	2	後期
対人援助論	2	前期
発達心理学 II	2	後期
教育・学校心理学	2	後期
健康・医療心理学	2	後期

### 行動神経科学領域

48単位

	配当 回生	実施 期間
心理学史	2	前期
感情・人格心理学	2	前期
実験心理学	2	前期
学習・言語心理学	2	前期
心理学統計法 II	2	前期
福祉心理学	2	後期
社会・集団・家族心理学 II	2	後期
知覚・認知心理学	2	後期
行動分析学	2	後期
健康・医療心理学	2	後期
発達心理学 II	2	後期

教育・学校心理学	2	後期
こころの脳科学	3	後期
障害者・障害児心理学	3	前期
心理学的支援法	3	前期
精神疾患とその治療	3	前期
心理的アセスメント II	3	前期
心理学研究法 II	3	前期
メンタルヘルス・マネジメント	3	前期
司法・犯罪心理学	3	後期
異常心理学	3	後期
神経・生理心理学	3	前期
コーチング心理学	3	後期
英書講読	3	後期

行動分析学	2	後期
健康・医療心理学	2	後期
広告と消費の心理学	3	前期
社会心理学実験演習 I	3	前期
社会心理学実験演習 II	3	前期
メンタルヘルス・マネジメント	3	前期
こころの脳科学	3	後期
心理学統計法 III (多変量解析)	3	前期
環境心理学	3	前期
司法・犯罪心理学	3	後期
マーケティング調査演習	3	後期
コーチング心理学	3	後期
英書講読	3	後期

社会・集団・家族心理学 II	2	後期
社会調査法 (社会心理調査)	2	後期
環境心理学	3	前期
障害者・障害児心理学	3	前期
心理学研究法 II	3	前期
精神疾患とその治療	3	前期
心理的アセスメント II	3	前期
メンタルヘルス・マネジメント	3	前期
こころの脳科学	3	後期
心理学的支援法	3	前期
神経・生理心理学	3	前期
コーチング心理学	3	後期
英書講読	3	後期

教育・学校心理学	2	後期
心理学的支援法	3	前期
障害者・障害児心理学	3	前期
こころの脳科学	3	後期
精神疾患とその治療	3	前期
社会心理学実験演習 I	3	前期
社会心理学実験演習 II	3	前期
メンタルヘルス・マネジメント	3	前期
環境心理学	3	前期
異常心理学	3	後期
神経・生理心理学	3	前期
医療と生命の倫理	3	後期
英書講読	3	後期

## 7. 大学院を希望する人へ

将来、大学院への進学を考えている人には、「英書講読」「心理学統計法 II」「心理学研究法 II」を受講することを強く薦めます。

## 8. 取得できる免許・資格

### (1) 取得可能な免許・資格

認定心理士 ▶	社会調査士 ▶	高等学校教諭一種免許状：公民 ▶
司書課程 ▶	学校図書館司書教諭 ▶	

### (2) 取得可能な受験資格

公認心理師国家試験受験資格 ▶
-----------------

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 心理学科

# カリキュラムマップ



### ▼ 1. 基礎分野 ▼ 2. 専門分野

#### 全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

#### 学科・コース別のディプロマ・ポリシー

- ① 心理学全般の基礎知識をバランスよく身につける。
- ② こころとからだを併せ持つ人間に関する事象を、心理学的視点から捉えて、分析し、理解する能力を身につける。
- ③ 臨床心理学、社会・産業心理学、発達・教育心理学、基礎心理学のいずれかの分野の専門性の高い理論・知識・研究法を身につける。
- ④ 心理学的な視点と研究法により、社会の人々が直面している問題・課題に取り組む能力を身につける。
- ⑤ 自己理解・他者理解にもとづくコミュニケーションを用いて、周囲の人々と協働し、組織や地域の成長・発展に貢献できる能力を身につける。

### 「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

#### 科目ナンバーの見方

〈例〉 **PS** - **1** **1** **1**  
**1** **2** **3** **4**

<b>1</b> 区分	PS：心理学科
<b>2</b> 回生	1：1回生 2：2回生 3：3回生 4：4回生
<b>3</b> 科目区分	1：基礎分野 2：共通領域 3：臨床心理学領域 4：社会・産業心理学領域 5：発達・教育心理学領域 6：医療と心理領域 7：行動神経科学領域 ※2～7は専門分野
<b>4</b> 履修順序	同系科目中の履修順序（指定なしは0）

# 1. 基礎分野

## (1) 基礎分野より必修科目11単位、選択必修科目25単位の計36単位を修得

※人間と知の伝達、人間と文化、人間と社会、人間と自然の領域からそれぞれ4単位、医療と保健から2単位を含むこと

### 基礎科目

#### [ 外国語 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PS111	English Communication I	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PS112	English Communication II	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PS211	English Communication III	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
PS111	English Literacy I	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PS112	English Literacy II	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PS211	English Literacy III	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
PS111	中国語 I	1	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PS112	中国語 II	1	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

#### [ 情報処理 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PS111	情報処理演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥
PS112	情報処理演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥
PS211	情報処理応用演習 I	1	選択	演習	2回生	①②⑥
PS212	情報処理応用演習 II	1	選択	演習	2回生	①②⑥

### 教養科目

#### [ 人間と知の伝達 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PS111	アカデミックスキルズ	2	必修	演習	1回生	⑤⑥⑦
PS112	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦
PS111	日本人と宗教	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
PS111	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
PS111	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
PS211	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤
PS111	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦
PS111	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤

#### [ 人間と文化 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PS111	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④
PS111	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
PS111	ヨーロッパの歴史	2	選択	講義	1回生	①②④
PS111	文学にみる京都	2	選択	講義	1回生	①②③
PS111	京都の歴史・文化	2	選択	講義	1回生	①②③⑥

#### [ 人間と社会 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PS111	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥

PS111	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
PS111	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
PS211	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
PS111	政治学概説	2	選択	講義	1回生	①②③④
PS111	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
PS111	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥
PS111	経済学概説	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
PS111	国際マーケティング論	2	選択	講義	1回生	①⑤⑥
PS111	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥

## [ 人間と自然 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PS111	自然の探求	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦
PS111	生活の中の数学	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥
PS111	物理学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
PS111	化学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
PS111	生物学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥

## [ 医療と保健 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PS111	こころとからだの健康科学 I	2	必修	講義	1回生	①②③⑤
PS111	こころとからだの健康科学 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
PS111	医学概論	2	選択	講義	1回生	①②④
PS111	人体の構造と機能及び疾病	2	選択	講義	1回生	①③④⑤
PS111	看護倫理	2	選択	講義	1回生	③④⑤
PS111	国際看護学	2	選択	講義	1回生	①③④
PS111	看護管理学	2	選択	講義	1回生	①②⑤
PS111	高齢者のヘルスプロモーション	2	選択	講義	1回生	①③④
PS111	認知症看護学	2	選択	講義	1回生	①③④
PS111	看護と死生観	2	選択	講義	1回生	①③④
PS111	次世代育成看護学概論	2	選択	講義	1回生	①④⑥
PS111	災害看護学	2	選択	講義	1回生	①③④⑤
PS111	家族看護学	2	選択	講義	1回生	①③④

## キャリア科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PS211	キャリアデザイン入門	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦
PS211	キャリア開発演習 I	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦
PS211	キャリア開発演習 II	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦
PS211	キャリア開発演習 III	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦
PS211	キャリア開発演習 IV	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥⑦
PS111	キャリア開発講座 I	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
PS111	キャリア開発講座 II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
PS211	キャリア開発講座 III	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦
PS211	キャリア開発講座 IV	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥⑦
PS211	キャリアコミュニケーション I	2	選択	講義	2回生	①②④⑦
PS212	キャリアコミュニケーション II	2	選択	講義	2回生	①②④⑦
PS311	キャリア開発研究 I	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥
PS311	キャリア開発研究 II	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥
PS311	キャリア開発研究 III	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦
PS311	キャリア開発研究 IV	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦
PS311	キャリア開発研究 V	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦
PS311	キャリア開発研究 VI	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦

PS111	インターンシップ準備講座	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥⑦
PS112	インターンシップ I	1	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PS112	インターンシップ II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PS112	インターンシップ III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

## 2. 専門分野

### (1) 専門分野より必修36単位、選択必修科目52単位の計88単位を修得

#### 専門科目

#### [ 共通領域 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PS121	自己表現研究 I	2	必修	演習	1回生	②③④⑦	②④⑤
PS122	自己表現研究 II	2	必修	演習	1回生	②③④⑦	②④⑤
PS221	心理学基礎研究 I	2	必修	演習	2回生	②③④⑤⑥⑦	②④⑤
PS222	心理学基礎研究 II	2	必修	演習	2回生	②③④⑤⑥⑦	②④⑤
PS121	心理学研究法 I	2	必修	講義	1回生	①②⑥	①④⑤
PS121	心理学実験 I	2	必修	演習	1回生	②③⑥⑦	①④⑤
PS121	心理学概論 I	2	必修	講義	1回生	①②⑥⑦	①④⑤
PS122	心理学概論 II	2	必修	講義	1回生	①②⑥⑦	①④⑤
PS121	心理学統計法 I	2	必修	講義	1回生	①②⑤⑥	①④⑤
PS321	心理学研究法 II	2	選択	演習	3回生	①②⑤	①③④⑤
PS122	心理学実験 II	2	必修	演習	1回生	②③⑥⑦	①④⑤
PS221	心理的アセスメント I	2	必修	講義	2回生	①⑥⑦	①②③④⑤
PS221	心理学統計法 II	2	選択	講義	2回生	①②⑤⑥	①③④⑤
PS221	心理学データ解析	2	選択	演習	2回生	①②⑤⑥	①③④⑤
PS221	心理学史	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦	③④⑤
PS321	卒業研究 I	2	必修	演習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④⑤
PS321	心理的アセスメント II	2	選択	演習	3回生	①②⑥	①②③④⑤
PS321	心理学統計法 III (多変量解析)	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥	①③④⑤
PS321	英書講読	2	選択	講義	3回生	①②⑥⑦	①③④⑤
PS322	卒業研究 II	2	必修	演習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④⑤
PS421	卒業研究 III	2	必修	演習	4回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④⑤
PS422	卒業研究 IV	2	必修	演習	4回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④⑤
PS221	心理学特殊講義	2	選択	講義	2回生	②③④⑤⑦	②⑤

#### [ 行動神経科学領域 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PS271	知覚・認知心理学	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦	③④⑤
PS271	感情・人格心理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑥⑦	③④⑤
PS271	実験心理学	2	選択	講義	2回生	①②⑥	③④⑤
PS271	行動分析学	2	選択	講義	2回生	①②④	③④⑤
PS371	神経・生理心理学	2	選択	講義	3回生	①②⑥⑦	②③④⑤
PS371	こころの脳科学	2	選択	講義	3回生	①②⑥⑦	②③④⑤
PS371	学習・言語心理学	2	選択	講義	2回生	①②⑥⑦	②③④⑤

#### [ 臨床心理学領域 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PS131	臨床心理学概論	2	必修	講義	1回生	①②③⑤	②③④⑤
PS131	パーソナリティ心理学	2	選択	講義	1回生	①②③	②③④⑤

PS231	対人援助論	2	選択	講義	2回生	①③⑤	②③④⑤
PS231	カウンセリング	2	選択	講義	2回生	②④⑦	②③④⑤
PS231	グループワーク	2	選択	演習	2回生	①③④⑦	②③④⑤
PS331	心理学的支援法	2	選択	講義	3回生	①③④⑤	②③④⑤
PS331	司法・犯罪心理学	2	選択	講義	3回生	①②③⑤	②③④⑤
PS231	コミュニティ心理学	2	選択	講義	2回生	①③④⑤	②③④⑤
PS331	異常心理学	2	選択	講義	3回生	①③④⑦	②③④⑤
PS231	福祉心理学	2	選択	講義	2回生	①③④⑦	②③④⑤
PS131	公認心理師の職責	2	選択	講義	1回生	①②③	②③④
PS231	関係行政論	2	選択	講義	2回生	①③④	②③④
PS331	心理演習	2	選択	演習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	②③⑤
PS431	心理実習	2	選択	実習	4回生	①②③④⑤⑥⑦	②③⑤

[ 社会・産業心理学領域 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PS241	社会・集団・家族心理学 I	2	必修	講義	2回生	①②③④⑤⑥	②③④⑤
PS242	社会・集団・家族心理学 II	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤⑥	②③④⑤
PS241	産業・組織心理学	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑥	②③④⑤
PS241	消費者行動論	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑥	②③④⑤
PS341	広告と消費の心理学	2	選択	講義	3回生	①②④⑤⑥	②③④⑤
PS341	マーケティング調査演習	2	選択	演習	3回生	①②④⑤⑥⑦	②③④⑤
PS341	環境心理学	2	選択	講義	3回生	①②④⑤⑥	②③④⑤
PS341	社会心理学実験演習 I	2	選択	演習	3回生	①②④⑤⑥⑦	②③④⑤
PS341	社会心理学実験演習 II	2	選択	演習	3回生	①②④⑤⑥⑦	②③④⑤
PS341	コーチング心理学	2	選択	講義	3回生	①②④⑤⑥	②③④⑤
PS241	社会調査法 (社会心理調査)	2	選択	講義	2回生	①②④⑤⑥	②③④⑤
PS341	メンタルヘルス・マネジメント	2	選択	講義	3回生	①⑤⑥	②③④⑤

[ 発達・教育心理学領域 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PS241	発達心理学 I	2	必修	講義	2回生	①②⑤	②③④⑤
PS252	発達心理学 II	2	選択	講義	2回生	②④⑥	②③④⑤
PS251	教育・学校心理学	2	選択	講義	2回生	①⑥⑦	②③④⑤
PS251	発達臨床心理学	2	選択	講義	2回生	①③④⑤	②③④⑤

[ 医療と心理領域 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PS261	よそおいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④	②③④⑤
PS361	医療と生命の倫理	2	選択	講義	3回生	①②④	②③④⑤
PS361	精神疾患とその治療	2	選択	講義	3回生	①②⑥⑦	②③④⑤
PS361	障害者・障害児心理学	2	選択	講義	3回生	①③④⑦	②③④⑤
PS261	健康・医療心理学	2	選択	講義	2回生	①②④	②③④⑤

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 心理学科

# カリキュラム表

心理学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	科目概要
--------	-------------	------

健康科学部 ▶
---------

**基礎分野**  
**36単位**  
必修11単位+  
選択必修25単位

**専門分野**  
**88単位**  
必修36単位+  
選択必修〔準必修〕4単位/  
選択必修48単位

卒業要件  
**124**  
単位

## 基礎分野 必修科目

**11**単位

基礎科目

	単位	回生
English Communication I	1	1~
English Communication II	1	1~
English Literacy I	1	1~

	単位	回生
English Literacy II	1	1~
情報処理演習 I	1	1~
情報処理演習 II	1	1~

教養科目

	単位	回生
こころとからだの健康科学 I	2	1~
アカデミックスキルズ	2	1~
地域課題研究	1	1~

## 基礎分野 選択必修科目

下記科目から **25**単位

※の各領域からは所定単位数以上の修得必須

基礎科目

	単位	回生
English Communication III	1	2~
English Literacy III	1	2~
中国語 I	1	1~
中国語 II	1	1~
情報処理応用演習 I	1	2~
情報処理応用演習 II	1	2~

領域 人間と知の伝達

※4単位以上

	単位	回生
日本人と宗教	2	1~
哲学概論	2	1~
倫理学概論	2	1~
宗教学概論	2	2~
言語コミュニケーション論	2	1~

領域 人間と文化

※4単位以上

	単位	回生
異文化コミュニケーション論	2	1~
文化人類学	2	1~
ヨーロッパの歴史	2	1~
文学にみる京都	2	1~
京都の歴史・文化	2	1~

現代のメディアと表現	2	1～
------------	---	----

領域 人間と社会

※4単位以上

	単位	回生
日本国憲法	2	1～
法学概論 I	2	1～
法学概論 II	2	1～
民法	2	2～
政治学概説	2	1～
社会学概論 I	2	1～
社会学概論 II	2	1～
経済学概説	2	1～
国際マーケティング論	2	1～
経営学概論	2	1～

領域 人間と自然

※4単位以上

	単位	回生
自然の探求	2	1～
生活の中の数学	2	1～
物理学基礎	2	1～
化学基礎	2	1～
生物学基礎	2	1～

領域 医療と保健

※2単位以上

	単位	回生
こころとからだの健康科学 II	2	1～
高齢者のヘルスプロモーション	2	1～
人体の構造と機能及び疾病	2	1～
医学概論	2	1～
看護倫理	2	1～
国際看護学	2	1～
看護管理学	2	1～
認知症看護学	2	1～
看護と死生観	2	1～
次世代育成看護学概論	2	1～
災害看護学	2	1～
家族看護学	2	1～

キャリア教育科目群

	単位	回生
キャリアデザイン入門	2	2～
キャリア開発講座 I	2	1～
キャリア開発講座 II	2	1～
キャリア開発講座 III	2	2～
キャリア開発講座 IV	2	2～
キャリア開発演習 I	2	2～
キャリア開発演習 II	2	2～
キャリア開発演習 III	2	2～
キャリア開発演習 IV	2	2～

	単位	回生
キャリアコミュニケーション I	2	2～
キャリアコミュニケーション II	2	2～
キャリア開発研究 I	2	3～
キャリア開発研究 II	2	3～
キャリア開発研究 III	2	3～
キャリア開発研究 IV	2	3～
キャリア開発研究 V	2	3～
キャリア開発研究 VI	2	3～

	単位	回生
インターンシップ準備講座	2	1～
インターンシップ I	1	1～
インターンシップ II	2	1～
インターンシップ III	2	1～

専門分野 必修科目

36単位

1回生

	単位	開講期
自己表現研究 I	2	前
自己表現研究 II	2	後
心理学研究法 I	2	後
心理学実験 I	2	前
心理学実験 II	2	後
心理学概論 I	2	前
心理学概論 II	2	後
心理学統計法 I	2	後
臨床心理学概論	2	後

2回生

	単位	開講期
心理学基礎研究 I	2	前
心理学基礎研究 II	2	後
心理的アセスメント I	2	後
社会・集団・家族心理学 I	2	前
発達心理学 I	2	前

3回生

	単位	開講期
卒業研究 I	2	前
卒業研究 II	2	後

4回生

	単位	開講期
卒業研究 III	2	前
卒業研究 IV	2	後

専門分野 選択必修科目 (準必修) 4単位

【準必修（必修ではないが選択すべき科目）】

2回生

	単位	開講期
心理学特殊講義	2	前
心理学データ解析	2	後

専門分野 選択必修科目【領域別】

48単位

領域 共通

2回生

	単位	開講期
心理学史	2	前
心理学統計法 II	2	前

3回生

	単位	開講期
心理学研究法 II	2	前
心理的アセスメント II	2	前
心理学統計法 III（多変量解析）	2	前
英書講読	2	後

領域 行動神経科学

2回生

	単位	開講期
感情・人格心理学	2	前
実験心理学	2	前
学習・言語心理学	2	前
知覚・認知心理学	2	後
行動分析学	2	後

3回生

	単位	開講期
こころの脳科学	2	後
神経・生理心理学	2	前

領域 臨床心理学

1回生

	単位	開講期
パーソナリティ心理学	2	後
公認心理師の職責	2	後

2回生

	単位	開講期
カウンセリング	2	前
コミュニティ心理学	2	前
対人援助論	2	前
福祉心理学	2	後
関係行政論	2	前

3回生

	単位	開講期
心理学的支援法	2	前
司法・犯罪心理学	2	後
異常心理学	2	後
心理演習	2	後

4回生

	単位	開講期
心理実習	2	通

領域 発達・教育心理学

2回生

	単位	開講期
発達臨床心理学	2	前
発達心理学 II	2	後
教育・学校心理学	2	後

領域 社会・産業心理学

2回生

	単位	開講期
産業・組織心理学	2	前
社会・集団・家族心理学 II	2	後
消費者行動論	2	後
社会調査法（社会心理調査）	2	後

3回生

	単位	開講期
広告と消費の心理学	2	前
社会心理学実験演習 I	2	前
社会心理学実験演習 II	2	前
メンタルヘルス・マネジメント	2	前
環境心理学	2	前
マーケティング調査演習	2	後
コーチング心理学	2	後

領域 医療と心理

2回生

	単位	開講期
よそおいの心理学	2	前
健康・医療心理学	2	後

3回生

	単位	開講期
精神疾患とその治療	2	後
障害者・障害児心理学	2	前
医療と生命の倫理	2	後

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 心理学科

# 科目概要

心理学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	カリキュラム表
健康科学部 ▶		

▼ 基礎分野    ▼ 専門分野

## 基礎分野

基礎科目

【外国語】

### English Communication I

心理学では、他者とどのようにコミュニケーションを取るかは最も重要な課題の一つと考えられる。英語の学習は、国際化が進んでいる現代社会における英語の役割や必要性を認識すると同時に、English Communicationの基礎を学習することを通じて、学生がもう一度自分の母語を見つめ直すよい機会にもなる。「English Communication I」では、DVD教材を使用しながら、学生の日常生活上で実際に役に立つlisteningやspeakingの基礎能力を育成することを目標とする。言葉のみの学習だけでなく、DVD教材が可能にする登場人物の心理状況を読み取るような練習や日本人と異なる表現方法も学ぶ。

### English Communication II

「English Communication II」では、学生は「English Communication I」で学んだ内容を復習しつつ、新たに日常生活の場面に欠かせない英語を積み上げることをめざす。「English Communication I」とは別のDVD教材を導入し、学生の実践的な英語運営能力をさらに向上させる。「English Communication II」を終えた時点で、受講生が、例えば海外旅行先、もしくはホームステイ先で日常生活に困らない程度の英語表現を使いこなすことを目標とする。同時に、心理学を専攻にしている者として注目すべき英語の「内面的な様子」や「考え方」を理解できるように学習する。

### English Communication III

すでに英語コミュニケーションに関する基礎知識が身についた学生が受講するクラスが「English Communication III」である。「English Communication III」では、特にlisteningの内容を重視しながら、より高度な英語理解力を磨き上げることを目標にする。DVD教材の登場人物の「語り」を通じて、さまざまな人間がもつ「性格」や「感性」、「感情」と「考え方」などを分析し、学生が自分の「内面」を英語で表現できるように学習する。学生は自分の意見や気持ちを英語で述べるができるようになることが「English Communication III」の目標である。授業では、具体的な表現(is, was, canなど)だけでなく、仮定法を含めたより繊細な表現(might, should, couldbeなど)も学ぶ。

### English Literacy I

将来、心理学分野の英語論文を読みこなすことができる基礎力を形成するために、Academic Reading（学術的な文書を読むこと）の方法を知り、これを身につけることとさまざまな学術

### English Literacy II

本講義では「English Literacy I」で学んだAcademic Readingの知識を用いて、心理学分野のさまざまなトピックを短くまとめた文章を読んでいく。これにより、文章スキーマから全

### English Literacy III

昨今、多くのハードカバーの英語出版物は少し待てば翻訳で読めるようになってきた。しかし、学術誌の最新の論文については、翻訳がすぐに手に入るわけではない。そこで、本講座で

分野で共通して頻繁に用いられる語彙（Academic Words）や表現パターンを習得することをめざす。具体的には、毎回、心理学を含む多彩な学術分野に関連する平易な文章を読み、これを通して、Academic words や時系列・因果関係といった典型的な文章構成のスキーマを学習する。また、センテンス・レベルの英作文を通して、高校文法を復習する。

体を統合的に理解する実践的な能力を養成し、同時に、Academic Wordsや心理学で用いられる用語の学習と定着を図る。また、学術的な文書作成の導入として、心理学の文献に見られる典型的な文章の視点を変えた再生等の作文課題を与える。

は、必修のEnglish Literacy I - IIを履修した学生が卒業論文作成に向けて英語で心理学の学術論文を読めるようになるためのAcademic Readingの能力のさらなる高度化を目標にする。テキストは、大学生にとって身近な心理的問題を扱った比較的平易な原書の抜粋から始め、次第に難易度を高める。また、取り上げたトピックに対して短い意見を書くといった活動を通して発信能力を養成する。

### 中国語 I

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

### 中国語 II

中国語のさまざまな基本短文を作ることができるよう、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

## 【情報処理】

### 情報処理演習 I

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

### 情報処理演習 II

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められる。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

### 情報処理応用演習 I

現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなども合わせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』受験レベルのスキルを身につける。授業は演習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。

### 情報処理応用演習 II

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」程を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現なども合わせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。

## 人間と知の伝達

### 【現代の思想】

## アカデミックスキルズ

アカデミックスキルズは、大学での勉強に必要な学習技法の総称である。この科目では、数多くあるアカデミックスキルズのうち、「論理的な文章」の書き方をとりたてて教える。論理的な文章、すなわち、論理性の高い文章が書けるようになると、大学での学習がはかどる。なぜなら、「論理的な文章」の書き方を身につけることは論理的思考を身につけることに他ならない。大学での学習内容の多くは論理的に構築されており、論理的思考が深まると学習内容をより深く理解できるからである。本講義では、まず、比較的短い作文を、段落、語句、文体に意識をはらいながらきちんと書けるように指導する。授業終了時には大学の勉強には不可欠のレポートやブックレビュー、あるいは実験記録などの文章を、論理的に書けるようにする。

## 哲学概論

哲学はさまざまな学問の基礎だと言われている。それは、例えば数学が数を扱い、生物学が生命現象を扱うのに対して、哲学の対象が思考そのものにあるからである。哲学は言わば、物事を根本的に突き詰めて考えようとする一つの態度・スタイルを意味している。本講義の目的は、問題に取り組む際の態度としての哲学的な思考のスタイルを身につけてもらうことにある。講義のなかでは、さまざまな哲学者の思考の道筋をだどることを通して、実際に哲学することの意義を学ぶ。

## 言語コミュニケーション論

日本語と英語によるコミュニケーションの比較を通して、その違いや特徴を学ぶ。コミュニケーションとは何かという問題から始めて、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題を扱う。さらに、言語コミュニケーションの比較を翻訳や通訳という観点からも検討する。なお、言語によるコミュニケーションとの関わりにおいて、若干、言語以外によるコミュニケーションにも触れ、日英語それぞれの言語コミュニケーションの特質とどう関わるかも検討する。

## 地域課題研究

地域社会と大学および大学生の役割について考えるために、実際に京都府や滋賀県などの市町村に出かけ地域振興や環境問題に関する地域貢献のための実践的活動を行う。①地域課題についての情報収集、②解決方法の考案、③地域での実践的活動を通して地域課題について総合的に考える力を身につける。

## 倫理学概論

人と人がともに・よく生きるとはどういうことか。そして、ともによく生きるために私たちはどのように行動するべきか。こうしたシンプルな問いを基本的なところから考えるのが倫理学である。本講義は、この問いとそこから生ずる諸問題に対するさまざまな解答を吟味することを通して、日々の生活で私たちが直面する具体的な問題から「社会のあり方」に至るまで、倫理的な問題の広さと深さを知り、倫理的な発想を身につけてもらうことを目的とする。

## 現代のメディアと表現

今日、日本のメディア・コンテンツが世界的な文化として高く評価されつつあることは言うまでもない。その理由はいくつかあるが、最も重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現し得ていることが挙げられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、現代の映像メディアは今や担っている。このような観点に立って、日本の映像文化を分析、特にアニメーションを分析、評価するのがこの講義の目標である。特に宮崎駿の創作活動に焦点を絞って、講義を進めていく。

## 日本人と宗教

日本社会が伝統として培ってきた宗教の文化的土壌を理解し、そこから宗教的な見方、考え方を通して人間関係のあり方やその形成について豊かな意味を獲得していくことを理解し、実践していく態度を身につける。具体的には、日本社会に広く展開した宗教（神道、仏教、キリスト教、儒教、民俗行事など）について、その実践や文化的視点から、資料等を用いながら学ぶ。

## 宗教学概論

人間は、目に見えない世界をどのように認識し、それとどのように関係を取り結ぼうとしてきたのか。そして、それはなぜなのか。そのことを世界の宗教現象の学びを通して、できるだけ具体的に理解していきたい。ただしその際、そのスタンスはあくまで価値中立的であることがめざされている。換言すれば、特定の宗教などの価値からまったく自由であることが要求されているのである。受講生諸君にとっては、本講義を通して客観的かつ科学的な立場から宗教を理解する姿勢を身につけるとともに、宗教を正しく理解するための基礎的視座を体得することが目標となる。

## 異文化コミュニケーション論

異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接触場面において生じる誤解や衝突、相互理解の困難さといったことをイメージしやすいが、異文化という概念の射程はそこにとどまるものではない。男女の考え方のずれ、世代間の意見の対立といったものも、広い意味では、お互いの文化背景の無理解によって生じるものである。他者を、自分とは異なる文化背景をもつ存在として認め、積極的に理解しようとすることによって立ち上がる、他者との間に関係性（つながり）を生み出す行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

## 文学に見る京都

千年の古都である京都は、日本文化の源と言っ  
てよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる  
機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を  
浴びた表面的な知識しか得られないのが一般  
である。そこで、この科目では、京都をより深  
く知り、文化の伝統と現代のあり方について考  
える機会をもつために、京都を舞台にした文学  
やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の  
文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の  
人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻が  
なぜ魔界とされているのかを知ることができ  
る。そこから、観光のあり方や伝統の継承とい  
った、現代的な問題意識も育みたい。

## 法学概論 I

法学概論 I では、国家の統治組織や作用、行政  
権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に  
憲法を中心として進めていき、国民の権利・自  
由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行  
政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を  
範囲とするが、重要事項の理解を深めるため  
に、関連のある諸法にも触れていく。本講義で  
は、各講において具体的な事例を用いた設問を  
挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・  
学説を理解する。また、各制度のあり方につ  
いて考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得  
する。

## 政治学概説

本講義は、政治学への入門段階を対象に、習得  
しておかなければならない政治現象や用語を、  
主に現代日本政治の文脈のなかから説明する。  
特に、権力の働きや統治機構の役割について、

## 文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざま  
な文化を形成している。文化人類学は人間の科  
学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の  
普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間  
行動の諸相を明らかにすることを目的としてい  
る。本講義では、まず、文化人類学がどのよう  
な学問なのかを理解することから始め、その研  
究史、研究視角、調査方法について解説する。  
その上で、アジアのなかでも、ブータンを中心  
に、そこに住む人々の生活観・価値観を学びな  
がら、異文化に対する理解を深めていく。

## 京都の歴史・文化 I

京の都は、中国・唐の都城にならって建設され  
たが、都への軍団の駐屯は視野に入れずに計画  
された都市であった。文字通り、「平安京」の  
名が相応しい都－京都で繰り広げられた歴史  
と、その歴史の展開のなかで残された歴史遺産  
はどのようなものであったのか、古代から幕末  
までの都の様相の変遷とその要因を、主として  
政治史・経済史・都市史・民衆史・女性史の観  
点から捉え直してみる。

## 法学概論 II

法学概論 II では、私法全体の理解を目的として  
おり、主に民法と商法を中心に進めていく。本  
講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭  
遇などのさまざまな場面において、私法との有  
機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の  
正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深め  
るために、借地借家法、製造物責任法、民事訴  
訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。  
また、具体的な事例を提示して、その解決を念  
頭に置きながら重要な事項について説明するこ  
とで、初歩的な応用力を身につける。

## 社会学概論 I

社会学概論 I では、自我、家族、コミュニテ  
ィ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情  
報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現  
代の日常生活を社会的に理解する方法の修得

## ヨーロッパの歴史

主として近現代に力点を置いてヨーロッパの歴  
史を解説する。ヨーロッパ諸国における主権国  
家の形成から、フランス革命を経て19世紀の  
国民国家形成、産業革命や都市化の動きによる  
社会の変化、さらに20世紀の2つの世界大戦  
を経て、戦後のヨーロッパ統合への動きなど、  
政治や社会の動きに焦点を当てつつ、ヨーロッ  
パの歴史を考察していく。それと同時に、ヨー  
ロッパ世界が非ヨーロッパ世界に与えた大きな  
インパクトにも注意を払い、世界史の中でのヨ  
ーロッパ史という観点も考察の対象とする。

## 日本国憲法

近代立憲主義の成立とその内容を基礎として概  
説し、大日本帝国憲法の性質、日本国憲法の成  
り立ち、基本原理にふれ、国民主権と象徴天皇  
制、平和主義、個人の尊厳へとつなげる。その  
後、基本的人権につき、総論（体系や分類、共  
有主体、制約原理など）を扱い、続く各論にお  
いては、幸福追求権、平等、精神的自由、経済  
的自由、人身の自由、社会権などを順に具体的  
に取り上げ、それぞれの内容、歴史的な意義と  
現状を解説していく。統治機構においては、そ  
れぞれの機関の固有の問題とともに、権力分立  
や民主主義の観点からの考察も行い、違憲立法  
審査（司法審査）制の検討を行う。また、憲法  
改正論議にもふれる。

## 民法

民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会  
生活そのものを広範に対象とする学問である。  
本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主  
要な法原則、法制度、法概念を理解するととも  
に、その基礎的知識を獲得することを目的とし  
ている。また、具体的な事例や裁判例を用いな  
がら、民法が日常生活にどのように関連してい  
るのかを明らかにすることで、法的な問題発見  
能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を  
可能にする。特に、財産法の分野の解説に重点  
を置くが、家族法の分野についても一通り概観  
しておく。

## 社会学概論 II

社会学概論 II では、社会学概論 I での基本概  
念の理解を踏まえ、近年社会学の研究对象とし  
て定着した中・後期親子関係、教育システム、親  
密性、記憶、情報技術などのテーマについて、

制度等の概要や状況を示しながら説明していく。また、地方自治や国際政治についても、制度や環境の変化に着目しながら体系的整理を行う。受講生は、政治学で頻出する基本的概念や理論モデルについて理解し、現在の国内外の政治変動について、自分の言葉で説明する能力を養うことをめざす。

### 経済学概説

社会現象を的確に認識したうえで経済社会問題を分析するために必要な経済学的思考方法を習得させる。具体的には、市場と国家の関係、金融経済と実物経済の関係、経済社会をになう経済主体のあり方、経済変動の要因といった経済社会を理解するための基本的な問題に焦点を当て、これらの問題に経済学がどのような解答を与えてきたかを取り上げる。必要な場合には、現在の日本が抱える諸問題にもふれながら、新聞等で報道されるさまざまな経済現象について正しく理解できるとともに、自分の頭で判断できる力を身につけることを目的とする。

をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

### 国際マーケティング論

21世紀の企業経営は国際競争を抜きに考えることができない。本講義では国際マーケティングの視点から21世紀の企業経営のあり方について考えるなかで、国際的感覚や思考能力を身につける。具体的には、国際マーケティングの基本原則の理解を踏まえ、日本企業の代表的な電機企業を中心とし、その他自動車、アパレル、食品、学習塾などの企業をケースとして取り上げ、それらの国際マーケティングの実態について説明する。

それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着をめざす。

### 経営学概論

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まず会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

## 【人間と自然】

### 自然の探求

自然とは何か、が究極の問いである。我々の身近に自然はあるのか、自分にとっての自然とはどのような存在なのか。人間も生き物であり、地球上にはさまざまな生き物が棲んでいることは知っているが、一方で、自然界の生き物については無関心なのではないだろうか。注意さえ向ければ、身の回りには生き物が生きている「自然」が存在する。本講義では、自然界の生き物を丁寧に精密に観察し、それらを実体として具体的に認識することが到達点である。さらに、「自然とは何か」「自然にはどのような価値があるのか」、各自が論考することをめざす。

### 生活の中の数学

日常生活や仕事でさまざまな問題、さらに環境などの社会的課題を考える上で、数学は欠かせない。この授業では、将来、市民としての確かな判断を下すために役に立つ数学的考え方や概念を、現実の課題を考えるなかで学習する。扱うのは、経済や環境を考える上で重要な指数・対数、刻々と変化する様子から全体を知るための差分や微積分、社会の集団現象を分析するための統計や確率などである。授業では、これらの数学の必要性を理解・学修することを目標とする。

### 物理学基礎

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本講では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などについて学び、先端科学技術と日常的に目にする現象等を理解・説明する力を身につける。

### 化学基礎

化学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本講では、無機化学・有機化学にわたって学び、先端科学技術と日常的に目にする現象等を理解・説明する力を身につける。

### 生物学基礎

人間の心理と生理の関係を前提として人体について学修する。そのほか生命にかかわる基本的な学問分野である、遺伝とDNAのメカニズムを事例をもとに学ぶ。

## 【医療と保健】

### こころとからだの健康科学Ⅰ

「こころ」と「からだ」を扱う心理臨床の広範囲の現場を紹介しながら、そこで扱われる問題

### こころとからだの健康科学Ⅱ

心身の問題は広大である。ここでは心理臨床の実践とすることを前提に、あるいはそのなかで

### 医学概論

人類の歴史は「病いと戦い」の歴史であるともいえる。例えば、伝染病との戦いはペストや

や課題を知り、さまざまな問題に対してのいろいろなアプローチがあることを理解する。また、個人と集団を支援や援助するために必要な「こころ」と「からだ」について、そしてそれを支える「場」と「環境」に対して、見方・付き合い方・学び方を具体的な生活に関連させながら考える。それらを通して、こころやからだの有りようの多様性を理解し、人援助に関わるための自らの特質や経験を含めた資源について見直すための土台をつくる。

### 人体の構造と機能及び疾病

心身機能と身体構造に関する知識の習得を目指す。運動器、消化器、呼吸器、循環器等の各論を網羅的に学習した後、脳と神経系や免疫、アレルギー等についても概説する。さらに、がんや難病等に対する心理的支援について学習する。

### 看護管理学

本講義は、看護管理の基礎的知識および21世紀に期待される患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメントについて理解することを意図している。講義内容は、看護管理の発展過程、管理の主要概念、看護におけるマネジメントに必要な知識体系など、近代看護における「看護管理」についての基礎知識を概説する。これらを論拠として、医療施設における看護サービスのマネジメントの実際や看護をとりまく諸制度、医療サービス提供体制と運営に関わる看護職の役割について学習するなかで、看護管理への関心を発展させ基礎的な能力をつける。

### 看護と死生観

人と向き合いケアする者にとって、「生きるとはなにか」「死をどうとらえるか」の問いから逃げることはできない。日本における「死」の実態を踏まえ、自分が生きること、人の生を支えること、そして、人の死や自分の死について考察する。人のライフサイクル各期の死生観の特徴や、文化、宗教、病体験、死別体験などが

わかってきたことなどから、心身相関、東と西の身体観のちがひ、医療と養生などについても講じる。

### 看護倫理

看護実践には倫理的側面が不可欠である。本講義では、患者との関わりを重視するケアリングを中心とする看護倫理の基礎的知識を教授する。これを踏まえ、実践において看護師（学生）が遭遇する倫理的問題を含むできごとを教材として、倫理的問題解決の道筋を探るプロセスを学習する。ここで重視するのは、将来患者のアドボケートを務めるための基礎的能力、すなわち、当事者として考え行動する責任感や主体性、現実のさまざまな制約のなかでもあきらめずに解決をめざす粘り強さや知恵を開発することである。

### 高齢者のヘルスプロモーション

我が国は、世界に類のないスピードで超高齢社会になり、今後後期高齢者が前期高齢者を上回ると推測されている。現在高齢者は、病気になったとしても自宅で暮らしたいという願いをもち、その多くが在宅で暮らしている。一方で高齢者は、家族形態や地域社会の変化のなかで老後の生活や健康への不安を抱えている。本講義では、高齢者のQ.O.L.（Quality of Life）の維持・向上をめざした看護のあり方をヘルスプロモーションの視点から検討し、高齢者と関わる医療福祉施設をはじめとする多様な場面における看護支援について学ぶ。

### 次世代育成看護学概論

母性看護学および小児看護学における研究のなかで、子どもの健康は母親の健康が強く影響することが明らかになり、体だけでなく心の健康も母と子の関係上重要であるとの認識されてきている。本講義では、健康な子どもを生み育てる役割を担う女性を通して、人間にとって最も重要なことの一つである「次世代の育成」を考

天然痘には勝利したものの、エイズやインフルエンザといった新たな敵との戦いが引き起こされている。人類の生存をかけた戦いのなかで医学は生まれ、発展してきた。さらに、ライフスタイルの変化、人口の少子高齢化等の社会情勢の変化は生活習慣病などの新たな「病い」の発生の素地となっている。医学は新たな姿の敵との戦いを迎えている。こうした医学の歴史を振り返りながら、「医学の過去、現在、未来」について講義する。

### 国際看護学

自立と共存の視点から多文化共生社会をめざす時代になり、看護職者は文化背景の異なる人々への看護のアプローチが求められている。本講義では、国際看護・国際保健の主要概念や理論、国際協力の理念・目標について学び、国際的視野で保健医療にかかわる諸要因と人々の健康について概説する。また、看護職者による国際協力の実績と国内における看護の国際化の現状理解を踏まえ、異文化看護の視点から人々の生活へのより深い理解に立ち、看護の方法や看護師の役割、必要とされる看護実践能力について考察する。

### 認知症看護学

超高齢社会を迎えた我が国では、後期高齢者の増加に伴い、要介護高齢者が増加し、なかでも認知症高齢者への対応・対策が喫件の課題とされている。最近では、認知症疾患の早期発見・早期治療により、その発症や進行を遅らせ、高齢者自身のQ.O.L.（Quality of Life）の維持・向上が期待できるだけでなく介護家族の介護負担を軽くする支援も広がつつある。しかしいまだに人々の認知症に対する理解不足や、認知症高齢者の暮らしを支える生活環境の提供や法的サービスの整備が不十分である。本講義では、高齢者が認知症になっても人として尊重され、安心して暮らしていける看護支援を多職種や家族と協働し創意工夫できるように、専門知識、技術を学ぶ。

### 災害看護学

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動について、ライフサイクルを踏まえて理解する。このほかにも、国内および国際協力における災害看護活動の事例を紹介しながら、災害看護の現場について学ぶ。また、救命救急活動における基本的技術を習得する。

死生観に及ぼす影響について学び、看護するうえで直面するであろう生と死に関わる課題について考える。

える。具体的には、母子とその家族、それを取り巻く自然・社会環境、医療環境などとの関係について明らかにし、そこでの看護の役割について考察する。

### 家族看護学

家族看護に関する理論的知識体系を学び、ライフサイクルに沿って個人と家族の生活とその関連を把握し、家族の持つ健康課題に取り組む看護の役割を考える。具体的には、家族とは何か、また個人とどのように関連しているかを検討し、ライフサイクル各期における家族の生活と健康障害との関連、疾病・傷害が家族生活に及ぼす影響について理解するとともに、家族看護の方法とその展開過程について学び、家族看護の役割について考える。

## キャリア科目

### キャリアデザイン入門

受講者が自分のキャリアを、自ら方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとする。「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。授業では、過去の自分を振り返り、自分の強み、価値観などをワークシートを使って自己分析を行うと共に、「働く事の意味」を考える。

### キャリア開発講座 I

21世紀の企業と経営に求められる人材をテーマに、人材開発や流通業、サービス業、製造業などの業界および具体的な企業とその経営に関する実態認識を深めるとともに、受講生各自のキャリア形成について考えるきっかけを得る。

### キャリア開発講座 II

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。国語や数学に関する基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

### キャリア開発講座 III

IIを発展させ、大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる知識を身につける。言語分野、非言語分野に関する内容についてわかりやすい講義を実施し、基礎力を身につけさせるとともに、身につけた知識を応用できる力を養成する。

### キャリア開発講座 IV

キャリア開発講座 Iから継続して、21世紀の企業と経営に求められる人材をテーマに、Iで取り上げなかった業界および企業とその経営に関する実態認識を深めるとともに、受講生各自のキャリア形成について考える。

### キャリア開発演習 I

公務員の仕事や現状を知り、職業観を育成する。授業では、地域政策を担う地方公共団体の仕組みと現状を学び、地方公務員が担う地方行政の特質と機能を自らが働くことを想定しつつ、具体的に理解する。また、警察官・消防官など公安職の公務員の仕事と求められる専門知識を理解するため、各職種に関する講義やゲストスピーカーによる講演を通して学ぶ。

### キャリア開発演習 II

キャリア開発講座IIIをさらに発展させ、大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる知識を身につける。特に非言語分野に関する応用力を確実に身につけることを目的に、演習形式で学ぶ。

### キャリア開発演習 III

企業組織についての知識を広めより深く理解し、働くことに興味関心を持つことを最終目標とする。授業では、企業で、実際に行われている仕事かどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解する。

### キャリア開発演習 IV

国際社会の中の日本や企業のグローバル化をテーマにキャリア開発を行う。授業では、国際化・グローバル化の中で日本が抱える政治的経済的課題や、グローバル企業や東証一部上場企業などの現状とグローバル化しつつある企業や経済社会について理解を深める。グループ学習やワークショップ型の方法で行い、必要に応じ、ゲスト講師による講演なども実施する。

### キャリアコミュニケーションⅠ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションのための話しことばの修得を目的とする。話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術、人間関係を円滑にするための敬語表現のスキル、パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方、正しい日本語の運用についての知識等の修得を、講義とワーク、トレーニングにより身につける。

### キャリアコミュニケーションⅡ

社会人基礎力（コミュニケーション能力）を体得し、社会人としての準備を行う。適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキル、問題発見解決型人材を念頭においた社会が求めるヒューマンスキル、などの獲得をめざす。講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの修得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを修得する。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力（コミュニケーション力・自己アピール力）などのヒューマンスキルを身につけることをめざす。

### キャリア開発研究Ⅰ

業界の現状と将来について事例を交えながら学ぶ。また、職種について、民間企業と公務員の仕事の違いや企業の仕組みを具体的な事例で学ぶ。さらに、働くために自覚しておかねばならないこと、その仕事をするために求められる「専門能力」や「楽しみ」を具体的に理解する。

### キャリア開発研究Ⅱ

経済のグローバル化、グローバルビジネスの動向について講義で概観したあと、いくつかのグループによる調査研究チームを編成して、グループごとにテーマを決めて調査研究を行い、それぞれの調査研究の成果の発表と討論を行う。またその後、個人による調査研究および発表と討論を実施する。実際にグローバル企業で活躍するビジネスマン等に、その豊かな経験を聴く機会も設ける。

### キャリア開発研究Ⅲ

キャリア開発の自主トレーニング方法を学び、実践する。民間企業と公務員試験（地方上級、市役所、警察）の勉強に対応し、自己分析シート の作成や筆記試験対策、企業社会を理解するための経済紙の正しい活用法などについて演習形式で学ぶ。

### キャリア開発研究Ⅳ

民間企業と公務員試験突破をめざした学習を通じて、20年後の自分のキャリアイメージを確立することを目標とする。グループ討論、数学的思考、企業・業種分析、文章理解、マクロ経済学、スケジュール管理とストレス管理など、さまざまなテーマを組み合わせた演習形式の授業を実施する。

### キャリア開発研究Ⅴ

「起業すること」を想定して、それに必要な知識、考え方を習得する。受講生ごとに、現実の、または想定上の起業案件に、アイデアから起業に至る諸問題について、学習と演習を通して理解・習得するとともに、実践的なビジネス・プランを策定・提出する。

### キャリア開発研究Ⅵ

世の中の動きに関心を持ち、時事問題の理解を深めることをテーマとして、時事問題を理解するために必要な基礎知識を身につけ、主体的に世の中の現状を考える力を育成する。公務員採用試験に出題されそうな時事問題を中心に、その問題の背景を解説する。また、各自で時事問題についての事前学習をし、その時事問題を題材に集団討論・小論文・面接の演習を行う。

## 専門分野

### 専門科目

#### 【共通領域】

#### 自己表現研究Ⅰ

各種の心理学素材を用いた授業での気づきや学びについて、発表・討論・振り返りシートの提

#### 自己表現研究Ⅱ

#### 心理学基礎研究Ⅰ

心理学の基礎的な研究法である実験、調査における研究計画の立案から、データ収集とその統計的解析、さらに和英論文の検索と講読の方法

出によって主体的に学ぶ姿勢を涵養することをねらいとする。

自己表現研究Ⅰに引き続き、自己の学習体験を表現することを深めて、主体的な学習態度を確立させる。

を修得する。卒業研究に向けて基礎となる知識と実践力を身につけ、研究実施の基礎力を修得するとともに社会人基礎力の養成にもつなげていく。

### 心理学基礎研究Ⅱ

心理学の基礎的な研究方法である実験、調査における研究計画の立案から、データ収集とその統計的解析、さらに和英論文の検索と講読の方法を修得する。卒業研究に向けて基礎となる知識と実践力を身につけ、研究実施の基礎力を修得するとともに社会人基礎力の養成にもつなげていく。

### 心理学研究方法Ⅰ

心理学における実証的研究法である、量的研究および質的研究を理解することを目標とする。実験法、調査法、観察法において用いられる統計的方法（量的データへの分析方法の適用と解釈）についても理解を深める。これらを通して、データを用いた実証的な思考方法を身につけるとともに、実験実施やデータの取り扱いに関する研究倫理を学ぶ。

### 心理学研究方法Ⅱ

質的研究は仮説検証的な数量的研究とは異なり、実践現場で問題となっている現象の実態やその内在的な意味などを探索的に探っていくという点に、その特徴がある。この演習では、インタビューや観察を通して得られたデータに基づいて、ボトムアップ的に研究領域に密着した理論や概念モデルを構成していく方法を学んでいく。具体的には、グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）に基づいて、データの収集（特に、半構造化面接）、データのコード化、カテゴリーの関係づけによる理論（ストーリーライン）の生成について、それらの方法を実習していく。

### 心理学実験Ⅰ

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画の立案から、実験の実施、統計的手法を用いたデータの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。受講生を6グループに分け、1グループは1つのテーマにつき5回の演習を受講し、合計3テーマの実験について学ぶ。

### 心理学実験Ⅱ

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。受講生を6グループに分け、1グループは1つのテーマにつき5回の演習を受講し、合計3テーマの実験について学ぶ。

### 心理学概論Ⅰ

本講義では、情動、動機づけ、知覚、認知、学習、記憶、発達といった実験や観察によって客観的に明らかにされてきた、心の基本的な仕組みや働きを概説する。これらの基礎心理学全般の基本的な知見を概観することにより、心理学の成り立ちを知り、産業心理学や臨床心理学などの応用領域の理解へとつなげてゆく。

### 心理学概論Ⅱ

心理学は実証的方法論に基づいて人間の心と行動の仕組みについて客観的・中立的に理解するための「科学」である。この授業では心理学の各分野のなかで、特に「社会的過程」に関するものや「社会への応用」に関連する内容を取り扱う。社会的場面や、産業場面に関連する具体的なテーマを取り上げながら、心理学と社会のつながりについて理解をしたい。また、心理学の各分野で使用される研究方法（実験、調査、行動観察など）についても実例を通して理解を深めたい。

### 心理学統計法Ⅰ

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。この授業では、統計に関する基礎的な知識を習得し、講義形式と演習形式を併用しながら、心理学で用いられる統計手法の理解を深めていく。

### 心理学統計法Ⅱ

心理学統計法Ⅰで習得した内容を踏まえ、本講義では、卒業研究において自らで心理学研究をまとめるにあたり最低限必要となる、より発展的・実践的な統計学の概念について学んでいく。また、種々の統計手法について、電卓を用いて手計算を行う演習を併用することによって、一層の理解を深めていく。

### 心理学統計法Ⅲ（多変量解析）

この授業は内容的に「心理学データ解析」の上級クラスという位置づけになる。心理学研究において調査データや実験データの分析に多用される多変量解析法（因子分析、回帰分析、判別分析、クラスター分析、多次元尺度構成法（MDS）など）について講義とコンピュータ（SPSS）を用いた実習を通して学ぶ。この過

### 心理的アセスメントⅠ

実際の心理臨床場面で使用されることの多い心理アセスメントの理論および技法の基礎、さらに、心理アセスメントの目的や倫理を学んだ上で、観察、面接および心理検査の実際の方法について学習する。それらをふまえて、テストバッテリーの組み方やアセスメント事例の記録・報告書の作成、それに基づく総合的な心理アセ

### 心理的アセスメントⅡ

心理検査の実際の施行法・結果の整理・解釈について学ぶ。心理検査のなかから、PFスタディ・バウムテスト・YG法・ウェクスラー知能検査・K式発達検査を取り上げ、それぞれについて実施またはビデオ教材を用いて、施行法を学び、実際に結果を処理して解釈を試みる。受

程を通して統計解析法について理論的な理解を得ることはもちろんであるが、さらにそれらを「心理学研究のための道具」として利用するための知識・技術の習得をめざしたい。

メント、見立ての検討も行い、アセスメントによって得られた観点が、その後の心理学的支援の中でどのように展開され得るのか、展望を得られるようになることを狙う。

講生は各検査について、結果の整理を行い、所見を提出する。

### 心理学データ解析

本講では、心理学統計法Ⅱで習得した分析手法（t検定、分散分析等）について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。

### 心理学史

19世紀以降に発展した心理学の歴史を、時間軸および分野別の両方の見地から概観する。古典的文献の原文の一部を資料として読みながら、当時の言葉づかいなども理解する。

### 英書講読

心理学に関する英語の文献を読んでいく。卒業研究のため、あるいは大学院進学後に、英語の専門的な文献を自分で読み進める力を養うことを目的とする。英語を読む以上、当然英文法の知識と文章読解力が必要となるが、前半はこれら基礎的な部分についても復習をしながら進めていく。そして後半は、文献を読みこなすのに必要な、背景となる専門的知識や専門的語彙、さらに理論的なものの考え方や思考力も身につけられるように進めていく。履修者には、ただ訳せばよいという態度ではなく、人が書いた文章の意味を受け止めようとする姿勢が求められる。

### 卒業研究Ⅰ

「心理学」の様々な領域を学んだ経験をもとにして、自らが内発的に研究を深めたいと感じるテーマを模索する。具体的には心理学領域の文献、論文に多く触れて、「こころ」に対する視点の幅を広げていく中で、自らが真に追究したいと思える内容を絞り込み、問題意識と研究目的を明確にしていく。

### 卒業研究Ⅱ

卒業研究Ⅰにおいて明確となった問題意識と研究目的を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。具体的には、研究目的に内包される仮説の構築、仮説を明らかにするための計画を考案する。並行して関連文献より情報収集を行う。

### 卒業研究Ⅲ

卒業研究Ⅱにおいて立案した研究計画に基づき、実際に研究を実施する。実験、調査あるいは文献研究を実践し、心理学的手法に基づいた論文を作成するための素材を収集する。さらに収集した情報を仮説に沿って分析、解析する。

### 卒業研究Ⅳ

卒業研究ⅠⅡⅢの集大成として、卒業論文の執筆に取り組む。実験や調査によって得られたデータや収集した文献を読み、自らが焦点化した問題意識や研究目的と照合しながら考察を展開させ。完成された論文を要約し、その内容をプレゼンテーションし、指導教員、学生相互の質疑応答を通して、自身の研究活動を意味ある体験として振り返る。

### 心理学特殊講義

社会生活向上のための心理学的理論・技術の実践的活用について具体的事例を通して理解する。このために心理学科教員が各自の専門分野に関連する事例についてオムニバス形式で解説する。また大学・大学院で心理学を学びその知識を生かして業務を遂行している方をゲストスピーカーとして招聘し講演をしていただく。「心理学と社会の接点」を理解し大学卒業後の将来的な指針を持つうえで意義を持つ授業と考える。

## 【行動神経科学領域】

### 知覚・認知心理学

ヒトを含む動物は、環境内の刺激（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）をどのように知覚し、認知しているのだろうか。動物の行動は、環境刺激を知覚、認知し、意志決定することにより表出される。講義の前半では、ヒトや動物がもつ感覚、知覚の特性を理解する。講義の後半で

### 感情・人格心理学

ヒトを含む動物は感情・情動という心理的機能を生得的に有している。情動とは比較的短期の感情の動きと定義される。本講義では、感情に関する理論や感情喚起の機序、情動を制御する脳内機構について解説する。また、感情が行動に及ぼす影響や、情動障害のメカニズムについ

### 実験心理学

どのような実験により心を科学的に解明することができるのか、心理学は方法論そのものについて多くの議論を重ね、さまざまな実験手法をうみだしてきた。本講義前半においては、実験計画立案において気をつけるべきこと、得られたデータの意味など基礎的な事項を解説する。

は、感覚、知覚情報を動物がどのように認知、思考するかという情報処理システムやそれらの障害について解説する。動物による道具の使用、ヒトの言語、推論や意志決定など高次の認知機能についても解説する。

て解説する。後半においては、人格類型や特性に関する基礎的理論について講義する。また、人格の構成概念や人格がどのように発達しているのかという形成過程について解説する。

講義後半においては、実験法、観察法、質問紙法などの心理学の主な研究手法から研究倫理まで、心理学実験を行うものにとって必須の事項を解説する。

### 行動分析学

行動分析学は心理学のあらゆる分野において基礎となる領域である。「こころ」を知るためには「行動」を観察する。これらは我々が日常的に行っていることだが、この講義では、行動をいかに観察し、いかに法則を見出し、制御するのか？そのための専門的知識を学ぶ。講義は行動分析の思想の理解のための基礎的内容と行動分析が活かされる場面についての応用的内容を含む。

### 神経・生理心理学

心の働きと体内の生理反応（血圧、心拍、体温など）の変化は常に相互作用があり、生理心理学はその対応関係を明らかにしてきた。本講義の前半においては、神経系の構造及び機能についての基礎的知識を身につける。この知識をベースとして、神経系、内分泌系、免疫系などの働きと、情動、ストレス、学習、記憶などの心的機能との関係を学ぶ。さらに、高次脳機能障害の概要について解説する。

### こころの脳科学

心の働きと脳の働きの関係を明らかにすることは、今世紀の生命科学の重要課題の一つである。脳は、大脳、小脳、辺縁系など、さまざまな部位に分けられ、それぞれが特異的に、また互いの脳部位が相互作用し、多様な心的機能に重要な役割を果たしている。本講義では、これまでに学んできた情動、知覚、学習、社会行動などの心的機能が、脳のどの部位がどのように働くことによって制御されているのかについて、詳しく解説する。脳科学は合的学際領域であり、生理学、薬理学、分子生物学、神経科学の分野から得られた知見についても紹介する。

### 学習・言語心理学

心理学において、学習とは経験によって生じる比較的永続的な行動の変化と定義される。ヒトを含む動物は、環境内のさまざまな刺激から、餌のある場所、危険な匂い、捕食者の足音など、さまざまな事象を学習し、記憶する。本講義では、人の行動が変化する過程である学習（報酬学習、運動学習、逃避・回避学習、空間学習、言語学習）とその理論を解説する。学習・記憶を担う神経回路についても解析し、学習障害、記憶障害、認知障害のメカニズムを紹介する。

## 【臨床心理学領域】

### 臨床心理学概論

臨床心理学の理念・成り立ちを概観し、その主な基礎理論・種々の心理アセスメント及び心理的援助法を紹介する。基礎理論としては、精神分析学・人間性心理学・認知行動理論について概説し、これらを理論的背景とした介入法について理解を促す。また、心理アセスメントについては、その意義や注意点を述べ、面接法・観察法・検査法を説明する。これらの学びによって今後の臨床心理学分野の学習・研究への導入とする。

### パーソナリティ心理学

本講義では、パーソナリティの基礎的理論について講義を行う。パーソナリティの諸側面についての心理学的実験を習得することを目的とする。パーソナリティ形成における遺伝的要因あるいは環境的要因にはどのようなものがあるのか、パーソナリティはどのように発達していくのか、パーソナリティの病理にはどのようなものがあるのかなどについて概説する。臨床心理学的アプローチに向けての基盤として学んでほしい。

### 対人援助論

本講座では、心理学的対人援助の理論とスキルについて学ぶため、その基礎となるC・ロジャースによる「来談者中心法（Client centered therapy後のPerson centered approach）」およびE・バーンによる「交流分析（Transactional Analysis）」の理論について、実習を交え講義していく。ロジャースがセラピストに求めた「受容」「共感」「自己一致」の態度や、バーンによる「交流」の視点は、セルフサポートを目的とした心理学的対人援助を志すものにとって、基礎的かつ不可欠な理論であり視座となるものである。

### カウンセリング

### 心理学的支援法

### 司法・犯罪心理学

本講義では、まず、カウンセリングの基礎的理論について講義を行う。次に、カウンセリングの理論を基盤にし、コミュニケーションの実践について演習を行う。受講生が自分のための言語化、他者に伝えるための言語化を意識し、身につけることが目的である。人が互いに影響を与え合うことを相互作用という。相互作用において、人は互いに理解を深めようと努める。この人間の日常生活において必要不可欠でありながら、現代社会では困難を来していると思われる。双方向の理解の仕方について学びを深めてほしい。

心理学的な支援法として代表的な心理療法やカウンセリングについて、その歴史、主要概念、それぞれの意義や適応、限界についての概観を学ぶ。また、訪問による支援や地域援助の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション方法、心の健康教育など、より幅広い心理学的支援法についても、多角的な知識を習得する。さらに、心理学的支援を要するのがどのような人々であるのか、対象となる人々についてこれまで学んだ知識と関連付けて理解する。プライバシーへの配慮、心理学的支援における守秘義務の意味など、心理学的支援に関わる倫理や法律などについての基礎についての理解も深める。

本講義においては、犯罪・非行や犯罪被害及び家事事件についての基礎的知識を習得し、主に臨床心理学的な視点から、反社会的行動化としての犯罪を理解することをめざす。犯罪臨床領域では、特定の犯罪理論に依拠して統計的に犯罪を分析することよりも、多角的な観点から一人ひとりの犯罪者・非行少年の人格的特徴や問題性を理解し、矯正心理教育を模索する。これらを通して心理的支援による犯罪防止および矯正心理教育の実践を理解することを目標とする。

### コミュニティ心理学

個々人の変容をめざすだけでなく、その人が生活する環境を含めて考える、実践的な学問体系であるコミュニティ心理学について解説する。本講義では、その歴史的背景、基本的な発想に加え、背景となるいくつかの理論と合わせて、介入と援助について学ぶ。後半は、家庭や地域、学校教育、産業領域といった各分野での実践例を取り上げながら考察を深める。実践例として、担当者が15年以上取り組んできた市民活動としての電話相談も取り上げる。生活者としての人間の心理を理解し、自分自身が社会に対してどう関わるかを考えることが目標となる。

### 異常心理学

異常とは何かということについて、発達理論、パーソナリティ理論など、臨床心理学の幅広い視野から理解することを狙う。その上で、精神医学的診断と臨床心理学的査定との両面から、様々な心の問題や病理について理解し、そのメカニズムを学ぶ。さらに、それらの問題や病理に対する臨床心理学的な援助の基礎について学ぶ。

### 福祉心理学

すべての福祉現場は、対人援助の現場であると言える。人を援助するためには、心理臨床の知識、技術が必要とされる。その知識、技術は、「児童福祉」、「老人福祉」、「障害者福祉」といった現場のニーズに沿うものでなければならない。誤解を恐れずに言うなら、学問であっても、福祉現場で問題を抱えて相談の窓口を訪れる一般の人たちの対人支援の心理学として役立つことには意味がないのである。そして、相談の窓口に分かから訪れることができない被虐待の立場にある子どもや老人に対しても、有効な心理的アプローチでなければならない。以上のような福祉現場における心理学を学ぶことを目的とする。

### 公認心理師の職責

心理的な支援を要する人々やその関係者への援助、および、心理査定や心の健康教育を実践するための基礎と素養について考える。公認心理師に求められる役割や法的義務、倫理について学びながら、心理に関する支援を実践するうえで必要な自己課題の発見力や解決力、生涯にわたる学びと研鑽の必要性についても理解する。さらに、保健医療、福祉、教育などの各分野における具体的な心理的支援の業務内容に触れつつ、支援を受ける人々の安全への配慮や多職種間または地域での連携の在り方についても概説する。

### 関係行政論

公認心理師など心理職に携わる者は他の分野と連携すべき機会があることから、保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働など、想定される分野に関わる関係法規や制度についての知識が必要である。本講義ではこれらの分野に関係する法律・制度を網羅的に学習することに加えて、生殖医療や自殺、貧困、事故、災害などのいちを守る法律についても解説する。

### 心理演習

心理支援を要する者に対するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援などの基礎技能を、具体的場面を想定したロールプレイングや事例検討を通じ演習する。その際、①心理支援を要する者の理解とニーズを把握し、実際的な支援計画を作成すること、②現実生活を視野に入れたチームアプローチについて学ぶこと、③様々な多職種連携や地域連携の実際について学ぶこと、④公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解すること、の各点について、実際の事例や具体的な場面を想定した演習を行うことでその学修状況を確認し、「心理実習」における実際的な学びの礎を作ることを狙う。

### 心理実習

履修要件となる公認心理師科目で習得した知識や「心理演習」で学習した心理支援行為の基本

的な姿勢の実際について、医療、教育、福祉、司法の臨床現場の見学、参加観察を通じ、現場で働く公認心理師やチームスタッフから学び、さらに実習生自身もその基礎を体得する。加えて、①心理に関する支援を要するものへのチームアプローチ、②多職種連携および地域連携、③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、についての実際を体験し、その意味を検討し、他者と吟味し、自身の技能の習得へとつなげることでできる基礎力を培うことを狙う。

#### 【社会・産業心理学領域】

##### 社会・集団・家族心理学 I

社会心理学者E・アロンソンは、人間を「社会的動物（The social animal）」と呼んだ。その言葉の通り、私たちは日常生活を営む上で、家族、集団及び文化から多大な影響を受けており、同時に他者や社会に多大な影響を及ぼしている。本講義では、集団における意識や行動についての心の過程や対人関係の諸問題について、日常的な具体例と対応させながら論考していく。

##### 社会・集団・家族心理学 II

本講義では、対人関係（恋愛、対人葛藤、ソーシャルサポート等）や集団間・集団内関係（リーダーシップ、同調、パニック等）の諸問題を取り上げ、そのプロセスと心理学的なメカニズムなどについて説明していく。社会心理学視点から日常生活に潜む多様な問題を論考していくことにより、他の心理学領域とは異なった人間理解を深めていく。

##### 産業・組織心理学

組織とは一定の目標を達成するために2人以上の個人からなる集団である。よりよい組織をつくるためには、組織における人の行動、個人及び個人の相互作用について理解する必要がある。この授業では組織におけるワークモチベーションや対人関係の問題、そしてチームで職務を遂行する過程におけるリーダーシップやチームワークなどの問題を取り上げる。さらに職場におけるメンタルヘルスを健全に維持するためのストレス対処のあり方や、キャリア形成、および組織を活性化するためのマネジメント方法など心理的支援の実践的理解の促進を図る。

##### 消費者行動論

自給自足的手段をもたない大多数の人々はその一人ひとりが消費者である。商品やサービスを購入することは、生活に不可欠であると同時に、それらを入手し利用する過程において「期待感」や「満足感」をもたらす、また社会的関係の形成、維持や自己実現といった高次の欲求の充足にも不可欠といえる。このようなプロセスの理解は「企業」にとっては製品開発や広告宣伝活動（いわゆるマーケティング活動）の遂行に役立つ。また「消費者」にとっては企業戦略に惑わされないための自己防衛に役立つ。この授業では心理学（特に社会心理学）の理論を援用しながら「消費者理解」のあり方やその妥当性について考察する。

##### 広告と消費の心理学

私たちは日々、多くの広告に接触しながら生活している。本講では、心理学や行動科学の研究成果を中心に、これら広告の心理・社会的機能を学習し、広告の送り手・受け手の双方の視点から種々のトピックについて論考していく。加えて、広告を通して人間（消費者）理解を深めることによって、さまざまなマーケティング戦略について議論していく。

##### マーケティング調査演習

製品開発、広告宣伝、販売促進といったマーケティング遂行の上では実証性が不可欠である。このためのデータ収集を目的として行われるマーケティング調査の企画立案、実施、結果の分析、報告書の作成を自らが行うことで、社会調査についての「体験的理解」を深めると同時に実務的・実践的スキルを身につける。このために地域社会の活性化をめざしてプランを立案する場合にしばしば行われる来街者調査（顧客を対象として行われる面接調査や通行量調査など）のプロセスを体験する。

##### 環境心理学

「環境」とは人間の周囲にあり意識や行動の面でそれらと相互作用を及ぼしあうものと定義され、そのような相互作用を取り扱う学問領域が環境心理学である。ここで言う「環境」には自然環境や物理的環境に加えて社会的環境や文化

##### 社会心理学実験演習 I

本講義では、受講生をいくつかのグループに分け、グループ研究を実施していく。具体的には、グループごとに研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、収集されたデータを分析し、レポートとしてまと

##### 社会心理学実験演習 II

本講義では、グループごとに研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、収集されたデータを分析し、レポートとしてまとめ、グループごとに研究成果をプレゼンテーションする。本講義は社会心理学実験演習

的な環境も含まれる。この授業では、このような環境心理学について、環境心理学の定義・環境の知覚と認知・環境評価の方法など基礎的な概念を学んだ上で、住環境や教育環境、そして労働環境など身の回りの事象を環境心理学はどのように取り上げるかを概観する。

### コーチング心理学

医療や教育などヒューマンサービスの場面などで必要な接遇学、カウンセリング学、ファシリテート・スキルなどを基礎にしてコーチングというコミュニケーション方法を教える。コーチング概論としてコミュニケーションの準備、コーチング応用編として、コーチング・アプローチの具体的手法などを解説する。また、コーチのセルフコントロール法についても実践的なトレーニング法を習得できるようにする。

め、グループごとに研究成果をプレゼンテーションする。こうした一連の研究プロセスを直接体験することによって、卒業研究で活用すべきスキルを習得していく。

Iを発展させ、卒業研究で活用すべきスキルをより深く習得していく。

### 社会調査法（社会心理調査）

心理学などでデータを収集する際に求められる調査方法に加え、社会調査の意義や歴史、調査倫理といった社会調査に必要な基礎知識について学ぶ。調査方法に関しては、質問紙調査法（面接調査法や郵送調査法など）や観察法（参与観察法、非参与観察法）などの様々な社会調査法についての理解を深める。こうした基礎知識を身につけることで、社会調査の設計を的確にできるようになることをめざす。

### メンタルヘルス・マネジメント

心身の健康の維持増進や疾病への対処について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割をもつのかを心理学の側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄についての具体的な理解を深める。また、職場におけるメンタルヘルスの重要性について、事例を参照しながら講義する。さらに、人間性のネガティブな側面についてのみではなく、ポジティブな側面についても言及し、それらが心身の健康や疾病に対してどのような関わりをもつのかを考察する。

## 【発達・教育心理学領域】

### 発達心理学 I

発達心理学は、生まれてから死ぬまでの変化のプロセスを研究対象とする。発達の变化には発展と衰退の2つの方向が考えられるが、必ずしも出生から成人期までで発展し、中年期以降衰退するというわけではない。いつの時点でも発展と衰退は同時に生じている。例えば新生児の行動発達は、原始反射の衰退と随意的行動の発達によって特徴づけられる。講義では、前半はまず発達観・発達理論の歴史の変遷について述べ、後半は主に認知的・社会的発達を中心に、代表的な研究例を示しながら発達プロセスの発展と衰退について概観する。

### 発達心理学 II

生物学的基礎を持つ反応傾向は、環境とのかかわりの中で、その人特有の心理的行動的傾向へと変化していく。この授業では、反射行動、運動発達、言語の獲得、そして老化など、ヒトに共通した変化のプロセスがいかにしてその人独自の心理的行動的傾向に発達・変化していくのかについて、生涯発達の視点から考える。同時に、そのような変化のプロセスを捉えるための方法論について理解する。

### 教育・学校心理学

教育を受ける者（児童・生徒）と行う者（教師）の心理的社会的問題、学校という教育現場の組織に関わる心理的社会的問題、およびそれらに対する心理的支援の方策について、教育心理学と学校心理学を2本柱に、発達心理学、認知心理学、臨床心理学の知見を交えて講義する。

### 発達臨床心理学

人としての発達を生きる上での障害について、その多様な姿を理解していく。まず、発達の遅れとは何か、障害があるとはどういうことか、という原理的な問題について説明を行う。引き続き、各論として「知的発達の障害」、「姿勢・運動発達の障害」、「言葉の発達の障害」、「視覚障害」、「聴覚障害」、「発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、注意欠陥多動性障害）」などについて解説をするとともに、発達支援のための療育方法や様々なソーシャルサポートの体制やその取り組みについて解説を行う。

### よそおいの心理学

人間の外見と心の関係を探究することをテーマとする。社会心理学・感情心理学の分野から始まった「化粧の心理的効果」の研究は、粧うことによって快感情・高揚感をもたらし、積極的な対他者行動を促すことによって、コミュニケーションを活性化することを実証し、化粧が心の健康に貢献していることを見いだした。また、この化粧の効用は、医療や福祉の現場で効果をあげており、臨床心理学的な考察も試みられている。本講義では、基礎的な研究を概説し、さらにさまざまな臨床的実践活動について紹介する。

### 医療と生命の倫理

生命倫理学の基本原則を正しく理解し、現代の医療における倫理的諸問題を学ぶ。まず、患者の自律の尊重という生命倫学部理学の基本原則と、これを達成するために不可欠なインフォームド・コンセントの原理について説明する。その後には①出生前診断、人工妊娠中絶、生殖補助医療など人間の誕生にまつわる諸問題、②ターミナルケア、安楽死と尊厳死など人間の死にまつわる諸問題、③遺伝子診断と遺伝子治療、再生医療など先端医療、④医療情報の保護について教授する。

### 精神疾患とその治療

精神医学の対象は子どもから高齢者まで幅広く、また、対象疾患も統合失調症、気分障害、神経症性障害、気質性精神障害、人格障害、知的障害などさまざまである。精神疾患とその治療では精神医学におけるそれぞれの疾患理解をもとに、当事者のニーズ理解の重要性とその方法についても扱う。具体的には、精神医学に関する概論を解説した後、個別の診断について、また治療や対応方法について、入院治療についてなど、地域での生活支援や医療機関との連携についてなど、精神保健福祉法の内容についてもふれながら、精神科医療の全体像の理解をめざす。

### 障害者・障害児心理学

障害者・障害児医学の対象は、身体障害、知的障害、精神障害と多岐にわたるが、この講義では、脳性まひ児やダウン症児や広汎性発達障害児を主として取り上げ、そのような子どものかかわり方を概説する。ただその際、各疾患の特徴や医学的予防・治療法に関する知識の習得に偏るのではなく、「障害」をどうとらえ、どう関わるべきかを、福祉学や教育学や心理学などの学際的視点も加えて構築し、子供の生活全体を、1対1の関わりから始まる「臨床」という立場で支援することができる実践能力を涵養する。

### 健康・医療心理学

心身の健康の維持増進や疾病の予防について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割をもつのかを心理学的な側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄について理解する。これらの理解を通じて、医療や保健活動の現場、災害時等で生じる心理社会的な課題や支援の在りようについても考える。

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部

# 理学療法学科

カリキュラムマップ ▶

カリキュラム表 ▶

科目概要

健康科学部 ▶

- ▼ 1. 理学療法学科教育理念
- ▼ 2. カリキュラムのねらい
- ▼ 3. 各回生の到達目標
- ▼ 4. カリキュラムの概要
- ▼ 5. 履修条件
- ▼ 6. ラーニングコース
- ▼ 7. 取得できる資格

## 1. 理学療法学科教育理念

### (1) 教育研究上の目的

健康科学部は、心理、医療の各分野の専門的知識や技術を習得し、幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、新たな課題に対応できる問題解決能力を備えた人材を養成する。理学療法学科は、理学療法に関する幅広いニーズに応えるため、確かな知識と技術を修得させるとともに、高度なコミュニケーション能力を有する理学療法士を育成する。

### (2) ディプロマポリシー（学位授与方針）

健康科学部理学療法学科は、教育理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、「こころとからだの両面から真に人の役に立てる理学療法を創造できる人」を育成することを目指している。そのために理学療法学科では、この教育目標に基づき、次のような能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（理学療法学）の学位を授与する。

- ① 主体的に学習する姿勢と幅広く豊かな教養を身につけている。
- ② 理学療法士として真摯に他者に接する態度を身につけている。
- ③ 理学療法の歴史の中で培われた基本的な知識と技術を身につけている。
- ④ 心理的側面にもアプローチできる知識と技術の基礎を身につけている。
- ⑤ 常に探求心を持ち、表出した問題や課題を解決できる能力を身につけている。

### (3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

健康科学部理学療法学科のカリキュラムは、幅広い教養の修得を基盤とし、理学療法士養成校として資格取得に必要な基本的な科目を1回生からバランスよく配置している。また、早い段階から自身がめざす理学療法士像を明確にし、3回生からはより専門的な理学療法を

学習できるコース別科目群が設定されている。さらに、医学系科目に心理学領域の科目を有機的に関連させ、からだところの両面から「真に人の役に立てる理学療法」を創造できる人材の育成を目標に置いたカリキュラム構成となっている。

- ① 主体的に学習する姿勢と幅広く豊かな教養を身につけるため、人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い分野の科目を開講する。

---

- ② 理学療法士として真摯に他者に接する態度を身につけるため、「臨床基礎実習」「検査・測定実習」「臨床評価実習」「地域理学療法学実習」「総合臨床実習」を各回生において設置する。

---

- ③ 理学療法士の基本的な知識と技術を身につけるため、解剖、運動学などの基礎科目と理学療法演習科目をバランスよく配置する。また、「理学療法総合演習」を3・4回生に開講することで、臨床実習で深化・統合させてきた知識・技術の定着を図る。

---

- ④ 心理的側面にもアプローチできる知識と技術の基礎を身につけるため、心理学科と連携した科目を開講する。

---

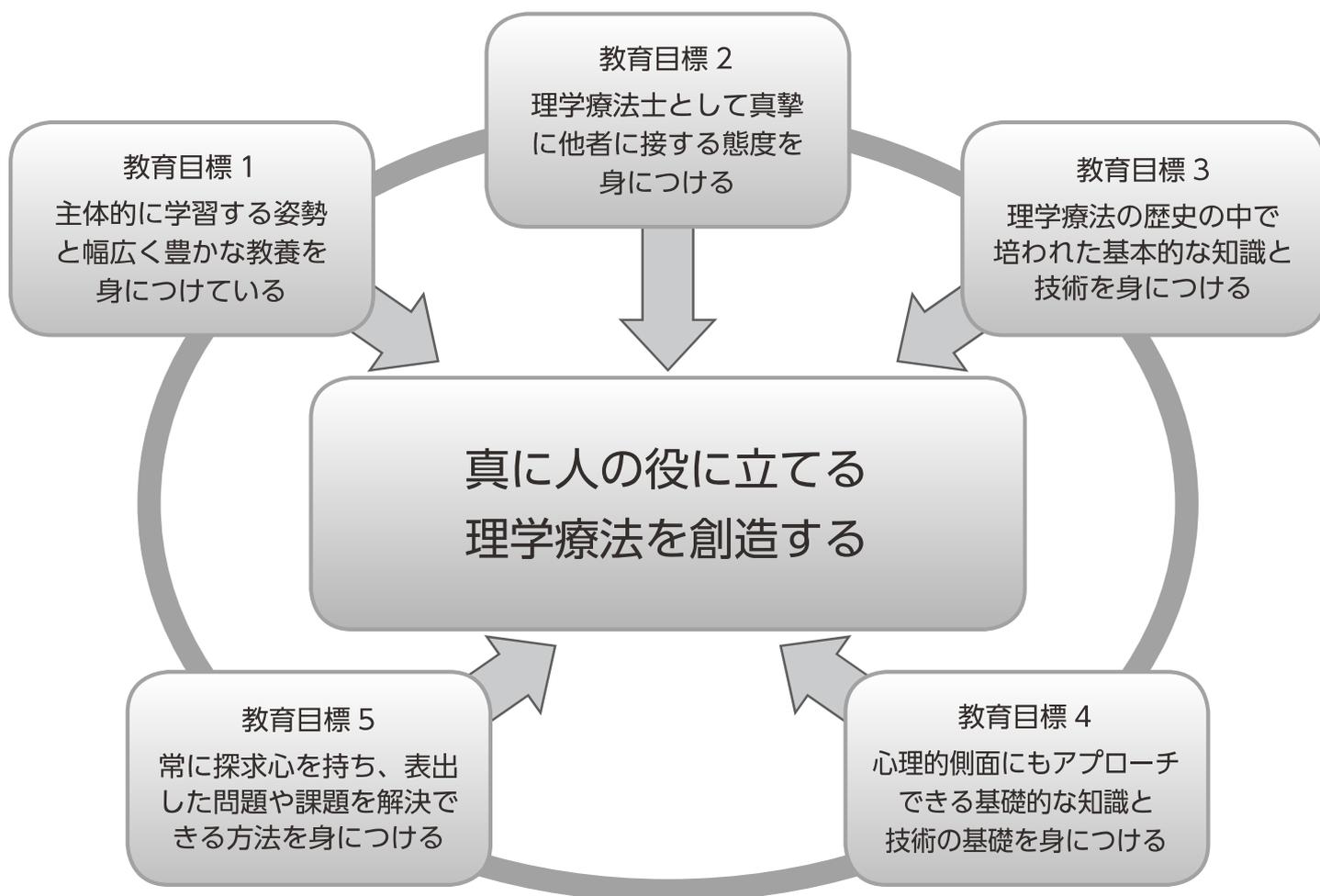
- ⑤ 常に探究心を持ち、表出した問題や課題を解決できる能力を身につけるため、より専門的な理学療法を学習し、問題解決能力を育成するためのコース別科目群（ヘルスプロモーションコース、スポーツ・運動器障害コース、脳・神経障害コース）を3回生以降に設置する。

## 2. カリキュラムのねらい

理学療法（士）を取り巻く環境が大きく変化する中で、理学療法士が活躍する場は病院・診療所等の医療機関をはじめ、地域あるいは各種の介護・福祉施設など保健や福祉、健康増進分野にも広がってきています。このように多様な環境やニーズの中で「真に人の役に立てる理学療法を創造する」人材が求められています。本学科のカリキュラムは、こうした社会のニーズに応えられる理学療法士教育の実現を目指して構築しております。

京都橘大学の教育理念である「自立」・「共生」・「臨床の知」を実践するため、専門分野にとらわれない複眼的で柔軟な思考力、他者を尊重し、互いに共感・協力できる建設的な人間関係、心身両面の基礎的な臨床能力の構築に主眼が置かれています。そのためには、理学療法学や医学に関する専門的知識と技術を中心に据えつつ、人文・教育・社会・医療系をもつ総合大学のメリットも活かして、幅広い教養と高度なコミュニケーション力、学生の「自己教育力」や主体的な判断力と応用力の養成にも重点を置いたカリキュラムを展開しています。

# 【理学療法学科の教育目標リンゲージ】



※「真」とは、「心」と「身」の相互の意味を含む  
しん まこと しん こころ しん からだ

## 3. 各回生の到達目標

ディプロマ・ポリシー (DP)

- ① 主体的に学習する姿勢と幅広く豊かな教養を身につけている
- ② 理学療法士として真摯に他者に接する態度を身につけている
- ③ 理学療法の歴史の中で培われた基本的な知識と技術を身につけている
- ④ 心理的側面にもアプローチできる基礎的な知識と技術を身につけている
- ⑤ 常に探求心を持ち、表出した問題や課題を解決できる方法を身につけている

### 1回生

- ① 幅広い教養を主体的に学ぶことができる
- ② 良好なコミュニケーションが取れる

---

③ リハビリテーションの諸理念を理解できる

---

④ こころとからだの健康について理解できる

---

⑤ 現象に対して疑問を持てる

---

## 2回生

① 社会人として必要な道徳観や人間性を身につける

---

② 人の悩みや希望に心を寄せ共感できる

---

③ 基礎医学の知識や基本的な検査・測定技術を身につける

---

④ 心理学的アプローチの対象を理解できる

---

⑤ 疑問や課題を研究していく姿勢を身につける

---

## 3回生

① これからの人生で直面する問題を解決していくための知識を身につける

---

② 他者のニーズに気づき行動できる

---

③ 専門理学療法知識と技術を身につける

---

④ 基礎的な心理学的アプローチの方法を理解できる

---

⑤ 研究疑問を具体化し、自身が目指す理学療法を明確にできる

---

## 4回生

① 物事を論理的に分析し、正しい判断ができる

---

② 医療従事者として責任ある態度で接することができる

---

③ 専門理学療法知識と技術を応用できる

---

④ 理学療法対象者に対して心理学的側面からの基礎的なアプローチができる

---

⑤ 理学療法研究を行う上で必要な研究技法を身につける

---

## ディプロマ・ポリシー (DP)

### 4. カリキュラムの概要

本学科のカリキュラムは、幅広い教養の習得を基盤とし、理学療法士養成校として資格取得に必要な基本的な科目を1回生からバランスよく配置しています。また、早い段階から自身が目指す理学療法を明確にし、3回生からはより専門的な理学療法を学習できるコース別科目群を設定しています。さらに、医学系の科目に心理学領域の科目を有機的に関連させ、からだところの両面から理学療法を創造できる「真に人の役に立てる理学療法」を目標においたカリキュラムを構成しています。

教育目標	1回生	2回生	3回生	4回生
主体的に学習する姿勢と幅広く豊かな教養を身につける	人文科学（語学系・哲学系）、社会科学、自然科学：計必修7科目、選択必修61科目を準備			
理学療法士として真摯に他者に接する態度を身につける	医療リスクマネジメント 臨床基礎実習	検査・測定実習	地域理学療法学実習 臨床評価実習	総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ
理学療法の歴史の中で培われた基本的な知識と技術を身につける	リハビリテーション概論 人体の構造と機能演習Ⅰ・Ⅱ 運動学 運動生理学演習 人間発達学 保健医療福祉論 理学療法技術学入門演習	人体の構造と機能実習Ⅰ・Ⅱ 運動学演習 臨床運動学演習 運動療法学 運動療法学演習 物理療法学 物理療法学演習 生活技術学演習	理学療法技術学Ⅰ－Ⅲ 義肢装具学演習 疾患別生活技術学演習 理学療法総合演習Ⅰ 地域理学療法学 地域理学療法学演習	理学療法管理学 理学療法総合演習Ⅱ
	臨床医学科目群 (病理学、内部障害基礎論、発達障害基礎論等)			
	理学療法評価学群			
			理学療法基礎演習科目群 (運動器障害系、ヘルスプロモーション、中枢神経障害系など)	
心理的側面にもアプローチできる基礎的な知識と技術を身につける	医療と生命の倫理 こころとからだの健康科学Ⅰ・Ⅱ	行動分析学 よそおいの心理学 公衆衛生学 臨床心理学	生活環境論演習 健康心理学	
常に探究心を持ち、表出した問題や課題を解決する方法を身につける	キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ 地域課題研究 【理学療法学生学会の各研究会活動】 臨床評価研究会／動作分析研究会 物理療法研究会／基礎医学研究会		理学療法研究法Ⅰ・Ⅱ 【理学療法学応用演習科目】 ヘルスプロモーションコース、スポーツ・運動器障害コース、脳・神経障害コース	卒業研究

## 5. 履修条件

本学では、系統的かつ継続性のある効果的な学習を実現することを目的として、一部の科目に履修条件（履修制限）を設定しています。下記実習は、指定された「履修条件」を満たしていなければ、履修することができません。

対象科目	履修条件
検査・測定実習	「臨床基礎実習」「理学療法技術学入門演習」「理学療法評価学」「理学療法評価学総論実習」「理学療法評価学各論演習」を修得済みであること。および「理学療法評価学各論実習」が修得見込み※であること。
臨床評価実習	3回生前期までの専門基礎分野・専門分野の必修科目を全て修得済みであること。および、3回生後期における専門分野の必修科目を全て修得見込み※であること。
総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	3回生までの専門基礎分野・専門分野の必修科目（「地域理学療法学実習」「臨床評価実習」を含む）を全て修得済みであること。

※「修得見込み」とは、試験等の結果により、当該科目の単位を認められることが確実であることを指す。

## 6. ラーニングコース

3回生より「ラーニングコース」の科目を選択履修するとともにゼミや卒業研究を行うことで、より深い専門的知識と技術を身につけた理学療法士を育成します。またこのラーニングコースでは、将来携わっていきたい分野についてなど、学生自らが具体的な進路を考える契機となるよう指導を行います。

#### ヘルスプロモーションコース

在宅で生活する高齢者・障がい者に対するリハビリテーションを専門的に学習する。転倒による寝たきりや生活習慣病、慢性呼吸器疾患や心疾患といった高齢者に発症しやすい理学療法について学習する。また、高齢者や障がい者を地域で支える専門家、ボランティア、行政機関などとの連携の取り方を解説する。

#### スポーツ・運動器障害コース

変形性関節症や腰痛症などの痛みを訴える骨・関節疾患（いわゆる整形外科疾患）やスポーツ時の過度な機械的ストレスによって発症するスポーツ障害に対するリハビリテーションを専門的に学習する。またスポーツ・運動器障害の再発防止や予防の観点からのアプローチについて教授する。特に徒手的な治療法やテーピング等の基礎的な技術についても解説する。

#### 脳・神経障害コース

脳性麻痺（小児）、成人中枢神経疾患（片麻痺）、脊髄損傷などの脳・脊髄疾患や神経難病に対するリハビリテーションを専門的に学習する。中枢神経系の障害によって生じるさまざまな病態・症状に対する検査・測定や治療方針について教授する。さらには最新の科学的治療であるニューロ（神経）リハビリテーションについても学習し、障害レベルの維持・回復に向けた理学療法技術について幅広く解説する。

## 7. 取得できる資格

理学療法士国家試験受験資格

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 理学療法学科

# カリキュラムマップ

理学療法学科 ▶	カリキュラム表 ▶	科目概要 ▶
<hr/>		
健康科学部 ▶		

### ▼ 1. 基礎分野    ▼ 2. 専門基礎分野    ▼ 3. 専門分野

#### 全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

#### 学科・コース別のディプロマ・ポリシー

- ① 主体的に学習する姿勢と幅広く豊かな教養を身につける。
- ② 理学療法士として真摯に他者に接する態度を身につける。
- ③ 理学療法の歴史の中で培われた基本的な知識と技術を身につける。
- ④ 心理的側面にもアプローチできる知識と技術の基礎を身につける。
- ⑤ 常に探求心を持ち、表出した問題や課題を解決できる方法を身につける。

#### 「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

#### 科目ナンバーの見方

〈例〉 **P T** - **1 1 1**  
**1 2 3 4**

<b>1 学科</b>	<b>PT</b> : 理学療法学科
<b>2 回生</b>	<b>1</b> : 1回生 <b>2</b> : 2回生 <b>3</b> : 3回生 <b>4</b> : 4回生
<b>3 教育目標</b>	学科のディプロマポリシー①～⑤
<b>4 履修順序</b>	同系科目中の履修順序

## 1. 基礎分野

## (1) 必修科目16単位、選択必修科目10単位以上の計26単位以上を修得

※「人間と知の伝達」2単位、「人間と文化」2単位、「人間と社会」2単位、「医療と心理」2単位、を含む10単位を修得すること。

### 基礎科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PT111	教養入門	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦
PT151	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦
PT111	英語 I A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PT111	英語 I B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PT112	英語 II A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PT112	英語 II B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PT211	英語 III A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
PT211	英語 III B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
PT212	英語 IV A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
PT212	英語 IV B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
PT101	アカデミックライティング	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
PT102	教養ゼミ	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
PT111	情報処理演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥
PT112	情報処理演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥

### 人間と知の伝達

#### [ 現代の思想 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PT111	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
PT111	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
PT111	ジェンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦
PT211	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤
PT211	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤

#### [ メディアと情報 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PT111	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦
PT111	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
PT211	情報処理演習 III	1	選択	演習	2回生	①②⑥
PT211	情報処理演習 IV	1	選択	演習	2回生	①②⑥
PT211	情報処理演習 V	1	選択	演習	2回生	①②⑥
PT211	情報処理演習 VI	1	選択	演習	2回生	①②⑥
PT111	数学演習 I	2	選択	演習	1回生	①②⑥
PT111	数学演習 II	2	選択	演習	1回生	①②⑥

### 人間と文化

#### [ 外国語と文化理解 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PT111	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
PT111	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
PT111	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④
PT111	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
PT111	中国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PT112	中国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

PT113	中国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PT114	中国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PT111	韓国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PT112	韓国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PT113	韓国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
PT114	韓国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

## [ 歴史・文化 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PT111	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥
PT111	京都の歴史・文化 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
PT111	京都講座 I	2	選択	講義	1回生	①②③
PT111	京都講座 II	2	選択	講義	1回生	①②③

## 人間と社会

### [ 法律・行政・政治 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PT111	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
PT111	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
PT111	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
PT211	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
PT211	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
PT111	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④
PT111	政治学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④
PT211	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥

### [ 経済・経営・社会 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PT111	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
PT111	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
PT111	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
PT111	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥
PT211	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④
PT211	経済学概論 II	2	選択	講義	2回生	①②④

## 人間と自然

### [ 健康・こころ・からだ ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PT111	健康に生きる I	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
PT111	健康に生きる II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥
PT111	健康に生きる III	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
PT111	スポーツコース I	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦
PT111	スポーツコース II	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦
PT111	スポーツコース III	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦
PT111	スポーツコース IV	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦

### [ 自然と環境 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
------	---------	-----	------	------	------	-----------

PT111	物理学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
PT111	化学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
PT111	生物学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
PT111	地球生命論	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
PT111	地球環境論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤

## 医療と心理

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
PT141	こころとからだの健康科学 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
PT142	こころとからだの健康科学 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
PT111	医学概論	2	選択	講義	1回生	①②④
PT111	統計学基礎論	2	選択	講義	1回生	⑤⑥⑦
PT141	医療と生命の倫理	2	必修	講義	1回生	①②④
PT121	医療リスクマネジメント	1	必修	講義	1回生	①②④
PT211	臨床心理学	2	必修	講義	2回生	①②④
PT241	よそおいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④
PT241	公衆衛生学	1	選択	講義	2回生	①②④
PT241	行動分析学	2	選択	講義	2回生	①②④
PT341	健康心理学	2	選択	講義	3回生	①②④

## キャリア教育

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT111	キャリア開発演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦	①②⑤
PT112	キャリア開発演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦	①②⑤

## 2. 専門基礎分野

### (1) 専門基礎分野のうち、必修科目30単位を修得

#### 人体の構造と機能及び心身の発達

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT131	人体の構造と機能演習 I	2	必修	演習	1回生	①②⑥	③
PT132	人体の構造と機能演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥	③
PT231	人体の構造と機能実習 I	1	必修	実技・実習	2回生	①②⑦	③
PT232	人体の構造と機能実習 II	1	必修	実技・実習	2回生	①②⑦	③
PT131	運動生理学演習	1	必修	演習	1回生	②③⑥	③
PT131	運動学	2	必修	講義	1回生	①②④	③
PT231	運動学演習	1	必修	演習	2回生	②③⑥	③
PT231	臨床運動学演習	1	必修	演習	2回生	②③⑥	③
PT131	人間発達学	2	必修	講義	1回生	①②④	③④

#### 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT131	病理学	2	必修	講義	1回生	①②⑥⑦	③
PT231	内部障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	③
PT231	発達障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	③④

PT231	運動器障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	③
PT231	精神障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	③④
PT231	神経障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	③④
PT231	老年期障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	③④
PT231	スポーツ障害論	2	自由	講義	2回生	①②④	③④

### 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT131	リハビリテーション概論	2	必修	講義	1回生	①②④	③④
PT131	保健医療福祉論	2	必修	講義	1回生	①②④	③④
PT231	国際理学療法学	1	自由	実験・実習	2回生	④	①③⑤

## 3. 専門分野

### (1) 専門分野のうち必修科目60単位、選択必修科目8単位以上を修得

#### 基礎理学療法学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT131	理学療法技術学入門演習	1	必修	演習	1回生	②③⑥	③
PT351	理学療法研究法Ⅰ	1	必修	演習	3回生	③④⑥	①⑤
PT352	理学療法研究法Ⅱ	1	必修	演習	3回生	③④⑥	①⑤
PT331	理学療法総合演習Ⅰ	2	必修	演習	3回生	②③⑥	①③⑤
PT431	理学療法総合演習Ⅱ	1	必修	演習	4回生	②③⑥	③

#### 理学療法管理学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT431	理学療法管理学	2	必修	講義	4回生	①②④	①③

#### 理学療法評価学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT131	理学療法評価学	1	必修	講義	1回生	①②④	②③
PT231	理学療法評価学総論実習	1	必修	実験・実習	2回生	⑤⑥⑦	②③
PT231	理学療法評価学各論演習	2	必修	演習	2回生	②③⑥	②③
PT231	理学療法評価学各論実習	1	必修	実験・実習	2回生	⑤⑥⑦	②③
PT231	画像評価学	1	必修	講義	2回生	②⑥	①③⑤

#### 理学療法治療学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT231	運動療法学	2	必修	講義	2回生	①②④	③
PT231	運動療法学演習	1	必修	演習	2回生	②③⑥	③
PT231	物理療法学	2	必修	講義	2回生	①②④	③
PT231	物理療法学演習	1	必修	演習	2回生	②③⑥	③
PT231	生活技術学演習	1	必修	演習	2回生	②③⑥	③
PT331	疾患別生活技術学演習	1	必修	演習	3回生	②③⑥	①③⑤

PT331	義肢装具学演習	2	必修	演習	3回生	②③⑥	③
PT231	運動器障害系理学療法学基礎演習	2	必修	演習	2回生	②③⑥	③
PT351	運動器障害系理学療法学応用演習	1	選択	演習	3回生	②③⑥	③⑤
PT231	中枢神経障害系理学療法学基礎演習	2	必修	演習	2回生	②③⑥	③
PT351	中枢神経障害系理学療法学応用演習	1	選択	演習	3回生	②③⑥	③⑤
PT331	内部障害系理学療法学基礎演習	2	必修	演習	3回生	②③⑥	③
PT351	内部障害系理学療法学応用演習	1	選択	演習	3回生	②③⑥	③⑤
PT331	スポーツ障害系理学療法学基礎演習	1	必修	演習	3回生	②③⑥	③
PT351	スポーツ障害系理学療法学応用演習	1	選択	演習	3回生	②③⑥	③⑤
PT331	神経・筋疾患理学療法学基礎演習	1	必修	演習	3回生	②③⑥	③
PT351	神経・筋疾患理学療法学応用演習	1	選択	演習	3回生	②③⑥	③⑤
PT231	発達障害系理学療法学演習	1	必修	演習	2回生	②③⑥	①③⑤
PT351	老年期障害理学療法学演習	1	選択	演習	3回生	②③⑥	⑤
PT331	ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習	1	必修	演習	3回生	②③⑥	③
PT351	ヘルスプロモーション理学療法学応用演習	1	選択	演習	3回生	②③⑥	③⑤
PT331	理学療法技術学Ⅰ（運動器障害）	1	選択	講義	3回生	①③⑤	①③④
PT331	理学療法技術学Ⅱ（神経障害）	1	選択	講義	3回生	①③⑤	③
PT331	理学療法技術学Ⅲ（スポーツ障害）	1	選択	講義	3回生	①③⑤	③

#### 地域理学療法学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT331	地域理学療法学	2	必修	講義	3回生	②③⑥	③
PT351	地域理学療法学演習	1	選択	演習	3回生	②③⑥	①③④
PT331	生活環境論演習	1	必修	演習	3回生	①②④	①④

#### 臨床実習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT121	臨床基礎実習	1	必修	実験・実習	1回生	⑤⑥⑦	①②④
PT221	検査・測定実習	1	必修	実験・実習	2回生	⑤⑥⑦	①②④
PT321	臨床評価実習	5	必修	実験・実習	3回生	⑤⑥⑦	①②③④⑤
PT321	地域理学療法学実習	1	必修	実験・実習	3回生	①③⑤	①②③④⑤
PT421	総合臨床実習Ⅰ	6	必修	実験・実習	4回生	⑤⑥⑦	①②③④⑤
PT421	総合臨床実習Ⅱ	6	必修	実験・実習	4回生	⑤⑥⑦	①②③④⑤

#### 卒業研究

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
PT451	卒業研究	3	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	①⑤

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 理学療法学科

# カリキュラム表

理学療法学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	科目概要
----------	-------------	------

健康科学部 ▶
---------

<b>基礎分野</b> <b>26単位</b> 必修16単位+ 選択必修10単位	<b>専門基礎分野</b> <b>30単位</b> 必修30単位	<b>専門分野</b> <b>68単位</b> 必修60単位+ 選択必修8単位	卒業要件 <b>124</b> 単位
---	--	--	--------------------------

## 基礎分野 必修科目

16単位

### 基礎科目

	単位	回生
教養入門	2	1~
英語 I A	1	1~
英語 I B	1	1~
英語 II A	1	1~
英語 II B	1	1~
地域課題研究	1	1~
キャリア開発演習 I	1	1~
キャリア開発演習 II	1	1~
情報処理演習 I	1	1~
情報処理演習 II	1	1~

### 医療と心理

	単位	回生
医療と生命の倫理	2	1~
医療リスクマネジメント	1	1~
臨床心理学	2	2~

## 基礎分野 選択必修科目

10単位

※の各領域からは各2単位以上の修得必須

### 基礎科目

	単位	回生

### 医療と心理※

	単位	回生

英語 III A	1	2～
英語 III B	1	2～
英語 IV A	1	2～
英語 IV B	1	2～
アカデミックライティング	2	1～
教養ゼミ	2	1～

こころとからだの健康科学 I	2	1～
こころとからだの健康科学 II	2	1～
医学概論	2	1～
統計学基礎論	2	1～
よそおいの心理学	2	2～
公衆衛生学	1	2～
行動分析学	2	2～
健康心理学	2	3～

領域 人間と知の伝達※

[分野] 現代の思想

	単位	回生
哲学概論	2	1～
倫理学概論	2	1～
ジェンダー研究	2	1～
心理学概論	2	2～
宗教学概論	2	2～

[分野] メディアと情報

	単位	回生
言語コミュニケーション論	2	1～
現代のメディアと表現	2	1～
情報処理演習 III	1	2～
情報処理演習 IV	1	2～
情報処理演習 V	1	2～
情報処理演習 VI	1	2～
数学演習 I	2	1～
数学演習 II	2	1～

領域 人間と文化※

[分野] 外国語と文化理解

	単位	回生
比較文化論	2	1～
芸術と文化	2	1～
異文化コミュニケーション論	2	1～
文化人類学	2	1～
中国語 I	2	1～
中国語 II	2	1～
中国語 III	2	1～
中国語 IV	2	1～
韓国語 I	2	1～
韓国語 II	2	1～
韓国語 III	2	1～
韓国語 IV	2	1～

[分野] 歴史・文化

	単位	回生
歴史学入門	2	1～
京都の歴史・文化 I	2	1～
京都講座 I	2	1～
京都講座 II	2	1～

領域 人間と社会※

[分野] 法律・行政・政治

	単位	回生
日本国憲法	2	1～
法学概論 I	2	1～
法学概論 II	2	1～
民法	2	2～
行政法	2	2～
政治学概論 I	2	1～
政治学概論 II	2	1～
行政学	2	2～

[分野] 経済・経営・社会

	単位	回生
経営学概論	2	1～
会計学概論	2	1～
社会学概論 I	2	1～
社会学概論 II	2	1～
経済学概論 I	2	2～
経済学概論 II	2	2～

領域 人間と自然

[分野] 健康・こころ・からだ

	単位	回生
健康に生きる I	2	1～
健康に生きる II	2	1～
健康に生きる III	2	1～
スポーツコース I	1	1～
スポーツコース II	1	1～
スポーツコース III	1	1～
スポーツコース IV	1	1～

[分野] 自然と環境

	単位	回生
物理学基礎	2	1～
化学基礎	2	1～
生物学基礎	2	1～
地球生命論	2	1～
地球環境論	2	1～

専門基礎分野 必修科目

必修 30 単位

専門分野 必修科目

必修 60 単位

1回生

専門基礎分野

	単位	開講期
人体の構造と機能演習 I	2	前
人体の構造と機能演習 II	1	後
運動学	2	後
病理学	2	後
リハビリテーション概論	2	後
保健医療福祉論	2	後
運動生理学演習	1	後
人間発達学	2	後

2回生

専門基礎分野

	単位	開講期
人体の構造と機能実習 I	1	前
人体の構造と機能実習 II	1	後
運動学演習	1	前
臨床運動学演習	1	後
内部障害基礎論	2	前
発達障害基礎論	2	前
運動器障害基礎論	2	前
精神障害基礎論	2	前
神経障害基礎論	2	前
老年期障害基礎論	2	前

3回生

専門分野

	単位	開講期
理学療法研究法 I	1	前
理学療法研究法 II	1	後
理学療法総合演習 I	2	後
疾患別生活技術学演習	1	前
義肢装具学演習	2	前
内部障害系理学療法学基礎演習	2	前
スポーツ障害系理学療法学基礎演習	1	前
神経・筋疾患理学療法学基礎演習	1	前

4回生

専門分野

	単位	開講期
理学療法総合演習 II	1	後
理学療法管理学	2	後
総合臨床実習 I	6	前
総合臨床実習 II	6	前
卒業研究	3	後

## 専門分野

	単位	開講期
理学療法技術学入門演習	1	後
理学療法評価学	1	後
臨床基礎実習	1	後

## 専門分野

	単位	開講期
理学療法評価学総論実習	1	前
理学療法評価学各論演習	2	前
理学療法評価学各論実習	1	後
画像評価学	1	後
運動療法学	2	前
物理療法学	2	前
生活技術学演習	1	後
運動療法学演習	1	後
物理療法学演習	1	後
運動器障害系理学療法学基礎演習	2	後
中枢神経障害系理学療法学基礎演習	2	後
発達障害系理学療法学演習	1	後
検査・測定実習	1	後

ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習	1	前
地域理学療法学	2	前
生活環境論演習	1	前
臨床評価実習	5	後
地域理学療法学実習	1	後

## 専門基礎分野 自由科目

2回生

### 専門基礎分野

	単位	開講期
スポーツ障害論	2	前
国際理学療法学	1	後

## 専門分野 選択必修科目

下記科目から **8** 単位

3回生

### 専門分野

	単位	開講期
運動器障害系理学療法学応用演習	1	前
中枢神経障害系理学療法学応用演習	1	前
内部障害系理学療法学応用演習	1	後
スポーツ障害系理学療法学応用演習	1	後
神経・筋疾患理学療法学応用演習	1	後
老年期障害理学療法学演習	1	前
ヘルスプロモーション理学療法学応用演習	1	後
地域理学療法学演習	1	後
理学療法技術学Ⅰ（運動器障害）	1	後
理学療法技術学Ⅱ（神経障害）	1	後
理学療法技術学Ⅲ（スポーツ障害）	1	後

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 理学療法学科

# 科目概要

理学療法学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	カリキュラム表
健康科学部 ▶		

▼ 基礎分野    ▼ 専門基礎分野    ▼ 専門分野

## 基礎分野

### 基礎科目

#### 教養入門

初めて大学での教養教育を学ぶ学生を対象として、教養とは何か、教養教育の意義、本学における教養教育の特徴などを講じ、受講生の動機付けとマッピングを行う。

#### 地域課題研究

地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、地域で実践的に学び、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。いわゆる京滋地区（京都・滋賀）一帯の地域在住高齢者についてどのような問題点があるのか、それらの問題点についての解決方法はどうすればよいのか、京滋地区の高齢者は何が課題と考えているのか、などをテーマにグループ学習を行う。

#### 英語 I A

基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

#### 英語 I B

平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

#### 英語 II A

スキミング、スキヤニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要なリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

#### 英語 II B

効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見をプレゼンテーションできる能力を向上させることをめざす。

#### 英語 III A

TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行

#### 英語 III B

TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさま

#### 英語 IV A

日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける

い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行いながら英語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

#### 英語 IV B

さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につけようとする。

#### アカデミックライティング

大学での学修活動に必要なアカデミック・スキルとしての基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。まずは、「話す」ことを中心にコミュニケーションの基礎を学ぶとともに、原稿用紙の使い方や履歴書の作成など、大学生活で役立つ実用的な「書く」能力も身につける。

#### 教養ゼミ

スタディ・スキルとして、最低限必要とされる読解力や文章作成能力の修得をめざす。高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高める。

#### 情報処理演習 I

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

#### 情報処理演習 II

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

### 人間と知の伝達

#### 【現代の思想】

##### 哲学概論

哲学はさまざまな学問の基礎だと言われている。それは、例えば数学が数を扱い、生物学が生命現象を扱うのに対して、哲学の対象が思考そのものにあるからである。哲学は言わば、物事を根本的に突き詰めて考えようとする一つの態度・スタイルを意味している。本講義の目的は、問題に取り組む際の態度としての哲学的な思考のスタイルを身につけてもらうことにある。講義のなかでは、さまざまな哲学者の思考の道筋をだどることを通して、実際に哲学することの意義を学ぶ。

##### 倫理学概論

人と人がともによく生きるとはどういうことか。そして、ともによく生きるために私たちはどのように行動するべきか。こうしたシンプルな問いを基本的なところから考えるのが倫理学である。本講義は、この問いとそこから生ずる諸問題に対するさまざまな解答を吟味することを通して、日々の生活で私たちが直面する具体的な問題から「社会のあり方」に至るまで、倫理的な問題の広さと深さを知り、倫理的な発想を身につけてもらうことを目的とする。

##### ジェンダー研究

ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点をを用いて今日的な課題を考える。この講義により、ジェンダーに関する基本的な概念を理解するとともに、ジェンダーの視点をを用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目標とする。

##### 心理学概論

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、社会においても「こころ」を抜きにして考えることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心をもつ人は多いが、誤解されることがや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の

##### 宗教学概論

人間は、目に見えない世界をどのように認識し、それとどのように関係を取り結ぼうとしてきたのか。そして、それはなぜなのか。そのことを世界の宗教現象の学びを通して、できるだけ具体的に理解していきたい。ただしその際、そのスタンスはあくまで価値中立的であること

一種としての心理学の全体像を正確に学ぶことを目的とする。生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基本的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

がめざされている。換言すれば、特定の宗教などの価値からまったく自由であることが要求されているのである。受講生諸君にとっては、本講義を通して客観的かつ科学的な立場から宗教を理解する姿勢を身につけるとともに、宗教を正しく理解するための基礎的視座を体得することが目標となる。

## 【メディアと情報】

### 言語コミュニケーション論

日本語と英語によるコミュニケーションの比較を通して、その違いや特徴を学ぶ。コミュニケーションとは何かという問題から始めて、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題を扱う。さらに、言語コミュニケーションの比較を翻訳や通訳という観点からも検討する。なお、言語によるコミュニケーションとの関わりにおいて、若干、言語以外によるコミュニケーションにも触れ、日英語それぞれの言語コミュニケーションの特質とどう関わるかも検討する。

### 現代のメディアと表現

今日、日本のメディア・コンテンツが世界的な文化として高く評価されつつあることは言うまでもない。その理由はいくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現していることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、日本の映像メディアは今や担っている。このような観点に立って、日本の映像文化、特にアニメーションを分析、評価するのがこの講義の目標である。特に宮崎駿の創作活動に焦点を絞って、講義を進めていく。

### 情報処理演習 III

ワープロソフトを利用した文書の作成を中心に、企業その他の組織における日常業務の遂行に必要な情報処理能力を習得させる。この場合、ソフトウェアの操作方法の習得にとどまるのではなく、ビジネス文書をはじめとするフォーマルな文書の形式や、文書作成の上で必要となる表現の方法やマナー、表やグラフ、画像等の視覚資料の有効な活用方法等についても学習し、総合的な文書作成能力の向上をめざす。また、ネットワークを通じた情報の交換や発信についてもふれ、情報通信技術の利活用に不可欠となる実践的な知識を身につけさせる。

### 情報処理演習 IV

表計算ソフトを利用したデータ処理および資料作成を中心に、企業その他の組織における日常業務の遂行に必要な情報処理能力を習得させる。具体的には、表の作成、データの集計処理、関数を用いた統計処理やテキスト処理、グラフによるデータの視覚化、データベース機能を利用したデータの整理方法などを、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。この場合、ソフトウェアの操作方法にとどまらず、客観的なデータを利用する意義や、データ収集の方法についてもふれ、総合的なデータの処理分析能力の向上をめざす。

### 情報処理演習 V

基本的なプログラミングの技法を学び、高度な情報処理技術を習得するための基礎を身につけさせる。具体的には、マークアップ言語による文書作成や、マクロ言語を利用したアプリケーション・ソフトの定型処理など、簡易的なコンピュータ言語による処理を体験することで、コンピュータ言語が処理される仕組みや記述上の注意点など基本的な知識を身につけた上で、問い合わせ言語やスクリプト言語等の利用される頻度の高いプログラミング言語について学び、実際に簡単なプログラムを書くことでプログラミングの技法を学ぶ。

### 情報処理演習 VI

ネットワークを通じた情報発信や、コンピュータを利用したプレゼンテーションなど、情報処理技術を活用した表現の方法を習得させる。具体的には、プレゼンテーション・ソフトの操作方法や、静止画、動画、音声等のマルチメディア素材の作成方法を学んだ上で、表現のなかでそれらを有効に活用する方法を学ぶ。この場合、受け手の理解を助けるため、あるいは受け手の印象に残るようにするためにはどのような方法が効果的なのかといった表現の技法や、既存のマルチメディア素材を利用する際に必要となる著作権に関わる知識等についても習得させることで、総合的な表現技術の向上を図る。

### 数学演習 I

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。数と計算・図形の初歩から学び、さまざまな応用問題が解けるようにする。ピタゴラスの定理と無理数、1次・連立・2次方程式、因数分解、1次・2次関数とグラフなどを主なテーマとする。

### 数学演習 II

数学的思考、数理的思考を身につける。1次関数、2次関数、関数とグラフ、図形と方程式、図形の性質・面積（ヘロンの公式）などをテーマとして、日常生活との接点を探りつつ、基本的な概念、典型的な問題の解法、実生活への応用を教授する。

## 人間と文化

## 【外国語と文化理解】

## 比較文化論

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになれば—これがこの授業の最大の目標である。世界で起こっているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考えることを通して、さまざまな文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを体得してほしいと思う。

## 芸術と文化

芸術（アーツ）と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまに試みられている芸術表現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

## 異文化コミュニケーション論

異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接触場面において生じる誤解や衝突、相互理解の困難さといったことをイメージしやすいが、異文化という概念の射程はそこにとどまるものではない。男女の考え方のずれ、世代間の意見の対立といったものも、広い意味では、お互いの文化背景の無理解によって生じるものである。他者を、自分とは異なる文化背景をもつ存在として認め、積極的に理解しようとすることによって立ち上がる、他者との間に関係性（つながり）を生みだす行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

## 文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説する。その上で、アジアのなかでも、ブータンを中心に、そこに住む人々の生活観・価値観を学びながら、異文化に対する理解を深めていく。

## 中国語 I

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

## 中国語 II

中国語のさまざまな基本短文を作ることができるよう、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

## 中国語 III

中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることをめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的イベント、食べ物、祝日などを題材にする。

## 中国語 IV

基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができることをめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

## 韓国語 I

初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

## 韓国語 II

韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法+会話+講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話力を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習する。また、韓国の文化に関わるものを講読のテキストとし、韓国の文化に親しむ。

## 韓国語 III

会話+講読+聴解力+作文に重点を置く。韓国語 I・II で学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ができるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

## 韓国語 IV

韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話+スピーチができることを目的とし、学生たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

## 【歴史・文化】

### 歴史学入門

歴史学を学ぶことにはさまざまな意味がある。一つの意味は、過去を振り返ることによって、

### 京都の歴史・文化 I

京の都は、中国の都城にならって建設されたが、都への軍団の駐屯は視野に入れられずに計

### 京都講座 I

テーマは「埋もれた京都の地下遺産を探る」である。考古学的手法を用いて、本学の足下にあ

進歩の跡を知り、未来への展望を考えることである。例えば、制度上昭和の戦前期までは男女同権の社会ではなかった。病気でも、原因がわからず神頼みしか方法がなかった時代があった。歴史にはさまざまな制度や技術や知識の進歩があり、これらは今後どのように進展していくのか、そのような進歩の跡を述べ、展望を考えたい。もう一つの意味は、過ちを繰り返さないための知恵の習得である。70年前にあった戦争はなぜ起きたか、人々はどう動いたのか具体的に知ることによって、私たちは危険性が実は身近に潜んでいることに気づかされる。これらのことについてできるだけ具体的事実を語りながら、教え、また考えてみたい。

## 京都講座 II

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

画された都市であった。文字通り、「平安京」の名が相応しい都一京都で繰り広げられた歴史と、その歴史の展開の過程で残された歴史遺産はどのようなものであったのか、また今日残る貴重な歴史遺産の保存と活用についても、この講義を通して考えてみたい。平安京成立以前の都城の変遷から説き起こし、平安京の建設期、拡大期、衰退期を経て、その後武家政権の都としての使命を確立し、その使命を終える織豊政権期までの京都の歴史を、時代を追って検討する。

る京都の歴史遺産に焦点をあて、触れ、理解して、京都での学びをより深める視点を養う。

## 人間と社会

### 【法律・行政・政治】

#### 日本国憲法

近代立憲主義の成立とその内容を基礎として概説し、大日本帝国憲法の性質、日本国憲法の成り立ち、基本原理にふれ、国民主権と象徴天皇制、平和主義、個人の尊厳へとつなげる。その後、基本的人権につき、総論（体系や分類、共有主体、制約原理など）を扱い、続く各論においては、幸福追求権、平等、精神的自由、経済的自由、人身の自由、社会権などを順に具体的に取り上げ、それぞれの内容、歴史的な意義と現状を解説していく。統治機構においては、それぞれの機関の固有の問題とともに、権力分立や民主主義の観点からの考察も行い、違憲立法審査（司法審査）制の検討を行う。また、憲法改正論議にもふれる。

#### 法学概論 I

法学概論 I では、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていき、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

#### 法学概論 II

法学概論 II では、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初歩的な応用力を身につける。

民法

行政法

政治学概論 I

民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会生活そのものを広範に対象とする学問である。本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主要な法原則、法制度、法概念を理解するとともに、その基礎的知識を獲得することを目的としている。また、具体的な事例や裁判例を用いながら、民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにすることで、法的な問題発見能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を可能にする。特に、財産法の分野の解説に重点を置くが、家族法の分野についても一通り概観しておく。

## 政治学概論 II

具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家はどのように描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

## 【経済・経営・社会】

### 経営学概論

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まず会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

## 社会学概論 II

憲法をベースとしつつ、行政と国民の法的関係を理解して国法における行政権のあり方を検討する。法文の基本を勉強したあと、国家と国民との関係についての基本的論理構成に続き、行政行為をはじめとする行政活動の諸形式ごとに、両者の法関係の内容的検討を行い、市民生活の法とは異なる行政法の特異性を学ぶ。そのため、身近な事例を例示しつつ、民法や刑法などとの関係を理解するために、もし、裁判員になったとしたらどうしたらいいかを映像を交えて学修したり、国の機関のうち、興味のある省庁を自分で調べたりすることとする。

### 行政学

行政の法的過程を学ぶ行政法とは違い、政治学的、世界的に行政と市民との関係を考察することを目的とする。すなわち、行政システムについて、府省庁組織や中央地方関係、政府と市場、組織と管理などのテーマから行政システムの活動とその結果の全体をとらえる。省庁再編、政策評価の導入や地方分権改革などにもふれる。さらに、地方自治体を具体的に取り上げ、身近な行政がいかにNPOや地域企業と関係しているのかを自分で研究するような課題をこなすことにより、行政のメカニズムを具体的に考察することができるように指導する。

### 会计学概論

企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。内容：企業経営のプロセスを、資金の流れとして学ぶ。さらに、付加価値の形成、市場における価値の創造、収益の分配、および、稼得利益の意義を体系的に考察することによって、企業経営の本質を理解する。また、この学習を、複式簿記のシステム（簿記一巡の手続き）の理解と連動して行う。したがって、他人資本（負債）、自己資本（純資産）、資産、費用、収益という5つのグループの経営プロセス上での役割についても、それぞれのグループ内の勘定科目のレベルにまで、一定程度深化させて理解する。簿記システムの基礎的理解をめざし、簿記一巡の手続きについて学ぶ。

## 経済学概論 I

政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によって、政治に関する情報・言説を知るソーシャルメディア利用法などにも言及する。

### 社会学概論 I

社会学概論 I では、自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちに何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

## 経済学概論 II

社会学概論Ⅱでは、社会学概論Ⅰでの基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着をめざす。

現代日本経済における諸問題を学ぶことによって、経済学への導入を図る。具体的には、まずバブル経済とその崩壊による平成不況の深刻化の課程を「不良債権処理の10年」として概観する。次に、ケーススタディとして、日本長期信用銀行の破綻、山一証券の自主廃業について検討する。そして、女性労働として雇用機会均等法と育児支援を取り上げるとともに、労働問題として過労死・過労自殺、ホームレス、派遣労働、ネットカフェ難民、派遣村などを取り上げる。これらの諸問題を、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでを、映像資料を活用してイメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

## 人間と自然

### 【健康・こころ・からだ】

#### 健康に生きるⅠ

健康とは何かを学び、大学生活およびその後の生活を健康で過ごすための方法を学ぶ。

#### 健康に生きるⅡ

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。健康と栄養の関連を理解するとともに、食の安全性を理解し、健康増進に役立て、健康的な食生活を志向する。

#### 健康に生きるⅢ

個人の「健康」について精神的側面（メンタルヘルス）を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されているさまざまなメンタルヘルスの理論や、その歴史的な発展について講義し、現代人が健康に生活する上でのメンタルヘルスの重要性の理解を促す。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされるさまざまな理論・技法についても概観する。また、メンタルヘルスが個人の全般的な健康に資する役割についても言及する。

#### スポーツコースⅠ

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践を通して、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。ソフトバレーボール、バレーボール、卓球、バドミントンなどのスポーツを行う。

#### スポーツコースⅡ

生涯スポーツの一環として楽しく、正しい知識を身につけ、運動におけるダイエットプログラムやリラクゼーションで健康的なフィットネススポーツを学び実践する。「生活習慣病」の知識も身につけ、現在の体から将来に向けた体づくりのための運動知識の修得をめざす。

#### スポーツコースⅢ

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践を通して、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。グラウンドゴルフ、ゲートボール、バスケットボール、フライングディスクなどのスポーツを行う。

#### スポーツコースⅣ

ストレッチの理論と実践を学んだ上で、有酸素運動、無酸素運動、サーキットトレーニングなどを行う。自律訓練法を学び、エアロビクス、ダンベルとチューブ体操、水中ウォーキングなどを行い、体脂肪やダイエットの栄養と理論について学ぶ。また、腰痛予防体操・生活習慣病予防や救急法についても学ぶ。

### 【自然と環境】

## 物理学基礎

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本講では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などについて学び、先端科学技術と日常的に目にする現象等を理解・説明する力を身につける。

## 地球生命論

生命の発生から現在に至るまでの地球の歴史を概説する。そのなかでも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代について、氷河の消長、海水準変動、土壌生成、植生変遷などの古地理変遷と、生物地理と人類の拡散などの事象を通して、具体的に学ぶ。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造、土壌層位、遺構面と遺構埋土の特徴などの地層学の基礎事項と、火山噴火や地震などの地盤災害の事例もあわせて解説する。

## 医療と心理

### こころとからだの健康科学 I

「こころ」と「からだ」を扱う心理臨床の広範囲の現場を紹介しながら、そこでの扱われる問題や課題を知り、さまざまな問題に対してのいろいろなアプローチがあることを理解する。また、個人と集団を支援や援助するために必要な「こころ」と「からだ」について、そしてそれを支える「場」と「環境」に対して、見方・付き合い方・学び方を具体的な生活に関連させながら考える。それらを通して、こころやからだの有りようの多様性を理解し、対人援助に関わるための自らの特質や経験を含めた資源について見直すための土台をつくる。

### 統計学基礎論

この科目では統計学そのものについて学ぶのではなく、統計法を利用して各分野（理学療法学や心理学、教育学など）の研究を進める方法を学ぶことを目的とする。授業を通じて統計学の基礎を学び、身近なデータを読み取る力をつけ、また実際に受講生自身が研究を行う上で知識を活用できるよう、実践的な能力を身につけることをめざす。

## 化学基礎

化学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考える上で基礎的な学問となる。本講では、無機化学・有機化学にわたって学び、先端科学技術と日常的に目にする現象等を理解・説明する力を身につける。

## 地球環境論

21世紀の最重要課題である地球環境問題と水問題についての理解を深める。具体的には、地球温暖化問題については、地球温暖化とは何か、気候大変動、北極大変動、エネルギー転換、循環型社会、低炭素社会などを取り上げる。また、水問題については、水問題とは何か、アラル海、ウォータービジネス、ウォータークライシスなどを取り上げる。どちらのテーマも、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

### こころとからだの健康科学 II

心身の問題は広大である。ここでは心理臨床の実践とすることを前提に、あるいはそのなかでわかってきたことなどから、心身相関、東と西の身体観のちがいを、医療と養生などについても講じる。

### 医療と生命の倫理

生命倫理学の基本原則を正しく理解し、現代の医療における倫理的諸問題を学ぶ。まず、患者の自律の尊重という生命倫理学の基本原則と、これを達成するために不可欠なインフォームド・コンセントの原理について説明する。その後、①出生前診断、人工妊娠中絶、生殖補助医療など人間の誕生にまつわる諸問題、②ターミナルケア、安楽死と尊厳死など人間の死にまつわる諸問題、③遺伝子診断と遺伝子治療、再

## 生物学基礎

人間の心理と生理の関係を前提として人体について学習する。そのほか生命に関わる基本的な学問分野である、遺伝とDNAのメカニズムを事例をもとに学ぶ。

### 医学概論

人類の歴史は「病いととの戦い」の歴史であるともいえる。例えば、伝染病との戦いはペストや天然痘には勝利したものの、エイズやインフルエンザといった新たな敵との戦いが引き起こされている。人類の生存をかけた戦いのなかで医学は生まれ、発展してきた。さらに、ライフスタイルの変化、人口の少子高齢化等の社会情勢の変化は生活習慣病などの新たな「病い」の発生の素地となっている。医学は新たな姿の敵との戦いを迎えている。こうした医学の歴史を振り返りながら、「医学の過去、現在、未来」について講義する。

### 医療リスクマネジメント

理学療法士が業務として携わる医療全般における安全とその管理について教授する。医療職種全体の目標である「医療の質の向上」について講義し、リスクマネジメントの関係性について理解を深める。さらに、その具体的方法について解説する。また、理学療法士の各種治療におけるリスク、および理学療法機器の使用にあたっての事故防止の方法について解説する。理学療法士の業務に関わる感染症については、理学療

生医療など先端的医療、④医療情報の保護について教授する。

法士自身が感染媒体にならないようにすることの理解を深め、その対策について教授する。

### 臨床心理学

理学療法を通じて人と関わるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。そうした知識も当然重要であるが、それだけにとどまらず「臨床の知」としての思考力を身につける必要がある。「臨床の知」とは、客観的に眺め分析するのではなく、自分が現場にコミットして、相手との関係のなかで考えることといえる。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へ関わる存在になっていくのか、履修者それぞれが、主体的に考えられるようになることをめざしたい。

### よそおいの心理学

人間の外見と心の関係を探究することをテーマとする。社会心理学・感情心理学の分野から始まった「化粧の心理的効果」の研究は、粧うことによって快感情・高揚感をもたらし、積極的な対他者行動を促すことによって、コミュニケーションを活性化することを実証し、化粧が心の健康に貢献していることを見いだした。また、この化粧の効用は、医療や福祉の現場で効果をあげており、臨床心理学的な考察も試みられている。本講義では、基礎的な研究を概説し、さらにさまざまな臨床的実践活動について紹介する。

### 公衆衛生学

理学療法士に必要な公衆衛生の基礎的な知識を身につける。公衆衛生の前提となる集団・社会の健康の意義、社会医学の考え方、公衆衛生学の発展過程を概説した上で、公衆衛生活動の人口・疾病統計と健康指標、疫学、健康管理の基礎を学び、地域保健、成人保健、母子保健、老人保健、産業保健、学校保健の各分野における保健活動について教授する。

### 行動分析学

行動分析学は心理学のあらゆる分野において基礎となる領域である。「こころ」を知るためには「行動」を観察する。これらは我々が日常的に行っていることだが、この講義では、行動をいかに観察し、いかに法則を見出し、制御するのか？そのための専門的知識を学ぶ。講義は行動分析の思想の理解のための基礎的内容と行動分析が活かされる場面についての応用的内容を含む。

### 健康心理学

心身の健康の維持増進や疾病の予防について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを心理学的な側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄について理解する。

## キャリア教育

### キャリア開発演習Ⅰ

大学における自己学習習慣や自ら積極的に講義等に参加する姿勢、理学療法士はもとより社会人として必要なコミュニケーション能力等について、理学療法士の専任教員から、自らの経験を基にした内容で講義と演習形式で学び、理学療法士にとって必要な知識や技術等を学ぶ重要性について教授する。

### キャリア開発演習Ⅱ

理学療法士として適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキル、問題発見解決型人材を念頭においた社会が求めるヒューマンスキルなどの獲得をめざす。講座では、円滑なコミュニケーションから、より有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの修得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを修得する。演習では、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力（コミュニケーション力・自己アピール力）などのヒューマンスキルを身につけることをめざす。

# 専門基礎分野

## 人体の構造と機能及び心身の発達

### 人体の構造と機能演習 I

理学療法の実践に必要な、人体の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎知識を演習により習得する。この科目では、特に解剖・生理学の基本事項に加え、ヒトの動きに関与する骨・関節、筋、神経の概要について教授する。また、受動的運動器である骨・関節、能動的運動器である筋について、その構造・機能についての知識を深めていくとともに、その知識を統合させて運動の成り立ちについての理解を深めていく。

### 人体の構造と機能演習 II

人体の構造と機能演習 I で学んだ知識をベースにしながら、演習形式により以下の内容を習得する。受動・能動運動器の制御に大きく関わっている神経系ならびに感覚器系について教授する。さらに、生命維持や運動の遂行に欠かすことのできない呼吸・循環機能のうち、循環器系についても教授する。これら神経系や感覚器系、循環器系が、ヒトの生命活動や運動にどのように関わっているのかを明らかにし、これらが果たす役割についての理解を深めていく。

### 人体の構造と機能実習 I

理学療法の対象となる内部障害を理解するための基礎として、実習形式により以下の内容を習得する。循環器系で運搬される酸素や栄養素と深い関わりを持つ呼吸器系や消化器系、体内で生じた代謝産物を体外排出する泌尿器系、子孫を残すための生殖器系について、グループ学習をすすめていく。また、神経系とともに生命活動を統御する内分泌系や外部環境から身体を守る免疫系などについても学習を進めていく。さらに、これらが生命の維持に果たす役割についての理解を深めていく。

### 人体の構造と機能実習 II

実際に自分たちの身体を使いながら実習形式により、我々の身体の中で引き起こされる様々な生理的現象を理解していく。人体の生理機能を体験的に学習することで、検査技術を習得するとともに、ここで得られたデータを分析する力を身に付ける。最終的には、実践した内容についてレポートにて報告することにより、実験研究レポートの書き方を習得する。

### 運動生理学演習

ヒトが運動を行うとき、生理機能は適応的に変化することを説明する。運動における中枢機能、筋機能、呼吸と循環機能、代謝機能などの変化を理解することにより、それらヒトの生理学的変化を評価技術や運動療法、リスク管理など理学療法に生かせるよう説明する。

### 運動学

解剖生理学で学んだ知識をベースにしながら、運動器を主とする障害学の基礎となる、人間の正常状態における身体運動のメカニズムについて理解を深める。具体的にはまず、身体運動を理解するために必要な力学、骨・関節・筋・神経系を中心とした運動器の構造と機能を教授し、その上で、上肢、下肢および体幹の各部位における運動学について説明を行う。さらには、姿勢、歩行、運動学習に関しても講義を行い、運動解析や運動による発達について理解する。

### 運動学演習

運動学の講義内容をもとにした演習を行う。身体運動を定量化する手法について学ぶとともに、四肢・体幹における運動の計測を通して正常な関節運動について理解を深める。

### 臨床運動学演習

人間の動作や運動にかかわる人体の解剖学的構造や生理学的機能、生体力学的変数と臨床上的の問題との関係について解説する。

### 人間発達学

人間の誕生から死に至るまでの生涯を発達という視点からとらえ、身体・心理両面における人間発達に関する基礎的知識を教授する。その際、人間が発達する上で欠かせない外界と関わりにも言及する。

## 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

### 病理学

疾病の本質を探求し、医学の根幹をなす病理学に関する正しい知識を身につける。病理学の概要と歴史、病因論、老化、さまざまな病変（遺伝・先天異常、細胞の退行性・進行性病変、循環障害、炎症、免疫とアレルギー、腫瘍など）、栄養、薬理、医用画像、救急救命及び予防の基礎について教授し、神経系、運動器、循

### 内部障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する内科系疾患の診断・治療に関する基礎知識を教授する。講義では、医師の見地から内療科学の症候学、内科的診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。更に理学療法士の見地から各臓器別における疾患の特性と障害像について教授する。

### 発達障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する小児系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を教授する。講義では、医師の見地から小児の症候学、内科的、外科的、小児科的診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。特に急性期、回復期、維持期別に各疾患の回復や進行、それに伴う障害の経過を概説する。更に、理学

環器、呼吸器など器官・組織ごとに疾病の原因と病態、経過、予後について解説する。

### 運動器障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する整形外科系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を教授する。講義では、医師の見地から整形外科の症候学、整形外科的診断と救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。更に理学療法士の見地から運動器別に疾患の特性と障害像について教授する。

### 老年期障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する老年期疾患に関する診断・治療に関する基礎的知識を教授する。講義では、老化について教授し、高齢者にみられる特徴的な症候や疾患について理解を深める。また、理学療法士の見地から高齢者の機能評価やリハビリテーションの進め方について教授する。

### 精神障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する精神医学系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を教授する。講義では、医師の見地から精神医学の症候学、診断と救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。更に理学療法士の見地から、各精神領域疾患の特性と障害像について教授する。

### スポーツ障害論

リハビリテーション領域に関連するスポーツ障害系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を教授する。講義では、スポーツ障害の症候学、診断と栄養指導を含む治療法について概説する。さらにスポーツ障害における障害像についてスポーツ現場で必要となる実践的な知識についても教授する。

療法士の見地から小児期の成長と発達に基づく小児疾患の特性や障害像について教授する。

### 神経障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する脳・脊髄・神経系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を教授する。講義では、医師の見地から脳・脊髄・神経系の症候学、診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。更に理学療法士の見地から中枢神経系疾患及び神経・筋疾患の特性と障害像について教授する。

## 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

### リハビリテーション概論

本科目を学習することで、リハビリテーション医学における理学療法学および理学療法士についてその理想像を構築する。また、多岐にわたるリハビリテーション領域において、理学療法士がいかに医療、保健、介護および就労支援などに携わる多職との連携を図るべきかを熟考し、対象者とその家族が望む生活が行えることを具現化するための策について教授する。

### 保健医療福祉論

日本における保健医療福祉に関連する政策・制度・法律と理学療法学について講義する。具体的には、我が国の社会保障制度を概観した上で、医療保険・介護保険・社会福祉制度および保健医療福祉行政について教授するとともに、特にリハビリテーションとの関わりが深い心身障害に関連する法律や政策に言及する。このほか、国際保健および関連法規に関する説明も行う。また、理学療法学をはじめ、自立支援や就労支援、地域包括ケアシステムに対する理学療法士と多職種の様々な活動についても講義を行う。

### 国際理学療法学

本科目は、海外研修を通して、豊かな人間性と国際的感性を育むことを目指す科目である。さまざまな国における保健・医療・福祉制度の成り立ちについて、歴史的背景や社会的状況を踏まえて学修する。特に海外における施設見学や研修会参加などの体験を通して、理学療法を取り巻く国際情勢をより深く理解し、先駆的な視点から理学療法学の将来展望を創造できる能力を身につける。

## 専門分野

### 基礎理学療法学

#### 理学療法技術学入門演習

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、骨・関

#### 理学療法研究法Ⅰ

研究指導教員による少人数の演習形式により、理学療法学に関する研究能力を身につける。まず、教員が研究の意義と目的、研究倫理、および文献検索やデータ収集、レジュメ作成、論文作法など研究に必要な方法論を教授する。その

#### 理学療法研究法Ⅱ

「理学療法研究法Ⅰ」で身につけた研究能力をさらに伸ばすため、プレゼンテーションとディスカッションを繰り返す。後半は、4年次後期の卒業研究に向けて、研究の足がかりとなる実施計画案を策定し、先行研究を調べる。ま

節・筋・神経の解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

#### 理学療法総合演習 I

本演習は、これまでの理学療法学専門科目で修得した知識および技術を統合できる臨床能力の習得を目指した科目である。特に学外における臨床実習に向けて、各疾患の模擬患者を用いたシミュレーション教育を導入して、理学療法評価から治療プログラム立案とその実践といった一連の思考過程を学修する。さらには理学療法を展開していく上で、患者の障害像へのアプローチに関する“臨床推論”思考を身につける。

後、学生が教員により与えられた研究課題に沿って、調べてレジюмеを作成し、プレゼンテーションを行い、ディスカッションを繰り返すことで、研究方法を学び取っていく。またあわせて、プレゼンテーション資料作成のための情報機器への習熟を図る。

た、研究の国際動向を把握し、学生自身の研究に生かすため、英語論文の講読を行い、英文読解力の養成にも取り組む。

#### 理学療法総合演習 II

臨床実習を通して学んだ専門的な知識や技術（基礎医学、臨床医学、理学療法学）の定着を図ること、また得られた臨床現場の情報を学生同士で共有することを目的として、少人数の演習形式による学習を行う。また、グループ学習によって、国家試験で問われる基礎および専門知識を整理し確実に身につける。

### 理学療法管理学

#### 理学療法管理学

理学療法部門における管理運営者としての業務や他部門との連携の在り方、職場管理（教育を含む）、職業倫理等について教授する。特に理学療法部門における人材育成や治療技術の向上等を目的とした臨床研修教育・研究体制の構築方法、さらには部門管理者としての資質の向上をめざしたマネジメント理論にも言及する。また、専門理学療法士および認定理学療法士制度、理学療法施設基準と診療報酬との組み合わせによる医療コストとの関係や医療監査による業務評価等についても教授する。

### 理学療法評価学

#### 理学療法評価学

理学療法における検査・測定、治療の一連の流れを理解し、基本的な検査・測定の意義や手技について学習する。また、リハビリテーションの観点から障害評価を理解し、患者の問題を考える指標となる障害モデルについて学ぶ。基本的な検査・測定技術については、四肢体幹の周計や関節可動域の計測について学習し、その基本的な計測手技を習得することとする。

#### 理学療法評価学総論実習

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、理学療法評価でも基本的な評価項目である関節可動域測定（ROM-T）や徒手筋力検査法（MMT）をはじめとする多くの理学療法評価

#### 理学療法評価学各論演習

本演習の目標は、理学療法評価学総論実習で習得した各評価項目について、疾患および障害に適した検査・測定を選択できるようになることである。

の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得をめざす。

### 理学療法評価学各論実習

本授業は、各種理学療法評価技法を模擬症例に対して実施し、その結果を統合・解釈し、問題点リストを作成した上で目標を設定し、理学療法プログラムを立案できるようになることを目標とする。

### 画像評価学

本授業では、基本的な画像評価学に関する講義を行う。具体的には、画像評価のための各種検査法の原理と評価方法、各種疾患（運動器疾患・中枢神経疾患・内部疾患等）における医用画像の評価ならびに読影法、理学療法評価や治療プログラムを遂行するための病態把握ならびにリスク管理に必要な画像評価を講義する。

## 理学療法治療学

### 運動療法学

「運動療法」は理学療法を実践していく上で、最も重要かつ基盤となる治療手段の一つであり、疾患別理学療法における基礎的な科目の位置づけとなる。講義では、「運動療法学」の歴史・変遷や理学療法治療学における位置づけなどについて幅広く解説する。さらには運動療法を構成する関節可動域練習や筋力増強練習、持久力練習、平衡機能練習、全身調整練習を中心に取り上げて、身体へ与える（生理学的）効果や疾患に対する適応、具体的方法と禁忌事項について教授する。生理学および機能解剖学知識と結びつけながら学習する。

### 運動療法学演習

「運動療法学」で学習した内容を基盤として、関節可動域練習や筋力増強練習、持久力練習、平衡機能練習、全身調整練習などの実践的な方法（指導も含む）について教授する。さらに症例の状態に応じたプログラム立案のポイントとその実施にあたっての留意点やリスク管理について演習を通して学習する。運動療法の基礎知識を身につけることによって、効果的かつ効率的なプログラムを組み立てられることができ、系統別理学療法演習に繋がる科目となる。

### 物理療法学

物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等を教授する。特に筋・骨格系、神経系障害に起因する筋萎縮、疼痛、関節拘縮、創傷などの病態について最新の基礎研究に基づく知見を講義する。さらにこれらの病態に対する物理療法の治療効果機序について言及し、特に物理療法における人工的物理エネルギー（レーザー光、超音波、磁気・電気刺激）がどのような影響を生体に及ぼすかを細胞生物学レベルで研究された知見に基づき教授する。

### 物理療法学演習

物理療法学で学習した疼痛抑制、血行改善、痙攣抑制、創傷治癒促進等の治療効果に関する基本的特性をシミュレーション演習を通して修得する。また、治療技法として各種疾患に対する適用方法とそのリスク管理を演習形式で指導する。

### 生活技術学演習

日常生活活動の概念および評価、基本的な日常生活活動の動作法、介助法、指導法について教授する。特に、歩行補助具の使用法や基本動作指導、ADL指導について演習形式で学習を進める。

### 疾患別生活技術学演習

中枢神経疾患（脳卒中、パーキンソン病）、運動器疾患（変形性関節症、骨折、関節リウマチ）、切断など、疾患の特徴に合わせた日常生活活動の介助法や指導法、さらには在宅生活を達成するために必要な福祉機器の選択や使用方法について演習形式で学習を進める。

### 義肢装具学演習

本演習では義肢装具に関する種類や構成要素、材料といった基礎的知識について教授する。さらに義肢装具の作成過程や調整法（チェックアウト）についても説明する。

### 運動器障害系理学療法学基礎演習

本講義を通して、運動器障害に関する理学療法士に必要な基本的な知識、技術について学ぶ。前半は主に運動器障害に対する理学療法の流れについて解説するとともに、疾患に対する知識を教授する。後半は、具体的な疾患として大腿骨頸部骨折、変形性関節症、腰痛、肩関節疾患等について解説および実技指導を演習形式で行う。

### 運動器障害系理学療法学応用演習

本講義では、運動器障害に対する理学療法の応用編として、より臨床で必要とされる高度な知識と技術を講義と実技指導の組み合わせによる演習形式で教授し、卒業後、運動器障害の専門的治療ができるように指導する。また、運動器障害理学療法分野の基本的な学術活動ができるように指導する。

### 中枢神経障害系理学療法学基礎演習

脳血管疾患や神経変性疾患など、特に中枢神経疾患の病態を教授し、その障害に対する理学療法について、障害評価の方法、治療トレーニング

### 中枢神経障害系理学療法学応用演習

中枢神経障害系理学療法学基礎演習で学んだ知識を基礎に、中枢神経疾患の病態、障害およびその回復メカニズム、治療戦略について、臨床

### 内部障害系理学療法学基礎演習

循環器疾患（虚血性心疾患、心臓血管外科術後）、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、胸部・消化器術前後）、代謝性疾患（糖

グの方法の視点から演習形式にて学習を進める。本科目は、解剖学、生理学、臨床医学の知識を土台に、その基礎的な臨床応用能力を習得することが目的である。

応用力をさらに深めることを目的に演習形式で学習を進める。具体的には、運動の中枢性制御や運動学習、運動関連脳領域の機能的役割など、中枢神経疾患の理学療法にとって重要な研究知見について学習を深めるとともに、理学療法に必要とされる思考過程の習熟を図る。

尿病)、腎疾患、がんに対する理学療法、喀痰の吸引を中心に座学、実技指導を組み合わせた演習形式を通じて説明する。

#### 内部障害系理学療法学応用演習

本講義では内部障害系理学療法学基礎演習にて習得した知識を発展させ、内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を、より深く探求し、より臨床的、かつ最新の治療、論理を学習する。そして、4年次の臨床総合実習、卒業後の臨床現場で即戦力として活用できる能力を身につける。

#### スポーツ障害系理学療法学基礎演習

スポーツ障害を引き起こしやすい動作（ランニング、ジャンプ着地、投球、スイングなど）に関する特性をバイオメカニクスの観点から解説する。また、バスケットボール・野球・バレーボールなどの競技に見られる代表的なスポーツ障害の発症メカニズムについて動作学の視点から捉えて、その評価・検査法、理学療法治療の方針について演習を通して学習する。さらに、女性や少年期におけるスポーツ障害の特性とこれに対する理学療法についても教授する。

#### スポーツ障害系理学療法学応用演習

「スポーツ障害系理学療法学基礎演習」の内容に基づき、代表的なスポーツ障害における問題点抽出および統合と解釈について演習を行う。さらに、根拠に基づいた理学療法治療の計画立案とプログラム作成、そして効果判定までの一連の流れについても演習する。また、臨床現場においてスポーツ障害に対して用いられている治療技術を紹介するとともに、これらの技術に対する先行研究の成果を学習し、スポーツ理学療法の現状と今後の課題について議論する。

#### 神経・筋疾患理学療法学基礎演習

末梢神経損傷、神経変性疾患、脱髄疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患および脊髄障害（頸髄損傷、胸・腰髄損傷、脊髄血管障害）の原因および病理、それらに起因する障害、回復過程、予後に関する知識を理解し、基本的な理学療法が遂行可能な程度の知識と技術を演習形式にて指導する。

#### 神経・筋疾患理学療法学応用演習

本科目は、パーキンソン病、運動ニューロン疾患、脊髄小脳変性症および多発性硬化症などの神経・筋疾患および脊髄障害（頸髄損傷、胸・腰髄損傷、脊髄血管障害）に対して、「神経・筋疾患理学療法学基礎演習」にて学んだ神経・筋疾患理学療法の基本原則を応用しながら、治療体系を修得する。

#### 発達障害系理学療法学演習

発達障害の具体的な理学療法評価および理学療法を習得することを目的とする。発達障害を有する児の医学的診断・治療・経過および理学療法評価法や治療について演習形式で指導する。正常運動発達概念を押さえながら、筋疾患・末梢神経疾患・染色体異常・脳性麻痺といった理学療法の主体的対象疾患の理学療法評価に加え、経年的異常姿勢・運動発達の特徴を学習し、正常との違いを明確にしながら動作分析・問題点抽出・治療プログラム立案・実施を行う。

#### 老年期障害理学療法学演習

加齢に伴う身体機能の変化や老化の特徴について学び、老人疾患の特徴や機能低下の特徴に合わせた理学療法について演習形式で指導する。

#### ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習

ヘルスプロモーション理学療法とは、リハビリテーション医療の中心的役割を担ってきた従来の理学療法に加え、疾病予防や介護予防、健康増進を含んだ包括的な理学療法と定義される。ここでは、ヘルスプロモーションを促進するための理学療法の知識と技術を演習する。

#### ヘルスプロモーション理学療法学応用演習

ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習で学んだ知識を活かし、より実践的な事項を演習する。また、最終的にはこの授業を通して、医療機関のみならず地域の関係諸機関においても活躍できる理学療法士の育成をめざす。

#### 理学療法技術学 I (運動器障害)

運動器障害系理学療法に関する、世界的な動向や最新の研究内容を紹介・提供しながら講義を行う。また、特殊テクニックとして徒手療法（関節モビライゼーション）を中心に指導する。

#### 理学療法技術学 II (神経障害)

発達障害児および成人中枢神経疾患における神経科学の視点から認知、運動などの高次脳機能を中心に学び、機能回復のメカニズムに基づいた理学療法技術を教授する。また、機能回復の促進、援助、さらに残存機能と代償機能を利用した理学療法技術を教授する。神経障害に対する訓練機器を応用した治療も学習する。

#### 理学療法技術学 III (スポーツ障害)

競技復帰を目標としてスポーツ障害の再発防止を行うために、スポーツ現場で実践されているトレーニングや動作指導に関する理論と実践について講義する。また、スポーツ領域で用いられているテーピングやインソールなどの補装具に関する適応や注意事項といった基本的知識と具体的な方法も教授する。特に「テーピング」

について、各関節の機能解剖を踏まえた方法について説明する。

## 地域理学療法学

### 地域理学療法学

ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者や高齢者を含むすべての人が地域社会で自立した生活を送るために必要な支援法について学ぶ。また、地域リハビリテーションを構成する施設・通所・訪問サービスに携わる理学療法士に必要な技術、医療保険や介護保険などについても教授する。

### 地域理学療法学演習

「地域理学療法学」で学んだ地域理学療法学の理念に基づき、地域社会を基盤として行われるリハビリテーションの分野で、理学療法士がどのように関わるべきか、どのような技術を発揮すべきかを演習を通して指導する。また、最終的にはこの授業を通して、実際の地域社会に貢献できる理学療法士の育成をめざす。

### 生活環境論演習

日本家屋の問題となる現状を把握し、高齢者や障害をもつ人々が、自立した生活をするために必要となる環境整備の理論と実際について学ぶ。環境整備に必要な基礎知識に加え、具体的な事例を含めて講義を行い、対応策については演習形式で指導する。

## 臨床実習

### 臨床基礎実習

実習指導者の指導のもとで、理学療法士の働く施設や治療場面の見学を行う。この臨床実習を通して、病院・施設の機能や社会的役割、理学療法士の業務と役割、対象者と理学療法士との関わり、他職種との関わりと連携などについて理解を深める。また、「理学療法士になる」という目的意識を自覚させ、その後の勉学に対する意欲向上を図ることも目的とする。実習前と実習後にはセミナーを実施する。最終評価は、出席状況、提出課題、実習成績表、学内セミナーなどを総合的に判定して単位認定を行う。

### 検査・測定実習

2年次に修得した「理学療法評価学」「理学療法評価学総論実習」「理学療法評価学各論演習」「理学療法評価学各論実習」といった理学療法評価学領域の知識と技術を使い、実習指導者のもとで、対象者に対する基本的な検査・測定を実施する。また、対象者との問診やコミュニケーションを通して、対象者へのアプローチの方法を実践を通して身につける。実習前と実習後にはセミナーを実施する。最終評価は、出席状況、提出課題、実習成績表、学内セミナーなどを総合的に判定して単位認定を行う。

### 臨床評価実習

基礎医学、臨床医学および理学療法評価学領域を中心に、それまで学修してきた知識・技術を使い、対象者の情報の収集・分析を行い、疾患や障害の状態を解釈して、治療方針を決定するプロセスを体験する。こうした実践を通し、実習指導者のもとで、3年次までに身につけた知識・技術の統合、総合化を図る訓練を行う。さらに、臨床実習の質の向上を図るために、臨床実習前と臨床実習後に評価を行い、臨床実習に関する教育結果を判定する。

### 地域理学療法学実習

地域理学療法学および地域理学療法学演習を中心に、これまでに学習した地域リハビリテーションに必要な知識と技術、医療保険や介護保険などについて、通所・訪問リハビリテーションの実際を通して学習を深める。また実践を通して、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を確認する。なお、実習前後に実習セミナーを開催し、学生個人の学習内容を確認するとともに、実習の総合判定を行う。

### 総合臨床実習Ⅰ

対象者に対する問診・測定・検査・評価・治療プログラムを一貫して実施し、経過観察を行うことで、それまで学んできた知識・技術を深化・統合させる方法を体験を通して修得する。また、実習指導者の指導・監督のもと、治療の一部を経験する。さらに、臨床実習の質の向上を図るために、臨床実習前と臨床実習後に評価を行い、臨床実習に関する教育結果を判定する。

### 総合臨床実習Ⅱ

「総合臨床実習Ⅰ」とは異なる実習施設において、その反省も踏まえ、対象者に対する問診・測定・検査・評価・治療プログラムを一貫して実施し、経過観察を行う。これにより、それまで学んできた知識・技術の深化・統合の方法をさらに体験する。加えて、実習指導者の指導・監督のもと、治療の一部を経験する。さらに、臨床実習の質の向上を図るために、臨床実習前と臨床実習後に評価を行い、臨床実習に関する教育結果を判定する。

## 卒業研究

### 卒業研究

学生自らが、それまで学んだ理学療法学の知識や、実習を通して体験した知見のなかから見いだした問題意識を、「理療法研究法」で身につ

けた研究態度と方法を使って研究課題へと発展させ、研究指導教員のもと、関連文献や調査データを収集し、卒業論文を完成させる。このプロセスを通して、科学的・系統的な探求方法の基礎を身につけ、理学療法士として生涯必要となる研究態度と自己教育力を育成する。

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部

# 作業療法学科

カリキュラムマップ ▶

カリキュラム表 ▶

科目概要

健康科学部 ▶

- ▼ 1. 作業療法学科教育理念
- ▼ 2. カリキュラムのねらい
- ▼ 3. 各回生の到達目標
- ▼ 4. カリキュラムの概要
- ▼ 5. 履修条件
- ▼ 6. ラーニングコース
- ▼ 7. 取得できる資格

## 1. 作業療法学科教育理念

### (1) 教育研究上の目的

健康科学部は、心理、医療の各分野の専門的知識や技術を習得し、幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、新たな課題に対応できる問題解決能力を備えた人材を養成する。作業療法学科は、身体や精神、発達などに障害を伴うクライアントを対象に、あらゆる作業を通して心身機能の回復を図り、クライアントの望む生活を支援するための知識と技能を修得し、地域社会に貢献する作業療法士を養成することを目的とする。

### (2) ディプロマポリシー（学位授与方針）

健康科学部作業療法学科は、教育理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、次のような知識・能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(作業療法学)の学位を授与する。

- ① 幅広い教養と能動的に学習する姿勢
- ② 作業療法を行う上で基礎となる医学および作業の知識
- ③ 評価から計画、実施まで作業療法のプロセスを理解し実践する技能
- ④ クライアントに関わる他の職種に敬意を払い、チーム・アプローチを実践する態度
- ⑤ 疑問に対して科学的手法を用いて検証する技能
- ⑥ 地域課題に気づき、それを解決する手段や資源を活用する問題解決能力

### (3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、健康科学部作業療法学科では、以下の方針で教育課程を編成する。

- ① 幅広く豊かな教養と視野を身につけるため、人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い分野の科目を開講する。

---

- ② 身体だけでなく、心理面からも科学的にアプローチできる能力を身につけるため、学部共通科目として「医療と心理」領域を開講する。

---

- ③ 将来、作業療法士として活躍することを早期に自覚し大学での学びの動機づけを行うため、初年次に「キャリア教育科目群」を配置する。

---

- ④ 作業療法士に必要な基本的な知識と技術を身につけるため、専門基礎分野に「人体の構造と機能および心身の発達」「疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の科目群、ならびに作業の知識と応用技術を身につけるため、「作業学」「作業学演習」を配置する。

---

- ⑤ 作業療法士に必要な専門的な知識と技術を身につけるために、専門分野に「基礎作業療法学」「作業療法管理学」「作業療法評価学」「作業療法治療学」「地域作業療法学」の科目群を配置する。

---

- ⑥ 作業療法士としての実践的な技術を段階的に修得するとともに、作業療法士となるための自覚を早期に促すため、4年間を通じて「臨床実習」を配置する。

---

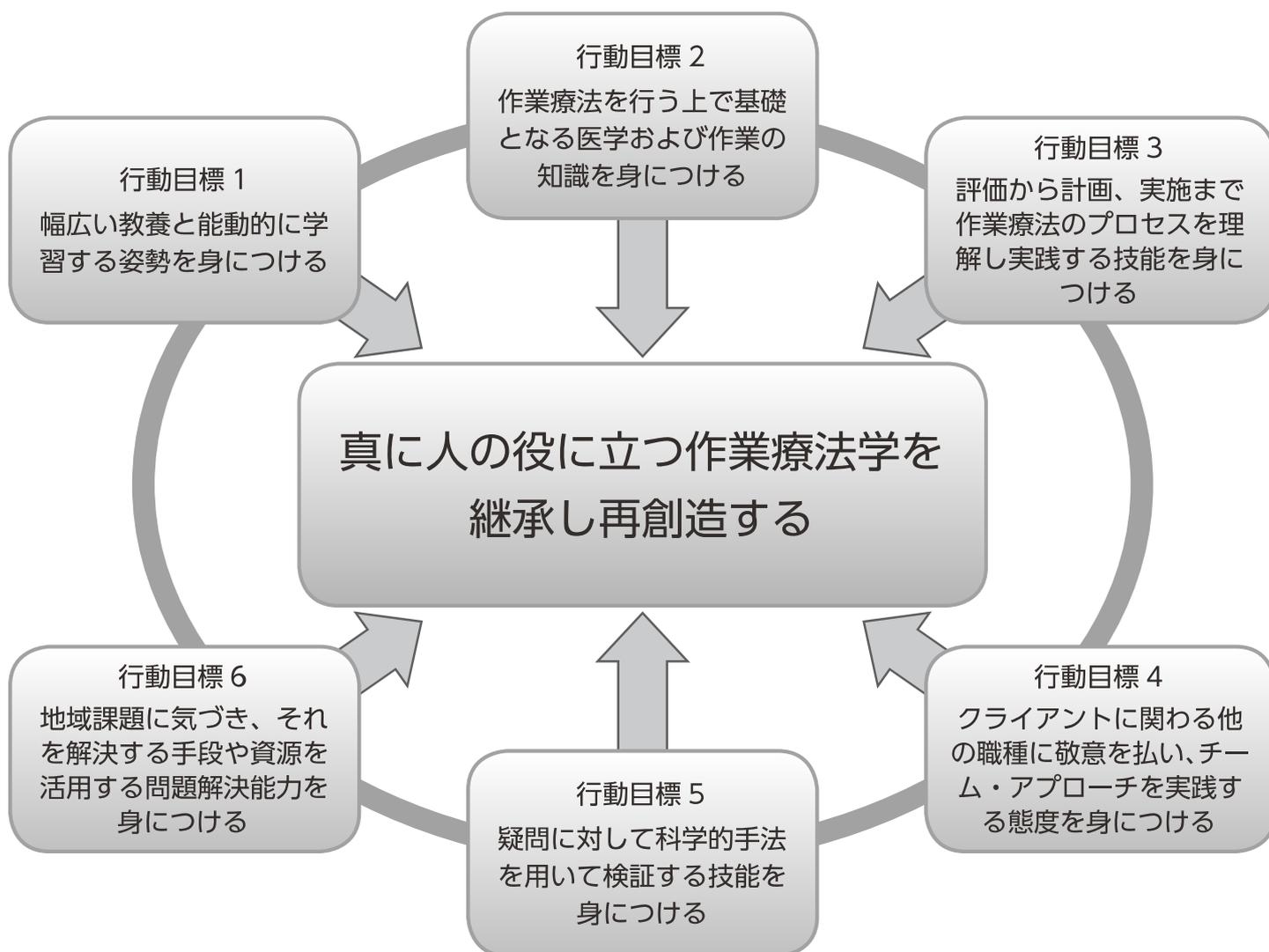
- ⑦ 身につけた知識や技術の深化・統合を図り、自ら設定した課題に対して科学的手法を用いて検証する力を身につけるため、4回生時に「卒業研究」を配置する。

## 2. カリキュラムのねらい

これからの作業療法士は、病院だけでなく地域（在宅訪問、包括支援センターなど）、行政、起業など幅広い活躍の場があります。このように多様なニーズに応えるためには、より高度な専門知識と社会ニーズに対応できる思考力・実践力を学ぶことが求められています。本学科のカリキュラムは、「身体や精神、発達などに障害を伴うクライアントを対象に、あらゆる作業を通して心身機能の回復を図り、クライアントの望む生活を支援するための知識と技能を修得し、地域社会に貢献する作業療法士を養成する」ことを目的に構築しております。

京都橘大学の教育理念である「自立」・「共生」・「臨床の知」を実践するため、専門分野にとらわれない複眼的で柔軟な思考力、他者を尊重し、互いに共感・協働できる建設的な人間関係、心身両面の基礎的な臨床能力の構築に主眼が置かれています。そのためには、作業療法学や医学に関する専門的知識と技術を中心に据えつつ、人文・教育・社会・医療系をもつ総合大学のメリットを活かして、幅広い教養と高度なコミュニケーション力、学生の「自己教育力」や主体的な判断力と応用力の養成にも重点を置いたカリキュラムを展開しています。

# 【作業療法学科の教育目標リンゲージ】



## 3. 各回生の到達目標

ディプロマ・ポリシー (DP)

- ① 幅広い教養と能動的に学習する姿勢を身につけている
- ② 作業療法を行う上で基礎となる医学および作業の知識を身につけている
- ③ 評価から計画、実施まで作業療法のプロセスを理解し実践する技能を身につけている
- ④ クライアントに関わる他の職種に敬意を払い、チーム・アプローチを実践する態度を身につけている
- ⑤ 疑問に対して科学的手法を用いて検証する技能を身につけている
- ⑥ 地域課題に気づき、それを解決する手段や資源を活用する問題解決能力を身につけている

### 1回生

- ① 幅広い教養を主体的に学ぶことが出来る

---

② リハビリテーションの諸理念を理解できる

---

③ 医療人としての遵守すべき態度を身につける

---

④ リハビリテーションチームとそれぞれの専門職の役割を理解する

---

⑤ 現象に対して疑問を持てる

---

⑥ 地域課題を発見する力を身につける

---

## 2回生

① 社会人として必要な道徳観や人間性を身につける

---

② 基礎医学の知識や基本的な検査・測定技術を身につける

---

③ 作業療法士の業務と役割を理解する

---

④ 他職種との連携を理解する

---

⑤ 疑問や課題を探究していく姿勢を身につける

---

⑥ 在宅支援の援助法を身につける

---

## 3回生

① これからの人生で直面する問題を解決していくための知識を身につける

---

② 作業療法の知識と技術を身につける

---

③ クライアントを評価し作業療法評価計画を立案できる

---

④ 他職種と連携するための知識と技術を身につける

---

⑤ 研究疑問を具体化し、自身が目指す作業療法を明確にできる

---

⑥ 地域で自立した生活を送る支援をするために必要な知識や技術を身につける

---

## 4回生

① 物事を論理的に分析し、正しい判断が出来る

---

② 作業療法の展開や臨床思考過程を身につける

---

③ クライアントの評価をもとに作業療法が展開できる

---

④ 他職種と連携しながらチーム・アプローチが実践できる

---

⑤ 作業療法研究を行う上で必要な研究技法を身につける

---

⑥ 地域課題を解決する手段や資源を活用する能力を身につける

ディプロマ・ポリシー (DP)

4. カリキュラムの概要

本学科のカリキュラムは、幅広い教養の習得を基盤とし、作業療法士養成校として資格取得に必要な基本的な科目を1回生からバランスよく配置しています。また、早い段階から自身が目指す作業療法を明確にし、3回生からはより専門的な作業療法を学習できるコース別科目群を設定しています。さらに、医学系の科目に心理学領域の科目を有機的に関連させ、からだところの両面から作業療法を創造できる「真に人の役に立てる作業療法」を目標においたカリキュラムを構成しています。

教育目標	1回生	2回生	3回生	4回生
幅広い教養と能動的に学習する姿勢を身につける	人文科学（語学系・哲学系）、社会科学、自然科学：計 必修7科目、選択必修61科目を準備			
作業療法を行う上で基礎となる医学および作業の知識を身につける	人体の構造と機能演習 I・II 運動学 運動生理学 人間発達学 作業療法学概論 作業科学 作業学 医療と生命の倫理 医療リスクマネジメント リハビリテーション概論	人体の構造と機能実習 I・II 画像診断学 日常生活支援学 高齢期作業療法学 リハビリテーション工学 臨床心理学 よそおいの心理学 公衆衛生学	作業療法管理学 身体機能作業療法学 精神機能作業療法学 発達期作業療法学 高次脳機能作業療法学 義肢装具学 感覚統合療法 認知症作業療法学 健康心理学	作業療法総合演習
	臨床医学科目群 (病理学、内部障害、運動器障害、精神障害など)			
	演習科目群 (作業学演習 I・II、運動学演習、日常生活支援学演習、各種作業療法学演習など)			
評価から計画、実施まで作業療法のプロセスを理解し実践する技能を身につける		作業療法評価学群		
	臨床基礎実習 I	臨床基礎実習 II	臨床評価実習	総合臨床実習 I・II
クライアントに関わる他の職種に敬意を払い、チーム・アプローチを実践する態度を身につける	こころとからだの健康科学 I・II	言語聴覚療法		
疑問に対して科学的手法を用いて検証する技能を身につける	キャリア開発演習 I・II	作業療法関連理論	作業療法研究法演習 I・II 【地域の医療と福祉コース】 作業療法技術学 I、卒業研究 【こころとこどもの支援コース】 作業療法技術学 II、卒業研究	
地域課題に気づき、それを解決する手段や資源を活用する問題解決能力を身につける	地域課題研究	地域作業療法学 地域作業療法学演習	地域包括ケアシステム演習 生活環境論 ヘルスプロモーション作業療法学 職業リハビリテーション	

5. 履修条件

本学では、系統的で継続性のある効果的な学習を実現することを目的として、一部の科目に履修条件（履修制限）を設定しています。

対象科目	履修条件
臨床基礎実習 I	1回生前期までの専門基礎分野および専門分野の必修科目※ 5科目のうち3科目以上を修得済みであること。 指定5科目 「人体の構造と機能演習 I (骨・関節・筋・神経など)」「作業療法学概論」 「作業学」「作業学演習 I」「作業学演習 II」
臨床基礎実習 II	2回生前期までの専門基礎分野および専門分野の必修科目※ 27科目のうち25科目以上を修得見込みであること。 指定27科目 「人体の構造と機能演習 I (骨・関節・筋・神経など)」「人体の構造と機能演習 II (呼吸・循環系、消化系など)」「人体の構造と機能実習 I (構造系)」「運動生理学」「運動学」「運動学演習」「人間発達学」「病理学」「内部障害基礎論」「運動器障害基礎論」「精神障害基礎論」「神経障害基礎論」「発達障害基礎論」「リハビリテーション概論」「作業療法学概論」「作業科学」「作業療法評価学」「作業療法評価学演習」「作業学」「作業学演習 I」「作業学演習 II」「レクリエーション演習」「作業療法関連理論」「日常生活支援学」「高齢期作業療法学」「地域作業療法学」「臨床基礎実習 I」
臨床評価実習	3回生前期までの専門基礎分野および専門分野の必修科目を全て修得見込みであること。また、3回生後期における専門基礎分野および専門分野の必修科目について※ 7科目のうち5科目以上を修得見込みであること。 指定7科目 「地域包括ケアシステム演習」「作業療法管理学」「作業療法研究法演習 II」「身体機能作業療法学演習」「精神機能作業療法学演習」「発達期作業療法学演習」「義肢装具学演習」
総合臨床実習 I・II	「臨床評価実習」を修得済みであること。

※「修得見込み」とは、試験等の結果により、当該科目の単位を認められることが確実であることを指す。

## 6. ラーニングコース

3回生より「ラーニングコース」の科目を選択履修するとともにゼミや卒業研究を行うことで、より深い専門的知識と技術を身につけた作業療法士を育成します。またこのラーニングコースでは、将来対象とする疾患や働きたい施設の種類など、学生自らが具体的な進路を考える契機となるよう指導を行います。

### 地域の医療と福祉コース

高齢者や障害者の心身機能や地域医療・福祉における国内外の作業療法に関する最新の研究成果について学びます。少子高齢化の進む日本社会では、高齢者や心身に障がいを持った人たち、難病、癌など、予防・医療・ケアの必要な人がますます増えていくことが予測されます。そのような社会環境の中で、病院や介護・福祉施設、在宅医療などでそれぞれの課題と向き合い、多様な価値観を持ちながら地域で暮らす人たちを支える作業療法士をめざします。

### こころと子どもの支援コース

心に病を持つ人の地域での生活や、就労を支援するための知識と技術を身につける。また、行動や情緒に配慮が必要な子どもに対して神経学的にアプローチする知識と技術を学び、直面する課題に対して子どもの将来を見据えながら解決方法を考える力を修得します。作業療法によって障害を抱えている人の生活を変え、社会参加を実現できる作業療法士をめざします。

## 7. 取得できる資格

作業療法士国家試験受験資格

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 作業療法学科

## カリキュラムマップ

作業療法学科 ▶	カリキュラム表 ▶	科目概要 ▶
健康科学部 ▶		

▼ 1. 基礎分野    ▼ 2. 専門基礎分野    ▼ 3. 専門分野

### 全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

### 学科・コース別のディプロマ・ポリシー

- ① 幅広い教養と能動的に学習する姿勢を身につける。
- ② 作業療法を行う上で基礎となる医学および作業の知識を身につける。
- ③ 評価から計画、実施まで作業療法のプロセスを理解し実践する技能を身につける。
- ④ クライアントに関わる他の職種に敬意を払い、チーム・アプローチを実践する態度を身につける。
- ⑤ 疑問に対して科学的手法を用いて検証する技能を身につける。
- ⑥ 地域課題に気づき、それを解決する手段や資源を活用する問題解決能力を身につける。

### 「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

#### 科目ナンバーの見方

〈例〉  $\frac{OT}{1} - \frac{1}{2} \frac{1}{3} \frac{1}{4}$

1 学科	OT：作業療法学科
2 回生	1：1回生 2：2回生 3：3回生 4：4回生
3 教育目標	学科のディプロマポリシー①～⑥
4 履修順序	1：前期 2：後期 3：通年 4：その他

# 1. 基礎分野

## (1) 必修科目16単位、選択必修科目8単位以上の計24単位以上を修得

※「人間と知の伝達」2単位、「人間と文化」2単位、「人間と社会」2単位、「人間と自然」から2単位、を含む8単位を修得すること。

### 基礎科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	教養入門	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦
OT-161	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦
OT-111	英語 I A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-111	英語 I B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	英語 II A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	英語 II B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-211	英語 III A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
OT-211	英語 III B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
OT-212	英語 IV A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
OT-212	英語 IV B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
OT-111	アカデミックライティング	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
OT-111	教養ゼミ	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
OT-111	情報処理演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥
OT-112	情報処理演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥

### 人間と知の伝達

#### [ 現代の思想 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
OT-112	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
OT-112	ジェンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦
OT-211	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤
OT-212	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤

#### [ メディアと情報 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦
OT-111	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
OT-211	情報処理演習 III	1	選択	演習	2回生	①②⑥
OT-212	情報処理演習 IV	1	選択	演習	2回生	①②⑥
OT-211	情報処理演習 V	1	選択	演習	2回生	①②⑥
OT-212	情報処理演習 VI	1	選択	演習	2回生	①②⑥
OT-111	数学演習 I	2	選択	演習	1回生	①②⑥
OT-112	数学演習 II	2	選択	演習	1回生	①②⑥

### 人間と文化

#### [ 外国語と文化理解 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
OT-111	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤

OT-112	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④
OT-112	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
OT-111	中国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	中国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-111	中国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	中国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-111	韓国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	韓国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-111	韓国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	韓国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

## [ 歴史・文化 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選択の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥
OT-111	京都の歴史・文化 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
OT-111	京都講座 I	2	選択	講義	1回生	①②③
OT-112	京都講座 II	2	選択	講義	1回生	①②③

## 人間と社会

### [ 法律・行政・政治 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選択の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-114	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
OT-111	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
OT-112	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
OT-111	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
OT-112	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
OT-111	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④
OT-112	政治学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④
OT-211	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥

### [ 経済・経営・社会 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選択の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
OT-112	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
OT-111	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
OT-112	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥
OT-211	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④
OT-212	経済学概論 II	2	選択	講義	2回生	①②④

## 人間と自然

### [ 健康・こころ・からだ ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選択の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	健康に生きる I	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
OT-111	健康に生きる II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥
OT-112	健康に生きる III	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
OT-111	スポーツコース I	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦
OT-112	スポーツコース II	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦
OT-111	スポーツコース III	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦
OT-112	スポーツコース IV	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦

## [ 自然と環境 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-114	物理学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
OT-114	化学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
OT-114	生物学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
OT-112	地球生命論	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
OT-112	地球環境論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤

## 医療と心理

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-141	こころとからだの健康科学 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
OT-142	こころとからだの健康科学 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
OT-111	医学概論	2	選択	講義	1回生	①②④
OT-111	統計学基礎論	2	選択	講義	1回生	⑤⑥⑦
OT-122	医療と生命の倫理	2	必修	講義	1回生	①②④
OT-122	医療リスクマネジメント	1	必修	講義	1回生	①②④
OT-221	臨床心理学	2	必修	講義	2回生	①②④
OT-221	よそおいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④
OT-222	公衆衛生学	1	選択	講義	2回生	①②④
OT-321	健康心理学	2	選択	講義	3回生	①②④

## キャリア教育

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-151	キャリア開発演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦	①
OT-152	キャリア開発演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦	①

## 2. 専門基礎分野

(1) 専門基礎分野から必修科目32単位以上を修得すること。

### 人体の構造と機能及び心身の発達

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-121	人体の構造と機能演習 I (骨・関節・筋・神経など)	2	必修	演習	1回生	①②⑥	②
OT-122	人体の構造と機能演習 II (呼吸・循環系、消化系など)	1	必修	演習	1回生	①②⑥	②
OT-221	人体の構造と機能実習 I (構造系)	1	必修	実験・実習	2回生	①②⑤	②
OT-222	人体の構造と機能実習 II (機能系)	1	必修	実験・実習	2回生	①②⑤	②
OT-122	運動生理学	2	必修	講義	1回生	①②⑤	②
OT-122	運動学	2	必修	講義	1回生	①②⑤	②
OT-221	運動学演習	1	必修	演習	2回生	①②⑥	②
OT-122	人間発達学	2	必修	講義	1回生	①②④	②

### 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-122	病理学	2	必修	講義	1回生	①②⑥	②
OT-221	内部障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②

OT-221	運動器障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-221	精神障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-222	精神障害応用論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-221	神経障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-221	発達障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-222	老年期障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②

#### 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-122	リハビリテーション概論	2	必修	講義	1回生	①②④	②
OT-362	地域包括ケアシステム演習	2	必修	演習	3回生	②④⑤⑦	⑥

### 3. 専門分野

(2) 専門分野から必修科目66単位、選択必修2単位以上の計68単位以上を修得すること。

#### 基礎作業療法学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-121	作業療法学概論	2	必修	講義	1回生	①②③⑦	②
OT-122	作業科学	2	必修	講義	1回生	①②④⑤	②
OT-351	作業療法研究法演習 I	1	必修	演習	3回生	②④⑤⑥⑦	⑤
OT-352	作業療法研究法演習 II	1	必修	演習	3回生	②④⑤⑥⑦	⑤

#### 作業療法管理学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-322	作業療法管理学	2	必修	講義	3回生	①②③⑥	②

#### 作業療法評価学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-231	作業療法評価学	2	必修	講義	2回生	①②④	③
OT-231	作業療法評価学演習	1	必修	演習	2回生	⑤⑥⑦	③
OT-232	身体機能評価学演習	2	必修	演習	2回生	②④⑥⑦	③
OT-232	精神機能評価学演習	1	必修	演習	2回生	②④⑥⑦	③
OT-232	発達期評価学演習	1	必修	演習	2回生	②④⑥⑦	③
OT-222	画像診断学	1	必修	講義	2回生	①②④⑤	②

#### 作業療法治療学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-121	作業学	2	必修	講義	1回生	①②④	②
OT-121	作業学演習 I	1	必修	演習	1回生	①②④⑥	②
OT-121	作業学演習 II	1	必修	演習	1回生	①②④⑥	②
OT-122	レクリエーション演習	1	必修	演習	1回生	①②④⑥	②
OT-251	作業療法関連理論	1	必修	講義	2回生	②④⑦	⑤
OT-221	日常生活支援学	1	必修	講義	2回生	②④⑥	②

OT-222	日常生活支援学演習	1	必修	演習	2回生	②④⑥⑦	②
OT-321	身体機能作業療法学	1	必修	講義	3回生	①②④	②
OT-322	身体機能作業療法学演習	1	必修	演習	3回生	②④⑥⑦	②
OT-321	精神機能作業療法学	1	必修	講義	3回生	①②④	②
OT-322	精神機能作業療法学演習	1	必修	演習	3回生	②④⑥⑦	②
OT-321	発達期作業療法学	1	必修	講義	3回生	①②④	②
OT-322	発達期作業療法学演習	1	必修	演習	3回生	②④⑥⑦	②
OT-221	高齢期作業療法学	1	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-222	高齢期作業療法学演習	1	必修	演習	2回生	②④⑥⑦	②
OT-321	高次脳機能作業療法学	1	必修	講義	3回生	①②④	②
OT-222	リハビリテーション工学	1	選択	講義	2回生	②④	②
OT-321	義肢装具学	1	必修	講義	3回生	②④⑥	②
OT-322	義肢装具学演習	1	必修	演習	3回生	②④⑥⑦	②
OT-321	感覚統合療法	1	選択	講義	3回生	②④⑥	②
OT-321	認知症作業療法学	1	選択	講義	3回生	②④⑥	②
OT-342	言語聴覚療法	1	選択	講義	2回生	②④⑦	④
OT-352	作業療法技術学Ⅰ（地域の医療と福祉）	1	選択	講義	3回生	②⑤⑥⑦	⑤
OT-352	作業療法技術学Ⅱ（こころと子どもの支援）	1	選択	講義	3回生	②⑤⑥⑦	⑤

### 地域作業療法学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-261	地域作業療法学	1	必修	講義	2回生	①②④	⑥
OT-262	地域作業療法学演習	1	必修	演習	2回生	①②④⑦	⑥
OT-361	生活環境論	1	必修	講義	3回生	②④⑥	⑥
OT-361	ヘルスプロモーション作業療法学	1	必修	講義	3回生	②④⑥⑦	⑥
OT-361	職業リハビリテーション	1	必修	講義	3回生	②④⑥⑦	⑥

### 臨床実習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-132	臨床基礎実習Ⅰ	1	必修	実験・実習	1回生	⑤⑥⑦	③
OT-232	臨床基礎実習Ⅱ	1	必修	実験・実習	2回生	⑤⑥⑦	③
OT-332	臨床評価実習	3	必修	実験・実習	3回生	⑤⑥⑦	③
OT-431	総合臨床実習Ⅰ	9	必修	実験・実習	4回生	⑤⑥⑦	③
OT-431	総合臨床実習Ⅱ	9	必修	実験・実習	4回生	⑤⑥⑦	③

### 卒業研究

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-422	作業療法総合演習	1	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	②
OT-452	卒業研究	2	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	⑤

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 作業療法学科

# カリキュラム表

作業療法学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	科目概要 ▶
----------	-------------	--------

健康科学部 ▶
---------

<b>基礎分野</b> <b>24単位</b> 必修16単位+ 選択必修8単位	<b>専門基礎分野</b> <b>32単位</b> 必修32単位	<b>専門分野</b> <b>68単位</b> 必修66単位+ 選択必修2単位	卒業要件 <b>124</b> 単位
--	--	--	--------------------------

## 基礎分野 必修科目

16単位

### 基礎科目

	単位	回生
教養入門	2	1~
英語 I A	1	1~
英語 I B	1	1~
英語 II A	1	1~
英語 II B	1	1~
地域課題研究	1	1~
キャリア開発演習 I	1	1~
キャリア開発演習 II	1	1~
情報処理演習 I	1	1~
情報処理演習 II	1	1~

### 医療と心理

	単位	回生
医療と生命の倫理	2	1~
医療リスクマネジメント	1	1~
臨床心理学	2	2~

## 基礎分野 選択必修科目

8単位

※の各領域からは各2単位以上の修得必須

### 基礎科目

	単位	回生

### 医療と心理

	単位	回生

英語 III A	1	2～
英語 III B	1	2～
英語 IV A	1	2～
英語 IV B	1	2～
アカデミックライティング	2	1～
教養ゼミ	2	1～

こころとからだの健康科学 I	2	1～
こころとからだの健康科学 II	2	1～
医学概論	2	1～
統計学基礎論	2	1～
よそおいの心理学	2	2～
公衆衛生学	1	2～
健康心理学	2	3～

領域 人間と知の伝達※

[分野] 現代の思想

	単位	回生
哲学概論	2	1～
倫理学概論	2	1～
ジェンダー研究	2	1～
心理学概論	2	2～
宗教学概論	2	2～

[分野] メディアと情報

	単位	回生
言語コミュニケーション論	2	1～
現代のメディアと表現	2	1～
情報処理演習 III	1	2～
情報処理演習 IV	1	2～
情報処理演習 V	1	2～
情報処理演習 VI	1	2～
数学演習 I	2	1～
数学演習 II	2	1～

領域 人間と文化※

[分野] 外国語と文化理解

	単位	回生
比較文化論	2	1～
芸術と文化	2	1～
異文化コミュニケーション論	2	1～
文化人類学	2	1～
中国語 I	2	1～
中国語 II	2	1～
中国語 III	2	1～
中国語 IV	2	1～
韓国語 I	2	1～
韓国語 II	2	1～
韓国語 III	2	1～
韓国語 IV	2	1～

[分野] 歴史・文化

	単位	回生
歴史学入門	2	1～
京都の歴史・文化 I	2	1～
京都講座 I	2	1～
京都講座 II	2	1～

領域 人間と社会※

[分野] 法律・行政・政治

	単位	回生
日本国憲法	2	1～
法学概論 I	2	1～
法学概論 II	2	1～
民法	2	2～
行政法	2	2～
政治学概論 I	2	1～
政治学概論 II	2	1～
行政学	2	2～

[分野] 経済・経営・社会

	単位	回生
経営学概論	2	1～
会計学概論	2	1～
社会学概論 I	2	1～
社会学概論 II	2	1～
経済学概論 I	2	2～
経済学概論 II	2	2～

領域 人間と自然※

[分野] 健康・こころ・からだ

	単位	回生
健康に生きる I	2	1～
健康に生きる II	2	1～
健康に生きる III	2	1～
スポーツコース I	1	1～
スポーツコース II	1	1～
スポーツコース III	1	1～
スポーツコース IV	1	1～

[分野] 自然と環境

	単位	回生
物理学基礎	2	1～
化学基礎	2	1～
生物学基礎	2	1～
地球生命論	2	1～
地球環境論	2	1～

専門基礎分野 必修科目

必修 32 単位

専門分野 必修科目

必修 66 単位

1回生

専門基礎分野

	単位	開講期
人体の構造と機能演習 I (骨・関節・筋・神経など)	2	前
人体の構造と機能演習 II (呼吸・循環系、消化系など)	1	後
運動生理学	2	後
運動学	2	後
人間発達学	2	後
病理学	2	後
リハビリテーション概論	2	後

2回生

専門基礎分野

	単位	開講期
人体の構造と機能実習 I (構造系)	1	前
人体の構造と機能実習 II (機能系)	1	後
運動学演習	1	前
内部障害基礎論	2	前
運動器障害基礎論	2	前
精神障害基礎論	2	前
精神障害応用論	2	後
神経障害基礎論	2	前
発達障害基礎論	2	前
老年期障害基礎論	2	後

3回生

専門基礎分野

	単位	開講期
地域包括ケアシステム演習	2	後

専門分野

	単位	開講期
作業療法管理学	2	後
作業療法研究法演習 I	1	前
作業療法研究法演習 II	1	後
身体機能作業療法学	1	前
身体機能作業療法学演習	1	後
精神機能作業療法学	1	前

4回生

専門分野

	単位	開講期
総合臨床実習 I	9	前
総合臨床実習 II	9	前
作業療法総合演習	1	後
卒業研究	2	後

## 専門分野

	単位	開講期
作業療法学概論	2	前
作業科学	2	後
作業学	2	前
作業学演習Ⅰ	1	前
作業学演習Ⅱ	1	前
レクリエーション演習	1	後
臨床基礎実習Ⅰ	1	後

## 専門分野

	単位	開講期
作業療法評価学	2	前
作業療法評価学演習	1	前
身体機能評価学演習	2	後
精神機能評価学演習	1	後
発達期評価学演習	1	後
画像診断学	1	後
作業療法関連理論	1	前
日常生活支援学	1	前
日常生活支援学演習	1	後
高齢期作業療法学	1	前
高齢期作業療法学演習	1	後
地域作業療法学	1	前
地域作業療法学演習	1	後
臨床基礎実習Ⅱ	1	後

精神機能作業療法学演習	1	後
発達期作業療法学	1	前
発達期作業療法学演習	1	後
高次脳機能作業療法学	1	前
義肢装具学	1	前
義肢装具学演習	1	後
生活環境論	1	前
ヘルスプロモーション作業療法学	1	前
職業リハビリテーション	1	前
臨床評価実習	3	後

## 専門分野 選択必修科目

下記科目から2単位

2回生

	単位	開講期
リハビリテーション工学	1	後
言語聴覚療法	1	後

3回生

	単位	開講期
感覚統合療法	1	前
認知症作業療法学	1	前

### 下記科目のうち、必ず1科目を履修

地域の医療と福祉コース

	単位	開講期
作業療法技術学Ⅰ（地域の医療と福祉）	1	後

こころと子どもの支援コース

	単位	開講期
作業療法技術学Ⅱ（こころと子どもの支援）	1	後

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 作業療法学科

# 科目概要

作業療法学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	カリキュラム表
健康科学部 ▶		

▼ 基礎分野    ▼ 専門分野

## 基礎分野

### 基礎科目

#### 教養入門

初めて大学での教養教育を学ぶ学生を対象として、教養とは何か、教養教育の意義、本学における教養教育の特徴などを講じ、受講生の動機付けとマッピングを行う。

#### 地域課題研究

近年、少子高齢化や人口減少が進み、地域において様々な問題が起こっている。今後、地域を活性化させ、新しいまちづくりを進めるためには若者の力が何より必要となる。本学が置かれる京滋地区（京都・滋賀）一帯についてどのような問題点があるのか、作業療法などに関連する視点から、どういった解決策が考えられるかをテーマにグループ学習を行う。これにより地域での実践的な学びを通し、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

#### 英語 I A

基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

#### 英語 I B

平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

#### 英語 II A

スキミング、スキヤニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要なリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

#### 英語 II B

効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見をプレゼンテーションできる能力を向上させることをめざす。

#### 英語 III A

#### 英語 III B

#### 英語 IV A

TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行いながら英語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

#### 英語 IV B

さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につくようにしたい。

#### アカデミックライティング

大学での学修活動に必要なアカデミック・スキルとしての読解力や文書作成能力などの日本語運用能力の獲得をめざす。原稿用紙の使い方など大学生活で役立つ実用的な「書く」能力を身につけさせることからはじめ、高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高める。

#### 教養ゼミ

教養とは何か、大学で教養を学ぶ意義はどこにあるのかを考えさせる。まずは、「話す」ことを中心にコミュニケーションの基礎を学び、幅広い分野から選定したテキストを使用して、ゼミ形式で検討していく。

#### 情報処理演習 I

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

#### 情報処理演習 II

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

### 人間と知の伝達

#### 【現代の思想】

##### 哲学概論

グローバリゼーションの進行の中で、国民国家の規制が弱まり、さまざまなレベルで非政府組織などによる国際的な連帯の輪が広がってゆることが予想される一方でイデオロギーの対立に代わって、文明の衝突が本格化するという考え方があがる。グローバリゼーション下での国際関係や、文化の今後を総合的に論じる。

##### 倫理学概論

家族関係や市民社会、国家のそれぞれのレベルで人権の状況を確認しながら、あるべき家族関係や市民関係、国家像を考察すると同時に、生命倫理や環境倫理など新しい倫理を考える。

##### ジェンダー研究

ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点をを用いて今日的な課題を考える。この講義により、ジェンダーに関する基本的な概念を理解するとともに、ジェンダーの視点をを用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目標とする。

##### 心理学概論

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、社会においても「こころ」を抜きにして考

##### 宗教学概論

宗教を正しく理解するための必要な基礎知識を習得しながら、人間社会にとって宗教が果たす

えることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心をもつ人は多いが、誤解されることがや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を正確に学ぶことを目的とする。生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基本的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

重要な役割とその意義について考える。具体的には、客観的で科学的な立場にたつて、宗教の歴史を概観し、有神論と無神論、創唱宗教と自然宗教といった分類のしかたなどを考察する。

## 【メディアと情報】

### 言語コミュニケーション論

日本語と英語によるコミュニケーションの比較を通して、その違いや特徴を学ぶ。コミュニケーションとは何かという問題から始めて、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題を扱う。さらに、言語コミュニケーションの比較を翻訳や通訳という観点からも検討する。なお、言語によるコミュニケーションとの関わりにおいて、若干、言語以外によるコミュニケーションにも触れ、日英語それぞれの言語コミュニケーションの特質とどう関わるかも検討する。

### 現代のメディアと表現

今日、日本のメディア・コンテンツが世界的な文化として高く評価されつつあることは言うまでもない。その理由はいくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現しえていることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、日本の映像メディアは今や担っている。このような観点に立って、日本の映像文化、特にアニメーションを分析、評価するのがこの講義の目標である。特に宮崎駿の創作活動に焦点を絞って、講義を進めていく。

### 情報処理演習 III

企業の実務において、PCを使用したデータの集計処理能力、業務データのグラフ分析やデータベース分析能力、またネットワークの利活用による情報収集や情報発信の実務能力を養成するため、表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の修得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。

### 情報処理演習 IV

企業の実務において、PCを使用したビジネス文書作成能力やネットワークの利活用による事務能力や情報収集、発信能力が大変重要な能力として求められており、この授業では、現在、ワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の修得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。

### 情報処理演習 V

ホームページにおける動的なデータ処理やアニメーション表現などにJavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラムが使われている。これらによるプログラミングは、現在のWeb技術には欠くことのできない技術になっており、WebデザイナーやWebプログラマーの基礎技術にもなっている。授業では、画像や図形のアニメーションを使うプログラミングの初歩と基本的な処理パターンを修得する。また、それを通してプログラミングによるアニメーション表現の可能性を考える。

### 情報処理演習 VI

授業では、まずPowerPointを活用したプレゼンテーション資料の作成技術を習得する。また、コンピュータ上での静止画像のマルチメディア表現の技術として、フォトタッチ（画像の編集・合成）、アニメーション動画素材の作成技術としてFlashアニメーション、三次元マルチメディア素材の作成技術として3Dグラフィックス作成の基礎技術を修得する。また、それを通して、FlashアニメーションやFlashロゴデザインによる表現の可能性を考える。

### 数学演習 I

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。数と計算・図形の初歩から学び、さまざまな応用問題が解けるようにする。ピタゴラスの定理と無理数、1次・連立・2次方程式、因数分解、1次・2次関数とグラフなどを主なテーマとする。

### 数学演習 II

数学的思考、数理的思考を身につける。1次関数、2次関数、関数とグラフ、図形と方程式、図形の性質・面積（ヘロンの公式）などをテーマとして、日常生活との接点を探りつつ、基本的な概念、典型的な問題の解法、実生活への応用を教授する。

## 【外国語と文化理解】

### 比較文化論

文化を比較研究のアプローチから理解し、世界で起こっているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、自分がそれにどう関わるのかを考えることがこのクラスの目標である。世界には、われわれの想像や理解を超えた「謎」が頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ないものとして簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解するために、主として英語圏の文化を日本文化と比較しながら講義をすすめていく。

### 芸術と文化

芸術（アーツ）と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまに試みられている芸術表現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

### 異文化コミュニケーション論

異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接触場面において生じる誤解や衝突、相互理解の困難さといったことをイメージしやすいが、異文化という概念の射程はそこにとどまるものではない。男女の考え方のずれ、世代間の意見の対立といったものも、広い意味では、お互いの文化背景の無理解によって生じるものである。他者を、自分とは異なる文化背景をもつ存在として認め、積極的に理解しようとすることによって立ち上がる、他者との間に関係性（つながり）を生みだす行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

### 文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説する。その上で、アジアのなかでも、ブータンを中心に、そこに住む人々の生活観・価値観を学びながら、異文化に対する理解を深めていく。

### 中国語 I

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

### 中国語 II

中国語のさまざまな基本短文を作ることができるよう、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

### 中国語 III

中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることをめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的イベント、食べ物、祝日などを題材にする。

### 中国語 IV

基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができることをめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

### 韓国語 I

初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

### 韓国語 II

韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法+会話+講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話力を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習する。また、韓国の文化に関わるものを講読のテキストとし、韓国の文化に親しむ。

### 韓国語 III

会話+講読+聴解力+作文に重点を置く。韓国語 I・II で学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ができるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

### 韓国語 IV

韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話+スピーチができることを目的とし、学生たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

## 【歴史・文化】

### 歴史学入門

### 京都の歴史・文化 I

### 京都講座 I

歴史学の考え方を理解する。前半は、日本史分野の教員が、後半は世界史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介する。

京の都は、中国・唐の都城にならって建設されたが、都への軍団の駐屯は視野に入れずに計画された都市であった。文字通り、「平安京」の名が相応しい都－京都で繰り広げられた歴史と、その歴史の展開のなかで残された歴史遺産はどのようなものであったのか、古代から幕末までの都の様相の変遷とその要因を、主として政治史・経済史・都市史・民衆史・女性史の観点から捉え直してみる。

テーマは「埋もれた京都の地下遺産を探る」である。考古学的手法を用いて、本学の足下にある京都の歴史遺産に焦点をあて、触れ、理解して、京都での学びをより深める視点を養う。条坊制に基づく平安京、平安宮の遺跡と遺物、東寺・西寺跡、羅城門と朱雀大路、平安京左京の変遷、近世以降の平安京の様子を説明し、市街地での観察方法を伝授する。

## 京都講座 II

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

## 人間と社会

### 【法律・行政・政治】

#### 日本国憲法

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処するために必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につける。また、これを理解するために必要な基本的知識を身につけることを目標とする。授業では、日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

#### 法学概論 I

法学概論 I では、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていき、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

#### 法学概論 II

法学概論 II では、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初歩的な応用力を身につける。

#### 民法

民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会生活そのものを広範に対象とする学問である。本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主要な法原則、法制度、法概念を理解するとともに、その基礎的知識を獲得することを目的としている。また、具体的な事例や裁判例を用いながら、民法が日常生活にどのように関連してい

#### 行政法

憲法をベースとしつつ、行政と国民の法的関係を理解して国法における行政権のあり方を検討する。法文の基本を勉強したあと、国家と国民との関係についての基本的論理構成に続き、行政行為をはじめとする行政活動の諸形式ごとに、両者の法関係の内容的検討を行い、市民生活の法とは異なる行政法の特異性を

#### 政治学概論 I

政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日

るのかを明らかにすることで、法的な問題発見能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を可能にする。特に、財産法の分野の解説に重点を置くが、家族法の分野についても一通り概観しておく。

学ぶ。そのため、身近な事例を例示しつつ、民法や刑法などとの関係を理解するために、もし、裁判員になったとしたらどうしたらいいかを映像を交えて学修したり、国の機関のうち、興味のある省庁を自分で調べたりすることとする。

本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によって、政治に関する情報・言説を知るソーシャルメディア利用法などにも言及する。

## 政治学概論 II

具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家はどのように描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

## 行政学

行政システムについて、府省庁組織や中央地方関係、政府と市場、組織と管理などのテーマから行政システムの活動とその結果の全体をとらえる。省庁再編・政策評価の導入や地方分権改革などにも触れる。

## 【経済・経営・社会】

### 経営学概論

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まず会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

### 会計学概論

目標：企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。内容：企業経営のプロセスを、資金の流れとして学ぶ。さらに、付加価値の形成、市場における価値の創造、収益の分配、および、稼得利益の意義を体系的に考察することによって、企業経営の本質を理解する。また、この学習を、複式簿記のシステム（簿記一巡の手続き）の理解と連動して行う。したがって、他人資本（負債）、自己資本（純資産）、資産、費用、収益という5つのグループの経営プロセス上での役割についても、それぞれのグループ内の勘定科目のレベルにまで、一定程度深化させて理解する。簿記システムの基礎的理解をめざし、簿記一巡の手続きについて学ぶ。

### 社会学概論 I

社会学概論 I では、自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

### 社会学概論 II

社会学概論 II では、社会学概論 I での基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会的想像力の定着をめざす。

### 経済学概論 I

現代日本経済における諸問題を学ぶことによって、経済学への導入を図る。具体的には、まずバブル経済とその崩壊による平成不況の深刻化の課程を「不良債権処理の10年」として概観する。次に、ケーススタディとして、日本長期信用銀行の破綻、山一証券の自主廃業について検討する。そして、女性労働として雇用機会均等法と育児支援を取り上げるとともに、労働問

### 経済学概論 II

戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでを、映像資料を活用してイメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経

題として過労死・過労自殺、ホームレス、派遣労働、ネットカフェ難民、派遣村などを取り上げる。これらの諸問題を、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

## 人間と自然

### 【健康・こころ・からだ】

#### 健康に生きる I

健康とは何かを学び、大学生活およびその後の生活を健康で過ごすための方法を学ぶ。

#### 健康に生きる II

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。健康と栄養の関連を理解するとともに、食の安全性を理解し、健康増進に役立て、健康的な食生活を志向する。講義では、糖質、脂肪、アミノ酸、ミネラル、ビタミンといった栄養素と、人の健康との関係について解説する。また、健康と食生活をテーマに、ダイエット、運動、ストレスなどについて講義する。講義のなかでは、健康と食に関するトピックを適宜紹介する。

#### 健康に生きる III

個人の「健康」について精神的な側面（メンタルヘルス）を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されているさまざまなメンタルヘルスの理論や、その歴史的な発展について講義し、現代人が健康に生活する上でのメンタルヘルスの重要性の理解を促す。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされるさまざまな理論・技法についても概観する。また、メンタルヘルスが個人の全般的な健康に資する役割についても言及する。

#### スポーツコース I

ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図り、またスポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

#### スポーツコース II

Iに引き続き、ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として、さらに基礎体力と技術のスキルアップを図る。またあわせて、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

#### スポーツコース III

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バレーボール、バスケットボール両種目の基本的な技術や知識を学習するとともに、全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。

#### スポーツコース IV

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バドミントンと卓球の基本的な技術練習とルールの理解から始め、シングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

### 【自然と環境】

#### 物理学基礎

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考えるうえで基礎的な学問となる。本科目では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などの基本的な原理について

#### 化学基礎

生活の中にある物質や現象を、化学的なものを見方や考え方で捉え、理解できるように基礎概念を解説する。原子の構造と結合、分子の形、物質の形態、溶液、化学反応などについて正し

#### 生物学基礎

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命科学、および関連する諸問題について概説する。生命現象を理解するために、細胞の構造と役割、細胞を構成する物質、エネルギー、遺伝

て正しい理解を得るとともに、日常的に目にする現象を物理学的に理解し説明する力を身につける。また、物理学が身近なものに应用されていることを理解し、物理学の原理とその意義について見識を深める。例えば、身近な家庭用機器や医療機器（電子レンジ、健康維持器具、AED、MRI等）などに应用されている電磁気現象の原理などを理解する。

### 地球生命論

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解する。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造、土壌層位、遺構面と遺構埋土の特徴などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて概観する。

## 医療と心理

### こころとからだの健康科学 I

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学、臨床検査学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

### 統計学基礎論

この科目では統計学そのものについて学ぶのではなく、統計法を利用して各分野（保健衛生学や心理学、教育学など）の研究を進める方法を学ぶことを目的とする。授業を通じて統計学の基礎を学び、身近なデータを読み取る力をつけ、また実際に受講生自身が研究を行う上で知

い理解を得るとともに、日常的に目にする物質や現象および、化学が身近に应用されていることを理解し説明する力を身につける。例えば、日常生活に関わる化学物質、例えば石油や原子力などのエネルギー源、金属やプラスチックなどの材料、薬品、医療品などについて触れ、応用されている原理とその意義を理解する。

### 地球環境論

環境問題は、今や誰にとっても避けて通ることのできない重要な課題である。この授業は、環境問題を、自然科学的アプローチ、社会科学的方法、哲学的アプローチを総合的に駆使しつつ考察する。環境問題の複雑さ、議論の道筋、論点などをわかりやすく講義する。

### こころとからだの健康科学 II

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学、作業療法学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

### 医療と生命の倫理

生命倫理学の基本原則を正しく理解し、現代の医療における倫理的諸問題を学ぶ。まず、患者の自律の尊重という生命倫理学の基本原則と、これを達成するために不可欠なインフォームド・コンセントの原理について説明する。その後、①出生前診断、人工妊娠中絶、生殖補助医療など人間の誕生にまつわる諸問題、②タ

学、DNA、発生と老化、脳の構造などから、食と健康、がん、感染と免疫などについても解説し、正しい理解を促進する。さらに、生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、生物学的な諸問題を正しく理解するため、遺伝子組換え生物や再生医療、生態系と環境問題までの最新のトピックを交えて解説する。

### 医学概論

人類の歴史は「病いととの戦い」の歴史であるともいえる。例えば、伝染病との戦いはペストや天然痘には勝利したものの、エイズやインフルエンザといった新たな敵との戦いが引き起こされている。人類の生存をかけた戦いのなかで医学は生まれ、発展してきた。さらに、ライフスタイルの変化、人口の少子高齢化等の社会情勢の変化は生活習慣病などの新たな「病い」の発生の素地となっている。医学は新たな姿の敵との戦いを迎えている。こうした医学の歴史を振り返りながら、「医学の過去、現在、未来」について講義する。

### 医療リスクマネジメント

医療全般における安全とその管理について教授する。医療職種全体の目標である「医療の質の向上」について講義し、リスクマネジメントの関係性について理解を深める。さらに、その具体的方法について解説する。また、各種治療におけるリスク、および機器の使用にあたっての事故防止の方法について解説する。業務に関わ

識を活用できるよう、実践的な能力を身につけることをめざす。

ーミナルケア、安楽死と尊厳死など人間の死にまつわる諸問題、③遺伝子診断と遺伝子治療、再生医療など先端的医療、④医療情報の保護について教授する。

る感染症については、自身が感染媒体にならないようにすることの理解を深め、その対策について教授する。

### 臨床心理学

医療を通じて人と関わるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。そうした知識も当然重要であるが、それだけにとどまらず「臨床の知」としての思考力を身につける必要がある。「臨床の知」とは、客観的に眺め分析するのではなく、自分が現場にコミットして、相手との関係のなかで考えることといえる。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へ関わる存在になっていくのか、履修者それぞれが、主体的に考えられるようになることをめざしたい。

### 健康心理学

心身の健康の維持増進や疾病の予防について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを心理学的な側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄について理解する。

### よそおいの心理学

人間の外見と心の関係を探究することをテーマとする。社会心理学・感情心理学の分野から始まった「化粧の心理的効果」の研究は、粧うことによって快感情・高揚感をもたらし、積極的な対他者行動を促すことによって、コミュニケーションを活性化することを実証し、化粧が心の健康に貢献していることを見いだした。また、この化粧の効用は、医療や福祉の現場で効果をあげており、臨床心理学的な考察も試みられている。本講義では、基礎的な研究を概説し、さらにさまざまな臨床的実践活動について紹介する。

### 公衆衛生学

公衆衛生の基礎的な知識を身につける。公衆衛生の前提となる集団・社会の健康の意義、社会医学の考え方、公衆衛生学の発展過程を概説した上で、公衆衛生活動の人口・疾病統計と健康指標、疫学、健康管理の基礎を学び、地域保健、成人保健、母子保健、老人保健、産業保健、学校保健の各分野における保健活動について学習する。

## キャリア教育

### キャリア開発演習Ⅰ

大学における自己学習習慣や自ら積極的に講義等に参加する姿勢、作業療法士はもとより社会人として必要なコミュニケーション能力等について、作業療法士としての実務経験を有する教員が、自らの経験をもとにした課題を提供し演習形式で学ぶ。これにより、作業療法士にとって必要な知識や技術等を学ぶ重要性について学習する。

### キャリア開発演習Ⅱ

作業療法士として適切なマナーのもとに、自信を持って自己アピールできるスキル、問題発見解決型人材を念頭においた社会が求めるヒューマンスキルなどの獲得をめざす。講座では、円滑なコミュニケーションから、より有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの修得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを修得する。演習では、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力（コミュニケーション力・自己アピール力）などのヒューマンスキルを身につけることをめざす。

# 専門基礎分野

## 人体の構造と機能および心身の発達

### 人体の構造と機能演習 I (骨・関節・筋・神経など)

作業療法の実践に必要な、人体の正常な構造(解剖学)と機能(生理学)の基礎知識を演習により修得する。最初に①細胞と組織、②皮膚と膜で人体の構造の基本となる知識を解説する。次に③受動的運動器の骨と④能動的運動器の筋について、名称と共に細胞・組織そして機能を説明する。皮膚の知識と統合し、骨や筋の触診に必要な体表解剖も学習する。最後に、⑤神経系と⑥感覚器系が筋の運動をどのように統御しているかを説明する。

### 人体の構造と機能演習 II (呼吸・循環系、消化系など)

演習形式により、以下の内容を教授する。生命の維持に必須の①呼吸器系と②循環器系、そして③血液系につき最初に解説する。血液が運搬する物質との関連で、体外から栄養素を取り入れる④消化器系、体内で生じた代謝産物を体外に排出する⑤泌尿器系を説明する。そして子孫を残すための⑥生殖器系の後、神経系と共に生命活動を統御する⑦内分泌系につき解説する。最後に、最近新見解が続出している⑧免疫系が生命の維持に果たす役割について理解を深める。

### 人体の構造と機能実習 I (構造系)

作業療法士の実践に必要な骨と筋について標本や図譜を用いて実習を行う。それぞれの名称や形態、位置、相互の位置関係、神経支配を知るため、観察とスケッチを行う。骨学は、①頭蓋②脊柱③胸郭④上肢帯⑤上肢⑥骨盤⑦下肢に分ける。筋は、①頭部②頸部③背部④胸部⑤腹部⑥上肢⑦下肢に分ける。体表の皮下に存在する筋と骨の正確な位置関係を、学習者の手指により確認できるようになるのが本実習の目的である。

### 人体の構造と機能実習 II (機能系)

人体機能の生理学的測定法を学び、実施することにより人体の生理機能を体験的に学習する。①脈拍と血圧測定、そして心電図を用いた循環器の機能、②パルスオキシメータとスパイロメータによる呼吸器の機能、③筋電図と筋力測定を用いた筋肉の機能、④触圧覚検査と2点識別閾測定を用いた感覚器の機能、⑤脳波測定による神経系の機能を検査する。また、診察に用いられる聴診器や打腱器の基本的使用方法も実習する。

### 運動生理学

ヒトが身体運動を行う際の生理機能の適応の変化について説明する。本講義では人体の正常な構造と機能について理解し、健康維持と疾病回復の過程を学習する。運動における中枢機能、末梢神経・筋機能、呼吸と循環機能、代謝機能などの変化を理解するとともに、刺激と興奮、末梢神経細胞の分類と特性、接合部と受容器、脊髄反射、脳幹・小脳・視床下部と大脳辺縁系、視覚と聴覚、感覚投射系、皮膚感覚と平衡感覚、高次中枢機能についても学ぶ。脳の構成と機能局在や神経伝導と情報伝達などについて十分に理解を深め、これらの生理学的機能についての知識を、評価技術や運動療法、リスク管理など作業療法に生かせるよう学習する。

### 運動学

作業療法で接することの多い運動機能障害の問題を解決するために、人の随意運動のメカニズムについて学習する。上肢、下肢、頭・頸部、体幹における各関節の構造と機能を解説した後、運動の力源である各筋の作用、さらに筋収縮時における腱、靭帯との関連性を疾患・障害を交えながら学習する。また、正常歩行と異常歩行、方向舵としての肩、伸縮装置としての肘、効果器としての手について作業療法の視点から学習する。

### 運動学演習

解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎知識をもとに、身体運動のメカニズムを実習を交えて理解する。人体における骨、関節、骨格筋の位置の確認および触診を行う。上肢(肩甲骨、肩、肘、前腕、手)、下肢(骨盤、股、膝、足)、体幹(頭部、顔面、頸部、胸部、腰部)の運動機能を自身と他人の身体を使って体験し理解する。人の基本的動作を運動学的に分析し、運動学の知識を日常生活活動との関連で理解する。

### 人間発達学

人間は生涯にわたり心身の構造、機能が変化していく。人間の各発達段階、特に乳幼児期の特徴と発達課題について知的側面(言語、認知等)、身体的側面(原始反射、姿勢反射、腹臥位・背臥位での運動等)、情緒的側面(信頼、内発的動機等)、社会的側面(遊び等)などに焦点をあてて論じる。さらに、ライフ・サイクルにおける成熟と衰退という観点を踏まえて、医療技術者としていかに人間理解を深め、援助活動に生かしていくのか学習する。

## 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進

### 病理学

### 内部障害基礎論

### 運動器障害基礎論

疾病の本質を探求し、医学の根幹をなす病理学に関する正しい知識を身につける。病理学の概要と歴史、病因論、老化、さまざまな病変（遺伝・先天異常、細胞の退行性・進行性病変、循環障害、炎症、免疫とアレルギー、腫瘍など）、栄養、薬理、医用画像、救急救命及び予防の基礎について教授し、神経系、運動器、循環器、呼吸器など器官・組織ごとに疾病の原因と病態、経過、予後について解説する。

#### 精神障害基礎論

精神障害は身体疾患患者にも高い頻度で発生し、精神科に限らず全ての医療保健福祉に関わる者が理解しておく必要がある。精神医学について系統的に講義し臨床場面で見られる精神障害について教授する。まず精神医学の方法論、症状論、検査法、治療について概説するとともに精神保健福祉法を中心とした法制度についても概説する。つぎに主要な精神疾患の発症要因、病態生理、診断、治療について教授する。

#### 発達障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する小児系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を学習する。講義では、医師の見地から小児の症候学、内科的、外科的、小児科的診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。特に急性期、回復期、維持期別に各疾患の回復や進行、それに伴う障害の経過を概説する。さらに、作業療法士の見地から小児期の成長と発達に基づく小児疾患の特性や障害像について学習する。

### 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

#### リハビリテーション概論

本科目を学習することで、リハビリテーション医学における作業療法学および作業療法士についてその理想像を構築する。また、多岐にわたるリハビリテーション領域において、理学療法士、作業療法士がいかに医療、保健、介護および就労支援などに携わる多職種との連携を図るべきかを熟考し、対象者とその家族が望む生活が行えることを具現化するための策について教授する。

リハビリテーション領域に関連する内科系疾患の診断・治療に関する基礎知識を教授する。講義では、医師の見地から内科学の症候学、内科的診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。さらに作業療法士の見地から各臓器別における疾患の特性と障害像について教授する。

#### 精神障害応用論

精神障害患者の治療に用いられる薬物療法、精神療法、リハビリテーション、社会復帰活動について学習する。薬物療法では、その薬理機序や副作用について学習する。力動的精神療法の領域では、力動精神医学の概念、人格の発達理論、症状や疾病の力動的な理解、集団力動、治療病理などを学習する。その他の精神療法の領域では、行動療法や森田療法等の理論や方法を学習する。リハビリテーションや社会復帰については、方法論、制度、精神保健福祉法を中心とした法制度について学習する。

#### 老年期障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する老年期疾患に関する診断・治療に関する基礎的知識を学習する。講義では、医師の見地から老年期における疾患の症候学、診断、医学的治療法や栄養管理を含む治療法について概説する。さらに作業療法士の見地から老年期における疾患の特性と障害像について学習する。

#### 地域包括ケアシステム演習

近年、地域における医療やケアがますます重視されつつある。要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援（自立支援）、就労支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が急がれている。そのため、医療、保健及び福祉が連携し、かつ切れ目のないサポートが求められている。地域の専門職やキーパーソンとの連携の重要性を理解しながら、クライアントの自立支援と就労支援のための知識と技術を学習する。

リハビリテーション領域に関連する整形外科系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を学習する。講義では、医師の見地から整形外科の症候学、整形外科的診断と救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。更に作業療法士の見地から運動器別に疾患の特性と障害像について学習する。

#### 神経障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する脳・脊髄・神経系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を学習する。講義では、医師の見地から脳・脊髄・神経系学の症候学、診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。さらに作業療法士の見地から中枢神経系疾患及び神経・筋疾患の特性と障害像について学習する。

# 専門分野

## 基礎作業療法学

### 作業療法学概論

作業療法を学ぶ学生のための道標となる科目である。最初に作業療法のルーツとアーツアンドクラフツ運動、パラダイム理論に基づく米国作業療法の歴史、そして、わが国の作業療法の歴史について学習する。次に作業療法の「作業」の定義、作業療法の対象、作業療法実践の事例、作業療法モデル論、作業療法の進化について学習する。また、作業療法士に求められる資質や倫理、記録・報告の意義について学習する。

### 作業科学

作業療法の基盤となる「作業」について研究する学問として作業科学が登場した。「人は作業することで健康になれる」は作業療法の信念である。「作業」の魅力や「作業ができるようになること」の意義を理解するために必要な知識を学習する。学習者自らの作業の歴史を振り返り、作業が人間の発達や環境に与える影響について学習し、さらに「作業」についてより深く学習するために、作業の広がりや深さや主観的意味、作業による成長と回復、作業による社会的課題の解決について学習する。

### 作業療法研究法演習Ⅰ

作業療法という専門技術の研究・発展に必要な研究法を演習形式で学習する。演習Ⅰでは、科学論文とはどのようなものか学習し、科学的な研究法について学習する。そのうえで作業療法あるいは保健医療福祉領域の学術雑誌から、学習者自身が興味をもった研究論文を選び、これを要約し批判的吟味を行うものである。その内容をまとめて発表し質疑応答を行うなかで、研究の基本は批判にあることを学習する。

### 作業療法研究法演習Ⅱ

演習Ⅰで学習した知識をもとに、これまで学んだ作業療法のなかから、学生各々の興味や疑問をもとに研究テーマを設定する。自分の研究テーマに合った指導教員を選び、卒業研究の準備を進める作業を行う。なぜそのような疑問が生じたか（研究疑問）、その研究の目的と意義づけ、先行研究のレビュー、その疑問を明らかにする方法（対象、手順、倫理的配慮）等研究を進めるための研究計画を立案する。

## 作業療法管理学

### 作業療法管理学

作業療法士は作業療法業務に専念するだけでなく、勤務する病院・施設の組織を理解し、職場管理に努めることも要求される。そのため作業療法部門の組織、安全管理、機器のメンテナンス、在庫物品の管理、技術管理と技術開発(教育・研究)、作業療法の機能評価、作業療法部門の記録、作業療法教育、職業倫理などに関する管理運営について学習する。また、作業療法業務を遂行する際に生じる様々なハラスメントについて学び、臨床現場におけるクライアントとの関係、職場内での関係などで生じる倫理的ジレンマについても学習する。

## 作業療法評価学

### 作業療法評価学

### 作業療法評価学演習

### 身体機能評価学演習

作業療法には身体、精神、発達、老年期等の分野があるが、ここでは、作業療法全体に共通する面接と観察、ICFを中心に学習する。評価の目的について理解した上で、必要な情報を聞き出すコミュニケーション技法や面接や観察の際のポイントについて学習する。クライアントに真摯に向き合う態度や面接や観察によって得られた情報を作業療法計画に結びつけられる技能を身につける。

### 精神機能評価学演習

作業療法評価法のなかで精神・認知機能評価に用いられる、意欲や行動に関する評価、思考の評価、社会適応に関する評価、知的機能検査、認知機能検査の具体的技法について演習形式で学習する。

作業療法士によって独自に開発された評価法を中心に評価技法を学ぶ。作業療法士が評価法を開発する意義は、作業療法の成果を測定する上で感度が優れていることにある。作業療法の全領域に共通する評価であるカナダ作業遂行測定COPM、運動とプロセス技能AMPS、生活行為向上マネジメントMTDLP等について評価技術を習得する。

### 発達期評価学演習

作業療法評価法のなかで発達期の評価に用いられる、発達のスクリーニング検査（DDST等）、運動発達検査（粗大運動、微細運動、口腔機能、姿勢反射、運動年齢検査、立ち直り反応、平衡反応等、ADL検査）、知覚・認知機能検査（知的能力検査、視知覚発達検査、感覚統合能力検査、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査JMAP）、遊び・社会性の発達検査等の具体的技法について演習形式で学習する。また、発達期のこどもの評価のポイントや評価室の環境についても学習する。

作業療法評価法のなかで身体機能評価に用いられる画像評価、形態測定(姿勢、上・下肢長、周計等)、関節可動域検査（ROMT）、徒手筋力検査（MMT）、粗大筋力（握力・ピンチ力）、協調性検査、感覚検査、上肢機能検査の具体的技法について演習形式で学習する。身体機能領域における作業療法の基本となる評価技術であり、患者と作業療法士の役割を設定しながら実習し、レポートを作成する。

### 画像診断学

画像診断学は画像による医療への貢献を目指す学問である。対象とする臓器は頭から足先まで極めて幅広く、用いる手段はCT/MR/超音波装置/核医学/血管造影等極めて多彩であり、関わる診療科はほぼすべてといっても過言ではない。ここでは、作業療法士が理解しておくべき放射線診断学および医用画像について学ぶ。歴史や原理、臨床応用、医用画像の見方、さらに治療への応用に関する講義を行う。

## 作業療法治療学

### 作業学

作業療法は作業を媒介として、種々の障害を持つ対象者を援助する技術である。作業療法の基盤である「作業」について学習する。作業がどのように選択され、どのように使われるのか、その理論と実践を学習する。人間の作業について解剖学的、生理学的、運動学的、精神的、社会的側面から作業を捉える態度を身につける。作業による癒しの効果や成長に関連するサクセス・ストーリーを取り上げ、作業の持つ力を実感しながら学習する。

### 作業学演習 I

作業療法で活用頻度の高い織物、手工芸、絵画を学習者が実際に経験することにより、それが身体的（生理的）・精神的（心理的）に与える影響を分析するとともに、各種の作業に用いる素材や材料が持つ特性を知り、それらの応用方法も考えていく。さらに、作業分析を行い、作業の特徴・作業中の姿勢・作業工程・動作分析・治療効果・障害に対する適用等を学習する。

### 作業学演習 II

作業療法で活用頻度の高い木工、金工、陶芸を学習者が実際に経験することにより、それが身体的（生理的）・精神的（心理的）に与える影響を分析するとともに、各種の作業に用いる素材や材料が持つ特性を知り、それらの応用方法も考えていく。さらに、各作業の活動分析を行い、作業の特徴・作業中の姿勢・作業工程・動作分析・治療効果・障害に対する適用等を理解する。

### レクリエーション演習

作業療法士では集団レクリエーションを企画する機会が多くある。年齢や障害を考慮しながらレクリエーションを企画する上で必要な技術を学ぶ。レクリエーションの意義からその目的、計画、実施についてその知識と技術について学ぶ。ゲーム、ソング、ダンス、スポーツ、観劇などさまざまなレクリエーションの実技を通して、グループダイナミクスや指導のポイント、サポーターの役割、注意事項等について学習する。

### 作業療法関連理論

作業療法計画を立案する際に用いられる理論やモデルを学習する。作業療法独自に開発された感覚統合、人間作業、カナダ作業遂行、また理学療法等関連領域で開発された生体力学、運動コントロール、フロー体験、自己効力理論、ソーシャルスキル・トレーニング、そしてリハビリテーションモデル（装具療法、義肢、代償：福祉用具、自助具）について学習する。

### 日常生活支援学

日本人の生活様式・伝統的な価値観を踏まえながら、起居・移動、コミュニケーション、セルフケア等について、それがもつ意味や動作分析を行う。日常生活活動ADL・手段的ADL、また生活・人生の質QOLの評価法についても学習する。さらに疾患・障害、特に脳卒中、頸髄損傷、慢性関節リウマチのクライアントに対するADL・手段的ADLのポイントについて学習する。

## 日常生活支援学演習

代表的なADLやQOLの評価法について演習形式で学習する。片麻痺や対麻痺・四肢麻痺者の移動（歩行、車いす）や起居（寝返り、起き上がり、座位）の実演と演習を行う。また、脳卒中、頸髄損傷、慢性関節リウマチ者の食事や排泄、更衣、入浴、整容、コミュニケーションの自立をサポートする自助具を体験し製作する。

## 精神機能作業療法学

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学習する。精神障害や知的障害のリハビリテーション及び作業療法の基本的知識と技術を学ぶ。精神科作業療法で対象として多い統合失調症をはじめ主要な疾患に対して必要とされる作業療法士の思考過程と技術の展開方法を学習する。また、作業療法分野では遅れている知的障害者に対する作業療法について学習する。

## 発達期作業療法学演習

知識としてすでに獲得した発達期の障害児の障害像、評価、治療について、脳性麻痺や発達障害、自閉症スペクトラム、筋ジストロフィー、重症心身障害児等具体的な事例を通して、作業療法独自の理論やモデルを活用しながら作業療法の展開、臨床思考過程について実演と演習を行う。また、今後求められる幼稚園や小学校等教育の場に向いて行われる巡回訪問における支援の方法についても演習する。

## 高次脳機能作業療法学

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学習する。脳機能障害では、人が生活行為を遂行していく上で、その行為を困難にする高次脳機能障害が出現することが多く、その機序や具体的な対応方法を学んでおく必要がある。この授業では、失語、失行、失認の特性や作業療法の介入方法の具体例などを学習する。

## 義肢装具学演習

各種疾患や機能障害に対するスプリントを適切にデザインし、作製・活用するために基礎知識を学び、演習を通じてスプリント療法の有用性を理解する。  
スプリント作製のために必要な作製技術・基礎

## 身体機能作業療法学

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学習する。関節可動域の制限、筋力低下、協調性障害などの改善を目的とした作業療法の実際を習得する。また、作業療法の対象とする脳血管障害、脊髄損傷、パーキンソン氏病等の中枢神経障害、慢性関節リウマチや腰痛症等の運動器障害、さらに糖尿病等の内部障害などに対する基本的アプローチについて学習する。

## 精神機能作業療法学演習

知識としてすでに獲得した精神・認知機能障害者の障害像、評価、治療について、具体的な事例を通して、作業療法の展開、臨床思考過程を実演と演習を通して学習する。

## 高齢期作業療法学

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした高齢期のクライアントに対する介入法を学習する。高齢期の心身機能の低下に伴うロコモティブ症候群、廃用症候群、転倒事故といったリスクを踏まえながら、高齢者に対し、個人の長年の経験や教育歴、誇りを尊重する態度を身につける。作業療法の理論をベースに評価法の選択、検査をもとに作業療法計画と介入について学習する。

## リハビリテーション工学

障害児・者のリハビリテーションを支援する工学・技術に関する基本的な考え方、電子工学・人間工学・生体計測・バイオメカニクスなど関連する基礎技術およびこれらの実際の応用からの生活環境についても学習する。また、歩行介助や介護支援機器、ロボット等近年注目されている技術についても学習する。

## 感覚統合療法

行動や情緒に問題をもち、学校や幼稚園に適応できない発達障害児が増えている。このようななか、作業療法の実践理論として、ジーン・エアスの開発した感覚統合療法は、彼らに極めて有効な神経学的治療であり、発達障害領域に進

## 身体機能作業療法学演習

知識としてすでに獲得した身体機能障害者の障害像、評価法、医学的治療を踏まえながら、具体的な事例として脳血管障害、脊髄損傷、パーキンソン氏病等の中枢神経障害、慢性関節リウマチや腰痛症等の運動器障害、さらに喀痰等の吸引を含めた呼吸・循環器疾患等について、人・作業・環境モデルや作業遂行モデルなど作業療法独自の理論的枠組みを用いて実演と演習を行う。

## 発達期作業療法学

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学習する。発達途上にある対象児の将来の可能性を広げるため、家庭生活や教育環境等で生かせる援助法を学習する。さらに、発達障害に対する作業療法を実施するために、必要となる神経学的知識、臨床観察、神経学的評価法、治療技法を身につける。

## 高齢期作業療法学演習

高齢者の心身の状態を知るために高齢者疑似体験グッズを用いて高齢者の世界を体験し発表する。高齢者の疾病の特徴やリスクを踏まえ、認知症や廃用性症候群、ロコモティブ症候群等具体的な事例、あるいは健康な高齢者に対して老化現象の進行を遅らせる取り組み等を通して、作業療法独自の理論やモデルを活用しながら作業療法の展開、臨床思考過程を実演と演習を通して学習する。

## 義肢装具学

義肢・装具について体系的な理解と実用的な知識の修得を図る。義肢では、特に義手の構造と義手装着前訓練、義手のチェックアウト、装着訓練について学習する。義足については基本的な大腿義足と下腿義足、またスポーツ用義足について学習する。装具では、上肢装具特に手副子について手の外科疾患のスプリント療法を学習する。また、下肢装具や体幹装具についても学習する。

## 認知症作業療法学

今日、認知症およびその予備軍を合わせると800万人を超すと言われ、この対策と予防はわが国の国民的課題である。認知症高齢者の心理的特性を理解しながら、その人らしい作業を取り戻すことで問題行動を防ぎ、自分らしく生活

技法を習得し、主に熱可塑性プラスチック材料を用いて各種プリントを作製する。

む作業療法士には不可欠な治療法である。この授業では、その理論と実践について学習する。

できるよう、作業療法が果たす役割は大きい。この授業では、認知症になっても安心・安全に暮らせる地域づくりや認知症予防に対する作業療法の技術を学習する。また、これまでに行われている認知症に対する代替療法についても学習する。

### 言語聴覚療法

本講義では、言語や聴覚、嚥下に障害をきたす疾患およびその症状の基礎知識を学ぶ。そして、コミュニケーションをはじめ、日常生活における問題を理解し、作業療法との関連性を見出しながら言語・聴覚障害者に対するアプローチについて学習する。特に脳卒中における失語症や高次脳機能障害のように見えない障害について多くの作業療法士が接する機会があり、十分な知識と対応能力が求められるため、言語聴覚士との連携についても学習する。

### 作業療法技術学Ⅰ（地域の医療と福祉）

高齢者や障害者の心身機能や地域医療・福祉における国内外の作業療法に関する最新の研究成果について紹介を行う。具体的には、この分野を専門とする各教員が近年、取り組んでいる独創的な研究の一端を紹介する。学習者には、卒業研究テーマの決定やこれに必要な情報を得るための能動的な学習の機会とする。

### 作業療法技術学Ⅱ（こころと子どもの支援）

精神に対して課題を持つ人や行動や情緒に配慮が必要な子どもに対する作業療法に関する最新の研究成果について紹介を行う。具体的には、この分野を専門とする各教員が近年、取り組んでいる独創的な研究の一端を紹介する。学習者には、卒業研究テーマの決定やこれに必要な情報を得るための能動的な学習の機会とする。

## 地域作業療法学

### 地域作業療法学

作業療法は病院だけではなく、退院後も地域で生活していく人たちを支援していく関わりが要求される。この授業では、家庭を基盤に地域で生活している人への作業療法の知識と技術を学習する。対象はこどもから高齢者に至るまで、また急性期、維持期、終末期まで、さらに身体・精神障害、難病等さまざまである。介護保険や自立支援法、地域包括システムなど個人を支えていくための公的制度にも触れながら在宅生活支援のための援助法について学習する。

### 地域作業療法学演習

家庭を基盤に地域で生活している人への作業療法の実際、在宅生活支援のための地域援助システムの実際について学習する。また、通所・訪問における作業療法評価や介入法、福祉機器の導入、家族指導、社会資源の活用等事例をあげ演習形式で学習する。また、多職種と連携し地域ケア会議等で助言できる能力を身につける。

### 生活環境論

地域リハビリテーションや訪問作業療法において、クライアントや家族の安心・安全、そして自立した生活を実現するためには、自宅のリフォームをはじめ住環境の改善が必要となる場合が多い。この授業では、そのために必要な知識や技術を学習する。また、ハード面だけでなく、そこに住む人の意向を重視することも学習する。

### ヘルスプロモーション作業療法学

今日、作業療法は広がりを見せている。ヘルスプロモーション（健康づくり）においては、作業療法士はその力を発揮できる。行政に勤務する作業療法士も増えており、一次予防や二次予防において住民参加の健康推進や医療・介護費用の抑制への貢献が期待されている。この授業では、介護予防・ヘルスプロモーションのプログラムについてグループによる課題発表も行う。

### 職業リハビリテーション

職業的リハビリテーションにおける作業療法は、特に精神障害者に対する就労支援を中心に広がっている。障害者の就労支援と継続は作業療法士の重要な役割であり、障害者支援の最終目標である。就労支援においては、障害者の行動を医学的に解釈し、仕事との関連について評価・分析する能力が必要である。障害に応じた職業能力を発見し、さらに職業継続に必要な雇用主との連携、そのなかで指導や提案・相談できる能力が求められ、これらについて学習する。

## 臨床実習

### 臨床基礎実習Ⅰ

### 臨床基礎実習Ⅱ

### 臨床評価実習

1年次1週間の学外見学実習である。学生の勉学に対する学習意欲を向上させるために、病院や施設等の見学をグループで行う。病院や施設の機能やそこで働く専門職の役割、特に関係するリハビリテーション部門と理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケースワーカー等のスタッフの仕事や治療場面を見学する。学生は、身だしなみに気をくばり、あいさつやマナー、注意事項を遵守する態度を身につけ、医療人としての準備を行うものである。なお、臨床実習に赴くにあたり事前準備の確認（臨床実習前評価）と実習成果の確認（臨床実習後評価）を実施する。

2年次1週間の学外実習である。作業療法士になるという目的意識の醸成を図ることを目的とし、病院、介護老人保健施設、在宅支援のフィールド（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなど）で作業療法士がどのような役割を担うのかを理解するべく実習指導者に随行しながら作業療法実践の体験をする。この臨床実習を通して、病院や通所施設などの機能や特徴、社会的役割、作業療法士の業務と役割、対象者と作業療法士との関わり、多職種との連携について理解を深める。あわせて指導者とのコミュニケーション能力（報告、連絡、相談）の向上や職場のルールや医療人としてのマナーについて学ぶ。なお、臨床実習に赴くにあたり事前準備の確認（臨床実習前評価）と実習成果の確認（臨床実習後評価）を実施する。

3年次3週間の学外実習である。病院や診療所、介護老人保健施設、在宅支援のフィールド（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなど）、福祉施設等において、指導者の行っている作業療法（面接、評価、治療）を観察することから始まる。学生は初めてクライアントに接することを前提に、指導者の近接指導のもとで、クライアントの面接、検査・測定を行い、問題点の抽出、利点や資源を含めた評価に基づき作業療法計画を立案する。あわせてコミュニケーション能力の向上や医療人としてのマナーについて学ぶ。この実習を通して自己の課題に気づき、今後の勉学のモチベーションとする。なお、臨床実習に赴くにあたり事前準備の確認（臨床実習前評価）と実習成果の確認（臨床実習後評価）を実施する。

#### 総合臨床実習 I

4年次9週間（1週間以上の訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションでの実習を含む）の学外実習である。病院や診療所、介護老人保健施設、在宅支援のフィールド（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなど）において、指導者の行っている作業療法（面接、評価、治療）を観察し模倣することから始める。次に、指導者の指導のもとで、クライアントの作業療法計画立案に必要な情報収集、面接、検査・測定を行い、問題点の抽出、利点や資源、予後予測を含めた評価を行う。その評価に基づき適切な目標の設定及び治療計画の立案・治療の実施等作業療法の一連の過程を経験する。基本的な作業療法技術だけでなく、医療人としての基本的な行動の規範や記録、報告、連絡、相談について実践を通して学ぶ。また、カンファレンス等への参加も経験し、多職種と連携しながらチーム医療について学ぶ。なお、臨床実習に赴くにあたり事前準備の確認（臨床実習前評価）と実習成果の確認（臨床実習後評価）を実施する。

#### 総合臨床実習 II

4年次9週間の学外実習である。「総合臨床実習 I」とは異なる実習施設において、その経験や反省を踏まえて、実習に臨む。同じように病院や診療所、介護老人保健施設、在宅支援のフィールド（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなど）において、指導者の行っている作業療法（面接、評価、治療）を観察し模倣することから始める。次に、指導者の指導の下で、クライアントの作業療法計画立案に必要な情報収集、面接、検査・測定を行い、問題点の抽出、利点や資源、予後予測を含めた評価を行う。その評価に基づき適切な目標の設定及び治療計画の立案・治療の実施等作業療法の一連の過程を経験する。基本的な作業療法技術だけでなく、医療人としての基本的な行動の規範や記録、報告、連絡、相談について実践を通して学ぶ。また、カンファレンス等への参加も経験し、多職種と連携しながらチーム医療について学ぶ。なお、臨床実習に赴くにあたり事前準備の確認（臨床実習前評価）と実習成果の確認（臨床実習後評価）を実施する。

#### 卒業研究等

##### 作業療法総合演習

総合臨床実習において、作業療法の一連の過程を経験し学修した知識をもとに、より統合的に作業療法への理解を深め、臨床に適用できるよう、基本的な知識を確認し再獲得する。また、最近の人口動態、疾病障害構造、社会的情勢に応じた作業療法の展開について学習する。同時に、国内だけでなく国際的な最新の作業療法の

##### 卒業研究

作業療法研究法演習 I・II に引き続いて実施する最終的な研究科目である。指導教員の指導を受けながら、研究計画書に基づいて、データを収集し、研究成果をまとめ、卒業研究論文として提出するまでの一連の過程を実践する。「卒業研究論文発表会」で発表する機会を設ける。

話題や研究領域等についても情報を収集しながら、ディスカッションを進めグローバルな視点で作業療法を考える。

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部

# 救急救命学科

カリキュラムマップ ▶

カリキュラム表 ▶

科目概要

健康科学部 ▶

▼ 1. 救急救命学科教育理念

▼ 2. 各回生の到達目標

▼ 3. カリキュラムの概要

▼ 4. 履修条件

▼ 5. 取得できる資格

## 1. 救急救命学科教育理念

### (1) 教育研究上の目的

健康科学部は、心理、医療の各分野の専門的知識や技術を習得し、幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、新たな課題に対応できる問題解決能力を備えた人材を養成する。救急救命学科は、救急救命の専門知識および実践力を身につけ、医療と地域社会の課題解決に貢献できる質の高い救急救命士を育成することを目的とする。

### (2) ディプロマポリシー（学位授与方針）

救急救命学科は、教学理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養と救急救命の専門的な知見と技能の修得を通じ、医療と地域社会が抱える課題について、豊かな知識と人間性を基礎に、柔軟かつ責任を持って対応することのできる人材を育成することをめざしている。そのために救急救命学科では、この教育目標に基づき、次のような知識・能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学位（救急救命学）を授与する。

- ① 救急救命を中心とした医学に関する総合的な知識および救急救命学に関する技能
- ② 救急救命士として必要とされる総合的な観察力、コミュニケーション力およびリーダーシップ
- ③ 論理的思考と科学的手法を用いて、ものごとを検証し、問題解決できる能力
- ④ 生涯にわたって自ら学び続けるために必要な幅広い教養と探求心

### (3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、健康科学部救急救命学科では、以下の方針で教育課程を編成する。

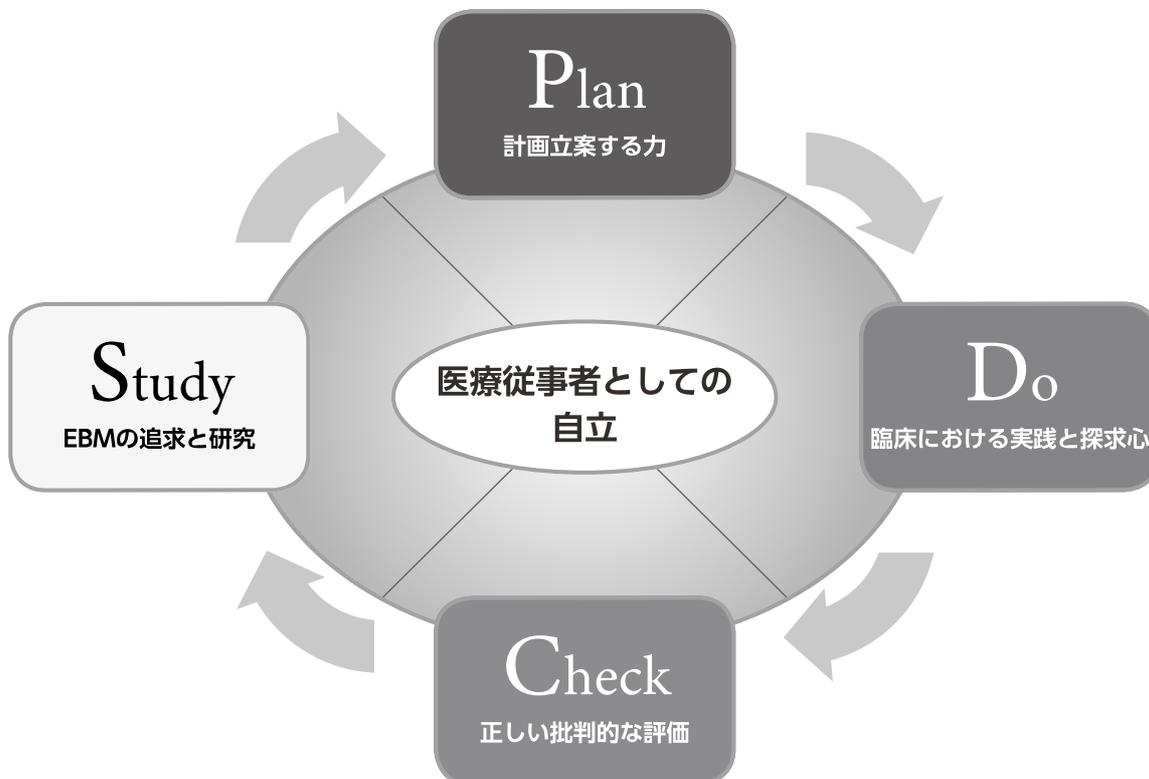
- ① 幅広く豊かな教養と視野を身につけるため、人文科学、社会科学、自然科学などの多岐にわたる科目を配置する。

- ② 身体だけでなく、心理面からも科学的にアプローチできる能力を身につけるため、学部共通科目として「医療と心理」領域を配置する。
- ③ 生涯にわたって探究心を持って学び続ける能力と姿勢を身につけるため、スタディスキル、アカデミックスキル、社会人・医療人として必要な論理的思考力について、4年間を通じて段階的に養成する演習科目および「卒業研究」「課題研究」を配置する。
- ④ 基礎医学や公衆衛生の知識を身につけるため、専門分野に基礎医学領域を置く。
- ⑤ 救急救命学に関する基礎的な理論と技能を学ぶ目的で、専門分野に救急医学領域を置き、内科・外科系科目を段階的に配置する。
- ⑥ 救急救命学の知識をより具体的な問題と関連づけ、幅広い視野で救急救命について考えられるよう、専門分野に学生の関心で選択できる専門関連科目を配置する。
- ⑦ 救急救命士として不可欠なコミュニケーション力およびリーダーシップを身につけ、救急救命士としての技能と実践力を養うために、各回生に「救急救命実習」を配置する。また、病院や消防機関での臨地実習を配置し、医療現場での実践力を修得する。
- ⑧ 救急救命士になるために必要な知識を身につける「救急救命キャリア開発演習」等を配置する。

## 2. 各回生の到達目標

下の表は、各学科・コース別に、専門教育科目の獲得目標を一覧化したものです。その後に続く、学科・コースのカリキュラム表と併せ、受講登録はもちろん、4年間でのどのような学力を身につけ卒業に向かうのか、計画を立てる際に参考にしてください。

### 【 P-D-C-S サイクル 】



ディプロマ・ポリシー (DP)

- ① 救急救命を中心とした医学に関する総合的な知識および救急救命学に関する技能
- ② 救急救命士として必要とされる総合的な観察力、コミュニケーション力およびリーダーシップ

③ 論理的思考と科学的手法を用いて、ものごとを検証し、問題解決できる能力

---

④ 生涯にわたって自ら学び続けるために必要な幅広い教養と探求心

1回生

- ① 基礎医学的知識や日本の救急医療制度に関する基本的知識を身につける。  
.....
- ② 社会で求められる情報処理能力の基礎を身につける。  
.....
- ③ 記録のまとめ方や口頭発表の方法など理解力、思考力、表現力の基礎力を身につける。  
.....
- ④ 人間を取り巻く文化、社会、自然への関心を持つ。

2回生

- ① 専門分野を意識した学習計画を立て人間をとりまく文化、社会・自然への関心を広げる。  
.....
- ② チーム活動の意思疎通のコミュニケーション能力を身につける。  
.....
- ③ 言語的表現「読む、書く、話す」の理解力、思考力、表現力を高める。  
.....
- ④ 専門医学知識を身につけ、特定行為の根拠と具体的な技術を身につける。

3回生

- ① 専門的医学知識を深め、救急救命士としての基本的活動に必要な総合力を身につける。  
.....
- ② 理論的思考力や表現力、コミュニケーション能力を身につける。  
.....
- ③ ラーニング・コミュニティを組織し、自発的に教養を高める。  
.....
- ④ 進路やキャリアを意識し、臨床経験を通して医療従事者としての自覚に結びつける。

4回生

- ① 救急救命士として専門的な医学知識と総合的な観察力・処置能力を身につける。  
.....
- ② コミュニケーション能力や教養を高めるため自己研鑽を積む。  
.....
- ③ ラーニング・コミュニティでの議論を通じて論理的思考力を高める。  
.....
- ④ 医療従事者としての自覚の高揚、プロ意識の醸成に結びつける。

### 3. カリキュラムの概要

科目 習得目標	① 救急救命を中心とした医学に関する総合的な知識および救急救命学に関する技能	② 救急救命士として必要とされる総合的な観察力、コミュニケーション力およびリーダーシップ	③ 論理的思考と科学的手法を用いて、ものごとを検証し、問題解決できる能力	④ 生涯にわたって自ら学び続けるために必要な幅広い教養と探求心
1年生	人体の構造と機能演習Ⅰ（形態と構造） 人体の構造と機能演習Ⅱ（生体の諸器官の働き） 病理学 公衆衛生			
	救急救命学総論Ⅰ（救急救命士の使命）			
		救急救命関係法規		
		救急救命見学実習		救急救命見学実習
	救急救命実習Ⅰ			
			アカデミックスキルズⅠ	
2年生	生化学・微生物学			
	救急疾病Ⅰ（循環系、呼吸系等） 救急疾病Ⅱ（神経系、消化系等） 救急病態生理学Ⅰ（循環系、呼吸系等） 救急病態生理学Ⅱ（神経系、各種ショック等） 救急外傷医学Ⅰ（外傷総論、頭部・体幹外傷） 救急外傷医学Ⅱ（運動器外傷、熱傷等） 救急救命学総論Ⅱ（病院前医療） 救急処置各論Ⅰ（傷病者観察）			
	救急救命実習Ⅱ			
		専門分野選択必修科目		専門分野選択必修科目
			アカデミックスキルズⅡ	
			救急救命キャリア開発演習Ⅱ	
3年生	臨床病態学 救急症候学Ⅰ（胸部疾患、腹部疾患等） 救急症候学Ⅱ（神経疾患、呼吸器疾患等） 救急疾病Ⅲ（筋・骨格系、泌尿・生殖系等） 救急処置各論Ⅱ（薬物と検査） 急性中毒学・環境障害 小児科学 精神医学 産婦人科学			
	救急救命災害演習 救急救命同乗実習 救急救命病院実習			
	救急救命実習Ⅲ			
		専門分野選択必修科目		専門分野選択必修科目
	課題発見演習 または 救急救命研究法			
			救急救命キャリア開発演習Ⅲ 救急救命キャリア開発演習Ⅳ 救急救命キャリア開発演習Ⅴ	
4年生	救急救命実習Ⅳ 課題研究 または 卒業研究			
	救急救命総合演習			
			救急救命キャリア開発演習Ⅵ	

### 4. 履修条件

本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、一部の科目に履修条件（履修制限）を設定しています。

回生	対象科目	履修条件
2回生	救急救命実習 II	1回生担当の「救急救命実習 I」を修得済みあること。
3回生	救急救命実習 III	2回生担当の「救急救命実習 II」を修得済みあること。
	「専門分野」科目	<p>1・2回生担当の「専門分野」のうち指定する20科目*のうち18科目以上を修得済みであること。</p> <p>※指定する科目            人体の構造と機能演習 I・II、病理学、公衆衛生、生化学・微生物学、救急救命学総論 I（救急救命士の使命）・II（病院前医療）、救急救命関係法規、救急救命見学実習、救急処置各論 I（傷病者観察）、救急病態生理学 I（循環系、呼吸系等）・II（神経系、各種ショック等）、救急外傷医学 I（外傷総論、頭部・体幹外傷）・II（運動器外傷、熱傷等）、救急疾病 I（循環系・呼吸系等）・II（神経系、消化系等）、救急救命キャリア開発演習 I・II、アカデミックスキルズ I・II</p>
4回生	救急救命実習 IV	3回生担当の「救急救命実習 III」「救急救命同乗実習」「救急救命病院実習」「救急救命災害演習」を修得済みであること。

## 5. 取得できる資格

救急救命士国家試験  
受験資格 ▶

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 救急救命学科

# カリキュラムマップ

救急救命学科 ▶	カリキュラム表 ▶	科目概要 ▶
健康科学部 ▶		

### ▼ 1. 基礎分野 ▼ 2. 専門分野

#### 全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

#### 学科・コース別のディプロマ・ポリシー

- ① 救急救命を中心とした医学に関する総合的な知識および救急救命学に関する技能
- ② 救急救命士として必要とされる総合的な観察力、コミュニケーション力およびリーダーシップ
- ③ 論理的思考と科学的手法を用いて、ものごとを検証し、問題解決できる能力
- ④ 生涯にわたって自ら学び続けるために必要な幅広い教養と探求心

### 「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

#### 科目ナンバーの見方

〈例〉  $\frac{EM}{1} - \frac{1}{2} \frac{1}{3} \frac{1}{4}$

1 学科	EM: 救急救命学科
2 回生	1: 1回生 2: 2回生 3: 3回生 4: 4回生
3 区分	1: 基礎分野 2: キャリア教育科目群 3: 専門分野 (基礎医学領域) 4: 専門分野 (救急医学領域) 5: 専門分野 (専門関連科目) 6: 専門分野 (総合演習) 7: 専門分野 (キャリア開発演習)
4 開講期	1: 前期 2: 後期 3: 通年 4: その他

# 1. 基礎分野

## (1) 基礎分野より必修科目11単位、選択必修科目20単位以上の計31単位以上を取得

※選択必修科目は「人間と知の伝達」2単位、「人間と文化」2単位、「人間と社会」2単位、「人間と自然」2単位、を含む20単位を修得すること。

### 基礎科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM111	教養入門	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦
EM112	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦
EM111	英語 I A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EM111	英語 I B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EM112	英語 II A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EM112	英語 II B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EM211	英語 III A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
EM211	英語 III B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
EM212	英語 IV A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
EM212	英語 IV B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
EM111	日本語表現 I	2	選択	講義	1回生	①②④⑥⑦
EM112	日本語表現 II	2	選択	講義	1回生	①②④⑥⑦
EM111	情報処理演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥
EM112	情報処理演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥

### 人間と知の伝達

#### [ 現代の思想 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM111	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
EM112	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
EM112	ジェンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦
EM211	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤
EM212	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤

#### [ メディアと情報 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM111	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦
EM111	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
EM211	情報処理演習 III	1	選択	演習	2回生	①②⑥
EM212	情報処理演習 IV	1	選択	演習	2回生	①②⑥
EM211	情報処理演習 V	1	選択	演習	2回生	①②⑥
EM212	情報処理演習 VI	1	選択	演習	2回生	①②⑥
EM111	数学演習 I	2	選択	演習	1回生	①②⑥
EM112	数学演習 II	2	選択	演習	1回生	①②⑥

### 人間と文化

#### [ 外国語と文化理解 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM111	比較文化論	2	選択	講義	1回生	-
EM111	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	-

EM112	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	-
EM112	文化人類学	2	選択	講義	1回生	-
EM111	中国語 I	2	選択	演習	1回生	-
EM112	中国語 II	2	選択	演習	1回生	-
EM113	中国語 III	2	選択	演習	1回生	-
EM114	中国語 IV	2	選択	演習	1回生	-
EM111	韓国語 I	2	選択	演習	1回生	-
EM112	韓国語 II	2	選択	演習	1回生	-
EM113	韓国語 III	2	選択	演習	1回生	-
EM114	韓国語 IV	2	選択	演習	1回生	-

## [ 歴史・文化 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM111	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥
EM111	京都の歴史・文化 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
EM111	京都講座 I	2	選択	講義	1回生	①②③
EM112	京都講座 II	2	選択	講義	1回生	①②③

## 人間と社会

### [ 法律・行政・政治 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM114	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
EM111	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
EM112	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
EM211	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
EM212	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
EM111	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④
EM112	政治学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④
EM212	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥

### [ 経済・経営・社会 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM111	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
EM112	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
EM111	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
EM112	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥
EM211	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④
EM212	経済学概論 II	2	選択	講義	2回生	①②④

## 人間と自然

### [ 健康・こころ・からだ ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM111	健康に生きる I	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
EM111	健康に生きる II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥
EM112	健康に生きる III	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
EM111	スポーツコース I	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
EM112	スポーツコース II	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
EM111	スポーツコース III	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
EM112	スポーツコース IV	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦

## [ 自然と環境 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM111	物理学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
EM111	化学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
EM111	生物学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
EM112	地球生命論	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
EM112	地球環境論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤

## 医療と心理

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM111	こころとからだの健康科学 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
EM112	こころとからだの健康科学 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
EM111	医学概論	2	選択	講義	1回生	①②④
EM111	統計学基礎論	2	選択	講義	1回生	⑤⑥⑦
EM112	医療と生命の倫理	2	必修	講義	1回生	①②④
EM211	臨床心理学	2	選択	講義	2回生	①②④
EM211	よそおいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④
EM311	健康心理学	2	選択	講義	3回生	①②④

## (2) 自由科目

### キャリア科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
EM121	キャリア開発講座 II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
EM122	医療事務研究 I	2	選択	演習	1回生	①③⑤
EM122	医療事務研究 II	2	選択	演習	1回生	①③⑤
EM221	キャリアコミュニケーション I	2	選択	演習	2回生	①②④⑦
EM222	キャリアコミュニケーション II	2	選択	演習	2回生	①②④⑦
EM321	キャリア開発研究 I	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥
EM322	キャリア開発研究 V	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦
EM322	キャリア開発研究 VI	2	選択	演習	3回生	①②⑤⑥⑦
EM222	救急救命将来講座 I	1	選択	演習	2回生	①②⑤⑥
EM222	救急救命将来講座 II	1	選択	演習	2回生	①②⑤⑥

## 2. 専門分野

### (1) 必修科目12単位

#### 基礎医学領域

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
EM131	人体の構造と機能演習 I (形態と構造)	2	必修	演習	1回生	①②⑥⑦	①
EM132	人体の構造と機能演習 II (生体の諸器官の働き)	2	必修	演習	1回生	①②⑥⑦	①
EM132	病理学	2	必修	講義	1回生	①②⑥⑦	①
EM132	公衆衛生	2	必修	講義	1回生	①②⑥⑦	①
EM231	生化学・微生物学	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①
EM331	救急救命各論 II (薬物と検査)	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②

## (2) 必修科目60単位

### 救急医学領域

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回数	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
EM141	救急救命学総論Ⅰ（救急救命士の使命）	2	必修	講義	1回生	①②⑥⑦	①②
EM141	救急救命関係法規	2	必修	講義	1回生	①②③⑥⑦	②③
EM143	救急救命見学実習	1	必修	実習・実技	1回生	①②③⑥⑦	②④
EM143	救急救命実習Ⅰ	5	必修	実習・実技	1回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④
EM241	救急疾病Ⅰ（循環系、呼吸系等）	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM242	救急疾病Ⅱ（神経系、消化系等）	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM241	救急病態生理学Ⅰ（循環系、呼吸系等）	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM242	救急病態生理学Ⅱ（神経系、各種ショック等）	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM241	救急外傷医学Ⅰ（外傷総論、頭部・体幹外傷）	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM242	救急外傷医学Ⅱ（運動器外傷、熱傷等）	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM242	救急救命学総論Ⅱ（病院前医療）	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM242	救急救命処置各論Ⅰ（傷病者観察）	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM243	救急救命実習Ⅱ	5	必修	実習・実技	2回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④
EM341	臨床病態学	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM341	救急症候学Ⅰ（胸部疾患、腹部疾患等）	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM341	救急症候学Ⅱ（神経疾患、呼吸器疾患等）	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM341	救急疾病Ⅲ（筋・骨格系、泌尿・生殖系等）	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM342	急性中毒学・環境障害	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM342	小児科学	1	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM342	精神医学	1	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM342	産婦人科学	1	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM342	救急救命災害演習	2	必修	演習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③
EM343	救急救命同乗実習	1	必修	実習・実技	3回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③
EM343	救急救命病院実習	5	必修	実習・実技	3回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③
EM343	救急救命実習Ⅲ	4	必修	実習・実技	3回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④
EM443	救急救命実習Ⅳ	4	必修	実習・実技	4回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④

## (3) 5単位以上選択必修

### 専門関連科目

専門関連科目より5単位以上選択

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回数	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
EM252	救急救命海外実習	1	選択	実習・実技	2回生	②③④⑤⑥⑦	②④
EM252	危機管理論	2	選択	講義	2回生	②③⑤⑥	②④
EM351	公安職研究	2	選択	講義	3回生	②⑤⑥	②④
EM351	救急医学英語	1	選択	演習	3回生	②③④⑤⑥⑦	②④
EM352	医療政策経済論	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥	②④
EM351	公共政策論	2	選択	講義	3回生	②③⑤⑥	②④

## (4) 必修科目4単位+選択必修科目6単位

### 総合演習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回数	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
EM161	アカデミックスキルズⅠ	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦	③④	-
EM262	アカデミックスキルズⅡ	1	必修	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	③④	-

EM362	課題発見演習	2	選択	演習	3回生	②⑤⑥⑦	①②③④	いずれか を選択
EM362	救急救命研究法	2	選択	演習	3回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
EM463	課題研究	4	選択	演習	4回生	②⑤⑥⑦	①②③④	いずれか を選択
EM463	卒業研究	4	選択	演習	4回生	②⑤⑥⑦	①②③④	
EM462	救急救命総合演習	2	必修	演習	4回生	②⑤⑥	①②③	-

## (5) 必修科目6単位

### キャリア開発演習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の 到達目標	学科・コース別の ディプロマ・ポリシー
EM172	救急救命キャリア開発演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥	③
EM271	救急救命キャリア開発演習 II	1	必修	演習	2回生	①②⑤⑥	③
EM371	救急救命キャリア開発演習 III	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥	②③
EM372	救急救命キャリア開発演習 IV	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥	②③
EM372	救急救命キャリア開発演習 V	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥	②③
EM471	救急救命キャリア開発演習 VI	1	必修	演習	4回生	①②⑤⑥⑦	③④

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 救急救命学科

## カリキュラム表

救急救命学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	科目概要 ▶
----------	-------------	--------

健康科学部 ▶
---------

**基礎分野**  
**31単位**  
必修11単位+  
選択必修20単位

**専門分野**  
**93単位**  
必修82単位+  
選択必修11単位

卒業要件  
**124**  
単位

### 基礎分野 必修科目

**11**単位

#### 基礎科目

	単位	回生
教養入門	2	1~
英語 I A	1	1~
英語 I B	1	1~
英語 II A	1	1~
英語 II B	1	1~
地域課題研究	1	1~
情報処理演習 I	1	1~
情報処理演習 II	1	1~

#### 医療と心理

	単位	回生
医療と生命の倫理	2	1~

### 基礎分野 選択必修科目

**20**単位

※の各領域からは各2単位以上の修得必須

#### 基礎科目

	単位	回生
英語 III A	1	2~
英語 III B	1	2~

#### 医療と心理

	単位	回生
こころとからだの健康科学 I	2	1~
こころとからだの健康科学 II	2	1~

英語 IV A	1	2～
英語 IV B	1	2～
日本語表現 I	2	1～
日本語表現 II	2	1～

医学概論	2	1～
統計学基礎論	2	1～
臨床心理学	2	2～
よそおいの心理学	2	2～
健康心理学	2	3～

領域 人間と知の伝達※

【分野】現代の思想

	単位	回生
哲学概論	2	1～
倫理学概論	2	1～
ジェンダー研究	2	1～
心理学概論	2	2～
宗教学概論	2	2～

【分野】メディアと情報

	単位	回生
言語コミュニケーション論	2	1～
現代のメディアと表現	2	1～
情報処理演習 III	1	2～
情報処理演習 IV	1	2～
情報処理演習 V	1	2～
情報処理演習 VI	1	2～
数学演習 I	2	1～
数学演習 II	2	1～

領域 人間と文化※

【分野】外国語と文化理解

	単位	回生
比較文化論	2	1～
芸術と文化	2	1～
異文化コミュニケーション論	2	1～
文化人類学	2	1～
中国語 I	2	1～
中国語 II	2	1～
中国語 III	2	1～
中国語 IV	2	1～
韓国語 I	2	1～
韓国語 II	2	1～
韓国語 III	2	1～
韓国語 IV	2	1～

【分野】歴史・文化

	単位	回生
歴史学入門	2	1～
京都の歴史・文化 I	2	1～
京都講座 I	2	1～
京都講座 II	2	1～

領域 人間と社会※

【分野】法律・行政・政治

	単位	回生
日本国憲法	2	1～
法学概論 I	2	1～
法学概論 II	2	1～
民法	2	2～
行政法	2	2～
政治学概論 I	2	1～
政治学概論 II	2	1～
行政学	2	2～

【分野】経済・経営・社会

	単位	回生
経営学概論	2	1～
会計学概論	2	1～
社会学概論 I	2	1～
社会学概論 II	2	1～
経済学概論 I	2	2～
経済学概論 II	2	2～

領域 人間と自然※

【分野】健康・こころ・からだ

	単位	回生
健康に生きる I	2	1～
健康に生きる II	2	1～
健康に生きる III	2	1～
スポーツコース I	1	1～
スポーツコース II	1	1～
スポーツコース III	1	1～
スポーツコース IV	1	1～

【分野】自然と環境

	単位	回生
物理学基礎	2	1～
化学基礎	2	1～
生物学基礎	2	1～
地球生命論	2	1～
地球環境論	2	1～

## キャリア教育科目群

みなさんの就職のために非常に重要な科目ですので、卒業するための単位を計画的に修得していきながら、キャリア関連科目を受講していただきます。

※ これらの科目は要卒科目には含まれていませんので、卒業に必要な124単位には加算されません。

	単位	回生
キャリア開発講座 II	2	1～
医療事務研究 I	2	1～
医療事務研究 II	2	1～
キャリアコミュニケーション I	2	2～

	単位	回生
キャリアコミュニケーション II	2	2～
キャリア開発研究 I	2	3～
救急救命将来講座 I	1	2～
救急救命将来講座 II	1	2～

	単位	回生
キャリア開発研究 V	2	3～
キャリア開発研究 VI	2	3～

※ キャリア関連科目はこの他にもあります。毎年度の開講科目と内容をシラバス等で確認しながら、受講してください。

## 専門分野 必修科目

82単位

1回生

	単位	開講期
人体の構造と機能演習 I (形態と構造)	2	前

2回生

	単位	開講期
生化学・微生物学	2	前
救急疾病 I (循環系、呼吸系等)	2	前

3回生

	単位	開講期
救急処置各論 II (薬物と検査)	2	前
臨床病態学	2	前

4回生

	単位	開講期
救急救命実習 IV	4	通
救急救命総合演習	2	後

人体の構造と機能演習 II (生体の諸器官の働き)	2	後
病理学	2	後
公衆衛生	2	後
救急救命学総論 I (救急救命士の使命)	2	前
救急救命関係法規	2	前
救急救命見学実習	1	通
救急救命実習 I	5	通
アカデミックスキルズ I	1	前
救急救命キャリア開発演習 I	1	後

救急疾病 II (神経系、消化系等)	2	後
救急病態生理学 I (循環系、呼吸系等)	2	前
救急病態生理学 II (神経系、各種ショック等)	2	後
救急外傷医学 I (外傷総論、頭部・体幹外傷)	2	前
救急外傷医学 II (運動器外傷、熱傷等)	2	後
救急救命学総論 II (病院前医療)	2	後
救急救命各論 I (傷病者観察)	2	後
救急救命実習 II	5	通
アカデミックスキルズ II	1	後
救急救命キャリア開発演習 II	1	前

救急症候学 I (胸部疾患、腹部疾患等)	2	前
救急症候学 II (神経疾患、呼吸器疾患等)	2	前
救急疾病 III (筋・骨格系、泌尿・生殖系等)	2	前
急性中毒学・環境障害	2	後
小児科学	1	後
精神医学	1	後
産婦人科学	1	後
救急救命災害演習	2	後
救急救命同乗実習	1	通
救急救命病院実習	5	通
救急救命実習 III	4	通
救急救命キャリア開発演習 III	1	前
救急救命キャリア開発演習 IV	1	後
救急救命キャリア開発演習 V	1	後

救急救命キャリア開発演習 VI	1	前
-----------------	---	---

## 専門分野 選択必修科目 (キャリア開発演習)

6単位

3回生

	単位	開講期
課題発見演習	2	後
救急救命研究法	2	後

4回生

	単位	開講期
課題研究	4	通
卒業研究	4	通

## 専門分野 選択必修科目 (専門関連科目)

5単位

2回生

	単位	開講期
救急救命海外実習	1	後
危機管理論	2	後

3回生

	単位	開講期
公安職研究	2	前
救急医学英語	1	前
医療政策経済論	2	後
公共政策論	2	前

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 救急救命学科

# 科目概要

救急救命学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	カリキュラム表 ▶
健康科学部 ▶		

▼ 基礎分野    ▼ 専門分野

## 基礎分野

### 基礎科目

#### 教養入門

初めて大学での教養教育を学ぶ学生を対象として、教養とは何か、教養教育の意義、本学における教養教育の特徴などを講じ、受講生の動機付けとマッピングを行う。

#### 地域課題研究

地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、地域で実践的に学び、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。京都市・特に山科地区や大津市地区はどのような災害があり、それがどのように伝えられているのか、統計情報を用いると山科・大津地区にどのような特徴を見出すことができるのか、山科・大津地区で在住在勤の人々は何を課題と考えているのか、などをテーマに、グループ学習を行う。

#### 英語 I A

基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

#### 英語 I B

平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

#### 英語 II A

スキミング、スキヤニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要なリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

#### 英語 II B

効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見をプレゼンテーションできる能力を向上させることをめざす。

#### 英語 III A

#### 英語 III B

#### 英語 IV A

TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行いながら英語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

#### 英語 IV B

さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につくようにしたい。

#### 日本語表現 I

大学での学修活動に必要なアカデミック・スキルとしての基本的な日本語運用能力の獲得をめざす。まずは、「話す」ことを中心にコミュニケーションの基礎を学ぶとともに、原稿用紙の使い方や履歴書の作成など、大学生活で役立つ実用的な「書く」能力も身につける。

#### 日本語表現 II

スタディ・スキルとして、最低限必要とされる読解力や文章作成能力の修得をめざす。高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高める。

#### 情報処理演習 I

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

#### 情報処理演習 II

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

### 人間と知の伝達

#### 【現代の思想】

##### 哲学概論

哲学はさまざまな学問の基礎だと言われている。それは、例えば数学が数を扱い、生物学が生命現象を扱うのに対して、哲学の対象が思考そのものにあるからである。哲学は言わば、物事を根本的に突き詰めて考えようとする一つの態度・スタイルを意味している。本講義の目的は、問題に取り組む際の態度としての哲学的な思考のスタイルを身につけてもらうことにある。講義のなかでは、さまざまな哲学者の思考の道筋をだどることを通して、実際に哲学することの意義を学ぶ。

##### 倫理学概論

家族関係や市民社会、国家のそれぞれのレベルで人権の状況を確認しながら、あるべき家族関係や市民関係、国家像を考察すると同時に、生命倫理や環境倫理など新しい倫理を考える。

##### ジェンダー研究

ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点をを用いて今日的な課題を考える。この講義により、ジェンダーに関する基本的な概念を理解するとともに、ジェンダーの視点をを用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目標とする。

##### 心理学概論

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、社会においても「こころ」を抜きにして考えることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心をもつ人は多いが、誤解され

##### 宗教学概論

宗教を正しく理解するための必要な基礎知識を習得しながら、人間社会にとって宗教が果たす重要な役割とその意義について考える。具体的には、客観的で科学的な立場にたって、宗教の

ることや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を正確に学ぶことを目的とする。生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基本的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

歴史を概観し、有神論と無神論、創唱宗教と自然宗教といった分類のしかたなどを考察する。

#### 【メディアと情報】

##### 言語コミュニケーション論

日本語と英語によるコミュニケーションの比較を通して、その違いや特徴を学ぶ。コミュニケーションとは何かという問題から始めて、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題を扱う。さらに、言語コミュニケーションの比較を翻訳や通訳という観点からも検討する。なお、言語によるコミュニケーションとの関わりにおいて、若干、言語以外によるコミュニケーションにも触れ、日英語それぞれの言語コミュニケーションの特質とどう関わるかも検討する。

##### 現代のメディアと表現

今日、日本のメディア・コンテンツが世界的な文化として高く評価されつつあることは言うまでもない。その理由はいくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現しえていることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、日本の映像メディアは今や担っている。このような観点に立って、日本の映像文化、特にアニメーションを分析、評価するのがこの講義の目標である。特に宮崎駿の創作活動に焦点を絞って、講義を進めていく。

##### 情報処理演習 III

企業の実務において、PCを使用したデータの集計処理能力、業務データのグラフ分析やデータベース分析能力、またネットワークの利活用による情報収集や情報発信の実務能力を養成するため、表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の習得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身に付ける。

##### 情報処理演習 IV

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に、使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

##### 情報処理演習 V

企業の実務において、PCを使用したビジネス文書作成能力やネットワークの利活用による事務能力や情報収集、発信能力が大変重要な能力として求められており、この授業では、現在、ワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の習得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身に付ける。

##### 情報処理演習 VI

ホームページは情報を発信するための1つの手段となっているが、インターネットのホームページは、HTMLという言語により作成されている。講義ではHTMLによりホームページを記述する基礎技術とWebメディアのマルチメディア表現の技術を修得する。HTMLによる「表現の可能性」と「楽しさ、面白さ」を追求しながら授業を進めていく。

##### 数学演習 I

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。数と計算・図形の初歩から学び、さまざまな応用問題が解けるようにする。ピタゴラスの定理と無理数、1次・連立・2次方程式、因数分解、1次・2次関数とグラフなどを主なテーマとする。

##### 数学演習 II

数学的思考、数理的思考を身につける。1次関数、2次関数、関数とグラフ、図形と方程式、図形の性質・面積（ヘロンの公式）などをテーマとして、日常生活との接点を探りつつ、基本的な概念、典型的な問題の解法、実生活への応用を教授する。

#### 人間と文化

#### 【外国語と文化理解】

##### 比較文化論

##### 芸術と文化

##### 異文化コミュニケーション論

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになったら—これがこの授業の最大の目標である。世界で起こっているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考えることを通して、さまざまな文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを体得してほしいと思う。

芸術（アーツ）と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまに試みられている芸術表現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接触場面において生じる誤解や衝突、相互理解の困難さといったことをイメージしやすいが、異文化という概念の射程はそこにとどまるものではない。男女の考え方のずれ、世代間の意見の対立といったものも、広い意味では、お互いの文化背景の無理解によって生じるものである。他者を、自分とは異なる文化背景をもつ存在として認め、積極的に理解しようとすることによって立ち上がる、他者との間に関係性（つながり）を生みだす行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

### 文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説する。その上で、アジアのなかでも、ブータンを中心に、そこに住む人々の生活観・価値観を学びながら、異文化に対する理解を深めていく。

### 中国語 I

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

### 中国語 II

中国語のさまざまな基本短文を作ることができるよう、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

### 中国語 III

中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることをめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的事件、食べ物、祝日などを題材にする。

### 中国語 IV

基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができることをめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

### 韓国語 I

初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

### 韓国語 II

韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法+会話+講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話力を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習する。また、韓国の文化に関わるものを講読のテキストとし、韓国の文化に親しむ。

### 韓国語 III

会話+講読+聴解力+作文に重点を置く。韓国語 I・II で学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ができるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

### 韓国語 IV

韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話+スピーチができることを目的とし、学生たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

## 【歴史・文化】

### 歴史学入門

歴史学の考え方を理解する。前半は、日本史分野の教員が、後半は世界史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究ス

### 京都の歴史・文化 I

京の都は、中国・唐の都城にならって建設されたが、都への軍団の駐屯は視野に入れずに計画された都市であった。文字通り、「平安京」の

### 京都講座 I

テーマは「埋もれた京都の地下遺産を探る」である。考古学的手法を用いて、本学の足下にある京都の歴史遺産に焦点をあて、触れ、理解し

キルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介する。

名が相応しい都－京都で繰り広げられた歴史と、その歴史の展開のなかで残された歴史遺産はどのようなものであったのか、古代から幕末までの都の様相の変遷とその要因を、主として政治史・経済史・都市史・民衆史・女性史の観点から捉え直してみる。

て、京都での学びをより深める視点を養う。条坊制に基づく平安京、平安宮の遺跡と遺物、東寺・西寺跡、羅城門と朱雀大路、平安京左京の変遷、近世以降の平安京の様子を説明し、市街地での観察方法を伝授する。

## 京都講座 II

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

## 人間と社会

### 【法律・行政・政治】

#### 日本国憲法

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処するために必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につける。また、これを理解するために必要な基本的知識を身につけることを目標とする。授業では、日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

#### 法学概論 I

法学概論 I では、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていき、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

#### 法学概論 II

法学概論 II では、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初歩的な応用力を身につける。

#### 民法

民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会生活そのものを広範に対象とする学問である。本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主要な法原則、法制度、法概念を理解するとともに、その基礎的知識を獲得することを目的としている。また、具体的な事例や裁判例を用いながら、民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにすることで、法的な問題発見能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を可能にする。特に、財産法の分野の解説に重点

#### 行政法

憲法をベースとしつつ、行政と国民の法的関係を理解して国法における行政権のあり方を検討する。法文の基本を勉強したあと、国家と国民との関係についての基本的論理構成に続き、行政行為をはじめとする行政活動の諸形式ごとに、両者の法関係の内容的検討を行い、市民生活の法とは異なる行政法の特異性を学ぶ。そのため、身近な事例を例示しつつ、民法や刑法などとの関係を理解するために、もし、裁判員になったとしたらどうしたらいい

#### 政治学概論 I

政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によ

を置くが、家族法の分野についても一通り概観しておく。

かを映像を交えて学修したり、国の機関のうち、興味のある省庁を自分で調べたりすることとする。

って、政治に関する情報・言説を知るソーシャルメディア利用法などにも言及する。

## 政治学概論 II

具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家はいかに描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

## 行政学

行政システムについて、府省庁組織や中央地方関係、政府と市場、組織と管理などのテーマから行政システムの活動とその結果の全体をとらえる。省庁再編・政策評価の導入や地方分権改革などにも触れる。

## 【経済・経営・社会】

### 経営学概論

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まず会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

### 会計学概論

目標：企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。内容：企業経営のプロセスを、資金の流れとして学ぶ。さらに、付加価値の形成、市場における価値の創造、収益の分配、および、稼働利益の意義を体系的に考察することによって、企業経営の本質を理解する。また、この学習を、複式簿記のシステム（簿記一巡の手続き）の理解と連動して行う。したがって、他人資本（負債）、自己資本（純資産）、資産、費用、収益という5つのグループの経営プロセス上での役割についても、それぞれのグループ内の勘定科目のレベルにまで、一定程度深化させて理解する。簿記システムの基礎的理解をめざし、簿記一巡の手続きについて学ぶ。

### 社会学概論 I

社会学概論 I では、自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

### 社会学概論 II

社会学概論 II では、社会学概論 I での基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会的想像力の定着をめざす。

### 経済学概論 I

現代日本経済における諸問題を学ぶことによって、経済学への導入を図る。具体的には、まずバブル経済とその崩壊による平成不況の深刻化の課程を「不良債権処理の10年」として概観する。次に、ケーススタディとして、日本長期信用銀行の破綻、山一証券の自主廃業について検討する。そして、女性労働として雇用機会均等法と育児支援を取り上げるとともに、労働問題として過労死・過労自殺、ホームレス、派遣労働、ネットカフェ難民、派遣村などを取り上

### 経済学概論 II

戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでを、映像資料を活用してイメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

げる。これらの諸問題を、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

## 人間と自然

### 【健康・こころ・からだ】

#### 健康に生きる I

健康とは何かを学び、大学生生活およびその後の生活を健康で過ごすための方法を学ぶ。

#### 健康に生きる II

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。健康と栄養の関連を理解するとともに、食の安全性を理解し、健康増進に役立て、健康的な食生活を志向する。

#### 健康に生きる III

個人の「健康」について精神的な側面（メンタルヘルス）を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されているさまざまなメンタルヘルスの理論や、その歴史的な発展について講義し、現代人が健康に生活する上でのメンタルヘルスの重要性の理解を促す。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされるさまざまな理論・技法についても概観する。また、メンタルヘルスが個人の全般的な健康に資する役割についても言及する。

#### スポーツコース I

ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図り、またスポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

#### スポーツコース II

Iに引き続き、ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として、さらに基礎体力と技術のスキルアップを図る。またあわせて、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

#### スポーツコース III

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バレーボール、バスケットボール両種目の基本的な技術や知識を学習するとともに、全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。

#### スポーツコース IV

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バドミントンと卓球の基本的な技術練習とルールの理解から始め、シングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

### 【自然と環境】

#### 物理学基礎

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考えるうえで基礎的な学問となる。本科目では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などの基本的な原理について正しい理解を得るとともに、日常的に目にする現象を物理学的に理解し説明する力を身につ

#### 化学基礎

生活の中にある物質や現象を、化学的なもの見方や考え方で捉え、理解できるように基礎概念を解説する。原子の構造と結合、分子の形、物質の形態、溶液、化学反応などについて正しい理解を得るとともに、日常的に目にする物質や現象および、化学が身近に応用されているこ

#### 生物学基礎

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命科学、および関連する諸問題について概説する。生命現象を理解するために、細胞の構造と役割、細胞を構成する物質、エネルギー、遺伝学、DNA、発生と老化、脳の構造などから、食と健康、がん、感染と免疫などについても解

ける。また、物理学が身近なものに应用されていることを理解し、物理学の原理とその意義について見識を深める。例えば、身近な家庭用機器や医療機器（電子レンジ、健康維持器具、AED、MRI等）などに应用されている電磁気現象の原理などを理解する。

### 地球生命論

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解する。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造、土壌層位、遺構面と遺構埋土の特徴などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて概観する。

とを理解し説明する力を身につける。例えば、日常生活に関わる化学物質、例えば石油や原子力などのエネルギー源、金属やプラスチックなどの材料、薬品、医療品などについて触れ、応用されている原理とその意義を理解する。

### 地球環境論

環境問題は、今や誰にとっても避けて通ることのできない重要な課題である。この授業は、環境問題を、自然科学的アプローチ、社会科学的アプローチ、哲学的アプローチを総合的に駆使しつつ考察する。環境問題の複雑さ、議論の道筋、論点などをわかりやすく講義する。

説し、正しい理解を促進する。さらに、生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、生物学的な諸問題を正しく理解するため、遺伝子組換え生物や再生医療、生態系と環境問題までの最新のトピックを交えて解説する。

## 医療と心理

### こころとからだの健康科学 I

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

### こころとからだの健康科学 II

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

### 医学概論

人類の歴史は「病いととの戦い」の歴史であるともいえる。例えば、伝染病との戦いはペストや天然痘には勝利したものの、エイズやインフルエンザといった新たな敵との戦いが引き起こされている。人類の生存をかけた戦いのなかで医学は生まれ、発展してきた。さらに、ライフスタイルの変化、人口の少子高齢化等の社会情勢の変化は生活習慣病などの新たな「病い」の発生の素地となっている。医学は新たな姿の敵との戦いを迎えている。こうした医学の歴史を振り返りながら、「医学の過去、現在、未来」について講義する。

### 統計学基礎論

この科目では統計学そのものについて学ぶのではなく、統計法を利用して各分野（保健衛生学や心理学、教育学など）の研究を進める方法を学ぶことを目的とする。授業を通じて統計学の基礎を学び、身近なデータを読み取る力をつけ、また実際に受講生自身が研究を行う上で知識を活用できるよう、実践的な能力を身につけることをめざす。

### 医療と生命の倫理

生命倫理学の基本原則を正しく理解し、現代の医療における倫理的諸問題を学ぶ。まず、患者の自律の尊重という生命倫理学の基本原則と、これを達成するために不可欠なインフォームド・コンセントの原理について説明する。その後に、①出生前診断、人工妊娠中絶、生殖補助医療など人間の誕生にまつわる諸問題、②ターミナルケア、安楽死と尊厳死など人間の死にまつわる諸問題、③遺伝子診断と遺伝子治療、

### よそおいの心理学

人間の外見と心の関係を探究することをテーマとする。社会心理学・感情心理学の分野から始まった「化粧の心理的効果」の研究は、粧うことによって快感情・高揚感をもたらし、積極的な対他者行動を促すことによって、コミュニケーションを活性化することを実証し、化粧が心の健康に貢献していることを見いだした。また、この化粧の効用は、医療や福祉の現場で効果をあげており、臨床心理学的な考察も試みら

再生医療など先端医療、④医療情報の保護について教授する。

れている。本講義では、基礎的な研究を概説し、さらにさまざまな臨床的実践活動について紹介する。

### 健康心理学

心身の健康の維持増進や疾病の予防について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを心理学的な側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄について理解する。

### キャリア科目

#### キャリア開発基礎講座

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。獲得目標として、コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成をめざす。就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で修得することをめざす。

#### 医療事務研究 I

病院の組織、業務、使命、各種の医療保険制度について解説の上、保険請求事務のしくみについて具体的に治療代を算定しながら学び、病院での医療事務の実際を知る。初診料や再診料、医学管理、在宅医療をはじめ、投薬・注射・処置・手術・輸血・麻酔などの病院の営みと医療事務者の業務との関連性および必要な知識について教授する。

#### 医療事務研究 II

医療事務研究 I にて治療基準による算定方法およびカルテ記載上の治療内容を外来レセプト（診療報酬明細書）に置き換える技能を習得する。医療事務研究 II では、現在医療社会で行われる治療行為全域について学習を進め、老人医療・公費負担医療からのレセプト演習、入院カルテからの入院レセプト演習を行う。また、良質な患者サービスの提供を重視する医療界の変化に対応し、患者接遇・院内コミュニケーションに関する知識・技能についても学習を進める。

#### キャリアコミュニケーション I

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションのための話しことばの修得を目的とする。話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術、人間関係を円滑にするための敬語表現のスキル、パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方、正しい日本語の運用についての知識等の修得を、講義とワーク、トレーニングにより身につける。

#### キャリアコミュニケーション II

社会人基礎力（コミュニケーション能力）を体得し、社会人としての準備を行う。適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキル、問題発見解決型人材を念頭においた社会が求めるヒューマンスキルなどの獲得をめざす。講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生まれることを理解し、効果的な自己アピールの修得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを修得する。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力（コミュニケーション力・自己アピール力）などのヒューマンスキルを身につけることをめざす。

#### キャリア開発研究 I

警察官・消防官など公務員に求められる専門知識の獲得と自らの職業観の育成・開発のために、各職種の仕事内容について講義や講演を通して学ぶ。公務員の一形態としての公安職の特徴と、求められる知識や能力について学び、警察官・消防官・自衛官など具体的な職種の業務について、現役者の講演などを通じて深く理解する。

#### キャリア開発研究 V

公務員の教養試験知能分野（数的推理・判断推理）および知識分野（社会科学）のための基礎学力の育成のため、該当分野に関して典型的な

#### キャリア開発研究 VI

時事問題を理解するために必要な基礎知識を身につけ、主体的に世の中の現状を考える力を育成する。公務員試験に出題されそうな時事問題

#### 救急救命将来講座 I

救急救命士の主な就業先である公務員試験の受験を見すえた演習を集中的に行う。それにより文章理解や数的処理などの一般教養、自然科

問題を中心に解法解説と問題演習を行う。社会科学については、政治学・法学分野を網羅的に学習する。この他にも、論文や面接に係る基礎学習および演習を行う。

を中心に、その問題の背景を解説する。各自で時事問題についての事前学習をし、その時事問題を題材に集団討論・小論文・面接の演習を行う。

学、人文科学、法律、経済、政治など幅広い知識の修得と定着を図り、3年次以降の学修の基礎とする。学習を通じて、社会人としての教養はもとより、論理的思考力やコミュニケーション能力を身につける。具体的には、人文・社会分野において、政治と経済を中心とした領域の知識を学び、実際の公務員試験に出題される問題を演習する。また、数的処理分野においては、判断推理と数的推理を中心とした領域の論理的思考を学び、実際の公務員試験に出題される問題を演習する。

## 救急救命将来講座 II

「救急救命将来講座 I」における学習を基礎として、救急救命士の主な就業先である公務員試験の受験を見すえた発展的な演習を集中的に行う。それにより、文章理解や数的処理などの一般教養、自然科学、人文科学、法律、経済、政治など幅広い知識の修得と定着を図り、3年次以降の学修の基礎とする。また、この学習を通じて、社会人としての教養はもとより、論理的思考力やコミュニケーション能力も身につける。具体的には、数的処理分野において数的推理と判断推理を中心とした領域、人文・社会分野において政治、経済、社会を中心とした領域に関して、それぞれ発展的分野を取り扱う。

## 専門分野

### 基礎医学領域

#### 人体の構造と機能演習 I（形態と構造）

医療分野における技術と専門知識を修得するために最も基礎となる人体を構成する正常な諸臓器の位置や形状、相互関係および内部構造について、演習形式で学習を展開する。人体の構造に関する学問は、観察方法により、肉眼解剖学、光学顕微鏡による組織学、電子顕微鏡による細胞学、および発生学の4つに区分され、それぞれが膨大な内容であるため、この授業では将来の臨床科学を担う実践者として必要な基礎知識に重点をおいて教授する。

#### 人体の構造と機能演習 II（生体の諸器官の働き）

生命現象を主に機能的側面から演習形式を取り入れて教授する。授業では、人体の生体システムについて恒常性の維持や体組成、細胞などの視点から概説するとともに、呼吸器系、循環器系、消化器系などの臓器ごと、また血液・免疫系、神経系などについて、人体の正常な生理的機能に関する理解を深める。さらに、異常状態である病態生理についても解説する。

#### 病理学

病理学とは、病気がどうして起こり、その結果人の体組織がどう変化しているのかを、追究する学問である。本講義では、疾病の原因、経過、結果などについて概説し、正常状態との比較において病的状態について理解を深める。総論で全体的な視野から疾患の概念や仕組みを理解し、各論ではそれが各臓器・組織でどのような形態学的変化として現れるのかを教授する。

#### 公衆衛生

保健衛生の現況の把握と諸課題を理解する。本講義では、多くの要因から成る健康の成り立ちを生活レベルから理解し、人々の健康生活の保持や増進、疾病の予防、医療・福祉のために考

#### 生化学・微生物学

生命現象を分子から解明する生化学分野では、健康を分子レベルで捉え、その維持と増進を図り栄養の役割を理解する上で必須の知識を講義する。タンパク質、糖質、脂質などの生体構成

#### 救急救命各論 II（薬物と検査）

救急救命士が傷病者へ投与可能な薬剤に関して必要な知識について理解を深める。薬剤投与に必要な基礎知識および薬物の作用、吸収・代謝・排泄、薬剤の投与経路と方法などについて

え、行動できる基礎を養う。公衆衛生学は極めて包括的、学際的かつ集学的な学問体系であるため、関連した諸科学の学習が重要である。また、公衆衛生学には医学・医療の社会的適用という側面があるため、日常的に総合性、社会性、現実性、即時性を養うよう指導を行う。

成分の構造と機能を説明し、生体内で起こる化学変化とエネルギー変換である代謝について理解を深める。また、微生物学分野では、通常肉眼では見えない微少かつ単純な生物である微生物の性質や機能を概説した後、感染症の発生機構とその予防、治療に関する基本的な知識を教授する。

教授する。また、臨床検査に関わる多様な検査の種類について、その目的と方法について概説するとともに、胃機能検査、生理検査、感染症検査、および胸痛や中毒に係る臨床検査などの具体的検査について講義する。さらに、放射線とその障害についても解説する。

## 救急医学領域

### 救急救命学総論 I (救急救命士の使命)

救急救命士の業務遂行には、その社会的使命の理解や救急医療制度の理解、そして救急医学を中心とした医学全般の知識が必要となる。本講義では、救急救命の歴史や現代の救急医療について概観し、救急救命士の業務を担保する科学的思考の基礎知識や人間の体、心、暮らしへの理解を深める。さらに、救急救命士の行う応急処置と種類、代表的な処置としての心肺蘇生法までを教授し、一連の講義を通して、職業としての救急救命士の具体的なイメージを持てるようにする。

### 救急救命関係法規

まず、法の基礎知識をしっかりと学ぶ。具体的には、法の定義、法と道德の関係、法源論、法の解釈、法の分類、法の効力、裁判所の組織などを学ぶ。その後、個別の法領域に入り、救急救命士法、医師法、保健師助産師看護師法、医療法、その他の法令の理解を深める。また、将来、救急救命士の資格を活かすためには、消防に入り消防吏員などになる必要があるため、消防法、地方公務員法、国家賠償法などについても学習する。

### 救急救命見学実習

救急救命士としての視野を広げ、実践力を養うため、救急救命機関としての消防機関や医療機関などで見学を中心とした実習を行う。救急救命に関わる各機関の組織や機能などさまざまな観点から理解を深め、救急救命活動を学ぶことで、より高度な実践力を身につける意識や態度を醸成する。

### 救急救命実習 I

一次救命処置の理論と基本的実技、および傷病者観察用資器材を用いた救急救命処置等の理論・技術について具体的な実習を通じて習得する。実習では、聴診器、血圧計・パルスオキシメータ、心電図モニター、呼吸管理用資器材などの取り扱い要領や測定法を教授する。また、近隣地域の介護保険施設の協力のもと、医療人としての自覚や対人対応力、コミュニケーション能力を涵養するためにコミュニケーション実習を実施する。

### 救急疾病 I (循環系、呼吸系等)

循環器系、呼吸器系などの救急疾病について主な疾患を取り上げて、その特徴と応急処置などを学ぶ。循環器系は、心不全、虚血性疾患、不整脈、先天性心疾患、心筋疾患などを取り上げ、その特徴と応急処置を解説する。また、呼吸器系は、呼吸不全、呼吸器感染症、気管支喘息、肺炎、肺血管疾患、その他の疾患の病態、診断、処置などを教授する。さらに、内分泌系・代謝系の病態・病態生理、症状、悪化防止、生命の危険回避をするために必要な救急処置の知識・技能、観察の方法と意義(重傷度、全身・局所の観察、各種病状の観察)、検査なども教授する。

### 救急疾病 II (神経系、消化系等)

中枢神経の感染症や疾患、末梢神経に関する疾患などを教授する。また、消化器系の疾患に係る症候、すなわち腹痛、吐下血、血尿、嘔吐・下痢、歯痛などの観察と判断および処置の知識を教授する。さらに病態・病態生理、症状、悪化防止、生命の危険回避をするために必要な救急処置の知識・技能、観察の方法と意義(重傷度、全身・局所の観察、各種病状の観察)、検査などについて教授する。加えて、造血器、末梢血の解剖生理と血液疾患についても理解を深めるほか、感染症についても説明する。

### 救急病態生理学 I (循環系、呼吸系等)

病態生理学とは、人体の器官などが異常や不全を起こすことによって起こる生体機能の変化に着目する医学領域である。本講義では、循環器系および呼吸器系の疾患を中心に、その構造と機能、観察と診断法、疾患に応じた症状の特徴、さらに応急処置と搬送法について教授する。また関連して、呼吸困難、喀血、発熱、胸痛、動悸・不整脈などの症候や、高齢者に特有の疾患についても、その原因と病態、観察・判断応急処置と搬送までを講義する。

### 救急病態生理学 II (神経系、各種ショック等)

「救急病態生理学 I」に引き続き、生体機能の変化に着目して各種疾患等について教授する。本講義では、前半に神経系の重症病態、後半に各種ショックについて取り上げる。重症病態および各種ショックでは、関連臓器の構造と機能、観察と診断法、症状の特徴、応急処置および搬送法について教授する。

### 救急外傷医学 I (外傷総論、頭部・体幹外傷)

救急医療のうち、特に外傷救急医学について教授する。外傷とは機械的外力により身体が形態的、機能的に障害を被ることを言うが、損傷の種類や緊急度の評価により適切な処置を施す必要がある。そのために本講義では、外傷を引き起こす原因・メカニズム(受傷機転)を教授するとともに、複数以上の部位に一定以上の重症度を有する外傷(多発外傷)の特徴や病態・

症状およびその観察や応急処置などについて理解を深める。

### 救急外傷医学 II (運動器外傷、熱傷等)

「救急外傷学 I」に引き続き、救急医療のうち、特に外傷救急医学について教授する。本講義では、骨盤、四肢、軟部組織の外傷について、病態生理と観察と判断法を教授する。また、外傷の形態や外傷に対する反応において成人と異なる小児・高齢者・妊婦の外傷の特徴にも言及する。熱傷、化学損傷、電撃傷、縊頸、刺咬症など特殊な損傷の発生機序と病態、さらにそれぞれの外傷の特徴について理解を深める。

### 救急救命学総論 II (病院前医療)

救急医療においては、医療機関での受診を待たず、少しでも発症時にさかのぼって医療が開始されなければならない。また、救急現場での観察・応急処置と病院内での診断治療が、一貫して傷病者に提供される救急医療体制をつくる必要がある。このようなプレホスピタルケアの中心的な担い手である消防隊員としての救急救命士の役割と責務について教授する。さらに、病院前救護の質を管理する事後検証についても概説する。加えて、通常の救急医療体制での対応が困難となる災害発生時の、組織的な救命救急医療について理解を深める。

### 救急処置各論 I (傷病者観察)

救急救命士として必要な傷病者観察について、観察の方法などを習得し、観察所見から考える病態、病状を理解することにより、救急現場での傷病判断の基礎を身につける。具体的には、外見や呼吸、循環、神経などの全身状態の観察、皮膚や頭部・顔面・頸部、胸部、腹部、四肢など局所の観察の方法に加え、パルスオキシメータや聴診器、血圧計などの資器材による観察の方法についても教授する。

### 救急救命実習 II

救急救命士として職務遂行にあたり、1年次に習得した基本行動要領を基礎とした救急救命行為を用いた救急隊活動を行うために必要な基本処置および技術を理解し習得する。具体的には、CPA対応活動や基本外傷処置についてさらに理解を深めた上で、想定シナリオに基づいた実習を行う。また、救急救命士の業務拡大に伴う静脈路確保や気管挿管に関して、基本手技を身につける。さらに、4年生との合同実習により、身につけるべき技術水準を確認するとともに、「救急救命実習 I」に引き続き、介護老人保健施設でのコミュニケーション実習を実施する。

### 臨床病態学

これまでに学んだ救急医学に関する知識をもとに、さらに発展的な救急疾患・外傷などにおける病態の理解を促進する。この講義では、学会などから発出されている関連した最新の診療ガイドラインや指針、論文類を取り上げ、教科書にない新たな救急に関する内容について学習する。さらに、新たに出された消防庁や厚生労働省からの通達などについても学習を深める。

### 救急症候学 I (胸部疾患、腹部疾患等)

プレホスピタルの主体は観察・判断・処置で構成されているが、本講義では、胸部疾患に関して、様々な症候に関して教授する。特に傷病者観察、鑑別診断学の領域について教授し、この分野の実践能力向上のために、判断・処置の知識の整理を行い、理解を深める。胸部の疾患について、胸痛・動悸・不整脈などに係る症候と心肺停止との関係、その観察と判断および処置の知識を教授する。腹部疾患においては、腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温上昇などの観察と判断および処置の知識を教授する。あわせて一般的な体温上昇の観察と判断や、在宅療法中の傷病者の処置に関する知識も教授する。

### 救急症候学 II

#### (神経疾患、呼吸器疾患等)

「救急症候学 I」に引き続き、本講義では神経疾患・呼吸器疾患における様々な症候に関して教授する。特に傷病者観察、鑑別診断学の領域について教授し、この分野の実践能力向上のために、判断・処置の知識の整理を行い、理解を深める。神経疾患においては、意識障害・頭痛・痙攣・運動麻痺・めまいなどの症候を取り上げる。また、呼吸器疾患においては呼吸困難・喀血を取り上げる。

### 救急疾病 III (筋・骨格系、泌尿・生殖系等)

「救急疾病 I・II」に引き続いて、筋・骨格系、泌尿・生殖系に加え、感覚器系、皮膚系等について教授する。これらの各系の主な救急疾患を取り上げて、その特徴と症候、応急処置などを学ぶ。具体的に、筋・骨格系では急性腰痛症、椎間板ヘルニア、横紋筋融解症などを、泌尿・生殖系では急性・慢性腎不全、尿路結石症、子宮筋腫、精索捻転症などを、感覚器系では急性緑内障発作、メニエール病、急性副鼻腔炎などを、皮膚系では壊死性筋膜炎、重症薬疹などを取り上げる。それらに加えて、高齢者に特有な疾患についても教授する。

### 急性中毒学・環境障害

急性中毒、および温度異常、圧力などによる損傷など環境により人体に影響を与える救急の病態について理解を深める。また、放射線についての基礎知識を概説するとともに、放射線事故による放射線被曝と障害について説明し、その対応について教授する。

### 小児科学

### 精神医学

### 産婦人科学

小児は成人を単に小型化したものではない。その生理は成人と大きく異なっている。小児とは人の一生のなかで成長と発達を続けている時期にあるものを言う。小児は出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期に分類されているので、それぞれの疾病について概説する。

近年精神科医療と福祉は、新規抗精神病薬の開発、入院中心から地域生活への転換等により大きな転換点を迎えている。精神障害がメディアで報じられることも多く、障害に対するタブー視も減じているが、一方で差別・偏見が根強く社会に残されているのも現状である。本講義では、基本的な精神疾患の病理、診断、治療、リハビリテーションについて概説するとともに、専門職をめざす者として精神障害者を全人的に理解することに主眼をおく。特に精神科救急、災害現場で遭遇する疾患、病態について理解を深める。

救急救命士に必要な臨床産科学および婦人科学を教授する。具体的には、妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児・新生児の正常な状態と病態を学ぶ。また、救急搬送時に必要となる病歴の聴取方法、観察項目・方法、対処方法について理解を深める。その上で、医療機関の選定や搬送時に注意すべき事項などについても教授する。

### 救急救命災害演習

頻発する日本や外国の自然災害や局地的災害を事例として、発災直後からの行動と避難所での活動を効果的・効率的に実践可能にするために災害対応における知識と共通の言語・概念の組織的な対応を演習や実習を取り入れて学ぶ。CSCA-TTTを理解し、説明・実践できるようにする。また、被災者の生命と健康の維持、災害発生直後からの被災地内での災害対応能力向上を体得させる。

### 救急救命同乗実習

近隣地域の消防署の協力の下、消防機関の救急活動に参加、救急自動車に同乗し、実習を行う。具体的には出勤、現場活動、搬送、医療機関引き継ぎまでの総合的な実習を行う。また、救急自動車内で各種救急事故における対応（活動）要領についての技術を体得させる。

### 救急救命病院実習

救急救命士としての実践力を高めるためには、医療の現場を正しく理解し、実際の患者に接しながら、病状、病態等について医師やコ・メディカルスタッフから具体的指導を受け、観察・判断能力を高めることが必要である。このため、近隣地域の病院の協力を得て、病院での実習を行う。

### 救急救命実習 III

「救急救命実習 I・II」で学修した一次救命処置・搬送法、救急資器材の取り扱いなどの実践と理論を統合し、各種プロトコールに則った救急救命処置要領、救急現場活動の活動要領、各部位別病態別症例での観察・処置等の対応を段階的シミュレーションにより実施し、総合的な実践力を身につける。前期は静脈路確保、薬剤投与、気道確保、気管挿管、CPA、病院内でのCPAなどへの対応、後期は胸痛、腰背部痛、呼吸困難、神経感覚系、頭蓋内病変、意識消失などの病態別対応について、実習を通して理解していく。

### 救急救命実習 IV

これまでの各実習を通して学修した救急救命活動実践を総括し、救急救命士としての自覚を確かなものとする。また、各種高度シミュレーターを用いて、さまざまな現場を想定した実践的な実習により、救急救命士としての総合的な観察・処置技術を習得するとともに、一連の救急救命活動を自律的に遂行できる総合的な実践力を養う。具体的には、心肺停止、神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿・生殖系、外傷、精神障害・中毒、環境障害、分娩・産婦人科系、内分泌・代謝系、意識消失といった症例対応のシミュレーション実習を実施し、さらに終盤には総合シミュレーションを実施する。

## 専門関連科目

### 救急救命海外実習

救急救命士としての視野を広げ、実践力を養うため、海外の消防（救急）の実際を視察するとともに、現地のパラメディックスクールでの講義履修などにより技術の習得を行う。日本の救急救命機関での事前学習を行い、海外の救急救命事情について日本との比較の観点から理解を

### 危機管理論

頻発する日本や外国の自然災害を事例として、予想外の様々な要因による危機への組織的な対応を学ぶ。危機管理のプロセスと体制を、災害対策基本法を例に学習し、自然災害への対応を基礎としながら、どのような要因による危機にも対応できる危機管理体制とは何かについて考える。

### 公安職研究

消防官・警察官・海上保安官・自衛官などの公安系の公務員に求められる専門知識の獲得と自らの職業観の育成・開発のために、各職種の仕事内容について講義や講演を通して学ぶ。公務員の一形態としての公安職の特徴と、公安職に求められる知識や能力について講義を通じて学ぶとともに、消防官・警察官・海上保安官・自

深め、先進地の救急救命活動に学ぶことで、より高度な実践力を身につける。

### 救急医学英語

わが国を訪れる外国人が増加している。また、災害対応などにより海外へ派遣される機会も想定される。この授業では、災害・救急医療などで必要な英語の習得を目標にしつつ、まずは人体の構造・機能や疾患に関する平易な英語の文章を理解できるようにする。また、後半は英語による医学文献の読解力を養う。これにより、救急・災害現場で活用できる英語、および大学院進学をめざすための英語の基礎的力を養成する。

### 医療政策経済論

医療経済学の基本的な考え方を学習する。まず、社会における医療経済思想の展開に関して、健康の価値試算および公衆衛生と保健投資論、社会保障の制度設計から、福祉国家の成立と展開までを学習する。さらに医療経済学の基礎として、医療費とその増加要因や医療需要の分析、SID仮説、市場の失敗、マネジドケア、医療制度などを学習する。医療の経済評価の論点にも言及し、便益と効用の測定、経済効果と公平、健康格差の問題の学習および医療関連産業の経済分析を行う。

衛官など具体的な職種の業務について、現役者等の講演などを通じて深く理解する。

### 公共政策論

公共政策とは、一個人や一企業を越えた多くの人に関わる公共的問題の解決策のことを言う。本講義では、公共政策のなかでも、消防などに関する公共政策として、自然災害からの復興と政策形成はもちろん、公共政策と統計(証拠に基づく政策をめぐって)、社会保障と税の一体改革、少子高齢化対策、地方消滅と地方創生などについても学んでいく。

## 総合演習

### アカデミックスキルズ I

大学で学修するための基本的な態度(主体的な学習姿勢やマナーなど)と学習能力(読み方、書き方、文献の探し方、意見のまとめ方及び発表の仕方など)を身につける。それとともに、救急救命士として働くために必要となる社会に関する基礎的な知識、即ち、日本国憲法や戦後の政治の変遷など、現代社会に関する知識を演習形式で修得し、あわせて法律、政治、行政、国際関係などの重要な問題や時事問題について文献を読解したうえでレポートを作成する。これにより、論理的思考力を涵養する。

### アカデミックスキルズ II

救急救命士として活躍するために必要となる幅広い知識と深い教養を修得しながら、より高度なテーマについても論理的に考える能力、文章等で表現する力を修得するとともにプレゼンテーション能力も発展させる。この授業では、人権、経済、財政、社会、福祉、環境などに関する知識を修得するとともに、学習した内容から関心のあるテーマを選び、情報を収集し、意見をまとめて発表を行う。また、学習内容をレポートとしてまとめる。これにより、課題発見や課題研究に向けた準備の一環とする。

### 課題発見演習

「アカデミックスキルズ I・II」で学んだ論理的思考力、文章作成能力、プレゼンテーション能力などをさらに発展させ、問題発見能力、課題解決能力を養成する。この演習は、グループ学習を中心に演習形式で進行する。各グループは、政治・行政、経済、社会、国際関係などの現代社会の問題について、情報を収集し、グループ討議を行い、まとめた内容についてプレゼンテーションを行う。また、学生一人ひとり、グループで取り上げた課題のうち1つについて、自らの考えや課題意識をまとめたレポートを作成する。

### 救急救命研究法

研究指導教員による少人数の演習形式により、救急救命学に関する研究能力を身につける。研究方法やデータ処理法などとともに、実際の論文の作成までのプロセスと方法について学習する。学生各々の興味や課題意識をもとに4年次の卒業研究に向けて、その足がかりとなる実施計画案を策定する。研究の目的と意義づけ、先行研究のレビュー、その課題を明らかにする方法(対象、手順、倫理的配慮)等、研究を進めるため研究計画を立案する。

### 課題研究

4年間の集大成として、学生自ら設定した課題についてレポートを作成するとともに、4年間の学修記録をまとめ提出する。前半は、救急医療や災害救助など学科の学びに即した内容で、グループ学習を進め、情報収集、グループ討議、プレゼンテーションを行う。後半は、担当教員の指導を受けつつ、学生一人ひとりが設定した救急救命や災害救助などに関するテーマについて、課題への解決策を提示するレポートをまとめる。課題レポートを完成させることを通じて、将来、救急救命士として、また一社会人として自ら主体的に考え、課題を解決するために行動する力を養う。

### 卒業研究

4年間の集大成として、担当教員の指導を受けながら、学生自らが設定したテーマに基づいて、卒業論文を完成させる。具体的には、1～3年次に講義や実習で習得してきた知識や技術、および「救急救命研究法」で策定した研究計画をもとに、データ・資料を収集・分析し、先行論文を渉猟して、論文を作成する。卒業論文を完成させることを通じて、将来、救急救命士として、また一社会人として自ら主体的に考え、課題を解決するために行動する力を養う。

### 救急救命総合演習

演習形式により、学内実習や臨地での実習において深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、救急救命学に関する知識・技術の定着を図ることを目的とする。これにより、国家試験レベルの基礎的知識を確実に身につける。また、臨地での実習を通じて身につけた知識・技術、その他のさまざまな現場の情報を学生同士が共有することにより、卒業後、救急救命士として働くための責任感や態度も合わせて育成する。

## キャリア開発演習

### 救急救命キャリア開発演習 I

将来、救急救命士として働くために必要となる論理的思考力や数的思考力を高めるための演習に取り組み、あわせて、学生としての真摯な態度とより高い学習能力を身につける。数学的な思考に関する幅広い知識の修得をはかるとともに、新聞報道等で用いられる統計資料等を用いながら、数的な思考力を身につける。

### 救急救命キャリア開発演習 IV

「救急救命キャリア開発演習 V」と並行して開講し、救急救命士の主たる活躍の場であり、就職先である地方公務員の採用試験突破のための理解を深める。この授業では、数学および理科（生物、化学、物理、地学）の分野に関し、演習形式で知識の習得と定着をめざす。

### 救急救命キャリア開発演習 II

将来、救急救命士として活動するために必要となる知識を増やし教養を高めながら、「救急救命キャリア開発演習 I」に続き、より専門的な内容についても知識を応用できる力を身につける。この授業では、数学に関するより高度な知識を演習形式で修得するとともに、社会で用いられる専門的な統計資料等を用いながら、数的な物の見方や論理的思考力、表現力を養う。

### 救急救命キャリア開発演習 V

救急救命士の資格を活かすためには、消防吏員など地方公務員になる必要がある。そこで、救急救命士及び公務員として、幅広い知識と深い教養、さらに専門的な知識を修得するために、演習形式で授業を行う。具体的には、憲法、人権、法律、政治、行政、国際関係、経済、社会、福祉、環境それに自然災害などに関する広範な内容を教授し、課題発見や課題研究、卒業研究に向けた基礎知識を確保する。

### 救急救命キャリア開発演習 III

救急救命士の主たる活躍の場であり、就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に、一般教養から社会・人文科学および時事問題等までの理解をめざす。公務員試験でも頻出問題である政治、経済、現代文、判断空間、数的資料について、演習を繰り返す。

### 救急救命キャリア開発演習 VI

3回生までに行ってきた救急救命士に関する公務員試験対策について、総仕上げとして、演習を繰り返し、知識の定着を図る。この授業では、特に受講生が苦手とする数的資料、判断空間に関する内容を重点的に取り上げる。

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部

# 臨床検査学科

カリキュラムマップ ▶

カリキュラム表 ▶

科目概要

健康科学部 ▶

- ▼ 1. 臨床検査学科教育理念
- ▼ 2. カリキュラムのねらい
- ▼ 3. カリキュラムの概要
- ▼ 4. 各回生の到達目標
- ▼ 5. 履修条件
- ▼ 6. 取得できる資格

## 1. 臨床検査学科教育理念

### (1) 教育研究上の目的

健康科学部は、心理、医療の各分野の専門的知識や技術を習得し、幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、新たな課題に対応できる問題解決能力を備えた人材を養成する。臨床検査学科は、科学への探究心を常に持ち、高度に進歩し続ける医療を支えることのできる臨床検査の専門的知識と技術を身につけ、チーム医療に貢献する臨床検査技師を養成することを目的とする。

### (2) ディプロマポリシー（学位授与方針）

健康科学部臨床検査学科は、教育理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、次のような知識・能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士（臨床検査学）の学位を授与する。

- ① 臨床検査技師に必要な専門的知識および技術
- ② チーム医療に積極的に参画できる幅広い教養や倫理観、高いコミュニケーション能力
- ③ 医療の高度化に対応し、生涯にわたって探究心を持ち、自ら研鑽できる能力

### (3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要なとされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、健康科学部臨床検査学科では、以下の方針で教育課程を編成する。

- ① 幅広く豊かな教養と視野を身につけるため、人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い分野の科目を配置する。
- ② 身体だけでなく、心理面からも科学的にアプローチできる能力を身につけるため、学部共通科目として「医療と心理」領域を配置する。

- ③ 生涯にわたって探究心を持って学び続ける能力と姿勢を身につけるため、スタディスキル、アカデミックスキル、医療人として必要な能力、研究能力について、4年間を通じて段階的に養成する総合演習（ゼミ）を配置する。また、4年次配置の「臨床検査総合演習」において、臨地実習で深化・統合してきた知識・技術の定着を図る。
- 
- ④ 臨床検査技師に必要な基本的な知識と技術を身につけるため、専門基礎分野として、人体の構造と機能、生化学、病理学および医学検査などに関する基礎科目を配置する。
- 
- ⑤ 臨床検査技師に必要な専門的な知識と技術を身につけるため、専門分野として「形態検査学」「生物化学分析検査学」「病因・生体防御検査学」「生理機能検査学」などの科目群を配置する。
- 
- ⑥ 卒業後にキャリアアップを図ることができるように、臨床検査技師関連の認定資格で求められる高度な専門領域について高度な専門知識に触れる領域別演習を4年次前期に配置する。
- 
- ⑦ 臨床検査技師としての基本的な実践技術および施設における検査部門の運営などを学ぶため、3年次後期に「臨地実習」を配置する。
- 
- ⑧ 細胞検査士資格認定試験受験資格を取得するため、講義と実習からなる「細胞検査士関連科目群」を配置する。

## 2. カリキュラムのねらい

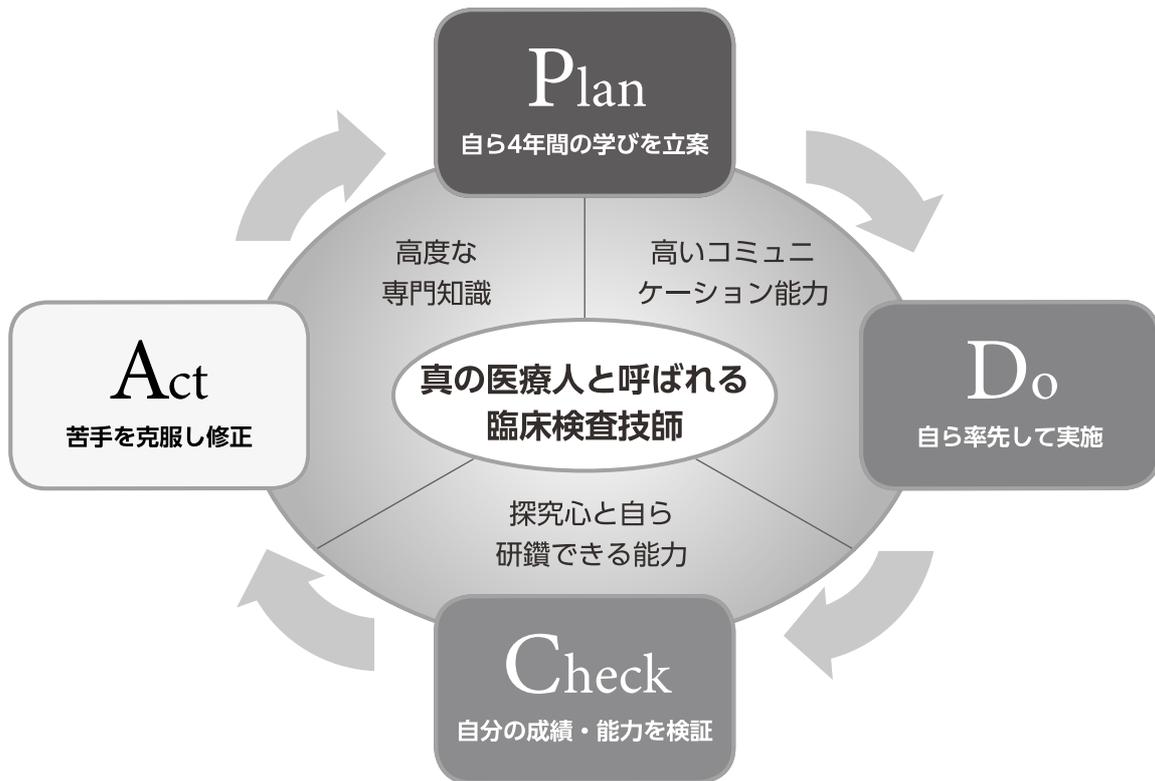
近年における医療の進歩は目覚ましく、臨床検査も同様に高度化して複雑化している。特に、自動化技術と測定法の開発により微量化・迅速化診断することは医療へ大きな貢献となり、科学への探究心と臨床検査の専門的な知識及び技術が高度医療に不可欠である。このような知識と技術の能力だけでなく、人間関係とコミュニケーション能力を身につけてチーム医療に参画することは今の臨床検査技師には重要な要素である。本学では、臨床検査としての専門的な知識や技術を身につけ、探究心やコミュニケーション能力を兼ね備えた人材を養成するカリキュラムを構築している。これらの能力と所定の単位を修得した者に学士（臨床検査学）の学位が授与される。

## 3. カリキュラムの概要

臨床検査を理解するための基礎医学から専門的な臨床検査の知識を学びます。また、講義受講後に対応した実習を1回生の基礎実習から2、3回生の専門実習まで受講することで、臨床検査における全ての技術を身につけます。

1回生では地域課題研究として京都の有名な臨床検査関連企業に行き、学ぶグループ演習、3回生後期には京都・滋賀・大阪北部を中心とした病院実習（7週間）へ行って医療現場での応用力や柔軟性を学びます。また、研究やゼミを通じて豊かな思考力や創造性、課題発見と課題解決能力を身につけたり、コミュニケーション能力を高めるカリキュラムになるように構成しています。

# 【臨床検査学科4年間のPDCAサイクル】



## 4. 各回生の到達目標

ディプロマ・ポリシー (DP)

- ① 臨床検査技師に必要な専門的な知識および技術を身につけている
- ② チーム医療に積極的に参画できる幅広い教養や倫理観、高いコミュニケーション能力を身につけている
- ③ 医療の高度化に対応し、生涯にわたって探究心を持ち、自ら研鑽できる能力を身につけている

### 1回生

- ① ・基礎医学の基本的な知識と技術を身につける  
・医療人として必要な資質を身につける
- ② ・幅広く豊かな教養と視野を身につける  
・心理面からも科学的にアプローチできる
- ③ ・探究心を持ち続ける能力と姿勢を身につける  
・スタディスキルを身につける

### 2回生

- ① ・臨床検査技師に必要な専門的な知識と技術を身につける  
・医療人として必要な能力を身につける

- ② ・様々なコミュニケーション能力を身につける  
・人への思いやり、人の悩みに共感できる

- ③ ・疑問や課題解決の能力を身につける  
・アカデミックスキルを身につける

### 3回生

- ① ・臨床検査技師に必要な専門的な技術を応用できる  
・臨地実習による実務とプロ意識を理解する

- ② ・臨地実習により他者理解と協調性を知る  
・医療従事者として責任ある態度で接することができる

- ③ ・研究・医療の倫理等の基本理念を理解する  
・社会・医学の進歩に貢献できる資質と能力を身につける

### 4回生

- ① ・キャリアアップのために高度な専門知識を身につける  
・これまで学んできた臨床検査の総合的理解ができる

- ② ・他職種の理解と協調性・連携を意識して行動できる  
・自身が目指す臨床検査技師像を明確にできる

- ③ ・細胞検査士資格の知識と技術を身につける  
・臨床検査研究を行う上で必要な能力を身につける

## ディプロマ・ポリシー (DP)

### 5. 履修条件

本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、一部の科目に履修条件（履修制限）を設定しています。

科目名	履修条件
卒業研究 A・B 臨床検査総合演習 A・B	「臨地実習」を修得していること
臨地実習	3回生後期までの専門基礎分野必修科目と専門分野必修科目を全て修得見込み <sup>※</sup> であること
細胞検査士コース	細胞検査士基礎科目を全て修得していること

※「修得見込み」とは、試験等の結果により、当該科目の単位を認められることが確実であることを指す。

## 6. 取得できる資格

臨床検査技師国家試験受験資格

細胞検査士資格認定試験  
受験資格



## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 臨床検査学科

# カリキュラムマップ

臨床検査学科 ▶	カリキュラム表 ▶	科目概要 ▶
健康科学部 ▶		

### ▼ 1. 基礎分野   ▼ 2. 専門基礎分野   ▼ 3. 専門分野

#### 全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

#### 学科・コース別のディプロマ・ポリシー

- ① 臨床検査技師に必要な専門的な知識および技術を身につける
- ② チーム医療に積極的に参画できる幅広い教養や倫理観、高いコミュニケーション能力を身につける
- ③ 医療の高度化に対し、生涯にわたって研究心を持ち、自ら研鑽できる能力を身につける

#### 「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

#### 科目ナンバーの見方

〈例〉  $\frac{MT}{1} - \frac{1}{2} \frac{1}{3} \frac{1}{4}$

1 学科	MT：臨床検査学科
2 回生	1：1回生   2：2回生   3：3回生   4：4回生
3 教育目標	学科のディプロマポリシー①～⑤
4 履修順序	同系科目中の履修順序

## 1. 基礎分野

(1) 必修科目15単位、選択必修科目13単位以上の計28単位以上を修得

## 基礎科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	教養入門	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦
MT-131	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦
MT-121	英語 I A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-121	英語 I B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-122	英語 II A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-122	英語 II B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-221	英語 III A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
MT-221	英語 III B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
MT-222	英語 IV A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
MT-222	英語 IV B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
MT-121	アカデミックライティング	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
MT-122	教養ゼミ	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
MT-121	情報処理演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥
MT-122	情報処理演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥

## 人間と知の伝達

### [ 現代の思想 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
MT-121	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
MT-121	ジェンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦
MT-221	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤
MT-221	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤

### [ メディアと情報 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦
MT-121	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
MT-221	情報処理演習 III	1	選択	演習	2回生	①②⑥
MT-222	情報処理演習 IV	1	選択	演習	2回生	①②⑥
MT-221	情報処理演習 V	1	選択	演習	2回生	①②⑥
MT-222	情報処理演習 VI	1	選択	演習	2回生	①②⑥
MT-121	数学演習 I	2	選択	演習	1回生	①②⑥
MT-122	数学演習 II	2	選択	演習	1回生	①②⑥

## 人間と文化

### [ 外国語と文化理解 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
MT-121	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
MT-121	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④
MT-121	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
MT-121	中国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-122	中国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-123	中国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-124	中国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-121	韓国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-122	韓国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

MT-123	韓国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-124	韓国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

## [ 歴史・文化 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥
MT-121	京都の歴史・文化 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
MT-121	京都講座 I	2	選択	講義	1回生	①②③
MT-121	京都講座 II	2	選択	講義	1回生	①②③

## 人間と社会

### [ 法律・行政・政治 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
MT-121	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
MT-121	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
MT-221	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
MT-221	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
MT-121	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④
MT-121	政治学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④
MT-221	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥

### [ 経済・経営・社会 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
MT-121	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
MT-121	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
MT-121	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥
MT-221	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④
MT-221	経済学概論 II	2	選択	講義	2回生	①②④

## 人間と自然

### [ 健康・こころ・からだ ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	健康に生きる I	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
MT-121	健康に生きる II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥
MT-121	健康に生きる III	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
MT-121	スポーツコース I	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
MT-121	スポーツコース II	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
MT-121	スポーツコース III	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
MT-121	スポーツコース IV	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦

### [ 自然と環境 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	物理学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
MT-121	化学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
MT-121	生物学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
MT-121	地球生命論	2	選択	講義	1回生	①②③⑥

MT-121	地球環境論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
--------	-------	---	----	----	-----	-------

## 医療と心理

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	こころとからだの健康科学 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
MT-121	こころとからだの健康科学 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
MT-331	医療英語	2	選択	講義	3回生	①②④⑤⑥⑦
MT-111	医学概論	2	選択	講義	1回生	①②④
MT-131	統計学基礎論	2	選択	講義	1回生	⑤⑥⑦
MT-111	医療と生命の倫理	2	必修	講義	1回生	①②④
MT-221	臨床心理学	2	選択	講義	2回生	①②④
MT-221	よそおいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④
MT-321	健康心理学	2	選択	講義	3回生	①②④

## キャリア科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-111	キャリア開発演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦
MT-112	キャリア開発演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦
MT-211	キャリア開発演習 III	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
MT-212	キャリア開発演習 IV	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦

## 2. 専門基礎分野

(1) 【専門基礎分野】から必修科目24単位、選択必修科目2単位以上の計26単位以上を取得

### 人体の構造と機能

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-111	人体の構造演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥	①②
MT-112	人体の構造演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥	①②
MT-211	人体の構造実習	1	必修	実験・実習	2回生	②③⑥⑦	①
MT-111	人体の機能演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥	①②
MT-112	人体の機能演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥	①②
MT-111	生化学 I	2	必修	講義	1回生	①②③	①
MT-112	生化学 II	2	必修	講義	1回生	①②③	①
MT-211	生化学実習	1	必修	実験・実習	2回生	②③⑥⑦	①
MT-211	病理学	2	必修	講義	2回生	①②③	①②
MT-211	栄養学	2	選択	講義	2回生	①②③	①②
MT-211	薬理学	2	選択	講義	2回生	①②③	①②

### 医学検査の基礎とその疾病との関連

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-111	臨床検査学 I	2	必修	講義	1回生	①②③	①②
MT-112	臨床検査学 II	2	必修	講義	1回生	①②③	①②
MT-211	臨床検査学基礎実習	1	必修	実験・実習	1回生	②③⑥⑦	①

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-111	医療概論	2	必修	講義	1回生	①②③	①②
MT-211	公衆衛生学	2	必修	講義	2回生	①②③	①②

医療工学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-311	医用工学概論	2	必修	講義	3回生	①②③	①②
MT-312	医用工学実習	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①

### 3. 専門分野

(1) 【専門分野】から必修科目64単位、選択必修科目6単位（「総合演習」のA科目またはB科目のいずれかを選択）、計70単位以上を修得すること。

臨床病態学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-311	臨床病態学 I	2	必修	講義	3回生	①②③	①②
MT-312	臨床病態学 II	2	必修	講義	3回生	①②③	①②

形態検査学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-211	病理検査学	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	病理検査学実習	1	必修	実験・実習	2回生	②③⑥⑦	①③
MT-211	血液検査学 I	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	血液検査学 II	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-311	血液検査学実習	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-211	一般検査学（実習を含む）	2	必修	講義	2回生	②③⑥⑦	①③
MT-431	形態検査学演習	1	自由	演習	4回生	②⑥⑦	①③

生物化学分析検査学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-211	臨床化学検査学 I	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	臨床化学検査学 II	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-311	臨床化学検査学実習 I	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-312	臨床化学検査学実習 II	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-211	遺伝子検査学	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-312	遺伝子検査学実習	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-311	放射性同位元素検査学	2	必修	講義	3回生	①②③	①③
MT-431	生物化学分析検査学演習	1	自由	演習	4回生	②⑥⑦	①③

病因・生体防御検査学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-111	微生物検査学Ⅰ	2	必修	講義	1回生	①②③	①③
MT-211	微生物検査学Ⅱ	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	微生物検査学実習	1	必修	実験・実習	2回生	②③⑥⑦	①③
MT-311	医動物学	1	必修	講義	3回生	①②③	①③
MT-111	免疫検査学Ⅰ	2	必修	講義	1回生	①②③	①③
MT-211	免疫検査学Ⅱ	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	免疫検査学実習	1	必修	実験・実習	2回生	②③⑥⑦	①③
MT-311	輸血・移植検査学	2	必修	講義	3回生	①②③	①③
MT-312	輸血・移植検査学実習	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-431	病因・生体防御検査学演習	1	自由	演習	4回生	②⑥⑦	①③

#### 生理機能検査学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-211	生理機能検査学Ⅰ	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	生理機能検査学Ⅱ	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-311	生理機能検査学Ⅲ	2	必修	講義	3回生	①②③	①③
MT-311	生理機能検査学実習Ⅰ	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-312	生理機能検査学実習Ⅱ	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-311	画像検査学演習	1	必修	演習	3回生	②③⑥	①③
MT-431	生理機能検査学演習	1	自由	演習	4回生	②⑥⑦	①③

#### 検査総合管理学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-211	医療情報システム学	2	必修	講義	2回生	①②③	①
MT-311	検査総合管理学	2	必修	講義	3回生	①②③	①
MT-311	関係法規	1	必修	講義	3回生	①②③	①
MT-311	救急検査学	2	必修	講義	3回生	①②③	①②

#### 医療安全管理学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-311	医療安全管理学	1	必修	講義	3回生	①②③	①②

#### 細胞検査士関連科目群

##### [細胞検査士基礎科目]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-131	臨床細胞学総論Ⅰ	1	自由	講義	1回生	①②⑥	①③
MT-231	臨床細胞学総論Ⅱ	1	自由	講義	2回生	①②⑥	①③
MT-232	臨床細胞学総論Ⅲ	1	自由	講義	2回生	①②⑥	①③
MT-331	臨床細胞学演習Ⅰ	1	自由	実験・実習	3回生	②⑥⑦	①③
MT-332	臨床細胞学演習Ⅱ	1	自由	実験・実習	3回生	②⑥⑦	①③

##### [細胞検査士コース]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-431	細胞診断学総論	3	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③
MT-431	細胞診断学各論Ⅰ（婦人科系）	5	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③

MT-431	細胞診断学各論 II (呼吸器系)	5	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③
MT-431	細胞診断学各論 III (消化器系)	4	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③
MT-431	細胞診断学各論 IV (泌尿器系・体腔液)	5	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③
MT-431	細胞診断学各論 V (乳腺・甲状腺)	4	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③
MT-431	細胞診断学各論 VI (リンパ節・骨・軟部・造血器等)	4	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③

総合演習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-331	研究基礎演習	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥⑦	①③
MT-431	卒業研究 A	4	選択	演習	4回生	②⑤⑥⑦	③
MT-431	卒業研究 B	4	選択	演習	4回生	②⑤⑥⑦	③
MT-431	臨床検査総合演習 A	2	選択	演習	4回生	②③⑥	①③
MT-431	臨床検査総合演習 B	2	選択	演習	4回生	②③⑥	①③

臨地実習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-321	臨地実習	7	必修	実験・実習	3回生	④⑤⑥⑦	②

【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 臨床検査学科

# カリキュラム表

臨床検査学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	科目概要
----------	-------------	------

健康科学部 ▶
---------

<b>基礎分野</b> <b>28単位</b> 必修15単位+ 選択必修13単位	<b>専門基礎分野</b> <b>26単位</b> 必修24単位+ 選択必修2単位	<b>専門分野</b> <b>70単位</b> 必修64単位+ 選択必修6単位	卒業要件 <b>124</b> 単位
---	--	--	--------------------------

## 基礎分野 必修科目

15単位

基礎科目

	単位	回生
教養入門	2	1~
英語 I A	1	1~
英語 I B	1	1~
英語 II A	1	1~
英語 II B	1	1~
地域課題研究	1	1~

医療と心理

	単位	回生
医療と生命の倫理	2	1~

## 基礎分野 選択必修科目

13単位

※の各領域からは各2単位以上の修得必須

基礎科目

	単位	回生
英語 III A	1	2~
英語 III B	1	2~
英語 IV A	1	2~
英語 IV B	1	2~

医療と心理

	単位	回生
こころとからだの健康科学 I	2	1~
こころとからだの健康科学 II	2	1~
医学概論	2	1~
統計学基礎論	2	1~

アカデミックライティング	2	1～
教養ゼミ	2	1～

よそおいの心理学	2	2～
臨床心理学	2	2～
健康心理学	2	3～
医療英語	2	3～

領域 人間と知の伝達※

[分野] 現代の思想

	単位	回生
哲学概論	2	1～
倫理学概論	2	1～
ジェンダー研究	2	1～
心理学概論	2	2～
宗教学概論	2	2～

[分野] メディアと情報

	単位	回生
言語コミュニケーション論	2	1～
現代のメディアと表現	2	1～
情報処理演習 III	1	2～
情報処理演習 IV	1	2～
情報処理演習 V	1	2～
情報処理演習 VI	1	2～
数学演習 I	2	1～
数学演習 II	2	1～

領域 人間と文化※

[分野] 外国語と文化理解

	単位	回生
比較文化論	2	1～
芸術と文化	2	1～
異文化コミュニケーション論	2	1～
文化人類学	2	1～
中国語 I	2	1～
中国語 II	2	1～
中国語 III	2	1～
中国語 IV	2	1～
韓国語 I	2	1～
韓国語 II	2	1～
韓国語 III	2	1～
韓国語 IV	2	1～

[分野] 歴史・文化

	単位	回生
歴史学入門	2	1～
京都の歴史・文化 I	2	1～
京都講座 I	2	1～
京都講座 II	2	1～

領域 人間と社会※

[分野] 法律・行政・政治

	単位	回生
日本国憲法	2	1～
法学概論 I	2	1～
法学概論 II	2	1～
民法	2	2～
行政法	2	2～
政治学概論 I	2	1～
政治学概論 II	2	1～
行政学	2	2～

[分野] 経済・経営・社会

	単位	回生
経営学概論	2	1～
会計学概論	2	1～
社会学概論 I	2	1～
社会学概論 II	2	1～
経済学概論 I	2	2～
経済学概論 II	2	2～

領域 人間と自然※

[分野] 健康・こころ・からだ

	単位	回生
健康に生きる I	2	1～
健康に生きる II	2	1～
健康に生きる III	2	1～
スポーツコース I	1	1～
スポーツコース II	1	1～
スポーツコース III	1	1～
スポーツコース IV	1	1～

[分野] 自然と環境

	単位	回生
物理学基礎	2	1～
化学基礎	2	1～
生物学基礎	2	1～
地球生命論	2	1～
地球環境論	2	1～

専門基礎分野 必修科目

24単位

専門分野 必修科目

64単位

1回生

	単位	開講期
人体の構造演習 I	1	前
人体の構造演習 II	1	後
人体の機能演習 I	1	前
人体の機能演習 II	1	後
生化学 I	2	前
生化学 II	2	後
臨床検査学 I	2	前
臨床検査学 II	2	後
臨床検査学基礎実習	1	前
医療概論	2	前
微生物検査学 I	2	後
免疫検査学 I	2	後

2回生

	単位	開講期
人体の構造実習	1	前
生化学実習	1	前
病理学	2	前
公衆衛生学	2	後
病理検査学	2	前
病理検査学実習	1	後
血液検査学 I	2	前
血液検査学 II	2	後
一般検査学 (実習を含む)	2	前
臨床化学検査学 I	2	前
臨床化学検査学 II	2	後
遺伝子検査学	2	後
微生物検査学 II	2	前
微生物検査学実習	1	後
免疫検査学 II	2	前
免疫検査学実習	1	後

3回生

	単位	開講期
医用工学概論	2	前
医用工学実習	1	後
臨床病態学 I	2	前
臨床病態学 II	2	後
血液検査学実習	1	前
臨床化学検査学実習 I	1	前
臨床化学検査学実習 II	1	後
遺伝子検査学実習	1	後
放射性同位元素検査学	2	前
医動物学	1	前
輸血・移植検査学	2	前
輸血・移植検査学実習	1	前
生理機能検査学 III	2	前
生理機能検査学実習 I	1	前
生理機能検査学実習 II	1	後
画像検査学演習	1	後

生理機能検査学 I	2	前
生理機能検査学 II	2	後
医療情報システム学	2	後

検査総合管理学	2	前
関係法規	1	前
救急検査学	2	前
医療安全管理学	1	前
臨地実習	7	後
研究基礎演習	1	通

## 専門基礎分野 選択必修科目

下記科目から **2** 単位

2回生

	単位	開講期
栄養学	2	前
薬理学	2	後

## 専門分野 選択必修科目

下記科目から **6** 単位

4回生

	単位	開講期
卒業研究 A	4	通
卒業研究 B	4	通
臨床検査総合演習 A	2	後
臨床検査総合演習 B	2	後

## 領域別演習科目（自由科目）

	単位	回生	開講期
形態検査学演習	1	4	前
病因・生体防御検査学演習	1	4	前

	単位	回生	開講期
生物化学分析検査学演習	1	4	前
生理機能検査学演習	1	4	前

## 細胞検査士関連科目群（自由科目）

細胞検査士基礎科目

	単位	回生	開講期
臨床細胞学総論 I	1	1	後
臨床細胞学総論 II	1	2	前
臨床細胞学総論 III	1	2	後
臨床細胞学演習 I	1	3	前
臨床細胞学演習 II	1	3	後

細胞検査士コース

	単位	回生	開講期
細胞診断学総論	3	4	前
細胞診断学各論 I（婦人科系）	5	4	前
細胞診断学各論 II（呼吸器系）	5	4	前
細胞診断学各論 III（消化器系）	4	4	前
細胞診断学各論 IV（泌尿器系・体腔液）	5	4	後
細胞診断学各論 V（乳腺・甲状腺）	4	4	後
細胞診断学各論 VI（リンパ節・骨・軟部・造血器等）	4	4	後

## 【第9章 2020年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 臨床検査学科

# 科目概要

臨床検査学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	カリキュラム表
健康科学部 ▶		

▼ 基礎分野   ▼ 専門基礎分野   ▼ 専門分野

## 基礎分野

### 基礎科目

#### 教養入門

初めて大学での教養教育を学ぶ学生を対象として、教養とは何か、教養教育の意義、本学における教養教育の特徴などを講じ、受講生の動機付けとマッピングを行う。

#### 地域課題研究

京都には臨床検査関連の試薬や分析装置を製造する会社、臨地実習では学べない特殊検査等を扱う検査センターのラボ等が多く存在する。臨床検査の仕事場は病院だけでなく、こうした企業もその一つである。この授業では京都市とその周辺にある企業を見学し、各企業の特徴や臨床検査との関係について学ぶ。特に、患者や病気が見えない検体検査における検査技師の使命感および医療の担い手として何が必要かを学び、地域に密着した課題、課題を解決するための方法と計画、課題解決の限界について考える。見学後には、学生が3グループに分かれて意見をまとめ発表することで、学びを共有するとともに、学外授業を通じて学生と教員とが接点を持つ機会とする。

#### 英語 I A

基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

#### 英語 I B

平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運

#### 英語 II A

スキミング、スキヤニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要なリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見

#### 英語 II B

効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見

用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

をプレゼンテーションできる能力を向上させることをめざす。

### 英語 III A

TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

### 英語 III B

TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行いながら英語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

### 英語 IV A

日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

### 英語 IV B

さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につけようとする。

### アカデミックライティング

大学での学修活動に必要なアカデミック・スキルとしての読解力や文書作成能力などの日本語運用能力の獲得をめざす。原稿用紙の使い方など大学生活で役立つ実用的な「書く」能力を身につけさせることから始め、高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高める。

### 教養ゼミ

教養とは何か、大学で教養を学ぶ意義はどこにあるのかを考えさせる。まずは、「話す」ことを中心にコミュニケーションの基礎を学び、幅広い分野から選定したテキストを使用して、ゼミ形式で検討していく。

### 情報処理演習 I

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

### 情報処理演習 II

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

## 人間と知の伝達

### 【現代の思想】

#### 哲学概論

グローバリゼーションの進行の中で、国民国家の規制が弱まり、さまざまなレベルで非政府組織などによる国際的な連帯の輪が広がってゆることが予想される一方でイデオロギーの対立に代わって、文明の衝突が本格化するという考え方があがる。グローバリゼーション下での国際関係や、文化の今後を総合的に論じる。

#### 倫理学概論

家族関係や市民社会、国家のそれぞれのレベルで人権の状況を確認しながら、あるべき家族関係や市民関係、国家像を考察すると同時に、生命倫理や環境倫理など新しい倫理を考える。

#### ジェンダー研究

ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点をを用いて今日的な課題を考える。この講義により、ジェンダーに関する基本的な概念を理解するとともに、ジェンダーの視点をを用

いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目標とする。

### 心理学概論

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、社会においても「こころ」を抜きにして考えることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心をもつ人は多いが、誤解されることがや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を正確に学ぶことを目的とする。生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基本的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

### 宗教学概論

宗教を正しく理解するための必要な基礎知識を習得しながら、人間社会にとって宗教が果たす重要な役割とその意義について考える。具体的には、客観的で科学的な立場にたって、宗教の歴史を概観し、有神論と無神論、創唱宗教と自然宗教といった分類のしかたなどを考察する。

## 【メディアと情報】

### 言語コミュニケーション論

日本語と英語によるコミュニケーションの比較を通して、その違いや特徴を学ぶ。コミュニケーションとは何かという問題から始めて、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題を扱う。さらに、言語コミュニケーションの比較を翻訳や通訳という観点からも検討する。なお、言語によるコミュニケーションとの関わりにおいて、若干、言語以外によるコミュニケーションにも触れ、日英語それぞれの言語コミュニケーションの特質とどう関わるかも検討する。

### 現代のメディアと表現

今日、日本のメディア・コンテンツが世界的な文化として高く評価されつつあることは言うまでもない。その理由はいくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現していることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、日本の映像メディアは今や担っている。このような観点に立って、日本の映像文化、特にアニメーションを分析、評価するのがこの講義の目標である。特に宮崎駿の創作活動に焦点を絞って、講義を進めていく。

### 情報処理演習 III

企業の実務において、PCを使用したデータの集計処理能力、業務データのグラフ分析やデータベース分析能力、またネットワークの利活用による情報収集や情報発信の実務能力を養成するため、表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の修得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。

### 情報処理演習 IV

企業の実務において、PCを使用したビジネス文書作成能力やネットワークの利活用による事務能力や情報収集、発信能力が大変重要な能力として求められており、この授業では、現在、ワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の修得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。

### 情報処理演習 V

ホームページにおける動的なデータ処理やアニメーション表現などにJavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラムが使われている。これらによるプログラミングは、現在のWeb技術には欠くことのできない技術になっており、WebデザイナーやWebプログラマーの基礎技術にもなっている。授業では、画像や図形のアニメーションを使うプログラミングの初歩と基本的な処理パターンを修得する。また、それを通してプログラミングによるアニメーション表現の可能性を考える。

### 情報処理演習 VI

授業では、まずPowerPointを活用したプレゼンテーション資料の作成技術を習得する。また、コンピュータ上での静止画像のマルチメディア表現の技術として、フォトレタッチ（画像の編集・合成）、アニメーション動画素材の作成技術としてFlashアニメーション、三次元マルチメディア素材の作成技術として3Dグラフィックス作成の基礎技術を修得する。また、それを通して、FlashアニメーションやFlashロゴデザインによる表現の可能性を考える。

### 数学演習 I

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。数と計算・図形の初歩から学び、さまざまな応用問題が解けるようにする。ピタゴラス

### 数学演習 II

数学的思考、数理的思考を身につける。1次関数、2次関数、関数とグラフ、図形と方程式、図形の性質・面積（ヘロンの公式）などをテ

の定理と無理数、1次・連立・2次方程式、因数分解、1次・2次関数とグラフなどを主なテーマとする。

マとして、日常生活との接点を探りつつ、基本的な概念、典型的な問題の解法、実生活への応用を教授する。

## 人間と文化

### 【外国語と文化理解】

#### 比較文化論

文化を比較研究のアプローチから理解し、世界で起きているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、自分がそれにどう関わるのかを考えることがこのクラスの目標である。世界には、われわれの想像や理解を超えた「謎」が頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ないものとして簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解するために、主として英語圏の文化を日本文化と比較しながら講義をすすめていく。

#### 芸術と文化

芸術（アーツ）と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまに試みられている芸術表現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

#### 異文化コミュニケーション論

異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接触場面において生じる誤解や衝突、相互理解の困難さといったことをイメージしやすいが、異文化という概念の射程はそこにとどまるものではない。男女の考え方のずれ、世代間の意見の対立といったものも、広い意味では、お互いの文化背景の無理解によって生じるものである。他者を、自分とは異なる文化背景をもつ存在として認め、積極的に理解しようとすることによって立ち上がる、他者との間に関係性（つながり）を生みだす行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

#### 文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説する。その上で、アジアのなかでも、ブータンを中心に、そこに住む人々の生活観・価値観を学びながら、異文化に対する理解を深めていく。

#### 中国語 I

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

#### 中国語 II

中国語のさまざまな基本短文を作ることができるよう、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

#### 中国語 III

中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることをめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的事件、食べ物、祝日などを題材にする。

#### 中国語 IV

基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができることをめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

#### 韓国語 I

初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

#### 韓国語 II

韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法+会話+講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話力を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習す

#### 韓国語 III

会話+講読+聴解力+作文に重点を置く。韓国語 I・II で学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ので

#### 韓国語 IV

韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話+スピーチができることを目的とし、学生

る。また、韓国の文化に関わるものを講読のテキストとし、韓国の文化に親しむ。

きるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

## 【歴史・文化】

### 歴史学入門

歴史学の考え方を理解する。前半は、日本史分野の教員が、後半は世界史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介する。

### 京都の歴史・文化 I

京の都は、中国・唐の都城にならって建設されたが、都への軍団の駐屯は視野に入れずに計画された都市であった。文字通り、「平安京」の名が相応しい都－京都で繰り広げられた歴史と、その歴史の展開のなかで残された歴史遺産はどのようなものであったのか、古代から幕末までの都の様相の変遷とその要因を、主として政治史・経済史・都市史・民衆史・女性史の観点から捉え直してみる。

### 京都講座 I

テーマは「埋もれた京都の地下遺産を探る」である。考古学的手法を用いて、本学の足下にある京都の歴史遺産に焦点をあて、触れ、理解して、京都での学びをより深める視点を養う。条坊制に基づく平安京、平安宮の遺跡と遺物、東寺・西寺跡、羅城門と朱雀大路、平安京左京の変遷、近世以降の平安京の様子を説明し、市街地での観察方法を伝授する。

### 京都講座 II

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってもよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

## 人間と社会

## 【法律・行政・政治】

### 日本国憲法

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処するために必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につける。また、これを理解するために必要な基本的知識を身につけることを目標とする。授業では、日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

### 法学概論 I

法学概論 I では、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていき、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

### 法学概論 II

法学概論 II では、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初歩的な応用力を身につける。

民法

行政法

政治学概論 I

民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会生活そのものを広範に対象とする学問である。本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主要な法原則、法制度、法概念を理解するとともに、その基礎的知識を獲得することを目的としている。また、具体的な事例や裁判例を用いながら、民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにすることで、法的な問題発見能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を可能にする。特に、財産法の分野の解説に重点を置くが、家族法の分野についても一通り概観しておく。

憲法をベースとしつつ、行政と国民の法的関係を理解して国法における行政権のあり方を検討する。法文の基本を勉強したあと、国家と国民との関係についての基本的論理構成に続き、行政行為をはじめとする行政活動の諸形式ごとに、両者の法関係の内容的検討を行い、市民生活の法とは異なる行政法の特異性を学ぶ。そのため、身近な事例を例示しつつ、民法や刑法などとの関係を理解するために、もし、裁判員になったとしたらどうしたらいいかを映像を交えて学修したり、国の機関のうち、興味のある省庁を自分で調べたりすることとする。

政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によって、政治に関する情報・言説を知るソーシャルメディア利用法などにも言及する。

## 政治学概論 II

具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家はどのように描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

## 行政学

行政システムについて、府省庁組織や中央地方関係、政府と市場、組織と管理などのテーマから行政システムの活動とその結果の全体をとらえる。省庁再編・政策評価の導入や地方分権改革などにも触れる。

## 【経済・経営・社会】

### 経営学概論

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まず会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

### 会計学概論

目標：企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。内容：企業経営のプロセスを、資金の流れとして学ぶ。さらに、付加価値の形成、市場における価値の創造、収益の分配、および、稼得利益の意義を体系的に考察することによって、企業経営の本質を理解する。また、この学習を、複式簿記のシステム（簿記一巡の手続き）の理解と連動して行う。したがって、他人資本（負債）、自己資本（純資産）、資産、費用、収益という5つのグループの経営プロセス上での役割についても、それぞれのグループ内の勘定科目のレベルにまで、一定程度深化させて理解する。簿記システムの基礎的理解をめざし、簿記一巡の手続きについて学ぶ。

### 社会学概論 I

社会学概論 I では、自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

## 社会学概論 II

## 経済学概論 I

## 経済学概論 II

社会学概論Ⅱでは、社会学概論Ⅰでの基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着をめざす。

現代日本経済における諸問題を学ぶことによって、経済学への導入を図る。具体的には、まずバブル経済とその崩壊による平成不況の深刻化の課程を「不良債権処理の10年」として概観する。次に、ケーススタディとして、日本長期信用銀行の破綻、山一証券の自主廃業について検討する。そして、女性労働として雇用機会均等法と育児支援を取り上げるとともに、労働問題として過労死・過労自殺、ホームレス、派遣労働、ネットカフェ難民、派遣村などを取り上げる。これらの諸問題を、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでを、映像資料を活用してイメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

## 人間と自然

### 【健康・こころ・からだ】

#### 健康に生きるⅠ

健康とは何かを学び、大学生活およびその後の生活を健康で過ごすための方法を学ぶ。

#### 健康に生きるⅡ

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。健康と栄養の関連を理解するとともに、食の安全性を理解し、健康増進に役立て、健康的な食生活を志向する。講義では、糖質、脂肪、アミノ酸、ミネラル、ビタミンといった栄養素と、人の健康との関係について解説する。また、健康と食生活をテーマに、ダイエット、運動、ストレスなどについて講義する。講義のなかでは、健康と食に関するトピックを適宜紹介する。

#### 健康に生きるⅢ

個人の「健康」について精神的側面（メンタルヘルス）を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されているさまざまなメンタルヘルスの理論や、その歴史的な発展について講義し、現代人が健康に生活する上でのメンタルヘルスの重要性の理解を促す。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされるさまざまな理論・技法についても概観する。また、メンタルヘルスが個人の全般的な健康に資する役割についても言及する。

#### スポーツコースⅠ

ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図り、またスポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

#### スポーツコースⅡ

Ⅰに引き続き、ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として、さらに基礎体力と技術のスキルアップを図る。またあわせて、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

#### スポーツコースⅢ

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バレーボール、バスケットボール両種目の基本的な技術や知識を学習するとともに、全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。

#### スポーツコースⅣ

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バドミントンと卓球の基本的な技術練習とルールの理解から始め、シングルスおよ

びダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

## 【自然と環境】

### 物理学基礎

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考えるうえで基礎的な学問となる。本科目では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などの基本的な原理について正しい理解を得るとともに、日常的に目にする現象を物理学的に理解し説明する力を身につける。また、物理学が身近なものに应用されていることを理解し、物理学の原理とその意義について見識を深める。例えば、身近な家庭用機器や医療機器（電子レンジ、健康維持器具、AED、MRI等）などに应用されている電磁気現象の原理などを理解する。

### 地球生命論

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解する。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造、土壌層位、遺構面と遺構埋土の特徴などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて概観する。

## 医療と心理

### こころとからだの健康科学Ⅰ

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学、臨床検査学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

### 化学基礎

生活の中にある物質や現象を、化学的なもの見方や考え方で捉え、理解できるように基礎概念を解説する。原子の構造と結合、分子の形、物質の形態、溶液、化学反応などについて正しい理解を得るとともに、日常的に目にする物質や現象および、化学が身近に应用されていることを理解し説明する力を身につける。例えば、日常生活に関わる化学物質、例えば石油や原子力などのエネルギー源、金属やプラスチックなどの材料、薬品、医療品などについて触れ、应用されている原理とその意義を理解する。

### 地球環境論

環境問題は、今や誰にとっても避けて通ることのできない重要な課題である。この授業は、環境問題を、自然科学的アプローチ、社会科学的方法、哲学的アプローチを総合的に駆使しつつ考察する。環境問題の複雑さ、議論の道筋、論点などをわかりやすく講義する。

### 生物学基礎

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命科学、および関連する諸問題について概説する。生命現象を理解するために、細胞の構造と役割、細胞を構成する物質、エネルギー、遺伝学、DNA、発生と老化、脳の構造などから、食と健康、がん、感染と免疫などについても解説し、正しい理解を促進する。さらに、生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、生物学的な諸問題を正しく理解するため、遺伝子組換え生物や再生医療、生態系と環境問題までの最新のトピックを交えて解説する。

## 医療と心理

### こころとからだの健康科学Ⅱ

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学、作業療法学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

### 医療英語

現在、大・中規模病院の多くがISO15189（臨床検査室の国際規格）取得に取り組んでおり、臨床検査分野のグローバル化が急速に進んでいる。また、アメリカ臨床検査技師等の国際資格を取得する際には個人の英語力を高めるだけでなく、海外の臨床検査室や臨床検査技師との知識・技術の交流等を積極的に進める必要がある。この授業では、医療学術論文を英語で読む基礎を養い、医療技術に関連する会話や講演を理解する能力を修得する。これにより、大学院進学や企業就職の際に必要な英語力に加え、こ

れからの医療現場で必要とされる実践的な英語能力の基礎を身につける。

### 医学概論

人類の歴史は「病いと戦い」の歴史であるともいえる。例えば、伝染病との戦いはペストや天然痘には勝利したものの、エイズやインフルエンザといった新たな敵との戦いが引き起こされている。人類の生存をかけた戦いのなかで医学は生まれ、発展してきた。さらに、ライフスタイルの変化、人口の少子高齢化等の社会情勢の変化は生活習慣病などの新たな「病い」の発生の素地となっている。医学は新たな姿の敵との戦いを迎えている。こうした医学の歴史を振り返りながら、「医学の過去、現在、未来」について講義する。

### 統計学基礎論

この科目では統計学そのものについて学ぶのではなく、統計法を利用して各分野（保健衛生学や心理学、教育学など）の研究を進める方法を学ぶことを目的とする。授業を通じて統計学の基礎を学び、身近なデータを読み取る力をつけ、また実際に受講生自身が研究を行う上で知識を活用できるよう、実践的な能力を身につけることをめざす。

### 医療と生命の倫理

生命倫理学の基本原則を正しく理解し、現代の医療における倫理的諸問題を学ぶ。まず、患者の自律の尊重という生命倫理学の基本原則と、これを達成するために不可欠なインフォームド・コンセントの原理について説明する。その後に、①出生前診断、人工妊娠中絶、生殖補助医療など人間の誕生にまつわる諸問題、②ターミナルケア、安楽死と尊厳死など人間の死にまつわる諸問題、③遺伝子診断と遺伝子治療、再生医療など先端医療、④医療情報の保護について教授する。

### 臨床心理学

医療を通じて人と関わるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。そうした知識も当然重要であるが、それだけにとどまらず「臨床の知」としての思考力を身につける必要がある。「臨床の知」とは、客観的に眺め分析するのではなく、自分が現場にコミットして、相手との関係のなかで考えることといえる。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へ関わる存在になっていくのか、履修者それぞれが、主体的に考えられるようになることをめざしたい。

### よそおいの心理学

人間の外見と心の関係を探究することをテーマとする。社会心理学・感情心理学の分野から始まった「化粧の心理的効果」の研究は、粧うことによって快感情・高揚感をもたらし、積極的な対他者行動を促すことによって、コミュニケーションを活性化することを実証し、化粧が心の健康に貢献していることを見いだした。また、この化粧の効用は、医療や福祉の現場で効果をあげており、臨床心理学的な考察も試みられている。本講義では、基礎的な研究を概説し、さらにさまざまな臨床実践活動について紹介する。

### 健康心理学

心身の健康の維持増進や疾病の予防について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを心理学的な側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄について理解する。

## キャリア科目

### キャリア開発演習Ⅰ

大学で主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目的に、グループ学習を中心に演習形式で実施する。まず、図書館の利用方法や文献の探し方などのオリエンテーションを行う。その後、最近の保健医療や医療現場に関連するテーマを選び、それについて図書館やインターネットなどから情報収集を実際に行う。また、検索した資料を読み込み、学生自身の理解や疑問、関心のあることなどをグループで討議してまとめ発表する。この過程において、コンピュータリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、効果的なプレゼンテーション方法）、ディスカッション

### キャリア開発演習Ⅱ

大学で主体的に学ぶ姿勢、および社会人や医療組織の一員としてのルールやマナー遵守の姿勢を身につけることを目的に、グループ学習を中心に演習形式で実施する。授業では、臨床検査や臨床検査現場などに関連する文献を選び、図書館の蔵書やオンラインデータベースなどを活用し、グループで情報を収集して討議を行い、結論を導いて発表する。また、グループで取り上げたテーマについて、学生一人ひとりが自らの考えや課題意識をまとめたレポートを作成する。この過程を通じて、根拠に基づく医療（EBM=evidence-based medicine）の考え方を学生に理解させる。

### キャリア開発演習Ⅲ

医療の専門職になるために必要な人間関係の構築やコミュニケーションについて、グループ学習を中心にして演習形式で学ぶ。授業ではまず、人とモノ（例えば、車のハザードランプやクラクション等）、友達同士、家族、地域、日本、国際社会におけるコミュニケーションはそれぞれどう違うのか、またそれが医療とどう結びつくのかを考える。さらに、プライベートなコミュニケーションと仕事におけるコミュニケーションとの違いを考察し、自分と周囲との関わり、言葉や表現方法、他者への影響などについて考えを深め、人間関係とコミュニケーション

の方法（論理的な発言、他者の意見の理解）などの能力を身につける。

#### キャリア開発演習Ⅳ

これからの臨床検査技師にとって重要となるチーム医療について、グループ学習を中心にして演習形式で学ぶ。臨床検査技師は、検査室での検査だけでなく、検査室の外での病院の仕事、病院の外の仕事が増え、診療の補助として採血以外にも業務範囲が広がっている。この授業では、感染制御チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、糖尿病診療（糖尿病療養指導士らによるチーム）、治験コーディネーター、移植コーディネーター、臨床研究支援などのチーム医療について考える。この過程を通じて、臨床検査技師の医療組織の一員としての役割や意味を理解し、あわせてコミュニケーション能力や使命感についても考える。また適宜、臨床検査技師以外のゲストスピーカーを招き、学生の理解を促進する。

ン、他者理解と自己理解について学生に意識化させる。

## 専門基礎分野

### 人体の構造と機能

#### 人体の構造演習Ⅰ

臨床検査技師として医療に携わるために必要な人体の正常な形態と構造について演習形式を取り入れて学ぶ。人体の基本構造を理解することは、各種疾患の診断や症状の程度を理解することにとどまらず、どのようなメカニズムによって疾患が生じるかという病態生理学への道筋を知ることにつながる。授業では、細胞と組織、器官に関する基礎的理解を得た後、筋・骨格系、神経系、皮膚・感覚器系、消化器系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系など器官ごとの形態と構造を学ぶ。

#### 人体の構造演習Ⅱ

Ⅰに引き続き、臨床検査技師として医療に携わるために必要な人体の正常な形態と構造について演習形式を取り入れて学ぶ。人体の基本構造を理解することは、各種疾患の診断や症状の程度を理解することにとどまらず、どのようなメカニズムによって疾患が生じるかという病態生理学への道筋を知ることにつながる。特に、この授業では、光学顕微鏡を用いる組織学を主に扱う。具体的には、筋・骨格系、神経系、皮膚・感覚器系、消化器系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系などの細胞組織の形態と構造について学ぶ。

#### 人体の構造実習

人体と構造演習Ⅱで修得した組織学に関する知識をさらに定着させるため、細胞組織に関する実習を行う。実習では、染色した組織切片を光学顕微鏡を使って観察し、それをスケッチすることで、人体の構造の特徴を詳細に理解する。この実習を通して、顕微鏡の取り扱いおよび観察方法に慣れるとともに、上皮組織、結合組織、骨組織、筋組織、神経組織および各器官の組織を識別するための基礎的能力を身につける。

#### 人体の機能演習Ⅰ

人体の機能演習は、人体の構成および人体各部の機能について概説する。人体の機能演習Ⅰでは生命維持の基盤となる機能の中でも、体液、血液、免疫、循環、呼吸、代謝、体温等について、その生理学的意味を理解するよう、演習を交えて授業を行う。体液の中でも浸透圧は人体の機能の基本中の基本であり、これを理解する

#### 人体の機能演習Ⅱ

人体の機能演習は、人体の構成および人体各部の機能について概説する。人体の機能演習Ⅱでは、生命維持の基盤となる機能の中でも、消化管の役割、栄養生理、排泄、内分泌、神経、筋、感覚、遺伝等、運動の生理学や生殖といった身近なテーマについて、人体の機能を生理学的な面から理解するよう、演習を交えて授業を

#### 生化学Ⅰ

生化学は、生体並びに生命現象に関する科学的な思考と理解に重要な科目である。生体は、核酸、タンパク質、アミノ酸、脂質、糖質、無機質等多くの分子から成り立っている。生体を構成する最小単位である細胞はこれらの物質から構成されている。また、細胞は摂取した物質を代謝し、生命活動に必要なエネルギーを得て増殖・成長している。生化学Ⅰでは生命現象を分

ことが重要である。また、これらの講義により、生命の不思議について考える。

行う。また、これらの講義により、人体の不思議について考える。

子レベルで理解する思考方法と基礎知識と、生体を構成する様々な分子をエネルギーと生体を構成する部品に変換し、生体が増殖・成長する過程で機能する分子とその仕組みを学習する。

## 生化学 II

生化学は、生体並びに生命現象に関する科学的な思考と理解に重要な科目である。生体は、核酸、タンパク質、アミノ酸、脂質、糖質、無機質等多くの分子から成り立っている。生体を構成する最小単位である細胞はこれらの物質から構成されている。また、細胞は摂取した物質を代謝し、生命活動に必要なエネルギーを得て増殖・成長している。生化学IIでは生化学Iで学習した生体を構成する分子に関する知識を踏まえ、細胞と細胞内小器官の構造、細胞内分子や細胞間情報伝達物質による情報伝達と様々な調節機構、DNAなどを構成する核酸の構造と機能等について学習する。

## 生化学実習

生化学を学ぶことによって得られる、生体を構成する基本分子に関する理解は、生命を科学的に思考する基礎となる。生化学実習では、酵素反応を利用した生体分子の定性、定量を実習する。また、タンパク質、糖、核酸、脂質などの分離、定性、定量を実習し生化学に対する理解を深める。生化学の実習は、臨床検査における様々な分析や研究手法の基礎となるものであるため、基礎的な実験手法やデータのまとめ方についても学習する。

## 病理学

生体を構成する細胞・組織・臓器の変化を発見し、病気に陥った原因を追究するために、病理学用語を学び、組織細胞レベルから疾病や病的変化を学修し、総合的な疾患と形態学的変化を理解する。具体的には、病理学総論として、病理学とは何か、染色体・遺伝子・発生の異常、組織細胞傷害とその修復機構、物質代謝異常、循環障害、炎症、免疫異常、腫瘍について学び、病理学各論として、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器および乳腺、造血臓器系、神経系、運動器系、感覚器系、皮膚系、自己免疫の各疾患について学ぶ。

## 栄養学

臨床検査技師にとって栄養に関する基礎知識は、病院のチーム医療の一員としても必要であり、病気の予防や健康の維持・回復を理解するためにも重要なものである。この授業では、栄養の必須となる糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルと栄養食事療法について学ぶ。また、臨床検査として重要な項目の栄養アセスメントタンパクと栄養状態、加齢によるバランス、治療食などの知識を修得する。

## 薬理学

疾患の治療において薬物療法は重要であり、医薬品の生体に及ぼす作用機序を調べるのが薬理学である。この授業では医薬品の有効性や副作用、投与薬剤の体内動態および体内分布、薬物がどのような仕組みで生体に作用するか等の作用機序を理解することで、薬理作用の基本を理解する。また、血中薬物濃度測定は臨床検査の重要な項目でもあり、薬剤が臨床検査に及ぼす直接的影響や間接的な副作用としての影響を理解する。さらに、薬理学に対する理解は治験コーディネーター等のチーム医療を行う上でも重要であり、検査と薬の関連についても総合的に理解を深める。

## 医学検査の基礎とその疾病との関連

### 臨床検査学 I

臨床検査の意義、臨床検査およびその教育の歴史、臨床検査技師の役割や使命感などを知り、臨床検査学への意欲を醸成する。また、検体取扱い方（血液・尿・便・喀痰・髄液・咽頭粘液・膿・分泌液・穿刺液等）、採取や保存の方法が検査データに及ぼす影響についても学ぶ。このほか、従来の採血法（採血行為の範囲、採血の種類、注意事項、採血部位と手段、乳幼児採血）に加え、診療の補助としての臨床検査技師の業務に、インフルエンザ採取等の検体採取が業務追加されたことについても紹介する。このほか、将来的な介護への介入、POCTや個別

### 臨床検査学 II

臨床検査における専門分野の基礎知識を総合的に学ぶ。具体的には、健康診断の検査、肝機能検査、糖尿病検査、腎機能検査、血液検査、輸血検査、心疾患検査、動脈硬化の検査、腫瘍検査、膵機能検査、内分泌疾患の検査、感染症の検査、自己免疫疾患の検査、自己抗体検査の内容について講義するとともに、Reversed C.P.C.（各疾患における症例検討）による臨床検査データの読み方の基礎を身につける。

### 臨床検査学基礎実習

臨床検査における専門分野の実習を行う上で必要となる検体検査の基礎的な知識と技術を学ぶ。授業では化学容量器、天秤、遠心分離器、攪拌器、恒温槽、分光光度計、pHメータ、顕微鏡などの共通検査機器を組み入れた実習を行う。これにより、臨床化学検査など検体検査で使用することが多い実験器具の正しい使い方から緩衝溶液の調製までを身につけるとともに、病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査などで必要となる顕微鏡の基本構造の理解や操作技術を修得する。また、抗原抗体反応における凝

医療、iPS細胞の精度保証など夢のある仕事についても紹介し、意欲を引き出す。さらに、臨床検査における各検査学の概要や医療・病院における位置づけや重要性および役割について理解し、医療分野における専門知識と検査の技術を修得するための基礎的内容を学ぶ。各疾患の重症度のグレードと検査項目の値との関わりを系統的に学び、臨床診断における臨床検査の意義についても理解する。

集反応やELISA法の基礎的な知識と技術を修得する。

## 保健医療福祉と医学検査

### 医療概論

医療を支える職種や医療の保険・政策・経済についてのシステムについて理解し、在宅・高齢者ケアや災害医療についても理解を深める。また、健康とは何かを改めて考え、医療がたどってきた歴史的背景と医療の将来展望についても学ぶ。これらにより現代医療の構造と特徴がはっきり理解でき、医療事故の認識や予防医学の重要性について自ら考察でき、医療における臨床検査技師の役割を認識する。

### 公衆衛生学

公衆衛生各分野の理解に必要な基礎的事項である疫学、感染症、母子保健、成人保健、学校保健、精神保健、生活環境、公害、栄養と食品衛生、産業保健、衛生の統計、行政、法規と社会保障について学ぶ。特に、保健医療福祉行政・財政の概略、基盤となる公衆衛生領域について理解する。また、検査と非常に関連が深い、医療および産業廃棄物、上下水道、食品衛生管理、オキシダントを含めた大気汚染物質、騒音などの環境因子について、産業衛生を含めた公衆衛生と国民の健康に関する理解も深める。

## 医療工学

### 医用工学概論

医用工学とは工学的な理論や技術、手法を活用し、疾病の診断・治療・予防などを支援しようとする学問である。授業では医用生体工学の概要、電気・電子素子の基礎、電子と電源回路、生体の生理的および物理的性質、記録と表示、生体からの通信・情報処理について理解し、生体情報を感知するセンサの特性と使用方法について学ぶ。また、生体の物理的特性や測定値をどのように認識するかといった生体計測に関し、各医療機器の特性を学ぶとともに、その安全対策についても理解を深める。

### 医用工学実習

医用工学概論で学んだ知識を医療領域で応用することを目的に、電気電子工学の基礎から生理特性の測定までの実習を行い、測定理論、測定条件、測定手順、測定結果について理解する。また、電気的安全性とそのための管理法も同時に理解する。具体的には、オシロスコープの使用法、リサージュ曲線とシミュレーション、CR結合回路、LR結合回路、LC共振回路、整流回路、電磁誘導、論理回路、デジタル演算回路、オームの法則、ホイートストンブリッジ、心電計、差動増幅器、負帰還増幅器に関する説明と実習を行う。

## 専門分野

### 臨床病態学

#### 臨床病態学 I

#### 臨床病態学 II

臨床検査技師として適切な検査と判断ができるように、各症例に関する検査データがどのように疾病や診断に反映するかを基礎分野から理解を深める。その上で、検査データ事例を用いて、その症例データが示す病態や疾患について理解する能力を養う。症例については、臨床化学・免疫検査・血液検査・病理検査・画像診断全般における検査項目ごとの内容を学ぶ。授業では、脳・神経系疾患（脳血管障害、神経系の腫瘍、神経系の感染症、機能的疾患、神経変性疾患、脱髄性疾患、脊髄・脊椎疾患、末梢神経疾患、筋疾患、代謝性疾患、その他の中毒性疾患や神経障害）および呼吸器疾患（感染症、アレルギー性疾患、閉塞性疾患、拘束性肺疾患、肺循環障害、換気異常、腫瘍、胸腔疾患、喫煙）について詳細な解説や補足を加える。

臨床検査技師として適切な検査と判断ができるように、各症例に関する検査データがどのように疾病や診断に反映するかを幅広い分野から理解を深める。その上で、検査データ事例を用いて、その症例データが示す病態や疾患について理解する能力を養う。症例については、臨床化学・免疫検査・血液検査・病理検査・画像診断全般における検査項目ごとの内容を学ぶ。授業では、循環器疾患（心房中隔欠損症や肺動脈狭窄症等の先天性心疾患、虚血性心疾患や心筋症等の後天性心疾患、本態性と二次性高血圧等の血圧異常、期外収縮や心房細動等の不整脈疾患、動脈硬化症や大動脈疾患等の血管の疾患）および血液・造血器疾患（各種貧血等の赤血球系疾患、各種白血病等の白血球系疾患、血小板減少性紫斑病等の出血性疾患）について詳細な解説や補足を加える。

## 形態検査学

### 病理検査学

生体検査や手術によって採取された臓器や組織、細胞などから病気の診断や原因究明を行うための病理学検査について講義する。この授業では、病理組織学的検査法の意義、病理組織標本作製法、各種の染色法、組織化学染色法、電子顕微鏡標本作製法を学ぶ。この際、病理解剖に関連づけて、各種方法を用いる意義を理解する。また、標本の管理や精度管理についても学ぶ。

### 病理検査学実習

病理検査学における学修と理解の上で、病理組織標本作製における一連の作業である、固定、切り出し、包埋、薄切、各種染色（HE染色、特殊染色、免疫染色）、封入、鏡検の行程を実習により学ぶ。また、正常組織における形態学的特徴、機能的特徴を理解するとともに、各種病変組織についても理解する。その際、スケッチを含む結果の記述と考察を行う。また、実習内容についてグループで討論し、その結果を発表することで、知識と技術の定着を図る。

### 血液検査学 I

赤血球や血色素から貧血の程度、白血球の多さから炎症の程度を把握するために、血液疾患における診断・治療と臨床検査との関わりを学ぶ。血液形態の成り立ち、血液凝固などの基礎知識を修得し、血液分析装置の原理と手技を含めた各検査項目の測定原理、検査方法、臨床的意義を理解する。具体的には、血液の基礎、血球、止血機構、凝固・線溶系、検体の採取と保存、血球に関する検査、形態に関する検査、血小板、凝固・線溶検査、血液検査結果の評価について学ぶ。

### 血液検査学 II

血液検査学 I で学修した基礎知識や各種検査法の技術知識を用いて、専門的な立場で血液疾患の診断・治療についてより深く学び、実際の臨床の現場（医師）にアドバイスまたは応用できる能力を身につける。また、最新の血液画像システムについても学ぶ。具体的には、血液の基礎、血球、止血機構、凝固・線溶系、検体の採取と保存、血球に関する検査、形態に関する検査、血小板、凝固・線溶検査、血液検査結果の評価についての内容を応用できるように理解する。

### 血液検査学実習

血液検査学 I・II の講義で学んだ内容（各検査項目の測定原理、検査方法、臨床的意義）について、基本技術から具体的作業までを実習により修得し理解する。また、顕微鏡を用いて正常の血液細胞と血液疾患の血液細胞との鑑別ができるようにする。具体的には、検体採取と保存（採血法、抗凝固剤の種類と使用方法、検体の処理、保存法）、血球に関する検査（赤血球数、白血球数、血小板数、網赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値、赤血球沈降速度、溶血の検査）、形態に関する検査（末梢血液標本の作成、染色法、末梢血塗抹標本の観察、骨髓標本の作製、骨髓像の観察）、血小板・凝固・線溶検査についての技術を修得する。

### 一般検査学（実習を含む）

腎機能を含む病態と一般検査との関連性を理解し、腎機能に関係する尿タンパク質や浸透圧検査、腎機能以外の尿潜血、ビリルビン、糖・ケトン体、尿沈渣（各種結晶と血球）などの検査方法、測定原理、結果の読み方から判断、臨床的意義について理解する。

## 形態検査学演習

臨床検査技師には、免許取得後、実務経験を積むことにより取得できる、より高度な認定資格が数多く用意されている。ここでは、卒業後のキャリアアップをめざし、これまで3年間で学んできた国家試験レベルの基礎となる知識・技術の確実な修得を確認した上で、認定資格で求められる高度な専門知識の一端を演習により教授する。この授業では特に、就職後に取得をめざす認定血液検査技師など形態検査に関係する認定資格を視野に入れ、血液学的検査に関する各種検査法、疾患との関わり、結果の解釈について学ぶ。

## 生物化学分析検査学

### 臨床化学検査学 I

血液中の化学成分を調べ、臓器の異常を把握するための検査が臨床化学検査である。この授業では、臨床化学検査の種類だけでなく、血液中の糖質、タンパク質、ビタミン、ホルモンなどの各論を学びながら、疾病経過時における生体内および臨床化学項目の変動や推移を理解する。具体的には、臨床化学分析の目的と特徴、臨床化学分析の単位と標準物質、測定値の管理、基準範囲、臨床判断値、生理的変動と測定技術変動、臨床化学分析の標準体系などを学ぶ。

### 臨床化学検査学 II

臨床化学検査学 I で学んだ各種項目の種類における測定方法および原理について学び、それらの特徴・注意点・臨床的意義について理解する。具体的には、分析法の選択、分光光度分析法、クロマトグラフィ、各種電気泳動法、免疫化学的定量分析法、電気化学分析、酵素的分析法、自動分析法について学び、化学分析法各論である電解質と微量元素、糖質、脂質とリポタンパク、タンパク質、非タンパク性窒素化合物、酵素、骨代謝マーカー、ホルモン、ビタミン等の基礎と臨床について学ぶ。

### 臨床化学検査学実習 I

臨床化学検査学 I・II の知識を理論的に技術応用でき、生体物質の構造および測定原理が理解できているか、化学的な分析方法が正しく操作できているか、得られた結果に対して論理的に解析して考察しているかを確認することを目的に実習を行う。具体的には、塩析・電気泳動・カラムクロマトグラフィを用いた血漿タンパク質の分離分析、薄層クロマトグラフィ法による脂質成分の分画測定、酵素のKm値の求め方、酵素の至適濃度・温度・pH、酸化還元反応や各種酵素法を用いた臨床化学項目測定を行う。また、各種試料の取り扱い方や注意点についても学ぶ。

### 臨床化学検査学実習 II

臨床化学の主要な項目である無機質（鉄・総カルシウム・無機リン）、糖質（グルコースとOGTT 負荷試験）、タンパク質（総タンパク・アルブミン・血漿タンパク質分画）、脂質（トリグリセライド・コレステロール、リポタンパク質（沈殿法））、非タンパク性窒素（尿素窒素・クレアチニン・尿酸・ビリルビン）に関して、測定原理や測定方法について自家調整した試料により実習を行い、測定結果の解釈や解析方法について正しいかなどを考察し、臨床的意義と結びつけて理解する。その際には分析装置の理解や精度管理についても学ぶ。

### 遺伝子検査学

近年の医学研究の進歩により、従来の遺伝疾患に加え、糖尿病、心筋梗塞、感染症、乳がん等の遺伝子関与が明らかになった。それにより、臨床検査における遺伝子・染色体検査の重要性が高まっている。本講義では遺伝子・染色体検査の原理や方法及び疾患との関連を教授する。また、検査に伴う倫理についても教授する。さらに、これらを理解するためには、細胞生物学などの基礎分野や、病理学などの臨床分野の知識も要求されるため、それらも踏まえて講義する。

### 遺伝子検査学実習

遺伝子検査の基本として、特定の核酸の存在を証明する知識と手技は、確実に取得しておかなければならない。まずは、遺伝子解析に必要な機器・器具・試薬に関する知識を学び、遺伝子検査に用いるサンプルの収集・処理・保管などの取り扱いについて理解する。次いで、核酸（DNAおよびRNA）の抽出法と、取り扱い上の注意を学ぶ。また、PCR法の原理と実施法、RT-PCR法の原理と実施法、電気泳動法の原理と実施法等についても理解する。それと同時に、遺伝子検査に伴う倫理的課題について深く理解する。

### 放射性同位元素検査学

放射性同位元素についての基本的性質や生成を学び、測定機器・放射性医薬品・各種核医学検査の手技から解析までを理解する。被曝管理や安全な取り扱い方法とその法規についての理解

### 生物化学分析検査学演習

臨床検査技師には、免許取得後、実務経験を積むことにより取得できる、より高度な認定資格が数多く用意されている。ここでは、卒業後のキャリアアップをめざし、これまで3年間で学

を深め、最終的に、in vivoやin vitro検査において核医学検査がどのように医療に関係し役に立っているかを理論的に解析して、臨床的意義について理解する。具体的には、原子・原子核の構造、放射線の種類と放射線測定法及び測定機器、放射線の性質と検査方法の分類、各種in vivo検体検査とin vitro検体検査、ヨウ素甲状腺摂取率などの体外測定、核種シンチグラフィなどの画像検査などについて学ぶ。

んできた国家試験レベルの基礎・基本となる知識・技術の確実な修得を確認した上で、認定資格で求められる高度な専門知識の一端を演習により教授する。この授業では特に、就職後に取得をめざす認定臨床化学者や認定臨床染色体遺伝子検査師などの認定資格を視野に入れ、また生物化学分析検査における感度の良い測定法が開発されていることを踏まえ、PCR法や化学発光などの遺伝子検査や臨床化学検査を中心にして、分析装置、分析方法と原理、操作手順の注意点、診断・治療に関わる結果の解釈等を学ぶ。

## 病因・生体防御検査学

### 微生物検査学 I

微生物検査は、感染症の診断や治療効果を判断する上で必要となる病原微生物の分離同定から薬剤耐性・薬剤感受性に関連した薬剤選択まで幅広く、院内感染や感染症治療などの情報提供には不可欠である。また、分子生物学の技術的進歩に伴う微生物検査の高度化に対応するために多種多様な微生物における検査技術を修得することが必要となる。ここでは、病原微生物の歴史から現状、病原微生物の構造と機能特徴、培養方法や検査原理、病原微生物の感染経路や発症メカニズム、微生物の基本構造と代謝、病原微生物の治療法や予防法について理解する。同時に、細菌の構造・機能から見た特徴と分類、細菌の染色法・観察法・鑑別法、抗菌薬の分類、抗菌薬の耐性機序、ワクチンについても学ぶ。

### 微生物検査学 II

病原微生物の形態、培養法、生化学的特徴、代謝、遺伝に関して、病原性を細菌、クラミジア、リケッチア、スピロヘータ、原虫、真菌、ウイルス等に分けて理解し、病原微生物における検査方法の多様性と臨床検査および治療への応用を学ぶ。特に、細菌学の各論となるグラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陽性有芽胞形成桿菌、グラム陽性無芽胞桿菌、グラム陰性桿菌、抗酸菌、クラミジア、リケッチア、マイコプラズマ、抗生物質の分類と特徴について重点的に学ぶ。

### 微生物検査学実習

無菌操作を前提とする微生物検査について、実習を通して微生物の取り扱いやコンタミによる可能性の推測と対応などを理解する。また、採取した検体を培養し、病気を引き起こす細菌などの微生物を検出するために、感染を意識した無菌的操作技術、滅菌消毒法、分離培養法と確認培養法、生化学的検査と免疫学的検査による微生物の同定法、染色法と鏡検法、薬剤感受性試験法と各種抗菌薬耐性因子の検出方法を修得する。具体的には、グラム陽性球菌の分離・同定法、グラム陰性桿菌の分離・同定法、真菌の培養、抗酸菌の培養、嫌気性菌の培養、カンピロバクター食中毒検査などを行う。

### 医動物学

人体に直接病害を起こす動物、間接的にヒトの感染症などを媒介する動物とヒトの関わり合いについて学ぶ。授業では、寄生虫・原虫・衛生動物の分類、分布、形態、発育、生活環、ヒトへの感染について系統的に解説し、寄生虫検査法などをスライドおよび標本を用いて観察しながら学修する。具体的には、赤痢アメーバ・膾トリコモナス・マラリア・トキソプラズマ等の原虫類、回虫やアニサキスなどの線虫類、吸虫類、条虫類、貝・甲殻類、ダニ・ハエ・ノミ・シラミ・蚊などの衛生動物に関する特徴と検査法について理解する。

### 免疫検査学 I

院内感染と法定感染、感染症診断の総論、免疫検査の各種測定法の目的と原理、免疫グロブリン異常の種類と特徴について理解する。授業では、試験管内抗原抗体反応である沈降反応、免疫電気泳動及び免疫固定法、直接凝集及び間接凝集反応、抑制反応、溶解反応、中和反応、比濁法、比ろう法、ウエスタンブロット、鏡検による間接蛍光抗体法、競合ELISA法とサンドイッチELISA法等の検査方法に加え、フローサイトメトリー法の次世代・微量分析についても学び、対象となる項目や原理と判定方法などを理解する。

### 免疫検査学 II

多くの病態の発現原因には免疫が関係しており、免疫検査学 I を基礎とした上で臨床免疫を中心とした内容を学ぶ。授業では、免疫系の役割と特徴、自然免疫と獲得免疫、免疫担当細胞、免疫系の組織・器官、リンパ球の発生と多様性の獲得、リンパ球の抗原認識と活性化など免疫系の仕組みと働き、抗原の種類とエピトープ、免疫グロブリンの構造、抗体作製法、補体や炎症マーカー、接着分子とサイトカインについて学ぶ。具体的には、補体異常、各種感染症、梅毒、ウイルス肝炎、ATL、AIDS、アレルギー分類と機序、自己免疫疾患、腫瘍細胞と免疫、免疫不全症について理解する。

### 免疫検査学実習

### 輸血・移植検査学

### 輸血・移植検査学実習

免疫検査の沈降反応、凝集反応、溶解反応、免疫比濁法、比ろう法、イムノクロマト、ELISA法等の各種測定原理と装置について学び、結果が臨床現場でどのように運用されているかを自家作製した試薬・試料により理解する。具体的には、梅毒血清反応のRPR法およびTPPA法、間接蛍光抗体法の鏡検による抗核抗体、CH50の補体溶血反応、免疫電気泳動及び免疫固定法、サンドイッチELISA法によるHBs抗原、免疫比濁法によるCRP測定とプロゾーン現象、POCTの検査と意義、イムノクロマトによる薬物検査、競合ELISA法による唾液検査について実習する。

輸血と免疫の関連（輸血の歴史・血液製剤の種類）、血液製剤の適正使用のガイドライン、ランドスタイナーの法則、赤血球膜とABO血液型（おもて試験・うら試験）、ABO亜型と検査、Rh-D血液型とDu検査、稀血と遺伝、感作と凝集、各種反応増強剤、抗グロブリン試験（直接クームス・間接クームス）、不規則性抗体検査、交差適合試験（主試験・副試験）、母児不適合妊娠について学び、輸血の安全性、輸血副作用（TACO・TRALI）、血液型不適合妊娠と新生児溶血性疾患等についても理解する。また、HLA抗原における輸血・臓器移植・疾患特異性、移植免疫の重要性や臨床的意義、GVHD等についても理解する。

輸血はマルチの臓器移植といわれ、免疫や感染などの問題を含めると、不適切な輸血は致命傷となる。安全かつ有効な輸血を行うためには、正確な血液型検査、不規則性抗体スクリーニング、交差適合性試験の技術を修得するとともに、専門的な知識が必要となる。授業では、ABO・Rh血液型検査（試験管法・カラム法）、RhD陰性確認試験、ABO血液型亜型検査（抗体吸着解離試験・唾液中血液型物質）、抗グロブリン試験（直接クームス・間接クームス）、不規則性抗体検査、新生児黄疸スクリーニング検査、交差適合性試験〔試験管法（生理食塩水法・ポリエチレングリコール法）〕における原理、基礎知識、手技を修得し、結果解釈について理解する。

### 病因・生体防御検査学演習

臨床検査技師には、免許取得後、実務経験を積むことにより取得できる、より高度な認定資格が数多く用意されている。ここでは、卒業後のキャリアアップをめざし、これまで3年間で学んできた国家試験レベルの基礎・基本となる知識・技術の確実な修得を確認した上で、認定資格で求められる高度な専門知識の一端を演習により教授する。この授業では特に、就職後に取得をめざす認定輸血検査技師や認定臨床微生物検査技師などの認定資格を視野に入れ、病因・生体防御系の機能と制御の基本的知識、微生物・ウィルス感染症、アレルギー、自己免疫疾患、輸血検査と移植関連検査、これらに関する病態の診断・治療効果判定のための検査の原理と方法、結果の解釈等を学ぶ。

## 生理機能検査学

### 生理機能検査学Ⅰ

生理機能検査は、直接、患者に医療機器を接続または密着させることで、身体内部から出てくるさまざまな物理現象を計測したり、外部から超音波や磁力線などエネルギーを加えることで身体内部の画像イメージを得る検査である。生理機能検査学Ⅰでは心電図検査や脈波検査に代表される循環機能検査、呼吸機能検査、血液ガス検査、臨床脳波検査、脳誘発電位検査、針筋電図検査、末梢神経伝導検査、超音波検査、磁気共鳴画像検査、眼底写真検査、サーモグラフィ検査、平衡機能検査、純音聴力検査等の検査の意義と目的、方法、正常所見、注意事項、評価の限界、ノイズと対策ほかを修得する。

### 生理機能検査学Ⅱ

ある疾患が疑われる時に特定の生理機能検査が実施される。つまり、疾患ごとに生理機能検査で何が知りたいかという目的が明確に存在するのである。生理機能検査学Ⅱでは生理機能検査の中でも主要な心電図検査、ホルター心電図検査、スパイロメトリーまたはフローボリウムなどの呼吸機能検査、血液ガス検査、臨床脳波検査、針筋電図検査、末梢神経伝導検査、心臓超音波検査、腹部超音波、血管体表超音波などを対象として、特定の疾患と関連する様々な異常所見、境界所見を詳細に修得する。また、各種生理機能検査における患者対応の方法や留意事項についても理解する。

### 生理機能検査学Ⅲ

生理機能検査学Ⅲでは生理機能検査学Ⅰおよび生理機能検査学Ⅱで修得した内容を総括・補完することで、正常所見と異常所見、境界所見を明確に判読する能力を養う。加えて、生理機能検査で活用する各種ME機器の特性や働きを理解する。また、生理機能検査分野のトピックスである脳外科領域・整形外科領域の手術において盛んに実施されている術中モニタリング検査、睡眠障害とPSG検査、発達障害および高次機能障害・認知障害の生理機能検査所見のほか、糖尿病性神経障害に伴う各種所見、臨床検査技師が知っておきたいX線写真検査・CT検査

査・PET-CT検査の判読ポイント等を理解する。

### 生理機能検査学実習 I

生理機能検査学実習 I では標準12誘導心電図検査・負荷心電図検査・血圧脈波検査などの循環機能検査、スパイロメトリー・強制呼出曲線・フローボリュームなどの呼吸機能検査、重心動揺検査・標準純音聴力検査などの平衡聴覚検査、心臓超音波・頸動脈超音波などの画像検査の手技と結果判読を実体験を通して修得する。各検査に用いるME機器の構造および取扱法、安全対策を理解する。加えて、患者に対する言葉遣い、挨拶および身だしなみ、接遇や配慮などについて医療人に求められる資質を理解する。生理機能検査に求められる基本的なスキルがコミュニケーション能力であることを認識することが極めて重要である。

### 生理機能検査学演習

臨床検査技師には、免許取得後、実務経験を積むことにより取得できる、より高度な認定資格が数多く用意されている。この授業では、卒業後のキャリアアップをめざし、これまで3年間で学んできた国家試験レベルの基礎・基本となる知識・技術の確実な修得を確認した上で、認定資格で求められる高度な専門知識の一端を演習により教授する。この授業では、就職後に取得をめざす超音波検査士や認定心電検査技師などの認定資格を視野に入れ、生体機能検査や画像検査のさらに高度な内容、および疾患との関連や検体検査との関連などを理解する。

## 検査総合管理学

### 医療情報システム学

臨床検査におけるシステムは必要不可欠であり、臨床検査情報システム（CLIS・LIS）はパソコンをワークステーションとするシステムが一般的であるが、臨床検査室全体のシステムから病院内外の他システム（医事、病棟、医師の検査オーダー、健康管理センター、外注業者のシステムなど）に接続された医療情報システムは、システムと装置の接続時だけでなく、システム更新に伴う技術や知識に役立つ。授業では、臨床検査情報システム（検査依頼から報告）の基本的な構成と情報処理を学び、情報や統計学の授業で学んだ知識や検査データベースの技術を病態解析に活用できるようにする。

### 生理機能検査学実習 II

生理機能検査学実習 II では臨床脳波検査・末梢神経伝導検査（MCS・Fwave・SCS）・ABR検査・SEP検査などの脳神経筋機能検査、無散瞳眼底写真検査、肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓などの腹部超音波、甲状腺ほかの体表超音波などの画像検査の手技と結果判読を実体験を通して修得する。各検査に用いるME機器の構造および取扱法、安全対策を理解する。加えて、患者に対する言葉遣い、挨拶および身だしなみ、接遇や配慮などについて医療人に求められる資質を理解する。生理機能検査に求められる基本的なスキルがコミュニケーション能力であることを認識することが極めて重要である。

### 画像検査学演習

近年、脳科学の発展は著しく、新たな脳機能検査法が開発されている。画像検査学演習では磁気共鳴画像（MRI）を用いた画像検査である拡散強調画像（diffusion weighted image：DWI）、fMRI（functional magnetic resonance imaging）、拡散テンソルトラクトグラフィ（diffusion tensor tractography：DTT）などについて理解する。また、光トポグラフィを用いた脳血流の画像化と解析、また、脳波検査を用いたFFT解析や周波数脳波トポグラフィ解析などの意義と手技、画像評価法を修得する。これらの手法は、患者の検査診断という側面よりも医学研究分野で応用されている技法である。

### 検査総合管理学

臨床検査における業務や役割、組織体制、検査情報管理の必要性について理解し、臨床検査の管理や運営方法について部署別に人事および業務の管理、機器の管理や試薬・備品・消耗品の管理、収支管理、安全管理などを学修する。検査依頼、採血、分析、検査結果報告までの各プロセスにおける管理上の問題点を整理し、対策と解決のための精度保証が確立できてこそ検査総合管理といえる。そのために、トレーサビリティ、誤差要因、分析装置の精度を含めた測定時の精度管理などを理解し、あわせて各種検査機器および測定法の特徴を学ぶ。

### 関係法規

臨床検査技師等の医療職に関する法律、感染、薬事、保健衛生、生活保護、社会福祉関連の法規、労働基準法を学び、関係法規の目的、免許、試験、業務等、衛生検査所、罰則などについて理解する。また、死体解剖、医療過誤、毒物および劇物取締法による管理と廃棄に関する法規についても学ぶ。さらに、診療の補助としての鼻腔・咽頭ぬぐい液、鼻腔吸引液等の採取、膿、表皮、粘膜等の表在組織の採取、スワブによる便の採取、また基準嗅覚検査および静脈性嗅覚検査、電気味覚検査およびろ紙ディスク法による味覚定量検査など、近年の法規改正

による臨床検査技師の業務範囲の拡大についても講義する。

### 救急検査学

救急検査とは、ショック、意識障害、激しい痛みなどの症状がある患者に対し、救急処置を行いながら、検査結果によって素早く病因を判断するためのものである。ふだん経験しないパニック値や極端値に関し、患者病態を踏まえた上で、再検査するよりも速く検査データを解析し、臨床に知らせる必要がある。この授業では救急検査体制のあり方、システムの構成、救急検査項目に関する測定方法、原理、前処理、分析装置、結果および異常値の解釈と報告について学ぶ。

### 医療安全管理学

#### 医療安全管理学

医療現場では臨床検査を通して質の高い検査を提供するだけでなく、感染対策や病院環境整備などの安全性が担保される必要がある。この授業では医療現場における事故や危険性を未然に察知し、医療従事者としての対処方法について、事例をもとに医療安全を学ぶ。また、臨地実習に先立って患者対応と確認義務、事故や感染、データの確認、守秘義務等についても学ぶ。これにより、患者に安全な医療を提供するためにはどのようなことを考える必要があるかなど、医療過誤や危機管理について考察し、安全対策の課題と現状について理解する。

### 細胞検査士関連科目群

#### 【細胞検査士基礎科目】

#### 臨床細胞学総論 I

細胞診断学を学び、将来細胞検査士として活躍するために必要となる、臨床細胞学について基本的な知識と技術を総合的に学ぶ。Iでは、まず臨床細胞学の序論として、細胞診断学の歴史や目的、癌細胞の判定基準や用語などの知識を修得する。また、正確な細胞診断を行うために欠かすことのできない標本作製について実習を含めて学ぶとともに、その理論的背景を理解する。その上で、正常細胞と細胞の良性変化などに関する知識と形態的特徴について、細胞診断学の基礎となる婦人科系の特に子宮頸部を対象に学ぶ。

#### 臨床細胞学総論 II

細胞診断学を学び、将来細胞検査士として活躍するために必要となる、臨床細胞学について基本的な知識と技術を総合的に学ぶ。IIでは、正常細胞の異形成から癌までの病変組織に関する臨床細胞学的所見について、細胞診断学の基礎となる婦人科系の特に子宮頸部を対象に学ぶ。また、実習では、腫瘍関連病変から腫瘍までの典型的な細胞について顕微鏡で観察し、スケッチを行うことで理解を深める。

#### 臨床細胞学総論 III

細胞診断学を学び、将来細胞検査士として活躍するために必要となる、臨床細胞学について基本的な知識と技術を総合的に学ぶ。IIIでは、婦人科系の子宮体部および呼吸器系を対象に、正常細胞、良性変化、癌に関する臨床細胞学的所見について総合的理解を深める。また、実習では、この授業で対象とする子宮体部と呼吸器の正常細胞から腫瘍関連病変、腫瘍までの典型的な細胞について理解を深めるため、繰り返し顕微鏡で観察し、スケッチを行う。

## 臨床細胞学演習 I

臨床細胞学総論 I・II・IIIで学んだことをもとに、実習を繰り返して学習し、必要に応じて適宜、教員により、受講生に対し個別のおよび集団的に解説を行う。この授業では、婦人科領域における各種細胞の形態学的特徴を学習し、顕微鏡にて繰り返し観察する。

## 臨床細胞学演習 II

臨床細胞学総論総論 I・II・IIIで学んだことをもとに、実習を繰り返して学習し、必要に応じて適宜、教員により、受講生に対し個別のおよび集団的に解説を行う。この授業では、婦人科以外の領域、特に呼吸器領域における各種細胞の形態学的特徴を学習し、顕微鏡にて繰り返し観察する。

## 【細胞検査士コース】

### 細胞診断学総論

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成され、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、細胞診断学の序論として細胞診断学総論の講義と実習を行う。近年の癌罹患率の増加、がん検診率の増加を踏まえ、社会における細胞検査士の必要性を考えると、即戦力として社会に貢献できる人材としての知識、技術を習得することが必要である。

### 細胞診断学各論 I (婦人科系)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、婦人科系細胞診断について講義と実習を行う。

### 細胞診断学各論 II (呼吸器系)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、呼吸器系の細胞診断について講義と実習を行う。

### 細胞診断学各論 III (消化器系)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、消化器系の細胞診断について講義と実習を行う。

### 細胞診断学各論 IV (泌尿器系・体腔液)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、泌尿器・体腔液の細胞診断について講義と実習を行う。

### 細胞診断学各論 V (乳腺・甲状腺)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、乳腺・甲状腺の細胞診断について講義と実習を行う。

### 細胞診断学各論 VI (リンパ節・骨・軟部・造血器等)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、リンパ節・骨・軟部・造血器等について講義と実習を行う。

## 総合演習

### 研究基礎演習

臨床検査に関する研究において、科学的に課題解決するための基本的理念や研究態度を身につける。その際、個人や大学の研究としてだけでなく、社会や地域への医療貢献であることを認識させる。授業ではまず、課題の理解と課題を達成するための効率のかつ積極的な行動や態度を身につけ、参考文献などによる課題や問題点

### 卒業研究A

各専門領域の教員の指導を受けながら、卒業研究を行い、卒業論文を完成させる。前半は、自らの研究課題を設定し、達成するための研究プロセスを考え、必要な知識・技術を修得する。具体的には、研究課題に関連する過去の研究論文の成果等を調べるとともに、研究に必要な試薬・備品・試料・分析装置などの選択と使用方

### 卒業研究B

卒業研究Bでは、細胞検査士・臨床検査技師として、医療の分野で社会に貢献することを目標に1年次から3年次まで学んできた種々の知識と技術を基に、細胞診断に則した研究を行う。具体的には、研究課題に関連する過去の研究論文を調査し、研究に必要な分析方法を検討し研究計画を立てる。研究に必要な試薬、備品、試

の解決方法を教授し、課題に対する論理的な作業方法と判断力を養う。また、研究ノートの作成方法や研究に必要な倫理感、守秘義務などを学び、研究者としてのルールやマナーなどを修得する。この授業では積極的に討論を実施する。

法の確認やブレ実験を行う。後半は、適宜教員の指導を受けながら、必要な実験を行い、卒業論文の執筆を行う。途中、中間発表を行い、学生や教員による評価や討論を経ることで、学術論文としての完成度を高める。

料、機器を選択する。担当教員の指導のもとに実験を行い実験結果を分析し、論文としてまとめる。

#### 臨床検査総合演習A

臨床検査学は専門領域が多岐にわたっており、1年次から3年次まで個別領域の知識と技術を段階的に身につけ、臨地実習において現場を体験することにより総合化を行うこととなる。この授業では、さらに専門領域間の関係を学生に意識させつつ、基礎から応用までの知識と技術の総合的な理解を図っていく。また、臨地実習を通して身につけた知識・技術や臨地実習での経験を学生同士が共有することで、知識や技術だけでなく、卒業後の社会人としての資質や臨床への応用能力を高めていく。

#### 臨床検査総合演習B

臨床検査学は専門領域が多岐にわたっており、1年次から3年次まで個別領域の知識と技術を段階的に身につけ、臨地実習において現場を体験することにより総合化を行うこととなる。この授業では、さらに専門領域間の関係を学生に意識させつつ、基礎から応用までの知識と技術の総合的な理解を図っていく。また、臨地実習を通して身につけた知識・技術や臨地実習での経験を学生同士が共有することで、知識や技術だけでなく、卒業後の社会人としての資質や臨床への応用能力を高めていく。なお、このクラスは、細胞検査士コース受講者を対象とする。

### 臨地実習

#### 臨地実習

臨床検査技師としての基本的な実践技術および施設における検査部門の運営に関する知識を修得し、被験者への適切な対応を学ぶ。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。具体的には、病院における検査受付・採血、一般検査、血液検査、免疫検査、生化学検査、細菌検査、遺伝子検査、病理検査、輸血検査、生理検査、解剖などで、実際の検査内容を体験する。また、臨地実習マニュアルを基本にして臨床検査の検体処理、分析、結果報告、解釈までを実体験し、検査の仕組み、検査の相談および情報管理、検査データの活用、精度管理、システム運用等を総合的に理解する。さらに、患者接遇、臨床検査技師としての心構え、応用力等も同時に身につける。

## カリキュラムマップ

作業療法学科 ▶	カリキュラム表	科目概要 ▶
健康科学部 ▶		

▼ 1. 基礎分野    ▼ 2. 専門基礎分野    ▼ 3. 専門分野

### 全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

### 学科・コース別の ディプロマ・ポリシー

- ① 幅広い教養と能動的に学習する姿勢を身につける。
- ② 作業療法を行う上で基礎となる医学および作業の知識を身につける。
- ③ 評価から計画、実施まで作業療法のプロセスを理解し実践する技能を身につける。
- ④ クライアントに関わる他の職種に敬意を払い、チーム・アプローチを実践する態度を身につける。
- ⑤ 疑問に対して科学的手法を用いて検証する技能を身につける。
- ⑥ 地域課題に気づき、それを解決する手段や資源を活用する問題解決能力を身につける。

### 「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

#### 科目ナンバーの見方

〈例〉 **OT** - **1 1 1**  
1    2 3 4

1 学科	OT：作業療法学科
2 回生	1：1回生 2：2回生 3：3回生 4：4回生
3 教育目標	学科のディプロマポリシー①～⑥
4 履修順序	1：前期 2：後期 3：通年 4：その他

## 1. 基礎分野

### (1) 必修科目16単位、選択必修科目8単位以上の計24単位以上を修得

※「人間と知の伝達」2単位、「人間と文化」2単位、「人間と社会」2単位、「人間と自然」から2単位、を含む8単位を修得すること。

#### 基礎科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	教養入門	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦
OT-161	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦
OT-111	英語 I A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-111	英語 I B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

OT-112	英語 II A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	英語 II B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-211	英語 III A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
OT-211	英語 III B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
OT-212	英語 IV A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
OT-212	英語 IV B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
OT-111	アカデミックライティング	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
OT-111	教養ゼミ	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
OT-111	情報処理演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥
OT-112	情報処理演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥

## 人間と知の伝達

### [ 現代の思想 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
OT-112	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
OT-112	ジェンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦
OT-211	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤
OT-212	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤

### [ メディアと情報 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦
OT-111	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
OT-211	情報処理演習 III	1	選択	演習	2回生	①②⑥
OT-212	情報処理演習 IV	1	選択	演習	2回生	①②⑥
OT-211	情報処理演習 V	1	選択	演習	2回生	①②⑥
OT-212	情報処理演習 VI	1	選択	演習	2回生	①②⑥
OT-111	数学演習 I	2	選択	演習	1回生	①②⑥
OT-112	数学演習 II	2	選択	演習	1回生	①②⑥

## 人間と文化

### [ 外国語と文化理解 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
OT-111	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
OT-112	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④
OT-112	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
OT-111	中国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	中国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-111	中国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	中国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-111	韓国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	韓国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-111	韓国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
OT-112	韓国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

### [ 歴史・文化 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥
OT-111	京都の歴史・文化 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
OT-111	京都講座 I	2	選択	講義	1回生	①②③
OT-112	京都講座 II	2	選択	講義	1回生	①②③

## 人間と社会

### [ 法律・行政・政治 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-114	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
OT-111	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥

OT-112	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
OT-111	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
OT-112	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
OT-111	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④
OT-112	政治学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④
OT-211	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥

### [ 経済・経営・社会 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
OT-112	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
OT-111	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
OT-112	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥
OT-211	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④
OT-212	経済学概論 II	2	選択	講義	2回生	①②④

### 人間と自然

### [ 健康・こころ・からだ ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-111	健康に生きる I	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
OT-111	健康に生きる II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥
OT-112	健康に生きる III	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
OT-111	スポーツコース I	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦
OT-112	スポーツコース II	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦
OT-111	スポーツコース III	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦
OT-112	スポーツコース IV	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦

### [ 自然と環境 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-114	物理学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
OT-114	化学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
OT-114	生物学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
OT-112	地球生命論	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
OT-112	地球環境論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤

### 医療と心理

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
OT-141	こころとからだの健康科学 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
OT-142	こころとからだの健康科学 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
OT-111	医学概論	2	選択	講義	1回生	①②④
OT-111	統計学基礎論	2	選択	講義	1回生	⑤⑥⑦
OT-122	医療と生命の倫理	2	必修	講義	1回生	①②④
OT-122	医療リスクマネジメント	1	必修	講義	1回生	①②④
OT-221	臨床心理学	2	必修	講義	2回生	①②④
OT-221	よそおいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④
OT-222	公衆衛生学	1	選択	講義	2回生	①②④
OT-321	健康心理学	2	選択	講義	3回生	①②④

### キャリア教育

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-151	キャリア開発演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦	①
OT-152	キャリア開発演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦	①

## 2. 専門基礎分野

(1) 専門基礎分野から必修科目32単位以上を修得すること。

人体の構造と機能及び心身の発達

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-121	人体の構造と機能演習 I (骨・関節・筋・神経など)	2	必修	演習	1回生	①②⑥	②
OT-122	人体の構造と機能演習 II (呼吸・循環系、消化系など)	1	必修	演習	1回生	①②⑥	②
OT-221	人体の構造と機能実習 I (構造系)	1	必修	実験・実習	2回生	①②⑤	②
OT-222	人体の構造と機能実習 II (機能系)	1	必修	実験・実習	2回生	①②⑤	②
OT-122	運動生理学	2	必修	講義	1回生	①②⑤	②
OT-122	運動学	2	必修	講義	1回生	①②⑤	②
OT-221	運動学演習	1	必修	演習	2回生	①②⑥	②
OT-122	人間発達学	2	必修	講義	1回生	①②④	②

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-122	病理学	2	必修	講義	1回生	①②⑥	②
OT-221	内部障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-221	運動器障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-221	精神障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-222	精神障害応用論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-221	神経障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-221	発達障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-222	老年期障害基礎論	2	必修	講義	2回生	①②④	②

保健医療福祉とリハビリテーションの理念

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-122	リハビリテーション概論	2	必修	講義	1回生	①②④	②
OT-362	地域包括ケアシステム演習	2	必修	演習	3回生	②④⑤⑦	⑥

### 3. 専門分野

(2) 専門分野から必修科目66単位、選択必修2単位以上の計68単位以上を修得すること。

基礎作業療法学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-121	作業療法学概論	2	必修	講義	1回生	①②③⑦	②
OT-122	作業科学	2	必修	講義	1回生	①②④⑤	②
OT-351	作業療法研究法演習 I	1	必修	演習	3回生	②④⑤⑥⑦	⑤
OT-352	作業療法研究法演習 II	1	必修	演習	3回生	②④⑤⑥⑦	⑤

作業療法管理学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-322	作業療法管理学	2	必修	講義	3回生	①②③⑥	②

作業療法評価学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-231	作業療法評価学	2	必修	講義	2回生	①②④	③
OT-231	作業療法評価学演習	1	必修	演習	2回生	⑤⑥⑦	③
OT-232	身体機能評価学演習	2	必修	演習	2回生	②④⑥⑦	③
OT-232	精神機能評価学演習	1	必修	演習	2回生	②④⑥⑦	③
OT-232	発達期評価学演習	1	必修	演習	2回生	②④⑥⑦	③
OT-222	画像診断学	1	必修	講義	2回生	①②④⑤	②

作業療法治療学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
------	---------	-----	------	------	------	-----------	--------------------

OT-121	作業学	2	必修	講義	1回生	①②④	②
OT-121	作業学演習 I	1	必修	演習	1回生	①②④⑥	②
OT-121	作業学演習 II	1	必修	演習	1回生	①②④⑥	②
OT-122	レクリエーション演習	1	必修	演習	1回生	①②④⑥	②
OT-251	作業療法関連理論	1	必修	講義	2回生	②④⑦	⑤
OT-221	日常生活支援学	1	必修	講義	2回生	②④⑥	②
OT-222	日常生活支援学演習	1	必修	演習	2回生	②④⑥⑦	②
OT-321	身体機能作業療法学	1	必修	講義	3回生	①②④	②
OT-322	身体機能作業療法学演習	1	必修	演習	3回生	②④⑥⑦	②
OT-321	精神機能作業療法学	1	必修	講義	3回生	①②④	②
OT-322	精神機能作業療法学演習	1	必修	演習	3回生	②④⑥⑦	②
OT-321	発達期作業療法学	1	必修	講義	3回生	①②④	②
OT-322	発達期作業療法学演習	1	必修	演習	3回生	②④⑥⑦	②
OT-221	高齢期作業療法学	1	必修	講義	2回生	①②④	②
OT-222	高齢期作業療法学演習	1	必修	演習	2回生	②④⑥⑦	②
OT-321	高次脳機能作業療法学	1	必修	講義	3回生	①②④	②
OT-222	リハビリテーション工学	1	選択	講義	2回生	②④	②
OT-321	義肢装具学	1	必修	講義	3回生	②④⑥	②
OT-322	義肢装具学演習	1	必修	演習	3回生	②④⑥⑦	②
OT-321	感覚統合療法	1	選択	講義	3回生	②④⑥	②
OT-321	認知症作業療法学	1	選択	講義	3回生	②④⑥	②
OT-342	言語聴覚療法	1	選択	講義	2回生	②④⑦	④
OT-352	作業療法技術学 I (地域の医療と福祉)	1	選択	講義	3回生	②⑤⑥⑦	⑤
OT-352	作業療法技術学 II (こころと子どもの支援)	1	選択	講義	3回生	②⑤⑥⑦	⑤

#### 地域作業療法学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-261	地域作業療法学	1	必修	講義	2回生	①②④	⑥
OT-262	地域作業療法学演習	1	必修	演習	2回生	①②④⑦	⑥
OT-361	生活環境論	1	必修	講義	3回生	②④⑥	⑥
OT-361	ヘルスプロモーション作業療法学	1	必修	講義	3回生	②④⑥⑦	⑥
OT-361	職業リハビリテーション	1	必修	講義	3回生	②④⑥⑦	⑥

#### 臨床実習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-132	臨床基礎実習 I	1	必修	実験・実習	1回生	⑤⑥⑦	③
OT-232	臨床基礎実習 II	1	必修	実験・実習	2回生	⑤⑥⑦	③
OT-332	臨床評価実習	3	必修	実験・実習	3回生	⑤⑥⑦	③
OT-431	総合臨床実習 I	9	必修	実験・実習	4回生	⑤⑥⑦	③
OT-431	総合臨床実習 II	9	必修	実験・実習	4回生	⑤⑥⑦	③

#### 卒業研究

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
OT-422	作業療法総合演習	1	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	②
OT-452	卒業研究	2	必修	演習	4回生	②⑤⑥⑦	⑤

【第9章 2021年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 作業療法学科

# カリキュラム表

作業療法学科 ▶	カリキュラムマップ	科目概要 ▶
健康科学部 ▶		

<b>基礎分野</b> <b>24単位</b> 必修16単位+ 選択必修8単位	<b>専門基礎分野</b> <b>32単位</b> 必修32単位	<b>専門分野</b> <b>68単位</b> 必修66単位+ 選択必修2単位	卒業要件 <b>124</b> 単位
--	--	--	--------------------------

## 基礎分野 必修科目

16単位

### 基礎科目

	単位	回生
教養入門	2	1~
英語 I A	1	1~
英語 I B	1	1~
英語 II A	1	1~
英語 II B	1	1~
地域課題研究	1	1~
キャリア開発演習 I	1	1~
キャリア開発演習 II	1	1~
情報処理演習 I	1	1~
情報処理演習 II	1	1~

### 医療と心理

	単位	回生
医療と生命の倫理	2	1~
医療リスクマネジメント	1	1~
臨床心理学	2	2~

## 基礎分野 選択必修科目

8単位

※の各領域からは各2単位以上の修得必須

### 基礎科目

	単位	回生
英語 III A	1	2~
英語 III B	1	2~
英語 IV A	1	2~
英語 IV B	1	2~
アカデミックライティング	2	1~
教養ゼミ	2	1~

### 医療と心理

	単位	回生
こころとからだの健康科学 I	2	1~
こころとからだの健康科学 II	2	1~
医学概論	2	1~
統計学基礎論	2	1~
よそおいの心理学	2	2~
公衆衛生学	1	2~
健康心理学	2	3~

領域 人間と知の伝達※

【分野】 現代の思想

	単位	回生
--	----	----

領域 人間と文化※

【分野】 外国語と文化理解

	単位	回生
--	----	----

領域 人間と社会※

【分野】 法律・行政・政治

	単位	回生
--	----	----

領域 人間と自然※

【分野】 健康・こころ・からだ

	単位	回生
--	----	----

哲学概論	2	1～
倫理学概論	2	1～
ジェンダー研究	2	1～
心理学概論	2	2～
宗教学概論	2	2～

**[分野] メディアと情報**

	単位	回生
言語コミュニケーション論	2	1～
現代のメディアと表現	2	1～
情報処理演習 III	1	2～
情報処理演習 IV	1	2～
情報処理演習 V	1	2～
情報処理演習 VI	1	2～
数学演習 I	2	1～
数学演習 II	2	1～

比較文化論	2	1～
芸術と文化	2	1～
異文化コミュニケーション論	2	1～
文化人類学	2	1～
中国語 I	2	1～
中国語 II	2	1～
中国語 III	2	1～
中国語 IV	2	1～
韓国語 I	2	1～
韓国語 II	2	1～
韓国語 III	2	1～
韓国語 IV	2	1～

**[分野] 歴史・文化**

	単位	回生
歴史学入門	2	1～
京都の歴史・文化 I	2	1～
京都講座 I	2	1～
京都講座 II	2	1～

日本国憲法	2	1～
法学概論 I	2	1～
法学概論 II	2	1～
民法	2	2～
行政法	2	2～
政治学概論 I	2	1～
政治学概論 II	2	1～
行政学	2	2～

**[分野] 経済・経営・社会**

	単位	回生
経営学概論	2	1～
会計学概論	2	1～
社会学概論 I	2	1～
社会学概論 II	2	1～
経済学概論 I	2	2～
経済学概論 II	2	2～

健康に生きる I	2	1～
健康に生きる II	2	1～
健康に生きる III	2	1～
スポーツコース I	1	1～
スポーツコース II	1	1～
スポーツコース III	1	1～
スポーツコース IV	1	1～

**[分野] 自然と環境**

	単位	回生
物理学基礎	2	1～
化学基礎	2	1～
生物学基礎	2	1～
地球生命論	2	1～
地球環境論	2	1～

**専門基礎分野 必修科目**

必修 **32** 単位

**専門分野 必修科目**

必修 **66** 単位

1回生

**専門基礎分野**

	単位	開講期
人体の構造と機能演習 I (骨・関節・筋・神経など)	2	前
人体の構造と機能演習 II (呼吸・循環系、消化系など)	1	後
運動生理学	2	後
運動学	2	後
人間発達学	2	後
病理学	2	後
リハビリテーション概論	2	後

**専門分野**

	単位	開講期
作業療法学概論	2	前
作業科学	2	後
作業学	2	前
作業学演習 I	1	前
作業学演習 II	1	前
レクリエーション演習	1	後
臨床基礎実習 I	1	後

2回生

**専門基礎分野**

	単位	開講期
人体の構造と機能実習 I (構造系)	1	前
人体の構造と機能実習 II (機能系)	1	後
運動学演習	1	前
内部障害基礎論	2	前
運動器障害基礎論	2	前
精神障害基礎論	2	前
精神障害応用論	2	後
神経障害基礎論	2	前
発達障害基礎論	2	前
老年期障害基礎論	2	後

**専門分野**

	単位	開講期
作業療法評価学	2	前
作業療法評価学演習	1	前
身体機能評価学演習	2	後
精神機能評価学演習	1	後
発達期評価学演習	1	後
画像診断学	1	後
作業療法関連理論	1	前
日常生活支援学	1	前
日常生活支援学演習	1	後
高齢期作業療法学	1	前
高齢期作業療法学演習	1	後
地域作業療法学	1	前
地域作業療法学演習	1	後
臨床基礎実習 II	1	後

3回生

**専門基礎分野**

	単位	開講期
地域包括ケアシステム演習	2	後

**専門分野**

	単位	開講期
作業療法管理学	2	後
作業療法研究法演習 I	1	前
作業療法研究法演習 II	1	後
身体機能作業療法学	1	前
身体機能作業療法学演習	1	後
精神機能作業療法学	1	前
精神機能作業療法学演習	1	後
発達期作業療法学	1	前
発達期作業療法学演習	1	後
高次脳機能作業療法学	1	前
義肢装具学	1	前
義肢装具学演習	1	後
生活環境論	1	前
ヘルスプロモーション作業療法学	1	前
職業リハビリテーション	1	前
臨床評価実習	3	後

4回生

**専門分野**

	単位	開講期
総合臨床実習 I	9	前
総合臨床実習 II	9	前
作業療法総合演習	1	後
卒業研究	2	後

**専門分野 選択必修科目**

下記科目から **2** 単位

2回生

	単位	開講期

3回生

	単位	開講期

リハビリテーション工学	1	後
言語聴覚療法	1	後

感覚統合療法	1	前
認知症作業療法学	1	前

**下記科目のうち、必ず1科目を履修**

地域の医療と福祉コース

	単位	開講期
作業療法技術学 I (地域の医療と福祉)	1	後

こころと子どもの支援コース

	単位	開講期
作業療法技術学 II (こころと子どもの支援)	1	後

## 科目概要

作業療法学科 ▶

カリキュラムマップ

カリキュラム表 ▶

健康科学部 ▶

▼ 基礎分野 ▼ 専門分野

### 基礎分野

#### 基礎科目

##### 教養入門

初めて大学での教養教育を学ぶ学生を対象として、教養とは何か、教養教育の意義、本学における教養教育の特徴などを講じ、受講生の動機付けとマッピングを行う。

##### 地域課題研究

近年、少子高齢化や人口減少が進み、地域において様々な問題が起こっている。今後、地域を活性化させ、新しいまちづくりを進めるためには若者の力が何より必要となる。本学が置かれる京滋地区（京都・滋賀）一帯についてどのような問題点があるのか、作業療法などに関連する視点から、どういった解決策が考えられるかをテーマにグループ学習を行う。これにより地域での実践的な学びを通し、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

##### 英語 I A

基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

##### 英語 I B

平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

##### 英語 II A

スキミング、スキヤニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要なリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

##### 英語 II B

効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見をプレゼンテーションできる能力を向上させることをめざす。

##### 英語 III A

TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

##### 英語 III B

TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行いながら英語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

##### 英語 IV A

日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

##### 英語 IV B

さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざま

##### アカデミックライティング

大学での学修活動に必要なアカデミック・スキルとしての読解力や文書作成能力などの日本語

##### 教養ゼミ

教養とは何か、大学で教養を学ぶ意義はどこにあるのかを考えさせる。まずは、「話す」こと

まなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につくようにしたい。

運用能力の獲得をめざす。原稿用紙の使い方など大学生活で役立つ実用的な「書く」能力を身につけさせることからはじめ、高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高める。

を中心にコミュニケーションの基礎を学び、幅広い分野から選定したテキストを使用して、ゼミ形式で検討していく。

#### 情報処理演習 I

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

#### 情報処理演習 II

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

### 人間と知の伝達

#### 【現代の思想】

##### 哲学概論

市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成、異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成を目的とする。哲学は何を問題にしてきたか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私たちにとってどんな意味をもつのかについて、さまざまな哲学者の著作を通して考える。

##### 倫理学概論

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解し、倫理的な考え方を身につけることを目標とする。社会正義を考えるをテーマとして学びを進め、近代以降の倫理学の学説を中心に、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考えるうえで倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

##### ジェンダー研究

ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点をを用いて今日的な課題を考える。この講義により、ジェンダーに関する基本的な概念を理解するとともに、ジェンダーの視点をを用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目標とする。

##### 心理学概論

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、対人関係や社会生活について考えるうえでも「こころ」を抜きにすることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心を持つ人は多いが、誤解されることがや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの科目では、自然科学の一種としての心理学の全体像を概観する。そのことで、受講者の持っていた興味や関心が正確な知識とつながり、さらに自らで考えることができるようになるための基礎づくりを目標とする。授業では、生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基礎的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

##### 宗教学概論

宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成する。具体的には、客観的で科学的な立場から、宗教の歴史を概観し、有神論と無神論、創唱宗教と自然宗教といった分類のしかたなどを考察する。

#### 【メディアと情報】

##### 言語コミュニケーション論

日常あらゆる人が行うコミュニケーションにおいて、言語がどのような役割を担っているのかを知る。言語を客観的に捉える姿勢を身につける。言語学の諸分野について講義を行い、その

##### 現代のメディアと表現

今日、日本のメディア・コンテンツは世界的な文化として高く評価されつつある。その理由はいくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活

##### 情報処理演習 III

企業の実務において、PCを使用したデータの集計処理能力、業務データのグラフ分析やデータベース分析能力、またネットワークの利活用による情報収集や情報発信の実務能力を養成するため、表計算ソフト「Microsoft Excel」を使

なかでコミュニケーション上の言語の役割について説明していく。

動を実現していることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、日本の映像メディアは今や担っている。こうした観点に立って、日本の映像文化について考える。

用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の修得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。

#### 情報処理演習 IV

企業の実務において、PCを使用したビジネス文書作成能力やネットワークの利活用による事務能力や情報収集、発信能力が大変重要な能力として求められており、この授業では、現在、ワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の修得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。

#### 情報処理演習 V

ホームページにおける動的なデータ処理やアニメーション表現などにJavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラムが使われている。これらによるプログラミングは、現在のWeb技術には欠くことのできない技術になっており、WebデザイナーやWebプログラマーの基礎技術にもなっている。授業では、画像や図形のアニメーションを使うプログラミングの初歩と基本的な処理パターンを修得する。また、それを通してプログラミングによるアニメーション表現の可能性を考える。

#### 情報処理演習 VI

授業では、まずPowerPointを活用したプレゼンテーション資料の作成技術を習得する。また、コンピュータ上での静止画像のマルチメディア表現の技術として、フォトタッチ（画像の編集・合成）、アニメーション動画素材の作成技術としてFlashアニメーション、三次元マルチメディア素材の作成技術として3Dグラフィックス作成の基礎技術を修得する。また、それを通して、FlashアニメーションやFlashロゴデザインによる表現の可能性を考える。

#### 数学演習 I

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。数と計算・図形の初歩から学び、さまざまな応用問題が解けるようにする。ピタゴラスの定理と無理数、1次・連立・2次方程式、因数分解、1次・2次関数とグラフなどを主なテーマとする。

#### 数学演習 II

数学的思考、数理的思考を身につける。1次関数、2次関数、関数とグラフ、図形と方程式、図形の性質・面積（ヘロンの公式）などをテーマとして、日常生活との接点を探りつつ、基本的な概念、典型的な問題の解法、実生活への応用を教授する。

人間と文化

【外国語と文化理解】

### 比較文化論

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ない簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになったら——これがこの科目の最大の目標である。世界で起こっているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考えることを通して、さまざまな文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを理解する。

### 芸術と文化

芸術と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまに試みられている芸術表現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

### 異文化コミュニケーション論（人文）

本科目は、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。年表や各種の歴史的な史料、新聞記事や写真、画像などを紹介しながら進める。

### 文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本科目では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説し、さらに具体的な研究事例も取り上げる。

### 中国語 I

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

### 中国語 II

中国語のさまざまな基本短文を作ることができるように、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

### 中国語 III

中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることをめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的事件、食べ物、祝日などを題材にする。

### 中国語 IV

基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができることをめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

### 韓国語 I

初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

### 韓国語 II

韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法+会話+講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話力を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習する。また、韓国の文化に関わるものを講読のテキストとし、韓国の文化に親しむ。

### 韓国語 III

会話+講読+聴解力+作文に重点を置く。韓国語 I・II で学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ができるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

### 韓国語 IV

韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話+スピーチができることを目的とし、学生たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

### 【歴史・文化】

#### 歴史学入門

歴史学の考え方を理解する。前半は、日本史分野の教員が、後半は世界史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介する。

#### 京都の歴史・文化 I

京都の複合する遺跡から京都の歴史と文化を探る。考古資料をもとに京都の地下の文化財に触れ、京文化の根源を学び、探り、理解し、考えてみる。そして京都の遺跡からわかる歴史と文化の表現方法の取得に向う。平安京以前からの、京都の遺跡を学習する。適宜、歩き探る京都を紹介する。

#### 京都講座 I

テーマは「埋もれた京都の地下遺産を探る」である。考古学的手法を用いて、本学の足下にある京都の歴史遺産に焦点をあて、触れ、理解して、京都での学びをより深める視点を養う。条坊制に基づく平安京、平安宮の遺跡と遺物、東寺・西寺跡、羅城門と朱雀大路、平安京東京の変遷、近世以降の平安京の様子を説明し、市街地での観察方法を伝授する。

#### 京都講座 II

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考

える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

## 人間と社会

### 【法律・行政・政治】

#### 日本国憲法

日常生活のなかで見え隠れするさまざまな社会的な問題を考え、対処するために必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につける。また、これを理解するために必要な基本的知識を身につけることを目標とし、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

#### 法学概論 I

法学概論 I では、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていき、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

#### 法学概論 II

法学概論 II では、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初歩的な応用力を身につける。

#### 民法

民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会生活そのものを広範に対象とする学問である。本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主要な法原則、法制度、法概念を理解するとともに、その基礎的知識を獲得することを目的としている。また、具体的な事例や裁判例を用いながら、民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにすることで、法的な問題発見能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を可能にする。特に、財産法分野の解説に重点を置くが、家族法分野についても一通り概観しておく。

#### 行政法

憲法をベースとしつつ、行政と国民の法的関係を理解して国法における行政権のあり方を検討する。法文の基本を勉強したあと、国家と国民との関係についての基本的論理構成に続き、行政行為をはじめとする行政活動の諸形式ごとに、両者の法関係の内容的検討を行い、市民生活の法とは異なる行政法の特異性を学ぶ。そのため、身近な事例を例示しつつ、民法や刑法などとの関係を理解するために、もし、裁判員になったとしたらどうしたらいいかを映像を交えて学修したり、国の機関のうち、興味のある省庁を自分で調べたりすることとする。

#### 政治学概論 I

政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によって、政治に関する情報・言説を知るソーシャルメディア利用法などにも言及する。

#### 政治学概論 II

具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家はどのように描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

#### 行政学

行政システムについて、府省庁組織や中央地方関係、政府と市場、組織と管理などのテーマから行政システムの活動とその結果の全体をとらえる。省庁再編・政策評価の導入や地方分権改革などにも触れる。

### 【経済・経営・社会】

#### 経営学概論

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互

#### 会計学概論

目標：企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。内容：企業経営のプロセスを、資金の

#### 社会学概論 I

社会学概論 I では、自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念的な理解を通じて、現

作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まず会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

流れとして学ぶ。さらに、付加価値の形成、市場における価値の創造、収益の分配、および、稼働利益の意義を体系的に考察することによって、企業経営の本質を理解する。また、この学習を、複式簿記のシステム（簿記一巡の手続き）の理解と連動して行う。したがって、他人資本（負債）、自己資本（純資産）、資産、費用、収益という5つのグループの経営プロセス上での役割についても、それぞれのグループ内の勘定科目のレベルにまで、一定程度深化させて理解する。簿記システムの基礎的理解をめざし、簿記一巡の手続きについて学ぶ。

代の日常生活を社会的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

### 社会学概論 II

社会学概論IIでは、社会学概論Iでの基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会的想像力の定着をめざす。

### 経済学概論 I

現代日本経済における諸問題を学ぶことによって、経済学への導入を図る。具体的には、まずバブル経済とその崩壊による平成不況の深刻化の課程を「不良債権処理の10年」として概観する。次に、ケーススタディとして、日本長期信用銀行の破綻、山一証券の自主廃業について検討する。そして、女性労働として雇用機会均等法と育児支援を取り上げるとともに、労働問題として過労死・過労自殺、ホームレス、派遣労働、ネットカフェ難民、派遣村などを取り上げる。これらの諸問題を、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

### 経済学概論 II

戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでを、映像資料を活用してイメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

## 人間と自然

【健康・こころ・からだ】

### 健康に生きる I

健康とは何かを学び、大学生活およびその後の生活を健康で過ごすための方法を学ぶ。

### 健康に生きる II

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。健康と栄養の関連を理解するとともに、食の安全性を理解し、健康増進に役立て、健康的な食生活を志向する。講義では、糖質、脂肪、アミノ酸、ミネラル、ビタミンといった栄養素と、人の健康との関係について解説する。また、健康と食生活をテーマに、ダイエット、運動、ストレスなどについて講義する。講義のなかでは、健康と食に関するトピックを適宜紹介する。

### 健康に生きる III

個人の「健康」について精神的側面（メンタルヘルス）を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されているさまざまなメンタルヘルスの理論や、その歴史的な発展について講義し、現代人が健康に生活する上でのメンタルヘルスの重要性の理解を促す。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされるさまざまな理論・技法についても概観する。また、メンタルヘルスが個人の全般的な健康に資する役割についても言及する。

### スポーツコース I

ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図り、またスポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

### スポーツコース II

Iに引き続き、ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として、さらに基礎体力と技術のスキルアップを図る。またあわせて、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

### スポーツコース III

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バレーボール、バスケットボール両種目の基本的な技術や知識を学習するとともに、全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。

### スポーツコース IV

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バドミントンと卓球の基本的な技術

練習とルールの理解から始め、シングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

#### 【自然と環境】

##### 物理学基礎

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考えるうえで基礎的な学問となる。本科目では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などの基本的な原理について正しい理解を得るとともに、日常的に目にする現象を物理学的に理解し説明する力を身につける。また、物理学が身近なものに应用されていることを理解し、物理学の原理とその意義について見識を深める。例えば、身近な家庭用機器や医療機器（電子レンジ、健康維持器具、AED、MRI等）などに应用されている電磁気現象の原理などを理解する。

##### 化学基礎

生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え、理解できるように基礎概念を解説する。原子の構造と結合、分子の形、物質の形態、溶液、化学反応などについて正しい理解を得るとともに、日常的に目にする物質や現象および、化学が身近に应用されていることを理解し説明する力を身につける。例えば、日常生活に関わる化学物質、例えば石油や原子力などのエネルギー源、金属やプラスチックなどの材料、薬品、医療品などについて触れ、应用されている原理とその意義を理解する。

##### 生物学基礎

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命科学、および関連する諸問題について概説する。生命現象を理解するために、細胞の構造と役割、細胞を構成する物質、エネルギー、遺伝学、DNA、発生と老化、脳の構造などから、食と健康、がん、感染と免疫などについても解説し、正しい理解を促進する。さらに、生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、生物学的な諸問題を正しく理解するため、遺伝子組換え生物や再生医療、生態系と環境問題までの最新のトピックを交えて解説する。

##### 地球生命論

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解する。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造、土壌層位、遺構面と遺構埋土の特徴などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて概観する。

##### 地球環境論

環境問題は、今や誰にとっても避けて通ることのできない重要な課題である。この授業は、環境問題を、自然科学的アプローチ、社会科学的方法、哲学的アプローチを総合的に駆使しつつ考察する。環境問題の複雑さ、議論の道筋、論点などをわかりやすく講義する。

#### 医療と心理

##### こころとからだの健康科学 I

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学、臨床検査学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

##### こころとからだの健康科学 II

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学、作業療法学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

##### 医学概論

人類の歴史は「病いとのかい」の歴史であるともいえる。例えば、伝染病との戦いはペストや天然痘には勝利したものの、エイズやインフルエンザといった新たな敵との戦いが引き起こされている。人類の生存をかけた戦いのなかで医学は生まれ、発展してきた。さらに、ライフスタイルの変化、人口の少子高齢化等の社会情勢の変化は生活習慣病などの新たな「病い」の発生の素地となっている。医学は新たな姿の敵との戦いを迎えている。こうした医学の歴史を振り返りながら、「医学の過去、現在、未来」について講義する。

##### 統計学基礎論

この科目では統計学そのものについて学ぶのではなく、統計法を利用して各分野（保健衛生学や心理学、教育学など）の研究を進める方法を学ぶことを目的とする。授業を通じて統計学の基礎を学び、身近なデータを読み取る力をつけ、また実際に受講生自身が研究を行う上で知

##### 医療と生命の倫理

生命倫理学の基本原則を正しく理解し、現代の医療における倫理的諸問題を学ぶ。まず、患者の自律の尊重という生命倫理学の基本原則と、これを達成するために不可欠なインフォームド・コンセントの原理について説明する。その後、①出生前診断、人工妊娠中絶、生殖補助医療など人間の誕生にまつわる諸問題、②タ

##### 医療リスクマネジメント

医療全般における安全とその管理について教授する。医療職種全体の目標である「医療の質の向上」について講義し、リスクマネジメントの関係性について理解を深める。さらに、その具体的方法について解説する。また、各種治療におけるリスク、および機器の使用にあたっての事故防止の方法について解説する。業務に関わ

識を活用できるよう、実践的な能力を身につけることをめざす。

ーミナルケア、安楽死と尊厳死など人間の死にまつわる諸問題、③遺伝子診断と遺伝子治療、再生医療など先端的医療、④医療情報の保護について教授する。

る感染症については、自身が感染媒体にならないようにすることの理解を深め、その対策について教授する。

### 臨床心理学

医療を通じて人と関わるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。そうした知識も当然重要であるが、それだけにとどまらず「臨床の知」としての思考力を身につける必要がある。「臨床の知」とは、客観的に眺め分析するのではなく、自分が現場にコミットして、相手との関係のなかで考えることといえる。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へ関わる存在になっていくのか、履修者それぞれが、主体的に考えられるようになることをめざしたい。

### よそおいの心理学

人間の外見と心の関係を探究することをテーマとする。社会心理学・感情心理学の分野から始まった「化粧の心理的効果」の研究は、粧うことによって快感情・高揚感をもたらし、積極的な対他者行動を促すことによって、コミュニケーションを活性化することを実証し、化粧が心の健康に貢献していることを見いだした。また、この化粧の効用は、医療や福祉の現場で効果をあげており、臨床心理学的な考察も試みられている。本講義では、基礎的な研究を概説し、さらにさまざまな臨床実践活動について紹介する。

### 公衆衛生学

公衆衛生の基礎的な知識を身につける。公衆衛生の前提となる集団・社会の健康の意義、社会医学の考え方、公衆衛生学の発展過程を概説した上で、公衆衛生活動の人口・疾病統計と健康指標、疫学、健康管理の基礎を学び、地域保健、成人保健、母子保健、老人保健、産業保健、学校保健の各分野における保健活動について学習する。

### 健康心理学

心身の健康の維持増進や疾病の予防について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを心理学的な側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄について理解する。

## キャリア教育

### キャリア開発演習 I

大学における自己学習習慣や自ら積極的に講義等に参加する姿勢、作業療法士はもとより社会人として必要なコミュニケーション能力等について、作業療法士としての実務経験を有する教員が、自らの経験をもとにした課題を提供し演習形式で学ぶ。これにより、作業療法士にとって必要な知識や技術等を学ぶ重要性について学習する。

### キャリア開発演習 II

作業療法士として適切なマナーのもとに、自信を持って自己アピールできるスキル、問題発見解決型人材を念頭においた社会が求めるヒューマンスキルなどの獲得をめざす。講座では、円滑なコミュニケーションから、より有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの修得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを修得する。演習では、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力（コミュニケーション力・自己アピール力）などのヒューマンスキルを身につけることをめざす。

## 専門基礎分野

### 人体の構造と機能および心身の発達

#### 人体の構造と機能演習 I（骨・関節・筋・神経など）

作業療法の実践に必要な、人体の正常な構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎知識を演習により修得する。最初に①細胞と組織、②皮膚と膜で人体の構造の基本となる知識を解説す

#### 人体の構造と機能演習 II（呼吸・循環系、消化系など）

演習形式により、以下の内容を教授する。生命の維持に必須の①呼吸器系と②循環器系、そして③血液系につき最初に解説する。血液が運搬する物質との関連で、体外から栄養素を取り入

#### 人体の構造と機能実習 I（構造系）

作業療法士の実践に必要な骨と筋について標本や図譜を用いて実習を行う。それぞれの名称や形態、位置、相互の位置関係、神経支配を知るため、観察とスケッチを行う。骨学は、①頭蓋②脊柱③胸郭④上肢帯⑤上肢⑥骨盤⑦下肢に分

る。次に③受動的運動器の骨と④能動的運動器の筋について、名称と共に細胞・組織そして機能を説明する。皮膚の知識と統合し、骨や筋の触診に必要な体表解剖も学習する。最後に、⑤神経系と⑥感覚器系が筋の運動をどのように統御しているかを説明する。

れる④消化器系、体内で生じた代謝産物を体外に排出する⑤泌尿器系を説明する。そして子孫を残すための⑥生殖器系の後、神経系と共に生命活動を統御する⑦内分泌系につき解説する。最後に、最近新見知が続出している⑧免疫系が生命の維持に果たす役割について理解を深める。

ける。筋は、①頭部②頸部③背部④胸部⑤腹部⑥上肢⑦下肢に分ける。体表の皮下に存在する筋と骨の正確な位置関係を、学習者の手指により確認できるようになるのが本実習の目的である。

#### 人体の構造と機能実習 II (機能系)

人体機能の生理学的測定法を学び、実施することにより人体の生理機能を体験的に学習する。①脈拍と血圧測定、そして心電図を用いた循環器の機能、②パルスオキシメータとスパイロメータによる呼吸器の機能、③筋電図と筋力測定を用いた筋肉の機能、④触圧覚検査と2点識別閾測定を用いた感覚器の機能、⑤脳波測定による神経系の機能を検査する。また、診察に用いられる聴診器や打鍵器の基本的使用方法も実習する。

#### 運動生理学

ヒトが身体運動を行う際の生理機能の適応的变化について説明する。本講義では人体の正常な構造と機能について理解し、健康維持と疾病回復の過程を学習する。運動における中枢機能、末梢神経・筋機能、呼吸と循環機能、代謝機能などの変化を理解するとともに、刺激と興奮、末梢神経細胞の分類と特性、接合部と受容器、脊髄反射、脳幹・小脳・視床下部と大脳辺縁系、視覚と聴覚、感覚投射系、皮膚感覚と平衡感覚、高次中枢機能についても学ぶ。脳の構成と機能局在や神経伝導と情報伝達などについて十分に理解を深め、これらの生理学的機能についての知識を、評価技術や運動療法、リスク管理など作業療法に生かせるよう学習する。

#### 運動学

作業療法で接することの多い運動機能障害の問題を解決するために、人の随意運動のメカニズムについて学習する。上肢、下肢、頭・頸部、体幹における各関節の構造と機能を解説した後、運動の力源である各筋の作用、さらに筋収縮時における腱、靭帯との関連性を疾患・障害を交えながら学習する。また、正常歩行と異常歩行、方向舵としての肩、伸縮装置としての肘、効果器としての手について作業療法の視点から学習する。

#### 運動学演習

解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎知識をもとに、身体運動のメカニズムを実習を交えて理解する。人体における骨、関節、骨格筋の位置の確認および触診を行う。上肢（肩甲骨、肩、肘、前腕、手）、下肢（骨盤、股、膝、足）、体幹（頭部、顔面、頸部、胸部、腰部）の運動機能を自身と他人の身体を使って体験し理解する。人の基本的動作を運動学的に分析し、運動学の知識を日常生活活動との関連で理解する。

#### 人間発達学

人間は生涯にわたり心身の構造、機能が変化していく。人間の各発達段階、特に乳幼児期の特徴と発達課題について知的側面（言語、認知等）、身体的側面（原始反射、姿勢反射、腹臥位・背臥位での運動等）、情緒的側面（信頼、内発的動機等）、社会的側面（遊び等）などに焦点をあてて論じる。さらに、ライフ・サイクルにおける成熟と衰退という観点を踏まえて、医療技術者としていかに人間理解を深め、援助活動に生かしていくのか学習する。

### 病理学

疾病の本質を探索し、医学の根幹をなす病理学に関する正しい知識を身につける。病理学の概要と歴史、病因論、老化、さまざまな病変（遺伝・先天異常、細胞の退行性・進行性病変、循環障害、炎症、免疫とアレルギー、腫瘍など）、栄養、薬理、医用画像、救急救命及び予防の基礎について教授し、神経系、運動器、循環器、呼吸器など器官・組織ごとに疾病の原因と病態、経過、予後について解説する。

### 精神障害基礎論

精神障害は身体疾患患者にも高い頻度で発生し、精神科に限らず全ての医療保健福祉に関わる者が理解しておく必要がある。精神医学について系統的に講義し臨床場面で見られる精神障害について教授する。まず精神医学の方法論、症状論、検査法、治療について概説するとともに精神保健福祉法を中心とした法制度についても概説する。つぎに主要な精神疾患の発症要因、病態生理、診断、治療について教授する。

### 発達障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する小児系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を学習する。講義では、医師の見地から小児の症候学、内科的、外科的、小児科的診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。特に急性期、回復期、維持期別に各疾患の回復や進行、それに伴う障害の経過を概説する。さらに、作業療法士の見地から小児期の成長と発達に基づく小児疾患の特性や障害像について学習する。

### 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

### リハビリテーション概論

本科目を学習することで、リハビリテーション医学における作業療法学および作業療法士についてその理想像を構築する。また、多岐にわたるリハビリテーション領域において、理学療法士、作業療法士がいかに医療、保健、介護および就労支援などに携わる多職種との連携を図るべきかを熟考し、対象者とその家族が望む生活が行えることを具現化するための策について教授する。

### 内部障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する内科系疾患の診断・治療に関する基礎知識を教授する。講義では、医師の見地から内科学の症候学、内科的診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。さらに作業療法士の見地から各臓器別における疾患の特性と障害像について教授する。

### 精神障害応用論

精神障害患者の治療に用いられる薬物療法、精神療法、リハビリテーション、社会復帰活動について学習する。薬物療法では、その薬理機序や副作用について学習する。力動的精神療法の領域では、力動精神医学の概念、人格の発達理論、症状や疾病の力動的な理解、集団力動、治療病理などを学習する。その他の精神療法の領域では、行動療法や森田療法等の理論や方法を学習する。リハビリテーションや社会復帰については、方法論、制度、精神保健福祉法を中心とした法制度について学習する。

### 老年期障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する老年期疾患に関する診断・治療に関する基礎的知識を学習する。講義では、医師の見地から老年期における疾患の症候学、診断、医学的治療法や栄養管理を含む治療法について概説する。さらに作業療法士の見地から老年期における疾患の特性と障害像について学習する。

### 運動器障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する整形外科系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を学習する。講義では、医師の見地から整形外科の症候学、整形外科的診断と救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。更に作業療法士の見地から運動器別に疾患の特性と障害像について学習する。

### 神経障害基礎論

リハビリテーション領域に関連する脳・脊髄・神経系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を学習する。講義では、医師の見地から脳・脊髄・神経系学の症候学、診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。さらに作業療法士の見地から中枢神経系疾患及び神経・筋疾患の特性と障害像について学習する。

## 専門分野

### 基礎作業療法学

### 作業療法学概論

作業療法を学ぶ学生のための道標となる科目である。最初に作業療法のルーツとアーツアンド

### 作業科学

作業療法の基盤となる「作業」について研究する学問として作業科学が登場した。「人は作業

### 作業療法研究法演習 I

作業療法という専門技術の研究・発展に必要な研究法を演習形式で学習する。演習 I では、科

クラフツ運動、パラダイム理論に基づく米国作業療法の歴史、そして、わが国の作業療法の歴史について学習する。次に作業療法の「作業」の定義、作業療法の対象、作業療法実践の事例、作業療法モデル論、作業療法の進化について学習する。また、作業療法士に求められる資質や倫理、記録・報告の意義について学習する。

することで健康になれる」は作業療法の信念である。「作業」の魅力や「作業ができるようになること」の意義を理解するために必要な知識を学習する。学習者自らの作業の歴史を振り返り、作業が人間の発達や環境に与える影響について学習し、さらに「作業」についてより深く学習するために、作業の広がりや深さや主観的意味、作業による成長と回復、作業による社会的課題の解決について学習する。

学論文とはどのようなものか学習し、科学的な研究法について学習する。そのうえで作業療法あるいは保健医療福祉領域の学術雑誌から、学習者自身が興味をもった研究論文を選び、これを要約し批判的吟味を行うものである。その内容をまとめて発表し質疑応答を行うなかで、研究の基本は批判にあることを学習する。

## 作業療法研究法演習 II

演習 I で学習した知識をもとに、これまで学んだ作業療法のなかから、学生各々の興味や疑問をもとに研究テーマを設定する。自分の研究テーマに合った指導教員を選び、卒業研究の準備を進める作業を行う。なぜそのような疑問が生じたか（研究疑問）、その研究の目的と意義づけ、先行研究のレビュー、その疑問を明らかにする方法（対象、手順、倫理的配慮）等研究を進めるための研究計画を立案する。

## 作業療法管理学

### 作業療法管理学

作業療法士は作業療法業務に専念するだけでなく、勤務する病院・施設の組織を理解し、職場管理に努めることも要求される。そのため作業療法部門の組織、安全管理、機器のメンテナンス、在庫物品の管理、技術管理と技術開発(教育・研究)、作業療法の機能評価、作業療法部門の記録、作業療法教育、職業倫理などに関する管理運営について学習する。また、作業療法業務を遂行する際に生じる様々なハラスメントについて学び、臨床現場におけるクライアントとの関係、職場内での関係などで生じる倫理的ジレンマについても学習する。

## 作業療法評価学

### 作業療法評価学

作業療法には身体、精神、発達、老年期等の分野があるが、ここでは、作業療法全体に共通する面接と観察、ICFを中心に学習する。評価の目的について理解した上で、必要な情報を聞き出すコミュニケーション技法や面接や観察の際のポイントについて学習する。クライアントに真摯に向き合う態度や面接や観察によって得られた情報を作業療法計画に結びつけられる技能を身につける。

### 作業療法評価学演習

作業療法士によって独自に開発された評価法を中心に評価技法を学ぶ。作業療法士が評価法を開発する意義は、作業療法の成果を測定する上で感覚が優れていることにある。作業療法の全領域に共通する評価であるカナダ作業遂行測定COPM、運動とプロセス技能AMPS、生活行為向上マネジメントMTDLP等について評価技術を習得する。

### 身体機能評価学演習

作業療法評価法のなかで身体機能評価に用いられる画像評価、形態測定(姿勢、上・下肢長、周計等)、関節可動域検査 (ROMT)、徒手筋力検査 (MMT)、粗大筋力 (握力・ピンチ力)、協調性検査、感覚検査、上肢機能検査の具体的技法について演習形式で学習する。身体機能領域における作業療法の基本となる評価技術であり、患者と作業療法士の役割を設定しながら実習し、レポートを作成する。

### 精神機能評価学演習

作業療法評価法のなかで精神・認知機能評価に用いられる、意欲や行動に関する評価、思考の評価、社会適応に関する評価、知的機能検査、認知機能検査の具体的技法について演習形式で学習する。

### 発達期評価学演習

作業療法評価法のなかで発達期の評価に用いられる、発達のスクリーニング検査 (DDST等)、運動発達検査 (粗大運動、微細運動、口腔機能、姿勢反射、運動年齢検査、立ち直り反応、平衡反応等、ADL検査)、知覚・認知機能検査 (知的能力検査、視知覚発達検査、感覚統合能力検査、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査JMAP)、遊び・社会性の発達検査等の具体的技法について演習形式で学習する。ま

### 画像診断学

画像診断学は画像による医療への貢献を目指す学問である。対象とする臓器は頭から足先まで極めて幅広く、用いる手段はCT/MR/超音波装置/核医学/血管造影等極めて多彩であり、関わる診療科はほぼすべてといっても過言ではない。ここでは、作業療法士が理解しておくべき放射線診断学および医用画像について学ぶ。歴史や原理、臨床応用、医用画像の見方、さらに治療への応用に関する講義を行う。

た、発達期のこどもの評価のポイントや評価室の環境についても学習する。

## 作業療法治療学

### 作業学

作業療法は作業を媒介として、種々の障害を持つ対象者を援助する技術である。作業療法の基盤である「作業」について学習する。作業がどのように選択され、どのように使われるのか、その理論と実践を学習する。人間の作業について解剖学的、生理学的、運動学的、精神的、社会的側面から作業を捉える態度を身につける。作業による癒しの効果や成長に関連するサクセス・ストーリーを取り上げ、作業の持つ力を実感しながら学習する。

### 作業学演習 I

作業療法で活用頻度の高い織物、手工芸、絵画を学習者が実際に経験することにより、それが身体的（生理的）・精神的（心理的）に与える影響を分析するとともに、各種の作業に用いる素材や材料が持つ特性を知り、それらの応用方法も考えていく。さらに、作業分析を行い、作業の特徴・作業中の姿勢・作業工程・動作分析・治療効果・障害に対する適用等を学習する。

### 作業学演習 II

作業療法で活用頻度の高い木工、金工、陶芸を学習者が実際に経験することにより、それが身体的（生理的）・精神的（心理的）に与える影響を分析するとともに、各種の作業に用いる素材や材料が持つ特性を知り、それらの応用方法も考えていく。さらに、各作業の活動分析を行い、作業の特徴・作業中の姿勢・作業工程・動作分析・治療効果・障害に対する適用等を理解する。

### レクリエーション演習

作業療法士では集団レクリエーションを企画する機会が多くある。年齢や障害を考慮しながらレクリエーションを企画する上で必要な技術を学ぶ。レクリエーションの意義からその目的、計画、実施についてその知識と技術について学ぶ。ゲーム、ソング、ダンス、スポーツ、観劇などさまざまなレクリエーションの実技を通して、グループダイナミクスや指導のポイント、サポーターの役割、注意事項等について学習する。

### 作業療法関連理論

作業療法計画を立案する際に用いられる理論やモデルを学習する。作業療法独自に開発された感覚統合、人間作業、カナダ作業遂行、また理学療法等関連領域で開発された生体力学、運動コントロール、フロー体験、自己効力理論、ソーシャルスキル・トレーニング、そしてリハビリテーションモデル（装具療法、義肢、代償：福祉用具、自助具）について学習する。

### 日常生活支援学

日本人の生活様式・伝統的な価値観を踏まえながら、起居・移動、コミュニケーション、セルフケア等について、それがもつ意味や動作分析を行う。日常生活活動ADL・手段的ADL、また生活・人生の質QOLの評価法についても学習する。さらに疾患・障害、特に脳卒中、頸髄損傷、慢性関節リウマチのクライアントに対するADL・手段的ADLのポイントについて学習する。

### 日常生活支援学演習

代表的なADLやQOLの評価法について演習形式で学習する。片麻痺や対麻痺・四肢麻痺者の移動（歩行、車いす）や起居（寝返り、起き上がり、座位）の実演と演習を行う。また、脳卒中、頸髄損傷、慢性関節リウマチ者の食事や排泄、更衣、入浴、整容、コミュニケーションの自立をサポートする自助具を体験し製作する。

### 身体機能作業療法学

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学習する。関節可動域の制限、筋力低下、協調性障害などの改善を目的とした作業療法の実践を習得する。また、作業療法の対象とする脳血管障害、脊髄損傷、パーキンソン氏病等の中枢神経障害、慢性関節リウマチや腰痛症等の運動器障害、さらに糖尿病等の内部障害などに対する基本的アプローチについて学習する。

### 身体機能作業療法学演習

知識としてすでに獲得した身体機能障害者の障害像、評価法、医学的治療を踏まえながら、具体的な事例として脳血管障害、脊髄損傷、パーキンソン氏病等の中枢神経障害、慢性関節リウマチや腰痛症等の運動器障害、さらに喀痰等の吸引を含めた呼吸・循環器疾患等について、人・作業・環境モデルや作業遂行モデルなど作業療法独自の理論的枠組みを用いて実演と演習を行う。

### 精神機能作業療法学

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学習する。精神障害や知的障害のリハビリテーション及び作業療法の基本的知識と技術を学ぶ。精神科作業療法で対象として多い統合失調症をはじめ主要な疾患に対して必要とされる作業療法士の思考過程と技術の展開方法を学習する。また、作業療法分野では遅れている知的障害者に対する作業療法について学習する。

### 精神機能作業療法学演習

知識としてすでに獲得した精神・認知機能障害者の障害像、評価、治療について、具体的な事例を通して、作業療法の展開、臨床思考過程を実演と演習を通して学習する。

### 発達期作業療法学

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学習する。発達途上にある対象児の将来の可能性を広げるため、家庭生活や教育環境等で生かせる援助法を学習する。さらに、発達障害に対する作業療法を実施するために、必要となる神経学的知識、臨床観察、神経学的評価法、治療技法を身につける。

### 発達期作業療法学演習

知識としてすでに獲得した発達期の障害児の障害像、評価、治療について、脳性麻痺や発達障害、自閉症スペクトラム、筋ジストロフィー、重症心身障害児等具体的な事例を通して、作業療法独自の理論やモデルを活用しながら作業療法の展開、臨床思考過程について実演と演習を行う。また、今後求められる幼稚園や小学校等

### 高齢期作業療法学

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした高齢期のクライアントに対する介入法を学習する。高齢期の心身機能の低下に伴うロコモティブ症候群、廃用症候群、転倒事故といったリスクを踏まえながら、高齢者に対し、個人の長年の経験や教育歴、誇りを尊重する態度を身につける。作業療法

### 高齢期作業療法学演習

高齢者の心身の状態を知るために高齢者擬似体験グッズを用いて高齢者の世界を体験し発表する。高齢者の疾病の特徴やリスクを踏まえ、認知症や廃用性症候群、ロコモティブ症候群等具体的な事例、あるいは健康な高齢者に対して老化現象の進行を遅らせる取り組み等を通して、作業療法独自の理論やモデルを活用しながら作

教育の場に向いて行われる巡回訪問における支援の方法についても演習する。

法の理論をベースに評価法の選択、検査をもとに作業療法計画と介入について学習する。

業療法の展開、臨床思考過程を実演と演習を通して学習する。

#### 高次脳機能作業療法学

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学習する。脳機能障害では、人が生活行為を遂行していく上で、その行為を困難にする高次脳機能障害が出現することが多く、その機序や具体的な対応方法を学んでおく必要がある。この授業では、失語、失行、失認の特性や作業療法の介入方法の具体例などを学習する。

#### リハビリテーション工学

障害児・者のリハビリテーションを支援する工学・技術に関する基本的な考え方、電子工学・人間工学・生体計測・バイオメカニクスなど関連する基礎技術およびこれらの実際の応用からの生活環境についても学習する。また、歩行介助や介護支援機器、ロボット等近年注目されている技術についても学習する。

#### 義肢装具学

義肢・装具について体系的な理解と実用的な知識の修得を図る。義肢では、特に義手の構造と義手装着前訓練、義手のチェックアウト、装着訓練について学習する。義足については基本的な大腿義足と下腿義足、またスポーツ用義足について学習する。装具では、上肢装具特に手副子について手の外科疾患のスプリント療法を学習する。また、下肢装具や体幹装具についても学習する。

#### 義肢装具学演習

各種疾患や機能障害に対するスプリントを適切にデザインし、作製・活用するために基礎知識を学び、演習を通じてスプリント療法の有用性を理解する。スプリント作製のために必要な作製技術・基礎技法を習得し、主に熱可塑性プラスチック材料を用いて各種スプリントを作製する。

#### 感覚統合療法

行動や情緒に問題をもち、学校や幼稚園に適應できない発達障害児が増えている。このようななか、作業療法の実践理論として、ジーン・エアスの開発した感覚統合療法は、彼らに極めて有効な神経学的治療であり、発達障害領域に進む作業療法士には不可欠な治療法である。この授業では、その理論と実践について学習する。

#### 認知症作業療法学

今日、認知症およびその予備軍を合わせると800万人を超すと言われ、この対策と予防はわが国の国民的課題である。認知症高齢者の心理的特性を理解しながら、その人らしい作業を取り戻すことで問題行動を防ぎ、自分らしく生活できるよう、作業療法が果たす役割は大きい。この授業では、認知症になっても安心・安全に暮らせる地域づくりや認知症予防に対する作業療法の技術を学習する。また、これまでに行われている認知症に対する代替療法についても学習する。

#### 言語聴覚療法

本講義では、言語や聴覚、嚥下に障害をきたす疾患およびその症状の基礎知識を学ぶ。そして、コミュニケーションをはじめ、日常生活における問題を理解し、作業療法との関連性を見出しながら言語・聴覚障害者に対するアプローチについて学習する。特に脳卒中における失語症や高次脳機能障害のように見えない障害について多くの作業療法士が接する機会があり、十分な知識と対応能力が求められるため、言語聴覚士との連携についても学習する。

#### 作業療法技術学Ⅰ（地域の医療と福祉）

高齢者や障害者の心身機能や地域医療・福祉における国内外の作業療法に関する最新の研究成果について紹介を行う。具体的には、この分野を専門とする各教員が近年、取り組んでいる独創的な研究の一端を紹介する。学習者には、卒業研究テーマの決定やこれに必要な情報を得るための能動的な学習の機会とする。

#### 作業療法技術学Ⅱ（こころと子どもの支援）

精神に対して課題を持つ人や行動や情緒に配慮が必要な子どもに対する作業療法に関する最新の研究成果について紹介を行う。具体的には、この分野を専門とする各教員が近年、取り組んでいる独創的な研究の一端を紹介する。学習者には、卒業研究テーマの決定やこれに必要な情報を得るための能動的な学習の機会とする。

#### 地域作業療法学

#### 地域作業療法学

作業療法は病院だけではなく、退院後も地域で生活していく人々を支援していく関わりが要求される。この授業では、家庭を基盤に地域で生活している人への作業療法の知識と技術を学習する。対象はこどもから高齢者に至るまで、また急性期、維持期、終末期まで、さらに身体・精神障害、難病等さまざまである。介護保険や自立支援法、地域包括システムなど個人を支えていくための公的制度にも触れながら在宅生活支援のための援助法について学習する。

#### 地域作業療法学演習

家庭を基盤に地域で生活している人への作業療法の実際、在宅生活支援のための地域援助システムの実際について学習する。また、通所・訪問における作業療法評価や介入法、福祉機器の導入、家族指導、社会資源の活用等事例をあげ演習形式で学習する。また、多職種と連携し地域ケア会議等で助言できる能力を身につける。

#### 生活環境論

地域リハビリテーションや訪問作業療法において、クライアントや家族の安心・安全、そして自立した生活を実現するためには、自宅のリフォームをはじめ住環境の改善が必要となる場合が多い。この授業では、そのために必要な知識や技術を学習する。また、ハード面だけでなく、そこに住む人の意向を重視することも学習する。

#### ヘルスプロモーション作業療法学

今日、作業療法は広がりを見せている。ヘルスプロモーション（健康づくり）においては、作業療法士はその力量を発揮できる。行政に勤務する作業療法士も増えており、一次予防や二次予防において住民参加の健康推進や医療・介護費用の抑制への貢献が期待されている。この授業では、介護予防・ヘルスプロモーションのプ

#### 職業リハビリテーション

職業的リハビリテーションにおける作業療法は、特に精神障害者に対する就労支援を中心に広がっている。障害者の就労支援と継続は作業療法士の重要な役割であり、障害者支援の最終目標である。就労支援においては、障害者の行動を医学的に解釈し、仕事との関連について評価・分析する能力が必要である。障害に応じた

ログラムについてグループによる課題発表も行う。

職業能力を発見し、さらに職業継続に必要な雇用主との連携、そのなかで指導や提案・相談できる能力が求められ、これらについて学習する。

## 臨床実習

### 臨床基礎実習 I

1年次1週間の学外見学実習である。学生の勉学に対する学習意欲を向上させるために、病院や施設等の見学をグループで行う。病院や施設の機能やそこで働く専門職の役割、特に関係するリハビリテーション部門と理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケースワーカー等のスタッフの仕事や治療場面を見学する。学生は、身だしなみに気をくばり、あいさつやマナー、注意事項を遵守する態度を身につけ、医療人としての準備を行うものである。なお、臨床実習に赴くにあたり事前準備の確認（臨床実習前評価）と実習成果の確認（臨床実習後評価）を実施する。

### 臨床基礎実習 II

2年次1週間の学外実習である。作業療法士になるという目的意識の醸成を図ることを目的とし、病院、介護老人保健施設、在宅支援のフィールド（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなど）で作業療法士がどのような役割を担うのかを理解するべく実習指導者に随行しながら作業療法実践の体験をする。この臨床実習を通して、病院や通所施設などの機能や特徴、社会的役割、作業療法士の業務と役割、対象者と作業療法士との関わり、多職種との連携について理解を深める。あわせて指導者とのコミュニケーション能力（報告、連絡、相談）の向上や職場のルールや医療人としてのマナーについて学ぶ。なお、臨床実習に赴くにあたり事前準備の確認（臨床実習前評価）と実習成果の確認（臨床実習後評価）を実施する。

### 臨床評価実習

3年次3週間の学外実習である。病院や診療所、介護老人保健施設、在宅支援のフィールド（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなど）、福祉施設等において、指導者の行っている作業療法（面接、評価、治療）を観察することから始まる。学生は初めてクライアントに接することを前提に、指導者の近接指導のもとで、クライアントの面接、検査・測定を行い、問題点の抽出、利点や資源を含めた評価に基づき作業療法計画を立案する。あわせてコミュニケーション能力の向上や医療人としてのマナーについて学ぶ。この実習を通して自己の課題に気づき、今後の勉学のモチベーションとする。なお、臨床実習に赴くにあたり事前準備の確認（臨床実習前評価）と実習成果の確認（臨床実習後評価）を実施する。

### 総合臨床実習 I

4年次9週間（1週間以上の訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションでの実習を含む）の学外実習である。病院や診療所、介護老人保健施設、在宅支援のフィールド（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなど）において、指導者の行っている作業療法（面接、評価、治療）を観察し模倣することから始める。次に、指導者の指導のもとで、クライアントの作業療法計画立案に必要な情報収集、面接、検査・測定を行い、問題点の抽出、利点や資源、予後予測を含めた評価を行う。その評価に基づき適切な目標の設定及び治療計画の立案・治療の実施等作業療法の一連の過程を経験する。基本的な作業療法技術だけでなく、医療人としての基本的な行動の規範や記録、報告、連絡、相談について実践を通して学ぶ。また、カンファレンス等への参加も経験し、多職種と連携しながらチーム医療について学ぶ。なお、臨床実習に赴くにあたり事前準備の確認（臨床実習前評価）と実習成果の確認（臨床実習後評価）を実施する。

### 総合臨床実習 II

4年次9週間の学外実習である。「総合臨床実習 I」とは異なる実習施設において、その経験や反省を踏まえて、実習に臨む。同じように病院や診療所、介護老人保健施設、在宅支援のフィールド（通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなど）において、指導者の行っている作業療法（面接、評価、治療）を観察し模倣することから始める。次に、指導者の指導の下で、クライアントの作業療法計画立案に必要な情報収集、面接、検査・測定を行い、問題点の抽出、利点や資源、予後予測を含めた評価を行う。その評価に基づき適切な目標の設定及び治療計画の立案・治療の実施等作業療法の一連の過程を経験する。基本的な作業療法技術だけでなく、医療人としての基本的な行動の規範や記録、報告、連絡、相談について実践を通して学ぶ。また、カンファレンス等への参加も経験し、多職種と連携しながらチーム医療について学ぶ。なお、臨床実習に赴くにあたり事前準備の確認（臨床実習前評価）と実習成果の確認（臨床実習後評価）を実施する。

## 卒業研究等

### 作業療法総合演習

総合臨床実習において、作業療法の一連の過程を経験し学修した知識をもとに、より統合的に作業療法への理解を深め、臨床に適用できるよう、基本的な知識を確認し再獲得する。また、最近の人口動態、疾病障害構造、社会的情勢に応じた作業療法の展開について学習する。同時に、国内だけでなく国際的な最新の作業療法の話題や研究領域等についても情報を収集しながら

### 卒業研究

作業療法研究法演習 I・IIに引き続いて実施する最終的な研究科目である。指導教員の指導を受けながら、研究計画書に基づいて、データを収集し、研究成果をまとめ、卒業研究論文として提出するまでの一連の過程を実践する。「卒業研究論文発表会」で発表する機会を設ける。

ら、ディスカッションを進めグローバルな視点  
で作業療法を考える。

基礎分野 カリキュラムマップ ▶	専門分野 カリキュラムマップ ▶	カリキュラム表 ▶
科目概要 ▶		
健康科学部 ▶		

- ▼ 1. 救急救命学科教育理念    ▼ 2. 各回生の到達目標    ▼ 3. カリキュラムの概要    ▼ 4. 履修条件    ▼ 5. 取得できる資格

### 1. 救急救命学科教育理念

#### (1) 教育研究上の目的

健康科学部は、心理、医療の各分野の専門的知識や技術を習得し、幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、新たな課題に対応できる問題解決能力を備えた人材を養成する。救急救命学科は、救急救命の専門知識および実践力を身につけ、医療と地域社会の課題解決に貢献できる質の高い救急救命士を育成することを目的とする。

#### (2) ディプロマポリシー（学位授与方針）

救急救命学科は、教育理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、幅広い教養と救急救命の専門的な知見と技能の修得を通じ、医療と地域社会が抱える課題について、豊かな知識と人間性を基礎に、柔軟かつ責任を持って対応することのできる人材を育成することをめざしている。そのために救急救命学科では、この教育目標に基づき、次のような知識・能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学位（救急救命学）を授与する。

- ① 救急救命を中心とした医学に関する総合的な知識および救急救命学に関する技能
- ② 救急救命士として必要とされる総合的な観察力、コミュニケーション力およびリーダーシップ
- ③ 論理的思考と科学的手法を用いて、ものごとを検証し、問題解決できる能力
- ④ 生涯にわたって自ら学び続けるために必要な幅広い教養と探求心

#### (3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、健康科学部救急救命学科では、以下の方針で教育課程を編成する。

- ① 幅広く豊かな教養と視野を身につけるため、人文科学、社会科学、自然科学などの多岐にわたる科目を配置する。
- ② 身体だけでなく、心理面からも科学的にアプローチできる能力を身につけるため、学部共通科目として「医療と心理」領域を配置する。
- ③ 生涯にわたって探究心を持って学び続ける能力と姿勢を身につけるため、スタディスキル、アカデミックスキル、社会人・医療人として必要な論理的思考力について、4年間を通じて段階的に養成する演習科目および「卒業研究」「課題研究」を配置する。
- ④ 基礎医学や公衆衛生の知識を身につけるため、専門分野に基礎医学領域を置く。
- ⑤ 救急救命学に関する基礎的な理論と技能を学ぶ目的で、専門分野に救急医学領域を置き、内科・外科系科目を段階的に配置する。

- ⑥ 救急救命学の知識をより具体的な問題と関連づけ、幅広い視野で救急救命について考えられるよう、専門分野に学生の関心で選択できる専門関連科目を配置する。

---

- ⑦ 救急救命士として不可欠なコミュニケーション力およびリーダーシップを身につけ、救急救命士としての技能と実践力を養うために、各回生に「救急救命実習」を配置する。また、病院や消防機関での臨地実習を配置し、医療現場での実践力を修得する。

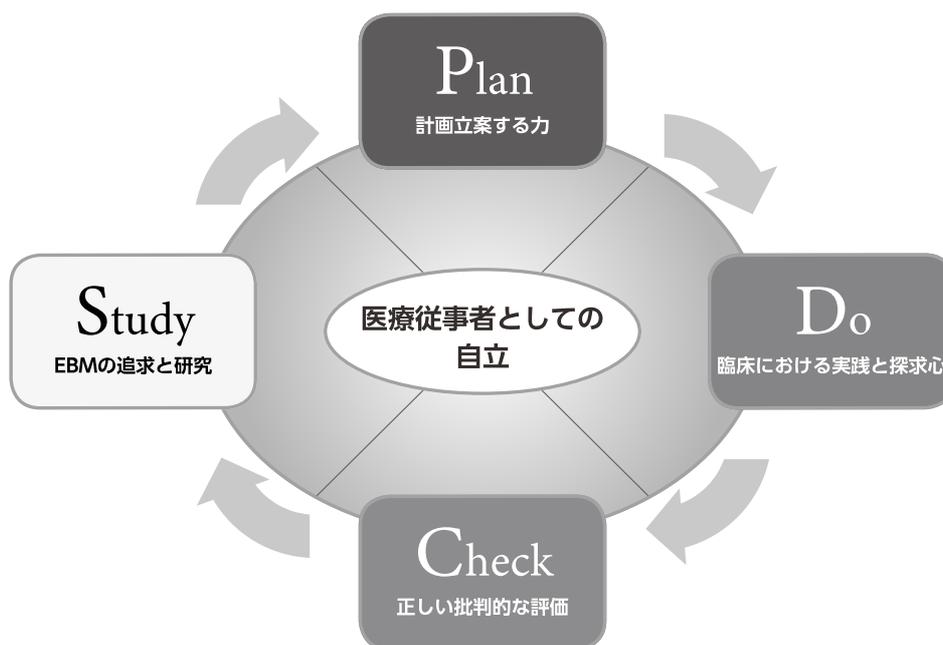
---

- ⑧ 救急救命士になるために必要な知識を身につける「救急救命キャリア開発演習」等を配置する。

## 2. 各回生の到達目標

下の表は、各学科・コース別に、専門教育科目の獲得目標を一覧化したものです。その後に続く、学科・コースのカリキュラム表と併せ、受講登録はもちろん、4年間でどのような学力を身につけ卒業に向かうのか、計画を立てる際に参考にしてください。

### 【 P-D-C-S サイクル 】



ディプロマ・ポリシー (DP)

- ① 救急救命を中心とした医学に関する総合的な知識および救急救命学に関する技能

---

- ② 救急救命士として必要とされる総合的な観察力、コミュニケーション力およびリーダーシップ

---

- ③ 論理的思考と科学的手法を用いて、ものごとを検証し、問題解決できる能力

---

- ④ 生涯にわたって自ら学び続けるために必要な幅広い教養と探求心

#### 1回生

- ① 基礎医学的知識や日本の救急医療制度に関する基本的知識を身につける。

---

- ② 社会で求められる情報処理能力の基礎を身につける。

---

- ③ 記録のまとめ方や口頭発表の方法など理解力、思考力、表現力の基礎力を身につける。

---

- ④ 人間を取り巻く文化、社会、自然への関心を持つ。

#### 2回生

- ① 専門分野を意識した学習計画を立て人間をとりまく文化、社会・自然への関心を広げる。

---

- ② チーム活動の意思疎通のコミュニケーション能力を身につける。

---

③ 言語的表現「読む、書く、話す」の理解力、思考力、表現力を高める。

④ 専門医学知識を身につけ、特定行為の根拠と具体的な技術を身につける。

### 3回生

① 専門的医学知識を深め、救急救命士としての基本的活動に必要な総合力を身につける。

② 理論的思考力や表現力、コミュニケーション能力を身につける。

③ ラーニング・コミュニティを組織し、自発的に教養を高める。

④ 進路やキャリアを意識し、臨床経験を通して医療従事者としての自覚に結びつける。

### 4回生

① 救急救命士として専門的な医学知識と総合的な観察力・処置能力を身につける。

② コミュニケーション能力や教養を高めるため自己研鑽を積む。

③ ラーニング・コミュニティでの議論を通じて論理的思考力を高める。

④ 医療従事者としての自覚の高揚、プロ意識の醸成に結びつける。

## ディプロマ・ポリシー (DP)

### 3. カリキュラムの概要

科目 習得目標	① 救急救命を中心とした医学に関する総合的な知識および救急救命学に関する技能	② 救急救命士として必要とされる総合的な観察力、コミュニケーション力およびリーダーシップ	③ 論理的思考と科学的手法を用いて、ものごとを検証し、問題解決できる能力	④ 生涯にわたって自ら学び続けるために必要な幅広い教養と探求心
1回生	人体の構造と機能演習 I (形態と構造) 人体の構造と機能演習 II (生体の諸器官の働き) 病理学 公衆衛生			
	救急救命学総論 I (救急救命士の使命)			
		救急救命関係法規		
		救急救命見学実習		救急救命見学実習
	救急救命実習 I			
			アカデミックスキルズ I	
2回生	生化学・微生物学			
	救急疾病 I (循環系、呼吸系等) 救急疾病 II (神経系、消化系等) 救急病態生理学 I (循環系、呼吸系等) 救急病態生理学 II (神経系、各種ショック等) 救急外傷医学 I (外傷総論、頭部・体幹外傷) 救急外傷医学 II (運動器外傷、熱傷等) 救急救命学総論 II (病院前医療) 救急救命学総論 I (傷病者観察)			
		救急救命実習 II		
		専門分野選択必修科目		専門分野選択必修科目
			アカデミックスキルズ II	
			救急救命キャリア開発演習 II	
3回生	臨床病態学 救急症候学 I (胸部疾患、腹部疾患等) 救急症候学 II (神経疾患、呼吸器疾患等) 救急疾病 III (筋・骨格系、泌尿・生殖系等)			

	救急処置各論 II (薬物と検査) 急性中毒学・環境障害 小児科学 精神医学 産婦人科学		
	救急救命災害演習 救急救命同乗実習 救急救命病院実習		
	救急救命実習 III		
	専門分野選択必修科目		専門分野選択必修科目
	課題発見演習 または 救急救命研究法		
		救急救命キャリア開発演習 III 救急救命キャリア開発演習 IV 救急救命キャリア開発演習 V	
4回生	救急救命実習 IV 課題研究 または 卒業研究		
	救急救命総合演習		
		救急救命キャリア開発演習 VI	

#### 4. 履修条件

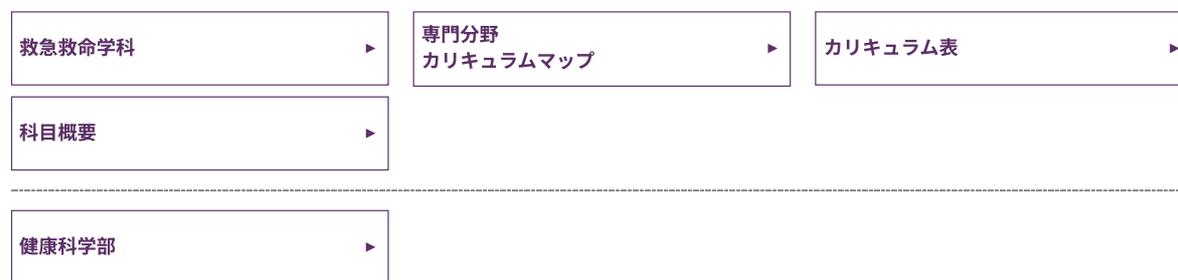
本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、一部の科目に履修条件（履修制限）を設定しています。

回生	対象科目	履修条件
2回生	救急救命実習 II	1回生配当の「救急救命実習 I」を修得済みあること。
3回生	救急救命実習 III	2回生配当の「救急救命実習 II」を修得済みあること。
	「専門分野」科目	1・2回生配当の「専門分野」のうち指定する20科目*のうち18科目以上を修得済みであること。 ----- ※指定する科目 人体の構造と機能演習 I・II、病理学、公衆衛生、生化学・微生物学、救急救命学総論 I（救急救命士の使命）・II（病院前医療）、救急救命関係法規、救急救命見学実習、救急処置各論 I（傷病者観察）、救急病態生理学 I（循環系、呼吸系等）・II（神経系、各種ショック等）、救急外傷医学 I（外傷総論、頭部・体幹外傷）・II（運動器外傷、熱傷等）、救急疾病 I（循環系・呼吸系等）・II（神経系、消化系等）、救急救命キャリア開発演習 I・II、アカデミックスキルズ I・II
4回生	救急救命実習 IV	3回生配当の「救急救命実習 III」「救急救命同乗実習」「救急救命病院実習」「救急救命災害演習」を修得済みであること。

#### 5. 取得できる資格

救急救命士国家試験  
受験資格 ▶

## 基礎分野カリキュラムマップ



### 全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

### 「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

### 科目ナンバーの見方

〈例〉 ○ ○ - 1 1 1

1	区分	BA：基礎 GE：教養 CA：キャリア CO：コア EN：英語 IN：情報 IS：留学生科目
2	回生	1：1回生 2：2回生 3：3回生 4：4回生
3	なし	学科独自コードのため「0」
4	履修順序	同系科目中の履修順序（指定なしは0）

## 基礎分野

### 基礎分野より必修科目10単位、選択必修科目21単位以上の計31単位以上を取得

※選択必修科目は「人間と知の伝達」2単位、「人間と文化」2単位、「人間と社会」2単位、「人間と自然」2単位、を含む21単位を修得すること。

### 基礎科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	知へのマインドセット	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦
EN101	英語 I A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EN101	英語 I B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EN102	英語 II A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EN102	英語 II B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
EN201	英語 III A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
EN201	英語 III B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
EN202	英語 IV A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
EN202	英語 IV B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
CO101	ライティング基礎	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
BA102	教養ゼミ	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
CO101	ITリテラシー	1	必修	演習	1回生	①②⑥
CO101	データサイエンス基礎	1	必修	演習	1回生	①②⑥

## [ 現代の思想 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
GE101	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
GE101	ジェンダーとダイバーシティ	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
GE201	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤
GE201	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤

## [ メディアと情報 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦
GE101	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
GE101	数学演習 I	2	選択	演習	1回生	①②⑥
GE102	数学演習 II	2	選択	演習	1回生	①②⑥
GE101	情報社会論	2	選択	講義	1回生	①②⑥⑦
CO101	AIリテラシー	2	選択	講義	2回生	①②⑥

## [ 外国語と文化理解 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
GE101	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
GE101	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④
GE101	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
GE101	中国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
GE102	中国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
GE103	中国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
GE104	中国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
GE101	韓国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
GE102	韓国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
GE103	韓国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
GE104	韓国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

## [ 歴史・文化 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	歴史から学ぶ	2	選択	講義	1回生	①②⑥
GE101	京都の歴史・文化 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥

## [ 法律・行政・政治 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
GE101	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
GE101	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
GE201	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
GE101	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④
GE101	政治学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④
GE201	私たちのくらしと行政	2	選択	講義	2回生	①②⑥

## [ 経済・経営・社会 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
GE101	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
GE201	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
GE201	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥
GE101	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④
GE102	経済学概論 II	2	選択	講義	2回生	①②④

## 〔健康・こころ・からだ〕

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	健康に生きる	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
GE101	スポーツコース I	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦
GE101	スポーツコース II	1	選択	実技・実習	1回生	①②③⑤⑦

## 〔自然と環境〕

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	物理学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
GE101	化学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
GE101	生物学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
GE101	地球の環境と自然	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
GE101	生命と生態系	2	選択	講義	1回生	①②③⑥

## 医療と心理

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
GE101	こころとからだの健康科学 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
GE102	こころとからだの健康科学 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
GE101	医学概論	2	選択	講義	1回生	①②④
CA201	統計学基礎論	2	選択	講義	1回生	⑤⑥⑦
GE101	医療と生命の倫理	2	必修	講義	1回生	①②④
GE201	臨床心理学	2	選択	講義	2回生	①②④
GE301	健康心理学	2	選択	講義	3回生	①②④

## (2) 自由科目

## キャリア科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
CA101	キャリア開発基礎講座	2	自由	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
CA101	医療事務研究 I	2	自由	演習	1回生	①③⑤
CA102	医療事務研究 II	2	自由	演習	1回生	①③⑤
CA201	キャリアコミュニケーション I	2	自由	講義	2回生	①②④⑦
CA202	キャリアコミュニケーション II	2	自由	講義	2回生	①②④⑦
CA201	救急救命将来講座 I	1	自由	演習	2回生	①②⑤⑥
CA202	救急救命将来講座 II	1	自由	演習	2回生	①②⑤⑥

## 専門分野カリキュラムマップ

救急救命学科 ▶ 基礎分野カリキュラムマップ ▶ カリキュラム表 ▶

科目概要 ▶

健康科学部 ▶

### 全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

### 学科・コース別の ディプロマ・ポリシー

- ① 救急救命を中心とした医学に関する総合的な知識および救急救命学に関する技能
- ② 救急救命士として必要とされる総合的な観察力、コミュニケーション力およびリーダーシップ
- ③ 論理的思考と科学的手法を用いて、ものごとを検証し、問題解決できる能力
- ④ 生涯にわたって自ら学び続けるために必要な幅広い教養と探求心

### 「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

### 科目ナンバーの見方

〈例〉 **EM** - **1** **1** **1**  
1 2 3 4

<b>1 学科</b>	<b>EM</b> ：救急救命学科
<b>2 回生</b>	<b>1</b> ：1回生 <b>2</b> ：2回生 <b>3</b> ：3回生 <b>4</b> ：4回生
<b>3 区分</b>	<b>1</b> ：基礎分野 <b>2</b> ：キャリア教育科目群 <b>3</b> ：専門分野（基礎医学領域） <b>4</b> ：専門分野（救急医学領域） <b>5</b> ：専門分野（専門関連科目） <b>6</b> ：専門分野（総合演習） <b>7</b> ：専門分野（キャリア開発演習）
<b>4 開講期</b>	<b>1</b> ：前期 <b>2</b> ：後期 <b>3</b> ：通年 <b>4</b> ：その他

## 専門分野

### 必修科目12単位

#### 基礎医学領域

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
EM131	人体の構造と機能演習 I（形態と構造）	2	必修	演習	1回生	①②⑥⑦	①
EM132	人体の構造と機能演習 II（生体の諸器官の働き）	2	必修	演習	1回生	①②⑥⑦	①
EM132	病理学	2	必修	講義	1回生	①②⑥⑦	①
EM132	公衆衛生	2	必修	講義	1回生	①②⑥⑦	①
EM231	生化学・微生物学	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①

EM331	救急処置各論 II (薬物と検査)	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
-------	-------------------	---	----	----	-----	------	----

## (2) 必修科目60単位

救急医学領域

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
EM141	救急救命学総論 I (救急救命士の使命)	2	必修	講義	1回生	①②⑥⑦	①②
EM141	救急救命関係法規	2	必修	講義	1回生	①②③⑥⑦	②③
EM143	救急救命見学実習	1	必修	実習・実技	1回生	①②③⑥⑦	②④
EM143	救急救命実習 I	5	必修	実習・実技	1回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④
EM241	救急疾病 I (循環系、呼吸系等)	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM242	救急疾病 II (神経系、消化系等)	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM241	救急病態生理学 I (循環系、呼吸系等)	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM242	救急病態生理学 II (神経系、各種ショック等)	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM241	救急外傷医学 I (外傷総論、頭部・体幹外傷)	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM242	救急外傷医学 II (運動器外傷、熱傷等)	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM242	救急救命学総論 II (病院前医療)	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM242	救急処置各論 I (傷病者観察)	2	必修	講義	2回生	①②⑥⑦	①②
EM243	救急救命実習 II	5	必修	実習・実技	2回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④
EM341	臨床病態学	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM341	救急症候学 I (胸部疾患、腹部疾患等)	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM341	救急症候学 II (神経疾患、呼吸器疾患等)	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM341	救急疾病 III (筋・骨格系、泌尿・生殖系等)	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM342	急性中毒学・環境障害	2	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM342	小児科学	1	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM342	精神医学	1	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM342	産婦人科学	1	必修	講義	3回生	①②⑥⑦	①②
EM342	救急救命災害演習	2	必修	演習	3回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③
EM343	救急救命同乗実習	1	必修	実習・実技	3回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③
EM343	救急救命病院実習	5	必修	実習・実技	3回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③
EM343	救急救命実習 III	4	必修	実習・実技	3回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④
EM443	救急救命実習 IV	4	必修	実習・実技	4回生	①②③④⑤⑥⑦	①②③④

## (3) 5単位以上選択必修

専門関連科目

専門関連科目より5単位以上選択

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
EM252	救急救命海外実習	1	選択	実習・実技	2回生	②③④⑤⑥⑦	②④
EM252	危機管理論	2	選択	講義	2回生	②③⑤⑥	②④
EM351	公安職研究	2	選択	講義	3回生	②⑤⑥	②④
EM351	救急医学英語	1	選択	演習	3回生	②③④⑤⑥⑦	②④
EM352	医療政策経済論	2	選択	講義	3回生	①②⑤⑥	②④
EM351	公共政策論	2	選択	講義	3回生	②③⑤⑥	②④

## (4) 必修科目4単位+選択必修科目6単位

総合演習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー	備考
EM161	アカデミックスキルズ I	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦	③④	-
EM262	アカデミックスキルズ II	1	必修	演習	2回生	①②⑤⑥⑦	③④	-
EM362	課題発見演習	2	選択	演習	3回生	②⑤⑥⑦	①②③④	いずれかを選択
EM362	救急救命研究法	2	選択	演習	3回生	②⑤⑥⑦	①②③④	いずれかを選択
EM463	課題研究	4	選択	演習	4回生	②⑤⑥⑦	①②③④	いずれかを選択
EM463	卒業研究	4	選択	演習	4回生	②⑤⑥⑦	①②③④	いずれかを選択
EM462	救急救命総合演習	2	必修	演習	4回生	②⑤⑥	①②③	-

## (5) 必修科目6単位

キャリア開発演習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
EM172	救急救命キャリア開発演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥	③
EM271	救急救命キャリア開発演習 II	1	必修	演習	2回生	①②⑤⑥	③
EM371	救急救命キャリア開発演習 III	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥	②③
EM372	救急救命キャリア開発演習 IV	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥	②③
EM372	救急救命キャリア開発演習 V	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥	②③
EM471	救急救命キャリア開発演習 VI	1	必修	演習	4回生	①②⑤⑥⑦	③④

健康科学部 救急救命学科

# カリキュラム表

救急救命学科 ▶	基礎分野 カリキュラムマップ ▶	専門分野 カリキュラムマップ ▶
科目概要 ▶		
-----		
健康科学部 ▶		

<b>基礎分野</b> <b>31単位</b> 必修10単位+ 選択必修21単位	<b>専門分野</b> <b>93単位</b> 必修82単位+ 選択必修11単位	卒業要件 <b>124</b> 単位
---	---	--------------------------

## 基礎分野 必修科目

10単位

基礎科目

	単位	回生
知へのマインドセット	2	1～
英語 I A	1	1～
英語 I B	1	1～
英語 II A	1	1～
英語 II B	1	1～
ITリテラシー	1	1～
データサイエンス基礎	1	1～

医療と心理

	単位	回生
医療と生命の倫理	2	1～

## 基礎分野 選択必修科目

21単位

※の各領域からは所定の単位数以上の修得必須

基礎科目

	単位	回生
英語 III A	1	2～
英語 III B	1	2～
英語 IV A	1	2～
英語 IV B	1	2～
ライティング基礎	2	1～
教養ゼミ	2	1～

領域 人間と知の伝達

※2単位以上

【分野】現代の思想

	単位	回生

領域 人間と文化

※2単位以上

【分野】外国語と文化理解

	単位	回生

領域 人間と社会

※2単位以上

【分野】法律・行政・政治

	単位	回生

哲学概論	2	1～
倫理学概論	2	1～
ジェンダーとダイバーシティ	2	1～
心理学概論	2	2～
宗教学概論	2	2～

【分野】メディアと情報

	単位	回生
言語コミュニケーション論	2	1～
現代のメディアと表現	2	1～
数学演習 I	2	1～
数学演習 II	2	1～
情報社会論	2	1～
AIリテラシー	2	2～

領域 人間と自然

※2単位以上

【分野】健康・こころ・からだ

	単位	回生
健康に生きる	2	1～
スポーツコース I	1	1～
スポーツコース II	1	1～

【分野】自然と環境

	単位	回生
物理学基礎	2	1～
化学基礎	2	1～
生物学基礎	2	1～
地球の環境と自然	2	1～
生命と生態系	2	1～

比較文化論	2	1～
芸術と文化	2	1～
異文化コミュニケーション論	2	1～
文化人類学	2	1～
中国語 I	2	1～
中国語 II	2	1～
中国語 III	2	1～
中国語 IV	2	1～
韓国語 I	2	1～
韓国語 II	2	1～
韓国語 III	2	1～
韓国語 IV	2	1～

【分野】歴史・文化

	単位	回生
歴史から学ぶ	2	1～
京都の歴史・文化 I	2	1～

領域 医療と心理

	単位	回生
こころとからだの健康科学 I	2	1～
こころとからだの健康科学 II	2	1～
医学概論	2	1～
統計学基礎論	2	1～
臨床心理学	2	2～
健康心理学	2	3～

日本国憲法	2	1～
法学概論 I	2	1～
法学概論 II	2	1～
民法	2	2～
政治学概論 I	2	1～
政治学概論 II	2	1～
私たちのくらしと行政	2	2～

【分野】経済・経営・社会

	単位	回生
経営学概論	2	1～
会計学概論	2	1～
社会学概論 I	2	1～
社会学概論 II	2	1～
経済学概論 I	2	2～
経済学概論 II	2	2～

## キャリア教育科目群

みなさんの就職のために非常に重要な科目ですので、卒業するための単位を計画的に修得していきながら、キャリア関連科目を受講してってください。

※ これらの科目は要卒科目には含まれていませんので、卒業に必要な124単位には加算されません。

	単位	回生
キャリア開発基礎講座	2	1～
医療事務研究 I	2	1～
医療事務研究 II	2	1～

	単位	回生
キャリアコミュニケーション I	2	2～
キャリアコミュニケーション II	2	2～

	単位	回生
救急救命将来講座 I	1	2～
救急救命将来講座 II	1	2～

※ キャリア関連科目はこの他にもあります。毎年度の開講科目と内容をシラバス等で確認しながら、受講してください。

## 専門分野 必修科目

82単位

## 1回生

	単位	開講期
人体の構造と機能演習Ⅰ（形態と構造）	2	前
人体の構造と機能演習Ⅱ（生体の諸器官の働き）	2	後
病理学	2	後
公衆衛生	2	後
救急救命学総論Ⅰ（救急救命士の使命）	2	前
救急救命関係法規	2	前
救急救命見学実習	1	通
救急救命実習Ⅰ	5	通
アカデミックスキルズⅠ	1	前
救急救命キャリア開発演習Ⅰ	1	後

## 2回生

	単位	開講期
生化学・微生物学	2	前
救急疾病Ⅰ（循環系、呼吸系等）	2	前
救急疾病Ⅱ（神経系、消化系等）	2	後
救急病態生理学Ⅰ（循環系、呼吸系等）	2	前
救急病態生理学Ⅱ（神経系、各種ショック等）	2	後
救急外傷医学Ⅰ（外傷総論、頭部・体幹外傷）	2	前
救急外傷医学Ⅱ（運動器外傷、熱傷等）	2	後
救急救命学総論Ⅱ（病院前医療）	2	後
救急処置各論Ⅰ（傷病者観察）	2	後
救急救命実習Ⅱ	5	通
アカデミックスキルズⅡ	1	後
救急救命キャリア開発演習Ⅱ	1	前

## 3回生

	単位	開講期
救急処置各論Ⅱ（薬物と検査）	2	前
臨床病態学	2	前
救急症候学Ⅰ（胸部疾患、腹部疾患等）	2	前
救急症候学Ⅱ（神経疾患、呼吸器疾患等）	2	前
救急疾病Ⅲ（筋・骨格系、泌尿・生殖系等）	2	前
急性中毒学・環境障害	2	後
小児科学	1	後
精神医学	1	後
産婦人科学	1	後
救急救命災害演習	2	後
救急救命同乗実習	1	通
救急救命病院実習	5	通
救急救命実習Ⅲ	4	通
救急救命キャリア開発演習Ⅲ	1	前
救急救命キャリア開発演習Ⅳ	1	後
救急救命キャリア開発演習Ⅴ	1	後

## 4回生

	単位	開講期
救急救命実習Ⅳ	4	通
救急救命総合演習	2	後
救急救命キャリア開発演習Ⅵ	1	前

## 専門分野 選択必修科目（キャリア開発演習）

6単位

## 3回生

	単位	開講期
課題発見演習	2	後
救急救命研究法	2	後

## 4回生

	単位	開講期
課題研究	4	通
卒業研究	4	通

## 専門分野 選択必修科目（専門関連科目）

5単位

## 2回生

	単位	開講期
救急救命海外実習	1	後
危機管理論	2	後

## 3回生

	単位	開講期
公安職研究	2	前
救急医学英語	1	前
医療政策経済論	2	後
公共政策論	2	前

【第9章 2021年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 救急救命学科

## 科目概要

救急救命学科 ▶	基礎分野 カリキュラムマップ	専門分野 カリキュラムマップ ▶
カリキュラム表 ▶		
<hr/>		
健康科学部 ▶		
<hr/>		
▼ 基礎分野	▼ 専門分野	
<hr/>		

### 基礎分野

基礎科目

### 知へのマインドセット

本科目は、本学の教養教育課程全体の基盤的科目のひとつであり、本科目で学んだ基礎の上に、その後の教養教育課程に設定する多様な科目の学びを重ねることにより、「社会を構成する知的市民としてのマインドセット」の獲得をめざすものである。また、本科目を受講することにより、本学の教学理念を理解したうえでその後の学びを進められるようにするための科目としても位置付ける。そのため、まずは本学の教学理念を学んだうえで、本学に設置する多様な学部から、それぞれの学問領域の基礎を学び、各学問領域を学ぶ意義を理解する。

(オムニバス方式/全14回)

### 英語 I A

基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

### 英語 I B

平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

### 英語 II A

スキミング、スキヤニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要なリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

### 英語 II B

効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見をプレゼンテーションでできる能力を向上させることをめざす。

### 英語 III A

TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

### 英語 III B

TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行いながら英語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

### 英語 IV A

日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

### 英語 IV B

さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につけようとする。

### ライティング基礎

大学でのスタディ・スキルとして必要とされる読解力や基本的な文章作成能力の獲得をめざす。演習を通して文章を読む力を養成しながら、添削指導等により、論理的な論説文を書くために必要な文章構成力や推敲の能力を獲得する。

### 教養ゼミ

スタディ・スキルとして、最低限必要とされる読解力や文章作成能力の修得をめざす。高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高める。

### ITリテラシー

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を、演習を通して習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養うとともに、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱ううえでのマナーを身につける。

### データサイエンス基礎

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本科目では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを演習を通して学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

【現代の思想】

**哲学概論**

市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成、異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成を目的とする。哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私たちにとってどんな意味をもつのかについて、さまざまな哲学者の著作を通して考える。

**倫理学概論**

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解し、倫理的な考え方を身につけることを目標とする。社会正義を考えるをテーマとして学びを進め、近代以降の倫理学の学説を中心に、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考えるうえで倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

**ジェンダーとダイバーシティ**

ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この科目では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点を用いて今日的な課題を考える。

**心理学概論**

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、対人関係や社会生活について考えるうえでも「こころ」を抜きにすることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心を持つ人は多いが、誤解されることがや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの科目では、自然科学の一種としての心理学の全体像を概観する。そのことで、受講者の持っていた興味や関心が正確な知識とつながり、さらに自らで考えることができるようになるための基礎づくりを目標とする。授業では、生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基礎的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

**宗教学概論**

宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めなのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成する。具体的には、客観的で科学的な立場から、宗教の歴史を概観し、有神論と無神論、創唱宗教と自然宗教といった分類のしかたなどを考察する。

【メディアと情報】

**言語コミュニケーション論**

日常あらゆる人が行うコミュニケーションにおいて、言語がどのような役割を担っているのかを知る。言語を客観的に捉える姿勢を身につける。言語学の諸分野について講義を行い、そのなかでコミュニケーション上の言語の役割について説明していく。

**現代のメディアと表現**

今日、日本のメディア・コンテンツは世界的な文化として高く評価されつつある。その理由はいくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現していることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、日本の映像メディアは今や担っている。こうした観点に立って、日本の映像文化について考える。

**数学演習 I**

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。数と計算・図形の初歩から学び、さまざまな応用問題が解けるようにする。ピタゴラスの定理と無理数、1次・連立・2次方程式、因数分解、1次・2次関数とグラフなどを主なテーマとする。

**数学演習 II**

数学的思考、数理的思考を身につける。1次関数、2次関数、関数とグラフ、図形と方程式、図形の性質・面積（ヘロンの公式）などをテーマとして、日常生活との接点を探りつつ、基本的な概念、典型的な問題の解法、実生活への応用を教授する。

**情報社会論**

情報通信技術が現代社会をどのように支えているのか、また、現在どのような課題があり、今後社会をどのように変えていくのかを学ぶ。テキストを中心に、適宜スライドや配布資料、政府や団体の公開資料等を用いる。理解の深化と確認のため、レポート提出や複数回の理解度テストを実施する場合がある。

**AIリテラシー**

実社会において人工知能（AI）が活用される機会は大きくなってきている。日常生活のなかで、あるいは職業生活のなかでAIを活用するにあたり、その仕組みやAIを使っていることとその限界を学び、AIをツールとして使いこなせる力（AIリテラシー）を獲得する。

人間と文化

【外国語と文化理解】

**比較文化論**

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ない簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の

**芸術と文化**

芸術と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまな試みられている芸術表

**異文化コミュニケーション論（人文）**

本科目は、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。年表や各種

機会と考えられるようになったら——これがこの科目の最大の目標である。世界で起こっているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考えることを通して、さまざまな文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを理解する。

現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

の歴史的な史料、新聞記事や写真、画像などを紹介しながら進める。

#### 文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本科目では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説し、さらに具体的な研究事例も取り上げる。

#### 中国語 I

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

#### 中国語 II

中国語のさまざまな基本短文を作ることができるように、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

#### 中国語 III

中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることをめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的事件、食べ物、祝日などを題材にする。

#### 中国語 IV

基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができることをめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

#### 韓国語 I

初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

#### 韓国語 II

韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法+会話+講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話力を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習する。また、韓国の文化に関わるものを講読のテキストとし、韓国の文化に親しむ。

#### 韓国語 III

会話+講読+聴解力+作文に重点を置く。韓国語 I・II で学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ができるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

#### 韓国語 IV

韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話+スピーチができることを目的とし、学生たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

### 【歴史・文化】

#### 歴史から学ぶ

**概要：**歴史学の学問としての方法論を知るとともに、多様な視点から事象を理解する姿勢を身につける。世界史と日本史分野の教員が担当し、歴史学を学ぶうえで必要な学問的方法論についての理解を深める。授業においては特に日本と異文化の接触・交流の視点や、文献史学以外の学問研究の視点に留意するとともに、史料を的確に読む重要性について徹底的に講義する。

#### 京都の歴史・文化 I

京都の複合する遺跡から京都の歴史と文化を探る。考古資料をもとに京都の地下の文化財に触れ、京文化の根源を学び、探り、理解し、考えてみる。そして京都の遺跡からわかる歴史と文化の表現方法の取得に向う。平安京以前からの、京都の遺跡を学習する。適宜、歩き探る京都を紹介する。

### 人間と社会

### 【法律・行政・政治】

#### 日本国憲法

日常生活のなかで見え隠れするさまざまな社会的な問題を考え、対処するために必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につける。また、これを理解するために必要な基本的知識を身につけることを目標とし、基本的な事柄のできる限り分かりやすく解説していく。

#### 法学概論 I

法学概論 I では、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていき、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を

#### 法学概論 II

法学概論 II では、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。

挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初歩的な応用力を身につける。

## 民法

民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会生活そのものを広範に対象とする学問である。本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主要な法原則、法制度、法概念を理解するとともに、その基礎的知識を獲得することを目的としている。また、具体的な事例や裁判例を用いながら、民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにすることで、法的な問題発見能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を可能にする。特に、財産法の分野の解説に重点を置くが、家族法の分野についても一通り概観しておく。

## 政治学概論 I

政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とする。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によって、政治に関する情報・言説を知るソーシャルメディア利用法などにも言及する。

## 政治学概論 II

具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家はいかに描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

## 私たちのくらしと行政

国と自治体の行政活動と社会問題の繋がりについて説明できるようになる、行政に関する制度について市民社会との関係のなかで理解し説明できるようになる、公共政策の実際について分析し説明できるようになることを目標とする。行政は変化し続ける社会への対応を迫られており、その果たすべき役割は、社会との関係のなかで問われている。そのため、行政と外部との関係に着目しながら学んでいく。

## 【経済・経営・社会】

### 経営学概論

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まず会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

### 会計学概論

目標：企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。内容：企業経営のプロセスを、資金の流れとして学ぶ。さらに、付加価値の形成、市場における価値の創造、収益の分配、および、稼得利益の意義を体系的に考察することによって、企業経営の本質を理解する。また、この学習を、複式簿記のシステム（簿記一巡の手続き）の理解と連動して行う。したがって、他人資本（負債）、自己資本（純資産）、資産、費用、収益という5つのグループの経営プロセス上での役割についても、それぞれのグループ内の勘定科目のレベルにまで、一定程度深化させて理解する。簿記システムの基礎的理解をめざし、簿記一巡の手続きについて学ぶ。

### 社会学概論 I

社会学概論 I では、自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちに何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

### 社会学概論 II

社会学概論 II では、社会学概論 I での基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会的想像力の定着をめざす。

### 経済学概論 I

現代日本経済における諸問題を学ぶことによって、経済学への導入を図る。具体的には、まずバブル経済とその崩壊による平成不況の深刻化の課程を「不良債権処理の10年」として概観する。次に、ケーススタディとして、日本長期信用銀行の破綻、山一証券の自主廃業について検討する。そして、女性労働として雇用機会均等法と育児支援を取り上げるとともに、労働問題として過労死・過労自殺、ホームレス、派遣労働、ネットカフェ難民、派遣村などを取り上

### 経済学概論 II

戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでを、映像資料を活用してイメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

げる。これらの諸問題を、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

## 人間と自然

### 【健康・こころ・からだ】

#### 健康に生きる

「健康」「生きる」「健康に生きる」について、政治、経済、文化、社会、教育、保健医療システム等、さまざまな視点から現象をとらえ、自分自身の健康に生きるについて考えることはもちろん、家族、コミュニティ、日本国内、世界の健康に生きるについても考える。

#### スポーツコース I

ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図り、またスポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

#### スポーツコース II

I に引き続き、ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として、さらに基礎体力と技術のスキルアップを図る。またあわせて、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

### 【自然と環境】

#### 物理学基礎

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考えるうえで基礎的な学問となる。本科目では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などの基本的な原理について正しい理解を得るとともに、日常的に目にする現象を物理学的に理解し説明する力を身につける。また、物理学が身近なものに应用されていることを理解し、物理学の原理とその意義について見識を深める。例えば、身近な家庭用機器や医療機器（電子レンジ、健康維持器具、AED、MRI等）などに应用されている電磁気現象の原理などを理解する。

#### 化学基礎

生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え、理解できるように基礎概念を解説する。原子の構造と結合、分子の形、物質の形態、溶液、化学反応などについて正しい理解を得るとともに、日常的に目にする物質や現象および、化学が身近に应用されていることを理解し説明する力を身につける。例えば、日常生活に関わる化学物質、例えば石油や原子力などのエネルギー源、金属やプラスチックなどの材料、薬品、医療品などについて触れ、应用されている原理とその意義を理解する。

#### 生物学基礎

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命科学、および関連する諸問題について概説する。生命現象を理解するために、細胞の構造と役割、細胞を構成する物質、エネルギー、遺伝学、DNA、発生と老化、脳の構造などから、食と健康、がん、感染と免疫などについても解説し、正しい理解を促進する。さらに、生命現象の科学的な解析、説明が急速に進展する現代において、生物学的な諸問題を正しく理解するため、遺伝子組換え生物や再生医療、生態系と環境問題までの最新のトピックを交えて解説する。

#### 地球の環境と自然

政策と個人の人々の取り組みとの両面から、環境問題の解決に向けた取り組みについて考察する。環境問題を発生させ拡大させる社会的な要因について分析し、それらへの対応策について研究する。そして、個々の生活と環境問題の関係性について学び、さらに市民、NPO、行政、企業などの多様な主体が連携して進める持続可能な社会に向けた取り組みの現状と課題について学ぶ。

#### 生命と生態系

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。そのなかでも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解することを目標にする。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と地層の対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震、土石流などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて学習する。

## 医療と心理

### こころとからだの健康科学 I

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

### こころとからだの健康科学 II

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

### 医学概論

人類の歴史は「病いとの戦い」の歴史であるともいえる。例えば、伝染病との戦いはペストや天然痘には勝利したものの、エイズやインフルエンザといった新たな敵との戦いが引き起こされている。人類の生存をかけた戦いのなかで医学は生まれ、発展してきた。さらに、ライフスタイルの変化、人口の少子高齢化等の社会情勢の変化は生活習慣病などの新たな「病い」の発生の素地となっている。医学は新たな姿の敵との戦いを迎えている。こうした医学の歴史を振り返りながら、「医学の過去、現在、未来」について講義する。

### 統計学基礎論

この科目では統計学そのものについて学ぶのではなく、統計法を利用して各分野（保健衛生学や心理学、教育学など）の研究を進める方法を学ぶことを目的とする。授業を通じて統計学の基礎を学び、身近なデータを読み取る力をつけ、また実際に受講生自身が研究を行う上で知識を活用できるよう、実践的な能力を身につけることをめざす。

### 医療と生命の倫理

生命倫理学の基本原則を正しく理解し、現代の医療における倫理的諸問題を学ぶ。まず、患者の自律の尊重という生命倫理学の基本原則と、これを達成するために不可欠なインフォームド・コンセンツの原理について説明する。その後、①出生前診断、人工妊娠中絶、生殖補助医療など人間の誕生にまつわる諸問題、②ターミナルケア、安楽死と尊厳死など人間の死にまつわる諸問題、③遺伝子診断と遺伝子治療、再生医療など先端医療、④医療情報の保護について教授する。

### 臨床心理学

医療を通じて人と関わるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。そうした知識も当然重要であるが、それだけにとどまらず「臨床の知」としての思考力を身につける必要がある。「臨床の知」とは、客観的に眺め分析するのではなく、自分が現場にコミットして、相手との関係のなかで考えることといえる。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へ関わる存在になっていくのか、履修者それぞれが、主体的に考えられるようになることをめざしたい。

### 健康心理学

心身の健康の維持増進や疾病の予防について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを心理学的な側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄について理解する。

### キャリア科目

#### キャリア開発基礎講座

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。獲得目標として、コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成をめざす。就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で修得することをめざす。

#### 医療事務研究 I

病院の組織、業務、使命、各種の医療保険制度について解説の上、保険請求事務のしくみについて具体的に治療代を算定しながら学び、病院での医療事務の実際を知る。初診料や再診料、医学管理、在宅医療をはじめ、投薬・注射・処置・手術・輸血・麻酔などの病院の営みと医療事務者の業務との関連性および必要な知識について教授する。

#### 医療事務研究 II

医療事務研究 I にて治療基準による算定方法およびカルテ記載上の治療内容を外来レセプト（診療報酬明細書）に置き換える技能を習得する。医療事務研究 II では、現在医療社会で行われる治療行為全般について学習を進め、老人医療・公費負担医療からのレセプト演習、入院カルテからの入院レセプト演習を行う。また、良質な患者サービスの提供を重視する医療界の変化に対応し、患者接遇・院内コミュニケーションに関する知識・技能についても学習を進める。

#### キャリアコミュニケーション I

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションのための話しことばの修得を目的とする。話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術、人間関係を円滑にするための敬語表現のスキル、パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方、正しい日本語の運用について

#### キャリアコミュニケーション II

社会人基礎力（コミュニケーション能力）を体得し、社会人としての準備を行う。適切なマネーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキル、問題発見解決型人材を志願者においた社会が求めるヒューマンスキルなどの獲得をめざす。講座では、円滑なコミュニケーションから

#### 救急救命将来講座 I

救急救命士の主な就業先である公務員試験の受験を見すえた演習を集中的に行う。それにより文章理解や数的処理などの一般教養、自然科学、人文科学、法律、経済、政治など幅広い知識の修得と定着を図り、3年次以降の学修の基礎とする。学習を通じて、社会人としての教養

の知識等の修得を、講義とワーク、トレーニングにより身につける。

より有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの修得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを修得する。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力（コミュニケーション力・自己アピール力）などのヒューマンスキルを身につけることをめざす。

はもとより、論理的思考力やコミュニケーション能力を身につける。具体的には、人文・社会分野において、政治と経済を中心とした領域の知識を学び、実際の公務員試験に出題される問題を演習する。また、数的処理分野においては、判断推理と数的推理を中心とした領域の論理的思考を学び、実際の公務員試験に出題される問題を演習する。

## 救急救命将来講座 II

「救急救命将来講座 I」における学習を基礎として、救急救命士の主な就業先である公務員試験の受験を見すえた発展的な演習を集中的に行う。それにより、文章理解や数的処理などの一般教養、自然科学、人文科学、法律、経済、政治など幅広い知識の修得と定着を図り、3年次以降の学修の基礎とする。また、この学習を通じて、社会人としての教養はもとより、論理的思考力やコミュニケーション能力も身につける。具体的には、数的処理分野において数的推理と判断推理を中心とした領域、人文・社会分野において政治、経済、社会を中心とした領域に関して、それぞれ発展的分野を取り扱う。

## 専門分野

### 基礎医学領域

#### 人体の構造と機能演習 I（形態と構造）

医療分野における技術と専門知識を修得するために最も基礎となる人体を構成する正常な諸臓器の位置や形状、相互関係および内部構造について、演習形式で学習を展開する。人体の構造に関する学問は、観察方法により、肉眼解剖学、光学顕微鏡による組織学、電子顕微鏡による細胞学、および発生学の4つに区分され、それぞれが膨大な内容であるため、この授業では将来の臨床科学を担う実践者として必要な基礎知識に重点をおいて教授する。

#### 人体の構造と機能演習 II（生体の諸器官の働き）

生命現象を主に機能的側面から演習形式を取り入れて教授する。授業では、人体の生体システムについて恒常性の維持や体組成、細胞などの視点から概説するとともに、呼吸器系、循環器系、消化器系などの臓器ごと、また血液・免疫系、神経系などについて、人体の正常な生理的機能に関する理解を深める。さらに、異常状態である病態生理についても解説する。

#### 病理学

病理学とは、病気がどうして起こり、その結果人の体組織がどう変化しているのかを、追究する学問である。本講義では、疾病の原因、経過、結果などについて概説し、正常状態との比較において病的状態について理解を深める。総論で全体的な視野から疾患の概念や仕組みを理解し、各論ではそれが各臓器・組織でどのような形態学的変化として現れるのかを教授する。

#### 公衆衛生

保健衛生の現況の把握と諸課題を理解する。本講義では、多くの要因から成る健康の成り立ちを生活レベルから理解し、人々の健康生活の保持や増進、疾病の予防、医療・福祉のために考え、行動できる基礎を養う。公衆衛生学は極めて包括的、学際的かつ集学的な学問体系であるため、関連した諸科学の学習が重要である。また、公衆衛生学には医学・医療の社会的適用という側面があるため、日常的に総合性、社会性、現実性、即時性を養うよう指導を行う。

#### 生化学・微生物学

生命現象を分子から解明する生化学分野では、健康を分子レベルで捉え、その維持と増進を図り栄養の役割を理解する上で必須の知識を講義する。タンパク質、糖質、脂質などの生体構成成分の構造と機能を説明し、生体内で起こる化学変化とエネルギー変換である代謝について理解を深める。また、微生物学分野では、通常肉眼では見えない微小かつ単純な生物である微生物の性質や機能を概説した後、感染症の発生機構とその予防、治療に関する基本的な知識を教授する。

#### 救急処置各論 II（薬物と検査）

救急救命士が傷病者へ投与可能な薬剤に関して必要な知識について理解を深める。薬剤投与に必要な基礎知識および薬物の作用、吸収・代謝・排泄、薬剤の投与経路と方法などについて教授する。また、臨床検査に関わる多様な検査の種類について、その目的と方法について概説するとともに、胃機能検査、生理検査、感染症検査、および胸痛や中毒に係る臨床検査などの具体的検査について講義する。さらに、放射線とその障害についても解説する。

### 救急医学領域

#### 救急救命学総論 I（救急救命士の使命）

#### 救急救命関係法規

#### 救急救命見学実習

救急救命士の業務遂行には、その社会的使命の理解や救急医療制度の理解、そして救急医学を中心とした医学全般の知識が必要となる。本講義では、救急救命の歴史や現代の救急医療について概観し、救急救命士の業務を担保する科学的思考の基礎知識や人間の体、心、くらしへの理解を深める。さらに、救急救命士の行う応急処置と種類、代表的な処置としての心肺蘇生法までを教授し、一連の講義を通して、職業としての救急救命士の具体的なイメージを持てるようにする。

#### 救急救命実習 I

一次救命処置の理論と基本的実技、および傷病者観察用資器材を用いた救急救命処置等の理論・技術について具体的な実習を通じて習得する。実習では、聴診器、血圧計・パルスオキシメータ、心電図モニター、呼吸管理用資器材などの取り扱い要領や測定法を教授する。また、近隣地域の介護保険施設の協力のもと、医療人としての自覚や対人対応力、コミュニケーション能力を涵養するためにコミュニケーション実習を実施する。

#### 救急病態生理学 I (循環系、呼吸系等)

病態生理学とは、人体の器官などが異常や不全を起こすことによって起こる生体機能の変化に着目する医学領域である。本講義では、循環器系および呼吸器系の疾患を中心に、その構造と機能、観察と診断法、疾患に応じた症状の特徴、さらに応急処置と搬送法について教授する。また関連して、呼吸困難、咯血、発熱、胸痛、動悸・不整脈などの症候や、高齢者に特有の疾患についても、その原因と病態、観察・判断応急処置と搬送までを講義する。

#### 救急外傷医学 II (運動器外傷、熱傷等)

「救急外傷学 I」に引き続き、救急医療のうち、特に外傷救急医学について教授する。本講義では、骨盤、四肢、軟部組織の外傷について、病態生理と観察と判断法を教授する。また、外傷の形態や外傷に対する反応において成人と異なる小児・高齢者・妊婦の外傷の特徴にも言及する。熱傷、化学損傷、電撃傷、縊頸、刺咬症など特殊な損傷の発生機序と病態、さらにそれぞれの外傷の特徴について理解を深める。

#### 救急救命実習 II

救急救命士として職務遂行にあたり、1年次に習得した基本行動要領を基礎とした救急救命行為を用いた救急隊活動を行うために必要な基本処置および技術を理解し習得する。具体的には、CPA対応活動や基本外傷処置についてさらに理解を深めた上で、想定シナリオに基づいた実習を行う。また、救急救命士の業務拡大に伴

まず、法の基礎知識をしっかりと学ぶ。具体的には、法の定義、法と道徳の関係、法源論、法の解釈、法の分類、法の効力、裁判所の組織などを学ぶ。その後、個別の法領域に入り、救急救命士法、医師法、保健師助産師看護師法、医療法、その他の法令の理解を深める。また、将来、救急救命士の資格を活かすためには、消防に入り消防吏員などになる必要があるため、消防法、地方公務員法、国家賠償法などについても学習する。

#### 救急疾病 I (循環系、呼吸系等)

循環器系、呼吸器系などの救急疾病について主な疾患を取り上げて、その特徴と応急処置などを学ぶ。循環器系は、心不全、虚血性疾患、不整脈、先天性心疾患、心筋疾患などを取り上げ、その特徴と応急処置を解説する。また、呼吸器系は、呼吸不全、呼吸器感染症、気管支喘息、肺炎、肺血管疾患、その他の疾患の病態、診断、処置などを教授する。さらに、内分泌系・代謝系の病因・病態生理、症状、悪化防止、生命の危険回避をするために必要な救急処置の知識・技能、観察の方法と意義(重傷度、全身・局所の観察、各種病状の観察)、検査なども教授する。

#### 救急病態生理学 II (神経系、各種ショック等)

「救急病態生理学 I」に引き続き、生体機能の変化に着目して各種疾患等について教授する。本講義では、前半に神経系の重症病態、後半に各種ショックについて取り上げる。重症病態および各種ショックでは、関連臓器の構造と機能、観察と診断法、症状の特徴、応急処置および搬送法について教授する。

#### 救急救命学総論 II (病院前医療)

救急医療においては、医療機関での受診を待たず、少しでも発症時にさかのぼって医療が開始されなければならない。また、救急現場での観察・応急処置と病院内での診断治療が、一貫して傷病者に提供される救急医療体制をつくる必要がある。このようなプレホスピタルケアの中心的な担い手である消防隊員としての救急救命士の役割と責務について教授する。さらに、病院前救護の質を管理する事後検証についても概説する。加えて、通常の救急医療体制での対応が困難となる災害発生時の、組織的な救命救急医療について理解を深める。

#### 臨床病態学

これまでに学んだ救急医学に関する知識をもとに、さらに発展的な救急疾患・外傷などにおける病態の理解を促進する。この講義では、学会などから発出されている関連した最新の診療ガイドラインや指針、論文類を取り上げ、教科書にない新たな救急に関する内容について学習す

救急救命士としての視野を広げ、実践力を養うため、救急救命機関としての消防機関や医療機関などで見学を中心とした実習を行う。救急救命に関わる各機関の組織や機能などさまざまな観点から理解を深め、救急救命活動を学ぶことで、より高度な実践力を身につける意識や態度を醸成する。

#### 救急疾病 II (神経系、消化系等)

中枢神経の感染症や疾患、末梢神経に関する疾患などを教授する。また、消化器系の疾患に係る症候、すなわち腹痛、吐血、血尿、嘔吐・下痢、歯痛などの観察と判断および処置の知識を教授する。さらに病因・病態生理、症状、悪化防止、生命の危険回避をするために必要な救急処置の知識・技能、観察の方法と意義(重傷度、全身・局所の観察、各種病状の観察)、検査などについて教授する。加えて、造血管、末梢血の解剖生理と血液疾患についても理解を深めるほか、感染症についても説明する。

#### 救急外傷医学 I (外傷総論、頭部・体幹外傷)

救急医療のうち、特に外傷救急医学について教授する。外傷とは機械的外力により身体が形態的、機能的に障害を被ることを言うが、損傷の種類や緊急度の評価により適切な処置を施す必要がある。そのために本講義では、外傷を引き起こす原因・メカニズム(受傷機転)を教授するとともに、複数以上の部位に一定以上の重症度を有する外傷(多発外傷)の特徴や病態・症状およびその観察や応急処置などについて理解を深める。

#### 救急処置各論 I (傷病者観察)

救急救命士として必要な傷病者観察について、観察の方法などを習得し、観察所見から考える病態、病状を理解することにより、救急現場での傷病判断の基礎を身につける。具体的には、外見や呼吸、循環、神経などの全身状態の観察、皮膚や頭部・顔面・頸部、胸部、腹部、四肢など局所の観察の方法に加え、パルスオキシメータや聴診器、血圧計などの資器材による観察の方法についても教授する。

#### 救急症候学 I (胸部疾患、腹部疾患等)

プレホスピタルの主体は観察・判断・処置で構成されているが、本講義では、胸部疾患に関して、様々な症候に関して教授する。特に傷病者観察、鑑別診断学の領域について教授し、この分野の実践能力向上のために、判断・処置の知識の整理を行い、理解を深める。胸部の疾患について、胸痛・動悸・不整脈などに係る症候と

う静脈路確保や気管挿管に関して、基本手技を身につける。さらに、4年生との合同実習により、身につけるべき技術水準を確認するとともに、「救急救命実習Ⅰ」に引き続き、介護老人保健施設でのコミュニケーション実習を実施する。

### 救急症候学Ⅱ (神経疾患、呼吸器疾患等)

「救急症候学Ⅰ」に引き続き、本講義では神経疾患・呼吸器疾患における様々な症候に関して教授する。特に傷病者観察、鑑別診断学の領域について教授し、この分野の実践能力向上のために、判断・処置の知識の整理を行い、理解を深める。神経疾患においては、意識障害・頭痛・痙攣・運動麻痺・めまいなどの症候を取り上げる。また、呼吸器疾患においては呼吸困難・咯血を取り上げる。

### 小児科学

小児は成人を単に小型化したものではない。その生理は成人と大きく異なっている。小児とは人の一生のなかで成長と発達を続けている時期にあるものを言う。小児は出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期に分類されているので、それぞれの疾病について概説する。

### 救急救命災害演習

頻発する日本や外国の自然災害や局地的災害を事例として、発災直後からの行動と避難所での活動を効果的・効率的に実践可能にするために災害対応における知識と共通の言語・概念の組織的な対応を演習や実習を取り入れて学ぶ。CSCA-TTTを理解し、説明・実践できるようにする。また、被災者の生命と健康の維持、災害発生直後からの被災地内での災害対応能力向上を体得させる。

### 救急救命実習Ⅲ

「救急救命実習Ⅰ・Ⅱ」で学修した一次救命処置・搬送法、救急資器材の取り扱いなどの実践と理論を統合し、各種プロトコールに則った救急救命処置要領、救急現場活動の活動要領、各部位別病態別症例での観察・処置等の対応を段階的シミュレーションにより実施し、総合的な実践力を身につける。前期は静脈路確保、薬剤投与、気道確保、気管挿管、CPA、病院内でのCPAなどへの対応、後期は胸痛、腰背部痛、呼吸困難、神経感覚系、頭蓋内病変、意識消失などの病態別対応について、実習を通して理解していく。

る。さらに、新たに出された消防庁や厚生労働省からの通達などについても学習を深める。

### 救急疾病Ⅲ(筋・骨格系、泌尿・生殖系等)

「救急疾病Ⅰ・Ⅱ」に引き続いて、筋・骨格系、泌尿・生殖系に加え、感覚器系、皮膚系等について教授する。これらの各系の主な救急疾患を取り上げて、その特徴と症候、応急処置などを学ぶ。具体的に、筋・骨格系では急性腰痛症、椎間板ヘルニア、横紋筋融解症などを、泌尿・生殖系では急性・慢性腎不全、尿路結石症、子宮筋腫、精索捻転症などを、感覚器系では急性緑内障発作、メニエール病、急性副鼻腔炎などを、皮膚系では壊死性筋膜炎、重症薬疹などを取り上げる。それらに加えて、高齢者に特有な疾患についても教授する。

### 精神医学

近年精神科医療と福祉は、新規抗精神病薬の開発、入院中心から地域生活への転換等により大きな転換点を迎えている。精神障害がメディアで報じられることも多く、障害に対するタブー視も減じているが、一方で差別・偏見が根強く社会に残されているのも現状である。本講義では、基本的な精神疾患の病理、診断、治療、リハビリテーションについて概説するとともに、専門職をめざす者として精神障害者を全人的に理解することに主眼をおく。特に精神科救急、災害現場で遭遇する疾患、病態について理解を深める。

### 救急救命同乗実習

近隣地域の消防署の協力の下、消防機関の救急活動に参加、救急自動車に同乗し、実習を行う。具体的には出勤、現場活動、搬送、医療機関引き継ぎまでの総合的な実習を行う。また、救急自動車内で各種救急事故における対応(活動)要領についての技術を体得させる。

### 救急救命実習Ⅳ

これまでの各実習を通して学修した救急救命活動実践を総括し、救急救命士としての自覚を確かなものとする。また、各種高度シミュレーターを用いて、さまざまな現場を想定した実践的な実習により、救急救命士としての総合的な観察・処置技術を習得するとともに、一連の救急救命活動を自律的に遂行できる総合的な実践力を養う。具体的には、心肺停止、神経系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿・生殖系、外傷、精神障害・中毒、環境障害、分娩・産婦人科系、内分泌・代謝系、意識消失といった症例

心肺停止との関係、その観察と判断および処置の知識を教授する。腹部疾患においては、腹痛、吐血・下血、腰痛・背部痛、体温上昇などの観察と判断および処置の知識を教授する。あわせて一般的な体温上昇の観察と判断や、在宅療法中の傷病者の処置に関する知識も教授する。

### 急性中毒・環境障害

急性中毒、および温度異常、圧力などによる損傷など環境により人体に影響を与える救急の病態について理解を深める。また、放射線についての基礎知識を概説するとともに、放射線事故による放射線被曝と障害について説明し、その対応について教授する。

### 産婦人科学

救急救命士に必要な臨床産科学および婦人科学を教授する。具体的には、妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児・新生児の正常な状態と病態を学ぶ。また、救急搬送時に必要となる病歴の聴取方法、観察項目・方法、対処方法について理解を深める。その上で、医療機関の選定や搬送時に注意すべき事項などについても教授する。

### 救急救命病院実習

救急救命士としての実践力を高めるためには、医療の現場を正しく理解し、実際の患者に接しながら、病状、病態等について医師やコ・メディカルスタッフから具体的指導を受け、観察・判断能力を高めることが必要である。このため、近隣地域の病院の協力を得て、病院での実習を行う。

対応のシミュレーション実習を実施し、さらに終盤には総合シミュレーションを実施する。

## 専門関連科目

### 救急救命海外実習

救急救命士としての視野を広げ、実践力を養うため、海外の消防（救急）の実際を視察するとともに、現地のパラメディックススクールでの講義履修などにより技術の習得を行う。日本の救急救命機関での事前学習を行い、海外の救急救命事情について日本との比較の観点から理解を深め、先進地の救急救命活動に学ぶことで、より高度な実践力を身につける。

### 危機管理論

頻発する日本や外国の自然災害を事例として、予想外の様々な要因による危機への組織的な対応を学ぶ。危機管理のプロセスと体制を、災害対策基本法を例に学習し、自然災害への対応を基礎としながら、どのような要因による危機にも対応できる危機管理体制とは何かについて考える。

### 公安職研究

消防官・警察官・海上保安官・自衛官などの公安系の公務員に求められる専門知識の獲得と自らの職業観の育成・開発のために、各職種の仕事内容について講義や講演を通じて学ぶ。公務員の形態としての公安職の特徴と、公安職に求められる知識や能力について講義を通じて学ぶとともに、消防官・警察官・海上保安官・自衛官など具体的な職種の業務について、現役者等の講演などを通じて深く理解する。

### 救急救命英語

わが国を訪れる外国人が増加している。また、災害対応などにより海外へ派遣される機会も想定される。この授業では、災害・救急医療などで必要な英語の習得を目標にしつつ、まずは人体の構造・機能や疾患に関する平易な英語の文章を理解できるようにする。また、後半は英語による医学文献の読解力を養う。これにより、救急・災害現場で活用できる英語、および大学院進学をめざすための英語の基礎的力を養成する。

### 医療政策経済論

医療経済学の基本的な考え方を学習する。まず、社会における医療経済思想の展開に関して、健康の価値試算および公衆衛生と保健投資論、社会保障の制度設計から、福祉国家の成立と展開までを学習する。さらに医療経済学の基礎として、医療費とその増加要因や医療需要の分析、SID仮説、市場の失敗、マネジドケア、医療制度などを学習する。医療の経済評価の論点にも言及し、便益と効用の測定、経済効果と公平、健康格差の問題の学習および医療関連産業の経済分析を行う。

### 公共政策論

公共政策とは、一個人や一企業を越えた多くの人に関わる公共的問題の解決策のことを言う。本講義では、公共政策のなかでも、消防などに関する公共政策として、自然災害からの復興と政策形成はもちろん、公共政策と統計(証拠に基づく政策をめぐって)、社会保障と税の一体改革、少子高齢化対策、地方消滅と地方創生などについても学んでいく。

## 総合演習

### アカデミックスキルズⅠ

大学で学修するための基本的な態度(主体的な学習姿勢やマナーなど)と学習能力(読み方、書き方、文献の探し方、意見のまとめ方及び発表の仕方など)を身につける。それとともに、救急救命士として働くために必要となる社会に関する基礎的な知識、即ち、日本国憲法や戦後の政治の変遷など、現代社会に関する知識を演習形式で修得し、あわせて法律、政治、行政、国際関係などの重要な問題や時事問題について文献を読解したうえでレポートを作成する。これにより、論理的思考力を涵養する。

### アカデミックスキルズⅡ

救急救命士として活躍するために必要となる幅広い知識と深い教養を修得しながら、より高度なテーマについても論理的に考える能力、文章等で表現する力を修得するとともにプレゼンテーション能力も発展させる。この授業では、人権、経済、財政、社会、福祉、環境などに関する知識を修得するとともに、学習した内容から関心のあるテーマを選び、情報を収集し、意見をまとめて発表を行う。また、学習内容をレポートとしてまとめる。これにより、課題発見や課題研究に向けた準備の一環とする。

### 課題発見演習

「アカデミックスキルズⅠ・Ⅱ」で学んだ論理的思考力、文章作成能力、プレゼンテーション能力などをさらに発展させ、問題発見能力、課題解決能力を養成する。この演習は、グループ学習を中心に演習形式で進行する。各グループは、政治・行政、経済、社会、国際関係などの現代社会の問題について、情報を収集し、グループ討議を行い、まとめた内容についてプレゼンテーションを行う。また、学生一人ひとり、グループで取り上げた課題のうち1つについて、自らの考えや課題意識をまとめたレポートを作成する。

### 救急救命研究法

研究指導教員による少人数の演習形式により、救急救命学に関する研究能力を身につける。研究方法やデータ処理法などとともに、実際の論文の作成までのプロセスと方法について学習する。学生各々の興味や課題意識をもとに4年次の卒業研究に向けて、その足がかりとなる実施計画案を策定する。研究の目的と意義づけ、先行研究のレビュー、その課題を明らかにする方法(対象、手順、倫理的配慮)等、研究を進めるため研究計画を立案する。

### 課題研究

4年間の集大成として、学生自ら設定した課題についてレポートを作成するとともに、4年間の学修記録をまとめ提出する。前半は、救急医療や災害救助など学科の学びに即した内容で、グループ学習を進め、情報収集、グループ討議、プレゼンテーションを行う。後半は、担当教員の指導を受けつつ、学生一人ひとりが設定した救急救命や災害救助などに関するテーマについて、課題への解決策を提示するレポートをまとめる。課題レポートを完成させることを通じて、将来、救急救命士として、また一社会人として自ら主体的に考え、課題を解決するために行動する力を養う。

### 卒業研究

4年間の集大成として、担当教員の指導を受けながら、学生自らが設定したテーマに基づいて、卒業論文を完成させる。具体的には、1~3年次に講義や実習で習得してきた知識や技術、および「救急救命研究法」で策定した研究計画をもとに、データ・資料を収集・分析し、先行論文を渉猟して、論文を作成する。卒業論文を完成させることを通じて、将来、救急救命士として、また一社会人として自ら主体的に考え、課題を解決するために行動する力を養う。

### 救急救命総合演習

演習形式により、学内実習や臨地での実習において深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、救急救命学に関する知識・技術の定着を図ることを目的とする。これにより、国家試験レベルの基礎的知識を確実に身につける。また、臨地での実習を通じて身につけた知識・技術、その他のさまざまな現場の情報を学生同士が共有することにより、卒業後、救急救命士として働くための責任感や態度も合わせて育成する。

### キャリア開発演習

#### 救急救命キャリア開発演習 I

将来、救急救命士として働くために必要となる論理的思考力や数的思考力を高めるための演習に取り組み、あわせて、学生としての真摯な態度とより高い学習能力を身につける。数学的な思考に関する幅広い知識の修得をはかるとともに、新聞報道等で用いられる統計資料等を用いながら、数的な思考力を身につける。

#### 救急救命キャリア開発演習 II

将来、救急救命士として活動するために必要となる知識を増やし教養を高めながら、「救急救命キャリア開発演習 I」に続き、より専門的な内容についても知識を応用できる力を身につける。この授業では、数学に関するより高度な知識を演習形式で修得するとともに、社会で用いられる専門的な統計資料等を用いながら、数的な物の見方や論理的思考力、表現力を養う。

#### 救急救命キャリア開発演習 III

救急救命士の主たる活躍の場であり、就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に、一般教養から社会・人文科学および時事問題等までの理解をめざす。公務員試験でも頻出問題である政治、経済、現代文、判断空間、数的資料について、演習を繰り返す。

#### 救急救命キャリア開発演習 IV

「救急救命キャリア開発演習 V」と並行して開講し、救急救命士の主たる活躍の場であり、就職先である地方公務員の採用試験突破のための理解を深める。この授業では、数学および理科（生物、化学、物理、地学）の分野に関し、演習形式で知識の習得と定着をめざす。

#### 救急救命キャリア開発演習 V

救急救命士の資格を活かすためには、消防吏員など地方公務員になる必要がある。そこで、救急救命士及び公務員として、幅広い知識と深い教養、さらに専門的な知識を修得するために、演習形式で授業を行う。具体的には、憲法、人権、法律、政治、行政、国際関係、経済、社会、福祉、環境それに自然災害などに関する広範な内容を教授し、課題発見や課題研究、卒業研究に向けた基礎知識を確保する。

#### 救急救命キャリア開発演習 VI

3回生までに行ってきた救急救命士に関する公務員試験対策について、総仕上げとして、演習を繰り返し、知識の定着を図る。この授業では、特に受講生が苦手とする数的資料、判断空間に関する内容を重点的に取り上げる。

カリキュラムマップ

カリキュラム表 ▶

科目概要 ▶

健康科学部 ▶

- ▼ 1. 臨床検査学科教育理念
- ▼ 2. カリキュラムのねらい
- ▼ 3. カリキュラムの概要
- ▼ 4. 各回生の到達目標
- ▼ 5. 履修条件
- ▼ 6. 取得できる資格

## 1. 臨床検査学科教育理念

### (1) 教育研究上の目的

健康科学部は、心理、医療の各分野の専門的知識や技術を習得し、幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、新たな課題に対応できる問題解決能力を備えた人材を養成する。臨床検査学科は、科学への探究心を常に持ち、高度に進歩し続ける医療を支えることのできる臨床検査の専門的な知識と技術を身につけ、チーム医療に貢献する臨床検査技師を養成することを目的とする。

### (2) ディプロマポリシー（学位授与方針）

健康科学部臨床検査学科は、教育理念および学部・学科の教育研究上の目的に則り、次のような知識・能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(臨床検査学)の学位を授与する。

- ① 臨床検査技師に必要な専門的な知識および技術
- ② チーム医療に積極的に参画できる幅広い教養や倫理観、高いコミュニケーション能力
- ③ 医療の高度化に対応し、生涯にわたって探究心を持ち、自ら研鑽できる能力

### (3) カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）

学位授与に必要とされる能力（ディプロマポリシー）を修得するために、健康科学部臨床検査学科では、以下の方針で教育課程を編成する。

- ① 幅広く豊かな教養と視野を身につけるため、人文科学、社会科学、自然科学などの幅広い分野の科目を配置する。
- ② 身体だけでなく、心理面からも科学的にアプローチできる能力を身につけるため、学部共通科目として「医療と心理」領域を配置する。
- ③ 生涯にわたって探究心を持って学び続ける能力と姿勢を身につけるため、スタディスキル、アカデミックスキル、医療人として必要な能力、研究能力について、4年間を通じて段階的に養成する総合演習（ゼミ）を配置する。また、4年次配置の「臨床検査総合演習」において、臨地実習で深化・統合してきた知識・技術の定着を図る。
- ④ 臨床検査技師に必要な基本的な知識と技術を身につけるため、専門基礎分野として、人体の構造と機能、生化学、病理学および医学検査などに関する基礎科目を配置する。
- ⑤ 臨床検査技師に必要な専門的な知識と技術を身につけるため、専門分野として「形態検査学」「生物化学分析検査学」「病因・生体防御検査学」「生理機能検査学」などの科目群を配置する。

⑥ 卒業後にキャリアアップを図ることができるように、臨床検査技師関連の認定資格で求められる高度な専門領域について高度な専門知識に触れる領域別演習を4年次前期に配置する。

⑦ 臨床検査技師としての基本的な実践技術および施設における検査部門の運営などを学ぶため、3年次後期に「臨地実習」を配置する。

⑧ 細胞検査士資格認定試験受験資格を取得するため、講義と実習からなる「細胞検査士関連科目群」を配置する。

## 2. カリキュラムのねらい

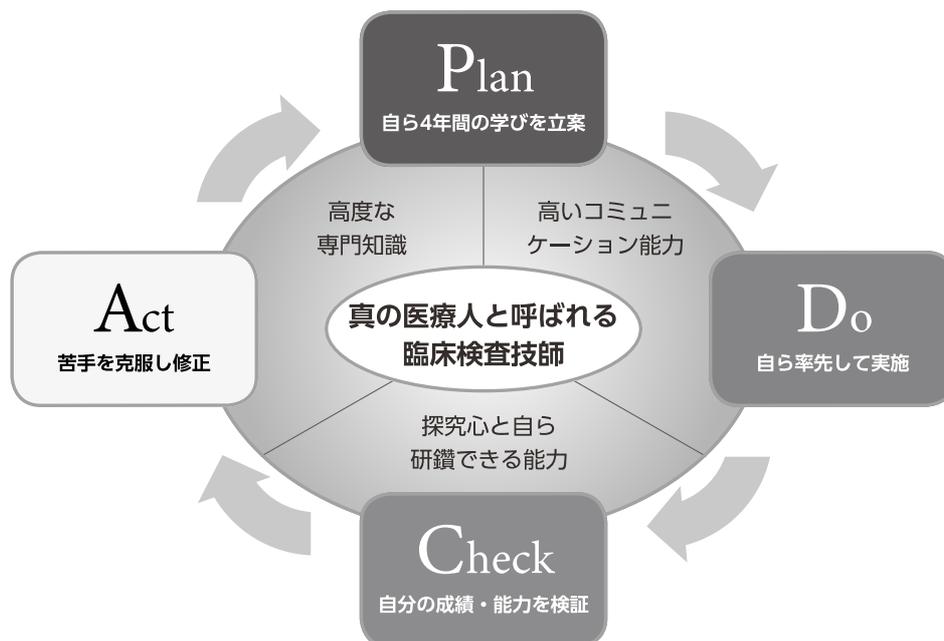
近年における医療の進歩は目覚ましく、臨床検査も同様に高度化して複雑化している。特に、自動化技術と測定法の開発により微量化・迅速化診断することは医療へ大きな貢献となり、科学への探究心と臨床検査の専門的な知識及び技術が高度医療に不可欠である。このような知識と技術の能力だけでなく、人間関係とコミュニケーション能力を身につけてチーム医療に参画することは今の臨床検査技師には重要な要素である。本学では、臨床検査としての専門的な知識や技術を身につけ、探究心やコミュニケーション能力を兼ね備えた人材を養成するカリキュラムを構築している。これらの能力と所定の単位を修得した者に学士（臨床検査学）の学位が授与される。

## 3. カリキュラムの概要

臨床検査を理解するための基礎医学から専門的な臨床検査の知識を学びます。また、講義受講後に対応した実習を1回生の基礎実習から2、3回生の専門実習まで受講することで、臨床検査における全ての技術を身につけます。

1回生では地域課題研究として京都の有名な臨床検査関連企業に行き、学ぶグループ演習、3回生後期には京都・滋賀・大阪北部を中心とした病院実習（7週間）へ行って医療現場での応用力や柔軟性を学びます。また、研究やゼミを通じて豊かな思考力や創造性、課題発見と課題解決能力を身につけたり、コミュニケーション能力を高めるカリキュラムになるように構成しています。

### 【臨床検査学科4年間のPDCAサイクル】



## 4. 各回生の到達目標

ディプロマ・ポリシー (DP)

- ① 臨床検査技師に必要な専門的な知識および技術を身につけている
- ② チーム医療に積極的に参画できる幅広い教養や倫理観、高いコミュニケーション能力を身につけている
- ③ 医療の高度化に対応し、生涯にわたって探究心を持ち、自ら研鑽できる能力を身につけている

## 1回生

- ① ・基礎医学の基本的な知識と技術を身につける  
・医療人として必要な資質を身につける

---

- ② ・幅広く豊かな教養と視野を身につける  
・心理面からも科学的にアプローチできる

---

- ③ ・探究心を持ち続ける能力と姿勢を身につける  
・スタディスキルを身につける

## 2回生

- ① ・臨床検査技師に必要な専門的な知識と技術を身につける  
・医療人として必要な能力を身につける

---

- ② ・様々なコミュニケーション能力を身につける  
・人への思いやり、人の悩みに共感できる

---

- ③ ・疑問や課題解決の能力を身につける  
・アカデミックスキルを身につける

## 3回生

- ① ・臨床検査技師に必要な専門的な技術を応用できる  
・臨地実習による実務とプロ意識を理解する

---

- ② ・臨地実習により他者理解と協調性を知る  
・医療従事者として責任ある態度で接することができる

---

- ③ ・研究・医療の倫理等の基本理念を理解する  
・社会・医学の進歩に貢献できる資質と能力を身につける

## 4回生

- ① ・キャリアアップのために高度な専門知識を身につける  
・これまで学んできた臨床検査の総合的理解ができる

---

- ② ・他職種の理解と協調性・連携を意識して行動できる  
・自身が目指す臨床検査技師像を明確にできる

---

- ③ ・細胞検査士資格の知識と技術を身につける  
・臨床検査研究を行う上で必要な能力を身につける

## ディプロマ・ポリシー (DP)

### 5. 履修条件

本学では、系統的で継続性のある効果的な学修を実現することを目的として、一部の科目に履修条件（履修制限）を設定しています。

科目名	履修条件
卒業研究 A・B 臨床検査総合演習 A・B	「臨地実習」を修得していること
臨地実習	3回生後期までの専門基礎分野必修科目と専門分野必修科目を全て修得見込み <sup>※</sup> であること

細胞検査士コース	細胞検査士基礎科目を全て修得していること
----------	----------------------

※「修得見込み」とは、試験等の結果により、当該科目の単位を認められることが確実であることを指す。

## 6. 取得できる資格

臨床検査技師国家試験受験資格

細胞検査士資格認定試験 受験資格	▶
---------------------	---

## カリキュラムマップ

臨床検査学科 ▶	カリキュラム表 ▶	科目概要 ▶
健康科学部 ▶		

▼ 1. 基礎分野    ▼ 2. 専門基礎分野    ▼ 3. 専門分野

### 全学共通の到達目標

- ① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得
- ② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの獲得
- ③ 市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の獲得
- ④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の獲得
- ⑤ 自分自身や社会が直面するさまざまな問題を理解し解決する能力の獲得
- ⑥ 物事を論理的に分析する能力の獲得
- ⑦ 読む力や書く力、話す力や聞く力の獲得

### 学科・コース別の ディプロマ・ポリシー

- ① 臨床検査技師に必要な専門的な知識および技術を身につける
- ② チーム医療に積極的に参画できる幅広い教養や倫理観、高いコミュニケーション能力を身につける
- ③ 医療の高度化に対し、生涯にわたって研究心を持ち、自ら研鑽できる能力を身につける

### 「科目ナンバリング」制度

本学では、皆さんの体系的な学修を支援するために「科目ナンバリング」制度を導入しています。

各科目に設定された「科目ナンバー」のアルファベットと数字によって、体系的に学修するための情報を得ることができます。ぜひ皆さんの計画的な履修に役立ててください。

### 科目ナンバーの見方

〈例〉 **MT** - **1** **1** **1**  
1 2 3 4

1 学科	MT : 臨床検査学科
2 回生	1 : 1回生    2 : 2回生    3 : 3回生    4 : 4回生
3 教育目標	学科のディプロマポリシー①～⑤
4 履修順序	同系科目中の履修順序

## 1. 基礎分野

### (1) 必修科目15単位、選択必修科目13単位以上の計28単位以上を修得

#### 基礎科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	教養入門	2	必修	講義	1回生	①②③④⑤⑥⑦
MT-131	地域課題研究	1	必修	演習	1回生	①②③④⑤⑥⑦
MT-121	英語 I A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-121	英語 I B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-122	英語 II A	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-122	英語 II B	1	必修	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-221	英語 III A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
MT-221	英語 III B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦

MT-222	英語 IV A	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
MT-222	英語 IV B	1	選択	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
MT-121	アカデミックライティング	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
MT-122	教養ゼミ	2	選択	演習	1回生	①②④⑥⑦
MT-121	情報処理演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥
MT-122	情報処理演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥

## 人間と知の伝達

### [ 現代の思想 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	哲学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
MT-121	倫理学概論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤⑥
MT-121	ジェンダー研究	2	選択	講義	1回生	①②③④⑦
MT-221	心理学概論	2	選択	講義	2回生	①②③⑤
MT-221	宗教学概論	2	選択	講義	2回生	①②③④⑤

### [ メディアと情報 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	言語コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②⑦
MT-121	現代のメディアと表現	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
MT-221	情報処理演習 III	1	選択	演習	2回生	①②⑥
MT-222	情報処理演習 IV	1	選択	演習	2回生	①②⑥
MT-221	情報処理演習 V	1	選択	演習	2回生	①②⑥
MT-222	情報処理演習 VI	1	選択	演習	2回生	①②⑥
MT-121	数学演習 I	2	選択	演習	1回生	①②⑥
MT-122	数学演習 II	2	選択	演習	1回生	①②⑥

## 人間と文化

### [ 外国語と文化理解 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	比較文化論	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
MT-121	芸術と文化	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
MT-121	異文化コミュニケーション論	2	選択	講義	1回生	①②④
MT-121	文化人類学	2	選択	講義	1回生	①②④⑤⑥
MT-121	中国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-122	中国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-123	中国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-124	中国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-121	韓国語 I	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-122	韓国語 II	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-123	韓国語 III	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦
MT-124	韓国語 IV	2	選択	演習	1回生	①②④⑤⑥⑦

### [ 歴史・文化 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	歴史学入門	2	選択	講義	1回生	①②⑥
MT-121	京都の歴史・文化 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
MT-121	京都講座 I	2	選択	講義	1回生	①②③
MT-121	京都講座 II	2	選択	講義	1回生	①②③

## 人間と社会

### [ 法律・行政・政治 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	日本国憲法	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
MT-121	法学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
MT-121	法学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
MT-221	民法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
MT-221	行政法	2	選択	講義	2回生	①②③⑥
MT-121	政治学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④

MT-121	政治学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④
MT-221	行政学	2	選択	講義	2回生	①②⑥

### [ 経済・経営・社会 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	経営学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
MT-121	会計学概論	2	選択	講義	1回生	①②④⑥
MT-121	社会学概論 I	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤
MT-121	社会学概論 II	2	選択	講義	1回生	①②③④⑥
MT-221	経済学概論 I	2	選択	講義	2回生	①②④
MT-221	経済学概論 II	2	選択	講義	2回生	①②④

### 人間と自然

#### [ 健康・こころ・からだ ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	健康に生きる I	2	選択	講義	1回生	①②④⑤
MT-121	健康に生きる II	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥
MT-121	健康に生きる III	2	選択	講義	1回生	①②⑤⑥⑦
MT-121	スポーツコース I	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
MT-121	スポーツコース II	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
MT-121	スポーツコース III	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦
MT-121	スポーツコース IV	1	選択	実験・実習	1回生	①②③⑤⑦

#### [ 自然と環境 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	物理学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
MT-121	化学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
MT-121	生物学基礎	2	選択	講義	1回生	①②⑥
MT-121	地球生命論	2	選択	講義	1回生	①②③⑥
MT-121	地球環境論	2	選択	講義	1回生	①②③④⑤

### 医療と心理

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-121	こころとからだの健康科学 I	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
MT-121	こころとからだの健康科学 II	2	選択	講義	1回生	①②③⑤
MT-331	医療英語	2	選択	講義	3回生	①②④⑤⑥⑦
MT-111	医学概論	2	選択	講義	1回生	①②④
MT-131	統計学基礎論	2	選択	講義	1回生	⑤⑥⑦
MT-111	医療と生命の倫理	2	必修	講義	1回生	①②④
MT-221	臨床心理学	2	選択	講義	2回生	①②④
MT-221	よそおいの心理学	2	選択	講義	2回生	①②④
MT-321	健康心理学	2	選択	講義	3回生	①②④

### キャリア科目

科目NO	授業科目の名称	単位数	選必の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標
MT-111	キャリア開発演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦
MT-112	キャリア開発演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑤⑥⑦
MT-211	キャリア開発演習 III	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦
MT-212	キャリア開発演習 IV	1	必修	演習	2回生	①②④⑤⑥⑦

## 2. 専門基礎分野

(1) 【専門基礎分野】から必修科目24単位、選択必修科目2単位以上の計26単位以上を取得

### 人体の構造と機能

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-111	人体の構造演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥	①②
MT-112	人体の構造演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥	①②
MT-211	人体の構造実習	1	必修	実験・実習	2回生	②③⑥⑦	①
MT-111	人体の機能演習 I	1	必修	演習	1回生	①②⑥	①②
MT-112	人体の機能演習 II	1	必修	演習	1回生	①②⑥	①②
MT-111	生化学 I	2	必修	講義	1回生	①②③	①
MT-112	生化学 II	2	必修	講義	1回生	①②③	①
MT-211	生化学実習	1	必修	実験・実習	2回生	②③⑥⑦	①
MT-211	病理学	2	必修	講義	2回生	①②③	①②
MT-211	栄養学	2	選択	講義	2回生	①②③	①②
MT-211	薬理学	2	選択	講義	2回生	①②③	①②

#### 医学検査の基礎とその疾病との関連

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-111	臨床検査学 I	2	必修	講義	1回生	①②③	①②
MT-112	臨床検査学 II	2	必修	講義	1回生	①②③	①②
MT-211	臨床検査学基礎実習	1	必修	実験・実習	1回生	②③⑥⑦	①

#### 保健医療福祉と医学検査

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-111	医療概論	2	必修	講義	1回生	①②③	①②
MT-211	公衆衛生学	2	必修	講義	2回生	①②③	①②

#### 医療工学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-311	医用工学概論	2	必修	講義	3回生	①②③	①②
MT-312	医用工学実習	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①

### 3. 専門分野

(1)【専門分野】から必修科目64単位、選択必修科目6単位（「総合演習」のA科目またはB科目のいずれかを選択）、計70単位以上を修得すること。

#### 臨床病態学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-311	臨床病態学 I	2	必修	講義	3回生	①②③	①②
MT-312	臨床病態学 II	2	必修	講義	3回生	①②③	①②

#### 形態検査学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-211	病理検査学	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	病理検査学実習	1	必修	実験・実習	2回生	②③⑥⑦	①③
MT-211	血液検査学 I	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	血液検査学 II	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-311	血液検査学実習	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-211	一般検査学（実習を含む）	2	必修	講義	2回生	②③⑥⑦	①③
MT-431	形態検査学演習	1	自由	演習	4回生	②⑥⑦	①③

#### 生物化学分析検査学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-211	臨床化学検査学 I	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	臨床化学検査学 II	2	必修	講義	2回生	①②③	①③

MT-311	臨床化学検査学実習 I	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-312	臨床化学検査学実習 II	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-211	遺伝子検査学	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-312	遺伝子検査学実習	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-311	放射性同位元素検査学	2	必修	講義	3回生	①②③	①③
MT-431	生物化学分析検査学演習	1	自由	演習	4回生	②⑥⑦	①③

#### 病因・生体防御検査学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-111	微生物検査学 I	2	必修	講義	1回生	①②③	①③
MT-211	微生物検査学 II	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	微生物検査学実習	1	必修	実験・実習	2回生	②③⑥⑦	①③
MT-311	医動物学	1	必修	講義	3回生	①②③	①③
MT-111	免疫検査学 I	2	必修	講義	1回生	①②③	①③
MT-211	免疫検査学 II	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	免疫検査学実習	1	必修	実験・実習	2回生	②③⑥⑦	①③
MT-311	輸血・移植検査学	2	必修	講義	3回生	①②③	①③
MT-312	輸血・移植検査学実習	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-431	病因・生体防御検査学演習	1	自由	演習	4回生	②⑥⑦	①③

#### 生理機能検査学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-211	生理機能検査学 I	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-212	生理機能検査学 II	2	必修	講義	2回生	①②③	①③
MT-311	生理機能検査学 III	2	必修	講義	3回生	①②③	①③
MT-311	生理機能検査学実習 I	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-312	生理機能検査学実習 II	1	必修	実験・実習	3回生	②③⑥⑦	①③
MT-311	画像検査学演習	1	必修	演習	3回生	②③⑥	①③
MT-431	生理機能検査学演習	1	自由	演習	4回生	②⑥⑦	①③

#### 検査総合管理学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-211	医療情報システム学	2	必修	講義	2回生	①②③	①
MT-311	検査総合管理学	2	必修	講義	3回生	①②③	①
MT-311	関係法規	1	必修	講義	3回生	①②③	①
MT-311	救急検査学	2	必修	講義	3回生	①②③	①②

#### 医療安全管理学

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-311	医療安全管理学	1	必修	講義	3回生	①②③	①②

#### 細胞検査士関連科目群

##### [ 細胞検査士基礎科目 ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-131	臨床細胞学総論 I	1	自由	講義	1回生	①②⑥	①③
MT-231	臨床細胞学総論 II	1	自由	講義	2回生	①②⑥	①③
MT-232	臨床細胞学総論 III	1	自由	講義	2回生	①②⑥	①③
MT-331	臨床細胞学演習 I	1	自由	実験・実習	3回生	②⑥⑦	①③
MT-332	臨床細胞学演習 II	1	自由	実験・実習	3回生	②⑥⑦	①③

##### [ 細胞検査士コース ]

科目NO	授業科目の名称	単位数	選定の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-431	細胞診断学総論	3	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③
MT-431	細胞診断学各論 I ( 婦人科系 )	5	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③
MT-431	細胞診断学各論 II ( 呼吸器系 )	5	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③
MT-431	細胞診断学各論 III ( 消化器系 )	4	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③
MT-431	細胞診断学各論 IV ( 泌尿器系・体腔液 )	5	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③

MT-431	細胞診断学各論 V (乳腺・甲状腺)	4	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③
MT-431	細胞診断学各論 VI (リンパ節・骨・軟部・造血器等)	4	自由	講義	4回生	②⑥⑦	①③

総合演習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-331	研究基礎演習	1	必修	演習	3回生	②⑤⑥⑦	①③
MT-431	卒業研究 A	4	選択	演習	4回生	②⑤⑥⑦	③
MT-431	卒業研究 B	4	選択	演習	4回生	②⑤⑥⑦	③
MT-431	臨床検査総合演習 A	2	選択	演習	4回生	②③⑥	①③
MT-431	臨床検査総合演習 B	2	選択	演習	4回生	②③⑥	①③

臨地実習

科目NO	授業科目の名称	単位数	選別の別	授業形態	配当回生	全学共通の到達目標	学科・コース別のディプロマ・ポリシー
MT-321	臨地実習	7	必修	実験・実習	3回生	④⑤⑥⑦	②

【第9章 2021年度生用 教育課程（学部別）】

健康科学部 臨床検査学科

カリキュラム表

臨床検査学科 ▶	カリキュラムマップ ▶	科目概要 ▶
健康科学部 ▶		

<b>基礎分野</b> <b>28単位</b> 必修15単位+ 選択必修13単位	<b>専門基礎分野</b> <b>26単位</b> 必修24単位+ 選択必修2単位	<b>専門分野</b> <b>70単位</b> 必修64単位+ 選択必修6単位	卒業要件 <b>124</b> 単位
---	--	--	--------------------------

基礎分野 必修科目

15単位

基礎科目

	単位	回生
教養入門	2	1～
英語 I A	1	1～
英語 I B	1	1～
英語 II A	1	1～
英語 II B	1	1～
地域課題研究	1	1～

	単位	回生
キャリア開発演習 I	1	1～
キャリア開発演習 II	1	1～
キャリア開発演習 III	1	2～
キャリア開発演習 IV	1	2～
情報処理演習 I	1	1～
情報処理演習 II	1	1～

医療と心理

	単位	回生
医療と生命の倫理	2	1～

基礎分野 選択必修科目

13単位

※の各領域からは各2単位以上の修得必須

基礎科目

	単位	回生
英語 III A	1	2～
英語 III B	1	2～
英語 IV A	1	2～
英語 IV B	1	2～
アカデミックライティング	2	1～
教養ゼミ	2	1～

医療と心理

	単位	回生
こころとからだの健康科学 I	2	1～
こころとからだの健康科学 II	2	1～
医学概論	2	1～
統計学基礎論	2	1～
よそおいの心理学	2	2～
臨床心理学	2	2～
健康心理学	2	3～
医療英語	2	3～

領域 人間と知の伝達※

【分野】現代の思想

	単位	回生
哲学概論	2	1～
倫理学概論	2	1～
ジェンダー研究	2	1～

領域 人間と文化※

【分野】外国語と文化理解

	単位	回生
比較文化論	2	1～
芸術と文化	2	1～
異文化コミュニケーション論	2	1～

領域 人間と社会※

【分野】法律・行政・政治

	単位	回生
日本国憲法	2	1～
法学概論 I	2	1～
法学概論 II	2	1～

領域 人間と自然※

【分野】健康・こころ・からだ

	単位	回生
健康に生きる I	2	1～
健康に生きる II	2	1～
健康に生きる III	2	1～

心理学概論	2	2～
宗教学概論	2	2～

【分野】メディアと情報

	単位	回生
言語コミュニケーション論	2	1～
現代のメディアと表現	2	1～
情報処理演習 III	1	2～
情報処理演習 IV	1	2～
情報処理演習 V	1	2～
情報処理演習 VI	1	2～
数学演習 I	2	1～
数学演習 II	2	1～

文化人類学	2	1～
中国語 I	2	1～
中国語 II	2	1～
中国語 III	2	1～
中国語 IV	2	1～
韓国語 I	2	1～
韓国語 II	2	1～
韓国語 III	2	1～
韓国語 IV	2	1～

【分野】歴史・文化

	単位	回生
歴史学入門	2	1～
京都の歴史・文化 I	2	1～
京都講座 I	2	1～
京都講座 II	2	1～

民法	2	2～
行政法	2	2～
政治学概論 I	2	1～
政治学概論 II	2	1～
行政学	2	2～

【分野】経済・経営・社会

	単位	回生
経営学概論	2	1～
会計学概論	2	1～
社会学概論 I	2	1～
社会学概論 II	2	1～
経済学概論 I	2	2～
経済学概論 II	2	2～

スポーツコース I	1	1～
スポーツコース II	1	1～
スポーツコース III	1	1～
スポーツコース IV	1	1～

【分野】自然と環境

	単位	回生
物理学基礎	2	1～
化学基礎	2	1～
生物学基礎	2	1～
地球生命論	2	1～
地球環境論	2	1～

専門基礎分野 必修科目

24単位

専門分野 必修科目

64単位

1回生

	単位	開講期
人体の構造演習 I	1	前
人体の構造演習 II	1	後
人体の機能演習 I	1	前
人体の機能演習 II	1	後
生化学 I	2	前
生化学 II	2	後
臨床検査学 I	2	前
臨床検査学 II	2	後
臨床検査学基礎実習	1	前
医療概論	2	前
微生物検査学 I	2	後
免疫検査学 I	2	後

2回生

	単位	開講期
人体の構造実習	1	前
生化学実習	1	前
病理学	2	前
公衆衛生学	2	後
病理検査学	2	前
病理検査学実習	1	後
血液検査学 I	2	前
血液検査学 II	2	後
一般検査学（実習を含む）	2	前
臨床化学検査学 I	2	前
臨床化学検査学 II	2	後
遺伝子検査学	2	後
微生物検査学 II	2	前
微生物検査学実習	1	後
免疫検査学 II	2	前
免疫検査学実習	1	後
生理機能検査学 I	2	前
生理機能検査学 II	2	後
医療情報システム学	2	後

3回生

	単位	開講期
医用工学概論	2	前
医用工学実習	1	後
臨床病態学 I	2	前
臨床病態学 II	2	後
血液検査学実習	1	前
臨床化学検査学実習 I	1	前
臨床化学検査学実習 II	1	後
遺伝子検査学実習	1	後
放射性同位元素検査学	2	前
医動物学	1	前
輸血・移植検査学	2	前
輸血・移植検査学実習	1	前
生理機能検査学 III	2	前
生理機能検査学実習 I	1	前
生理機能検査学実習 II	1	後
画像検査学演習	1	後
検査総合管理学	2	前
関係法規	1	前
救急検査学	2	前
医療安全管理学	1	前
臨地実習	7	後
研究基礎演習	1	通

専門基礎分野 選択必修科目

下記科目から2単位

2回生

	単位	開講期
栄養学	2	前
薬理学	2	後

専門分野 選択必修科目

下記科目から6単位

4回生

	単位	開講期
卒業研究 A	4	通
卒業研究 B	4	通
臨床検査総合演習 A	2	後
臨床検査総合演習 B	2	後

領域別演習科目（自由科目）

	単位	回生	開講期
形態検査学演習	1	4	前
病因・生体防御検査学演習	1	4	前

	単位	回生	開講期
生物化学分析検査学演習	1	4	前
生理機能検査学演習	1	4	前

## 細胞検査士関連科目群（自由科目）

### 細胞検査士基礎科目

	単位	回生	開講期
臨床細胞学総論 I	1	1	後
臨床細胞学総論 II	1	2	前
臨床細胞学総論 III	1	2	後
臨床細胞学演習 I	1	3	前
臨床細胞学演習 II	1	3	後

### 細胞検査士コース

	単位	回生	開講期
細胞診断学総論	3	4	前
細胞診断学各論 I（婦人科系）	5	4	前
細胞診断学各論 II（呼吸器系）	5	4	前
細胞診断学各論 III（消化器系）	4	4	前
細胞診断学各論 IV（泌尿器系・体腔液）	5	4	後
細胞診断学各論 V（乳腺・甲状腺）	4	4	後
細胞診断学各論 VI（リンパ節・骨・軟部・造血器等）	4	4	後

## 科目概要

臨床検査学科 ▶

カリキュラムマップ

カリキュラム表 ▶

健康科学部 ▶

▼ 基礎分野 ▼ 専門基礎分野 ▼ 専門分野

### 基礎分野

#### 基礎科目

##### 教養入門

初めて大学での教養教育を学ぶ学生を対象として、教養とは何か、教養教育の意義、本学における教養教育の特徴などを講じ、受講生の動機付けとマッピングを行う。

##### 地域課題研究

京都には臨床検査関連の試薬や分析装置を製造する会社、臨地実習では学べない特殊検査等を扱う検査センターのラボ等が多く存在する。臨床検査の仕事場は病院だけでなく、こうした企業もその一つである。この授業では京都市とその周辺にある企業を見学し、各企業の特徴や臨床検査との関係について学ぶ。特に、患者や病気が見えない検体検査における検査技師の使命感および医療の担い手として何が必要かを学び、地域に密着した課題、課題を解決するための方法と計画、課題解決の限界について考える。見学後には、学生が3グループに分かれて意見をまとめ発表することで、学びを共有するとともに、学外授業を通じて学生と教員とが接点を持つ機会とする。

##### 英語 I A

基本的な英文の読解・表現の演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリーディングとライティングの技能を発展させていく。

##### 英語 I B

平易な英語のリスニング・スピーキング・プレゼンテーションの演習を通して、英語理解のための基礎的な知識（基本文型的分析や文法的知識・基本単語・成句など）を整理し、英語の表現方法と日本語の表現方法の違いを考えた上で、実用的に使える英語力を身につけ、英語運用能力のうち、特にリスニングとスピーキングの技能を発展させていく。

##### 英語 II A

スキミング、スキヤニング、主題の把握、推論など、効果的に英文を読むために欠かせないリーディングスキルの修得をめざす。また、必要なリーディングスキルを用いて、さまざまなトピックについての読み物を読み、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見を表現できるライティング能力を向上させることをめざす。

##### 英語 II B

効果的に英語を聞きとるために欠かせないさまざまなリスニングスキルの修得をめざす。それらのリスニングスキルを用いて、さまざまなジャンルのリスニング教材を聴き、演習問題などを通して、それらトピックに対する自分の意見をプレゼンテーションできる能力を向上させることをめざす。

##### 英語 III A

TOEICに出題される英文を題材にして、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの問題を中心とした演習を進めながら英語運用能力を身につける。特に、リーディング面の英語運用能力の向上をめざして、語彙力の強化にも重点を置いた授業を展開する。

##### 英語 III B

TOEICに出題される英文を題材にして、通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行い、TOEICの出題形式の演習問題を行いながら英語運用能力を身につける。特に、リスニング面に重点を置いて、さまざまなジャンルの英語の聞き取り能力の向上をめざす。

##### 英語 IV A

日常的な話題について質問・応答ができる表現力、基本的な文法・語彙を使って文章が書ける作文力の修得のため、TOEICに出題される英文を題材にして、音読・通訳・リピーティング・ディクテーションなどのさまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。

### 英語 IV B

さまざまなトピックについて英語でプレゼンテーションができる表現力の修得のため、さまざまなトレーニング形式のアクティビティを行っていく。さらに、プレゼンテーションに対して、適切なコメントや質問をする能力も身につけようとする。

### アカデミックライティング

大学での学修活動に必要なアカデミック・スキルとしての読解力や文書作成能力などの日本語運用能力の獲得をめざす。原稿用紙の使い方など大学生活で役立つ実用的な「書く」能力を身につけさせることから始め、高度な文章を読む力を養成しながら、添削指導により、論理的な論説文を書くための文章構成や推敲の能力を高める。

### 教養ゼミ

教養とは何か、大学で教養を学ぶ意義はどこにあるのかを考えさせる。まずは、「話す」ことを中心にコミュニケーションの基礎を学び、幅広い分野から選定したテキストを使用して、ゼミ形式で検討していく。

### 情報処理演習 I

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

### 情報処理演習 II

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められる。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。具体的には、一連の情報プロセス（収集、分析、整理・保管、表現、運用）の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。

## 人間と知の伝達

### 【現代の思想】

#### 哲学概論

市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性の養成、異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成を目的とする。哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私たちにとってどんな意味をもつのかについて、さまざまな哲学者の著作を通して考える。

#### 倫理学概論

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解し、倫理的な考え方を身につけることを目標とする。社会正義を考えるをテーマとして学びを進め、近代以降の倫理学の学説を中心に、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考えるうえで倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

#### ジェンダー研究

ジェンダーは人種・民族・階級とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点をを用いて今日的な課題を考える。この講義により、ジェンダーに関する基本的な概念を理解するとともに、ジェンダーの視点をを用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目標とする。

#### 心理学概論

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、対人関係や社会生活について考えるうえでも「こころ」を抜きにすることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心を持つ人は多いが、誤解されることが表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの科目では、自然科学の一種としての心理学の全体像を概観する。そのことで、受講者の持っていた興味や関心が正確な知識とつながり、さらに自らで考えることができるようになるための基礎づくりを目標とする。授業では、生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基礎的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

#### 宗教学概論

宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるといって問題を考えているのか、を通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成する。具体的には、客観的で科学的な立場から、宗教の歴史を概観し、有神論と無神論、創唱宗教と自然宗教といった分類のしかたなどを考察する。

### 【メディアと情報】

#### 言語コミュニケーション論

日常あらゆる人が行うコミュニケーションにおいて、言語がどのような役割を担っているのか

#### 現代のメディアと表現

今日、日本のメディア・コンテンツは世界的な文化として高く評価されつつある。その理由は

#### 情報処理演習 III

企業の実務において、PCを使用したデータの集計処理能力、業務データのグラフ分析やデー

を知る。言語を客観的に捉える姿勢を身につける。言語学の諸分野について講義を行い、そのなかでコミュニケーション上の言語の役割について説明していく。

いくつかあるが、もっとも重要なのは、単なるサブ・カルチャーの域を出て、現代文明に対する警鐘を鳴らすような、知的水準の高い創作活動を実現していることがあげられる。その意味では、かつての純文学とよく似た役割を、日本の映像メディアは今や担っている。こうした観点に立って、日本の映像文化について考える。

データベース分析能力、またネットワークの利活用による情報収集や情報発信の実務能力を養成するため、表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の修得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。

#### 情報処理演習 IV

企業の実務において、PCを使用したビジネス文書作成能力やネットワークの利活用による事務能力や情報収集、発信能力が大変重要な能力として求められており、この授業では、現在、ワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書や業務目的に応じた適切な資料作成の修得を図り、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。

#### 情報処理演習 V

ホームページにおける動的なデータ処理やアニメーション表現などにJavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラムが使われている。これらによるプログラミングは、現在のWeb技術には欠くことのできない技術になっており、WebデザイナーやWebプログラマーの基礎技術にもなっている。授業では、画像や図形のアニメーションを使うプログラミングの初歩と基本的な処理パターンを修得する。また、それを通してプログラミングによるアニメーション表現の可能性を考える。

#### 情報処理演習 VI

授業では、まずPowerPointを活用したプレゼンテーション資料の作成技術を習得する。また、コンピュータ上での静止画像のマルチメディア表現の技術として、フォトタッチ（画像の編集・合成）、アニメーション動画素材の作成技術としてFlashアニメーション、三次元マルチメディア素材の作成技術として3Dグラフィックス作成の基礎技術を修得する。また、それを通して、FlashアニメーションやFlashロゴデザインによる表現の可能性を考える。

#### 数学演習 I

将来の仕事で必要とされる数学について基礎を学ぶ。数と計算・図形の初歩から学び、さまざまな応用問題が解けるようにする。ピタゴラスの定理と無理数、1次・連立・2次方程式、因数分解、1次・2次関数とグラフなどを主なテーマとする。

#### 数学演習 II

数学的思考、数理的思考を身につける。1次関数、2次関数、関数とグラフ、図形と方程式、図形の性質・面積（ヘロンの公式）などをテーマとして、日常生活との接点を探りつつ、基本的な概念、典型的な問題の解法、実生活への応用を教授する。

### 人間と文化

#### 【外国語と文化理解】

#### 比較文化論

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発している。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになったら——これがこの科目の最大の目標である。世界で起こっているさまざまな問題の背景にある文化、価値観、思考様式を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考えることを通して、さまざまな文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを理解する。

#### 芸術と文化

芸術と文化の関わりなどについて、芸術の歴史や哲学、美術、音楽など総合芸術をテーマとして学ぶ。また、美術や音楽、映像などの芸術を鑑賞し、現在さまざまな試みられている芸術表現などを取り上げ、芸術による文化発展の可能性や問題について考察する。

#### 異文化コミュニケーション論（人文）

本科目は、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。年表や各種の歴史的な史料、新聞記事や写真、画像などを紹介しながら進める。

#### 文化人類学

我々人類は、多様な生活習慣をもち、さまざまな文化を形成している。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに表れる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。本科目では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について解説し、さらに具体的な研究事例も取り上げる。

#### 中国語 I

中国語の発音と文法の基礎を身につけるため、数字、人称代名詞、名詞、動詞の文、疑問文、疑問詞、形容詞の文、助数詞、時間、年月日、時刻、前置詞の表現などの各種の練習をする。

#### 中国語 II

中国語のさまざまな基本短文を作ることができるように、変化、完了、進行、持続、経験を表す表現、助動詞、補語、比較形、受身と使役などの表現方法を学ぶ。

#### 中国語 III

中国語の長い文章に慣れることを目的として、文章を読み進める練習と、一字一句の意味をきちんと確認する方法を併用しながら、易しい文

#### 中国語 IV

基礎的な文法を踏まえて、聞き取りの練習、自由表現の練習、対話の練習などを繰り返しながら、中国語でのコミュニケーションができるこ

#### 韓国語 I

初めて韓国語を学ぶ人のために、文字の仕組みから親しんで、発音法則を理解するほか、挨拶や正確な文章の読みなどを徹底的に学習する。

章を大量に読むことによって、まず中国語に慣れることをめざす。文章の内容は、日本や中国の観光地、歴史的事件、食べ物、祝日などを題材にする。

#### 韓国語 II

韓国の文字と発音をマスターした人が、次に進む段階として、ここでは文法+会話+講読に重点を置き、基礎文法と基礎会話を固めると同時に、簡単な読み書きができるように学習する。また、韓国の文化に関わるものを講読のテキストとし、韓国の文化に親しむ。

とめざす。毎回の授業で、中国の文化、習慣、生活、最新ニュースを紹介する。

#### 韓国語 III

会話+講読+聴解力+作文に重点を置く。韓国語 I・II で学んだ力を生かして、表現力を増やし、より自然な会話の習得をめざす。聴解力のアップとあわせて、場面ごとに正確な会話ができるように進め、また日常よく使う表現を作文できるように学習する。

なお、韓国文化を理解してもらうために、韓国人の生き方・歴史・社会・文化、特に食文化などにも触れる。

#### 韓国語 IV

韓国語だけで授業を行い、自由会話を中心に聴解力をつけ、韓国の中学生以上の会話運用能力をつけるために学習する。この授業では、自由会話+スピーチができることを目的とし、学生たちによるスピーチと韓国映画鑑賞によってその力を身につける。

### 【歴史・文化】

#### 歴史学入門

歴史学の考え方を理解する。前半は、日本史分野の教員が、後半は世界史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介する。

#### 京都の歴史・文化 I

京都の複合する遺跡から京都の歴史と文化を探る。考古資料をもとに京都の地下の文化財に触れ、京文化の根源を学び、探り、理解し、考えてみる。そして京都の遺跡からわかる歴史と文化の表現方法の取得に向う。平安京以前からの、京都の遺跡を学習する。適宜、歩き探る京都を紹介する。

#### 京都講座 I

テーマは「埋もれた京都の地下遺産を探る」である。考古学的手法を用いて、本学の足下にある京都の歴史遺産に焦点をあて、触れ、理解して、京都での学びをより深める視点を養う。条坊制に基づく平安京、平安宮の遺跡と遺物、東寺・西寺跡、羅城門と朱雀大路、平安京左京の変遷、近世以降の平安京の様子を説明し、市街地での観察方法を伝授する。

#### 京都講座 II

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

### 人間と社会

### 【法律・行政・政治】

#### 日本国憲法

日常生活のなかで見え隠れするさまざまな社会的な問題を考え、対処するために必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につける。また、これを理解するために必要な基本的知識を身につけることを目標とし、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

#### 法学概論 I

法学概論 I では、国家の統治組織や作用、行政権の主体と個人との関係等について学ぶ。主に憲法を中心として進めていき、国民の権利・自由に関する基本的人権論や、権力分立・国家行政組織・地方自治といった統治機構の諸制度を範囲とするが、重要事項の理解を深めるために、関連のある諸法にも触れていく。本講義では、各講において具体的な事例を用いた設問を挙げ、そこで論点となるテーマに関する判例・学説を理解する。また、各制度のあり方について考察し、憲法の基本理念や一般理論を修得する。

#### 法学概論 II

法学概論 II では、私法全体の理解を目的としており、主に民法と商法を中心に進めていく。本講義では、契約、住まい、家族生活、事故の遭遇などのさまざまな場面において、私法との有機的な関連を可能な限り明らかにし、各制度の正確な位置づけを図る。各テーマの理解を深めるために、借地借家法、製造物責任法、民事訴訟法といった特別法も、適宜に範囲に含める。また、具体的な事例を提示して、その解決を念頭に置きながら重要な事項について説明することで、初歩的な応用力を身につける。

#### 民法

民法は、私法分野の基本法であり、市民の社会生活そのものを広範に対象とする学問である。本講義では、民法の基本構造を明らかにし、主

#### 行政法

憲法をベースとしつつ、行政と国民の法的関係を理解して国法における行政権のあり方を検討する。法文の基本を勉強したあと、国家と

#### 政治学概論 I

政治学への入口として、政治についての意識形成、政治についての基礎知識、政治学を学問としてとらえる力を身につけることを目的とす

要な法原則、法制度、法概念を理解するとともに、その基礎的知識を獲得することを目的としている。また、具体的な事例や裁判例を用いながら、民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにすることで、法的な問題発見能力、問題処理能力を養い、法の生きた理解を可能にする。特に、財産法分野の解説に重点を置くが、家族法分野についても一通り概観しておく。

### 政治学概論 II

具体的な政治家・政治現象の事例（例えば、「大平正芳」など）から、戦後の日本政治を政治過程論として概観し、さまざまな政治家が活躍する舞台を具象的に再現できるようにする。さらに、日本における政府の仕組み、とりわけ政党と官僚との関係を知り、政治家・政治過程の実際について自分で考え、論評できるようになることを目標とする。具体的には、新自由主義と社会民主主義、内政と外交、族議員と派閥、政権交代と派閥抗争、消費税と赤字国債などについて考察するとともに、映画で政治家はどのように描かれてきたかなどメディアと政治の関係にも言及する。

### 【経済・経営・社会】

#### 経営学概論

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解できるようになること、言い換えると、会社（企業）・事業・経営の相互作用を立体的・構造的に把握するため、それらをめぐる社会システムを理解できるようになること、これが授業での目標である。具体的には、まず会社（企業）形態、事業の定義、経営形態等について講義する。次に会社の「戦略と組織」について、最後には、サプライ・チェーン・マネジメントやアウト・ソーシング等、最新の経営手法の具体的な事例分析に関する講義を行う。

#### 社会学概論 II

社会学概論 II では、社会学概論 I での基本概念の理解を踏まえ、近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会的想像力の定着をめざす。

国民との関係についての基本的論理構成に続き、行政行為をはじめとする行政活動の諸形式ごとに、両者の法関係の内容的検討を行い、市民生活の法とは異なる行政法の特異性を学ぶ。そのため、身近な事例を例示しつつ、民法や刑法などとの関係を理解するために、もし、裁判員になったとしたらどうしたらいいかを映像を交えて学修したり、国の機関のうち、興味のある省庁を自分で調べたりすることとする。

#### 行政学

行政システムについて、府省庁組織や中央地方関係、政府と市場、組織と管理などのテーマから行政システムの活動とその結果の全体をとらえる。省庁再編・政策評価の導入や地方分権改革などにも触れる。

#### 会計学概論

目標：企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。内容：企業経営のプロセスを、資金の流れとして学ぶ。さらに、付加価値の形成、市場における価値の創造、収益の分配、および、稼得利益の意義を体系的に考察することによって、企業経営の本質を理解する。また、この学習を、複式簿記のシステム（簿記一巡の手続き）の理解と連動して行う。したがって、他人資本（負債）、自己資本（純資産）、資産、費用、収益という5つのグループの経営プロセス上での役割についても、それぞれのグループ内の勘定科目のレベルにまで、一定程度深化させて理解する。簿記システムの基礎的理解をめざし、簿記一巡の手続きについて学ぶ。

#### 経済学概論 I

現代日本経済における諸問題を学ぶことによって、経済学への導入を図る。具体的には、まずバブル経済とその崩壊による平成不況の深刻化の課程を「不良債権処理の10年」として概観する。次に、ケーススタディとして、日本長期信用銀行の破綻、山一証券の自主廃業について検討する。そして、女性労働として雇用機会均等法と育児支援を取り上げるとともに、労働問題として過労死・過労自殺、ホームレス、派遣労働、ネットカフェ難民、派遣村などを取り上げる。これらの諸問題を、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

る。授業では、権力、デモクラシー、政治システムと政治過程、地方自治、国際政治、宗教と政治、官僚制などを概観し、基礎的知識を獲得する。そのため、テキストを活用しつつ現代日本の政治現象を身近に感じられるように、時事問題を政治学的に考察するヒントを提示するとともに、テレビを中心とするマスコミ以外によって、政治に関する情報・言説を知るソーシャルメディア利用法などにも言及する。

#### 社会学概論 I

社会学概論 I では、自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の修得をめざす。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちに何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる。

#### 経済学概論 II

戦後日本経済の歩みについて講義する。敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでを、映像資料を活用してイメージ豊かに学ぶ。具体的には、特需景気、もはや戦後ではない、金の卵、エネルギー革命、所得倍増計画、公害、列島改造、ドルショックと石油ショック、日米経済摩擦、分割民営、バブル経済、プラザ合意、外国人労働者などを取り上げる。

### 健康に生きる I

健康とは何かを学び、大学生活およびその後の生活を健康で過ごすための方法を学ぶ。

### 健康に生きる II

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。健康と栄養の関連を理解するとともに、食の安全性を理解し、健康増進に役立て、健康的な食生活を志向する。講義では、糖質、脂肪、アミノ酸、ミネラル、ビタミンといった栄養素と、人の健康との関係について解説する。また、健康と食生活をテーマに、ダイエット、運動、ストレスなどについて講義する。講義のなかでは、健康と食に関するトピックを適宜紹介する。

### 健康に生きる III

個人の「健康」について精神的側面（メンタルヘルス）を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されているさまざまなメンタルヘルスの理論や、その歴史的な発展について講義し、現代人が健康に生活する上でのメンタルヘルスの重要性の理解を促す。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされるさまざまな理論・技法についても概観する。また、メンタルヘルスが個人の全般的な健康に資する役割についても言及する。

### スポーツコース I

ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図り、またスポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

### スポーツコース II

Iに引き続き、ソフトバレーボールと6人制バレーボールを教材として、さらに基礎体力と技術のスキルアップを図る。またあわせて、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につける。同時にグループ（チーム）を通し、コミュニケーション・スキルの向上を図る。

### スポーツコース III

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バレーボール、バスケットボール両種目の基本的な技術や知識を学習するとともに、全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。

### スポーツコース IV

生涯スポーツの必要性を学び、スポーツの実践をとおして、自己の健康管理ができる基礎能力を養う。特にレクリエーションスポーツを中心に楽しく運動することができる習慣と能力を身につける。バドミントンと卓球の基本的な技術練習とルールの理解から始め、シングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

### 物理学基礎

物理学は、科学技術のベースとなる重要な分野であり、さまざまな自然現象を考えるうえで基礎的な学問となる。本科目では、力学や電磁気学、光の干渉・回折などの基本的な原理について正しい理解を得るとともに、日常的に目にする現象を物理学的に理解し説明する力を身につける。また、物理学が身近なものに应用されていることを理解し、物理学の原理とその意義について見識を深める。例えば、身近な家庭用機器や医療機器（電子レンジ、健康維持器具、AED、MRI等）などに应用されている電磁気現象の原理などを理解する。

### 化学基礎

生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え、理解できるように基礎概念を解説する。原子の構造と結合、分子の形、物質の形態、溶液、化学反応などについて正しい理解を得るとともに、日常的に目にする物質や現象および、化学が身近に应用されていることを理解し説明する力を身につける。例えば、日常生活に関わる化学物質、例えば石油や原子力などのエネルギー源、金属やプラスチックなどの材料、薬品、医療品などについて触れ、応用されている原理とその意義を理解する。

### 生物学基礎

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命科学、および関連する諸問題について概説する。生命現象を理解するために、細胞の構造と役割、細胞を構成する物質、エネルギー、遺伝学、DNA、発生と老化、脳の構造などから、食と健康、がん、感染と免疫などについても解説し、正しい理解を促進する。さらに、生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、生物学的な諸問題を正しく理解するため、遺伝子組換え生物や再生医療、生態系と環境問題までの最新のトピックを交えて解説する。

### 地球生命論

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解する。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基

### 地球環境論

環境問題は、今や誰にとっても避けて通ることのできない重要な課題である。この授業は、環境問題を、自然科学的アプローチ、社会科学的アプローチ、哲学的アプローチを総合的に駆使しつつ考察する。環境問題の複雑さ、議論の道筋、論点などをわかりやすく講義する。

づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造、土壌層位、遺構面と遺構埋土の特徴などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて概観する。

## 医療と心理

### こころとからだの健康科学 I

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学、臨床検査学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

### こころとからだの健康科学 II

健康科学部は「こころとからだの健康と臨床」を考究することをテーマとしている。いずれの学科も人間をこころとからだを併せ持つ存在としてホリスティックな視点から捉える考え方に立脚している。本科目では、「こころ」と「からだ」について、心理学、理学療法学、救急救命学、作業療法学の視点からそれぞれの教員が自身の学術研究や臨床経験の知をもとに講義する。

### 医療英語

現在、大・中規模病院の多くがISO15189（臨床検査室の国際規格）取得に取り組んでおり、臨床検査分野のグローバル化が急速に進んでいる。また、アメリカ臨床検査技師等の国際資格を取得する際には個人の英語力を高めるだけでなく、海外の臨床検査室や臨床検査師との知識・技術の交流等を積極的に進める必要がある。この授業では、医療学術論文を英語で読む基礎を養い、医療技術に関連する会話や講演を理解する能力を修得する。これにより、大学院進学や企業就職の際に必要な英語力に加え、これからの医療現場で必要とされる実践的な英語能力の基礎を身につける。

### 医学概論

人類の歴史は「病いと戦いの」歴史であるともいえる。例えば、伝染病との戦いはペストや天然痘には勝利したものの、エイズやインフルエンザといった新たな敵との戦いが引き起こされている。人類の生存をかけた戦いのなかで医学は生まれ、発展してきた。さらに、ライフスタイルの変化、人口の少子高齢化等の社会情勢の変化は生活習慣病などの新たな「病い」の発生の素地となっている。医学は新たな姿の敵との戦いを迎えている。こうした医学の歴史を振り返りながら、「医学の過去、現在、未来」について講義する。

### 統計学基礎論

この科目では統計学そのものについて学ぶのではなく、統計法を利用して各分野（保健衛生学や心理学、教育学など）の研究を進める方法を学ぶことを目的とする。授業を通じて統計学の基礎を学び、身近なデータを読み取る力をつけ、また実際に受講生自身が研究を行う上で知識を活用できるよう、実践的な能力を身につけることをめざす。

### 医療と生命の倫理

生命倫理学の基本原則を正しく理解し、現代の医療における倫理的諸問題を学ぶ。まず、患者の自律の尊重という生命倫理学の基本原則と、これを達成するために不可欠なインフォームド・コンセントの原理について説明する。その後、①出生前診断、人工妊娠中絶、生殖補助医療など人間の誕生にまつわる諸問題、②ターミナルケア、安楽死と尊厳死など人間の死にまつわる諸問題、③遺伝子診断と遺伝子治療、再生医療など先端的医療、④医療情報の保護について教授する。

### 臨床心理学

医療を通じて人と関わるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。そうした知識も当然重要であるが、それだけにとどまらず「臨床の知」としての思考力を身につける必要がある。「臨床の知」とは、客観的に眺め分析するのではなく、自分が現場にコミットして、相手との関係のなかで考えることといえる。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へ関わる存在になっていくのか、履修者それぞれが、主体的に考えられるようになることをめざしたい。

### よそおいの心理学

人間の外見と心との関係を探求することをテーマとする。社会心理学・感情心理学の分野から始まった「化粧の心理的効果」の研究は、粧うことによって快感情・高揚感をもたらす、積極的な対他者行動を促すことによって、コミュニケーションを活性化することを実証し、化粧が心の健康に貢献していることを見いだした。また、この化粧の効用は、医療や福祉の現場で効果をあげており、臨床心理学的な考察も試みられている。本講義では、基礎的な研究を概説し、さらにさまざまな臨床の実践活動について紹介する。

### 健康心理学

心身の健康の維持増進や疾病の予防について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを心理学的な側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄について理解する。

## キャリア科目

### キャリア開発演習 I

大学で主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目的に、グループ学習を中心に演習形式で実施す

### キャリア開発演習 II

大学で主体的に学ぶ姿勢、および社会人や医療組織の一員としてのルールやマナー遵守の姿勢

### キャリア開発演習 III

医療の専門職になるために必要な人間関係の構築やコミュニケーションについて、グループ学

る。まず、図書館の利用方法や文献の探し方などのオリエンテーションを行う。その後、最近の保健医療や医療現場に関連するテーマを選び、それについて図書館やインターネットなどから情報収集を実際に行う。また、検索した資料を読み込み、学生自身の理解や疑問、関心のあることなどをグループで討議してまとめ発表する。この過程において、コンピュータリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、効果的なプレゼンテーション方法）、ディスカッションの方法（論理的な発言、他者の意見の理解）などの能力を身につける。

#### キャリア開発演習 IV

これからの臨床検査技師にとって重要となるチーム医療について、グループ学習を中心にして演習形式で学ぶ。臨床検査技師は、検査室での検査だけでなく、検査室の外での病院の仕事、病院の外の仕事が増え、診療の補助として採血以外にも業務範囲が広がっている。この授業では、感染制御チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、糖尿病診療（糖尿病療養指導士らによるチーム）、治験コーディネーター、移植コーディネーター、臨床研究支援などのチーム医療について考える。この過程を通じて、臨床検査技師の医療組織の一員としての役割や意味を理解し、あわせてコミュニケーション能力や使命感についても考える。また適宜、臨床検査技師以外のゲストスピーカーを招き、学生の理解を促進する。

を身につけることを目的に、グループ学習を中心に演習形式で実施する。授業では、臨床検査や臨床検査現場などに関連する文献を選び、図書館の蔵書やオンラインデータベースなどを活用し、グループで情報を収集して討議を行い、結論を導いて発表する。また、グループで取り上げたテーマについて、学生一人ひとりが自らの考えや課題意識をまとめたレポートを作成する。この過程を通じて、根拠に基づく医療（EBM=evidence-based medicine）の考え方を学生に理解させる。

習を中心にして演習形式で学ぶ。授業ではまず、人とモノ（例えば、車のハザードランプやクラクション等）、友達同士、家族、地域、日本、国際社会におけるコミュニケーションはそれぞれどう違うのか、またそれが医療とどう結びつくのかを考える。さらに、プライベートなコミュニケーションと仕事におけるコミュニケーションとの違いを考察し、自分と周囲との関わり、言葉や表現方法、他者への影響などについて考えを深め、人間関係とコミュニケーション、他者理解と自己理解について学生に意識化させる。

## 専門基礎分野

人体の構造と機能

### 人体の構造演習 I

臨床検査技師として医療に携わるために必要な人体の正常な形態と構造について演習形式を取り入れて学ぶ。人体の基本構造を理解することにとどまらず、どのようなメカニズムによって疾患が生じるかという病態生理学への道筋を知ることにつながる。授業では、細胞と組織、器官に関する基礎的理解を得た後、筋・骨格系、神経系、皮膚・感覚器系、消化器系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系など器官ごとの形態と構造を学ぶ。

### 人体の構造演習 II

Iに引き続き、臨床検査技師として医療に携わるために必要な人体の正常な形態と構造について演習形式を取り入れて学ぶ。人体の基本構造を理解することは、各種疾患の診断や症状の程度を理解することにとどまらず、どのようなメカニズムによって疾患が生じるかという病態生理学への道筋を知ることにつながる。特に、この授業では、光学顕微鏡を用いる組織学を主に扱う。具体的には、筋・骨格系、神経系、皮膚・感覚器系、消化器系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系などの細胞組織の形態と構造について学ぶ。

### 人体の構造実習

人体と構造演習IIで修得した組織学に関する知識をさらに定着させるため、細胞組織に関する実習を行う。実習では、染色した組織切片を光学顕微鏡を使って観察し、それをスケッチすることで、人体の構造の特徴を詳細に理解する。この実習を通して、顕微鏡の取り扱いおよび観察方法に慣れるとともに、上皮組織、結合組織、骨組織、筋組織、神経組織および各器官の組織を識別するための基礎的能力を身につける。

### 人体の機能演習 I

人体の機能演習は、人体の構成および人体各部の機能について概説する。人体の機能演習Iでは生命維持の基盤となる機能の中でも、体液、血液、免疫、循環、呼吸、代謝、体温等について、その生理学的意味を理解するよう、演習を交えて授業を行う。体液の中でも浸透圧は人体の機能の基本中の基本であり、これを理解することが重要である。また、これらの講義により、生命の不思議について考える。

### 人体の機能演習 II

人体の機能演習は、人体の構成および人体各部の機能について概説する。人体の機能演習IIでは、生命維持の基盤となる機能の中でも、消化管の役割、栄養生理、排泄、内分泌、神経、筋、感覚、遺伝等、運動の生理学や生殖といった身近なテーマについて、人体の機能を生理学的な面から理解するよう、演習を交えて授業を行う。また、これらの講義により、人体の不思議について考える。

### 生化学 I

生化学は、生体並びに生命現象に関する科学的な思考と理解に重要な科目である。生体は、核酸、タンパク質、アミノ酸、脂質、糖質、無機質等多くの分子から成り立っている。生体を構成する最小単位である細胞はこれらの物質から構成されている。また、細胞は摂取した物質を代謝し、生命活動に必要なエネルギーを得て増殖・成長している。生化学Iでは生命現象を分子レベルで理解する思考方法と基礎知識と、生体を構成する様々な分子をエネルギーと生体を構成する部品に変換し、生体が増殖・成長する過程で機能する分子とその仕組みを学習する。

### 生化学 II

生化学は、生体並びに生命現象に関する科学的な思考と理解に重要な科目である。生体は、核酸、タンパク質、アミノ酸、脂質、糖質、無機質等多くの分子から成り立っている。生体を構成する最小単位である細胞はこれらの物質から構成されている。また、細胞は摂取した物質を代謝し、生命活動に必要なエネルギーを得て増殖・成長している。生化学IIでは生化学Iで学習した生体を構成する分子に関する知識を踏まえ、細胞と細胞内小器官の構造、細胞内分子や細胞間情報伝達物質による情報伝達と様々な調節機構、DNAなどを構成する核酸の構造と機能等について学習する。

### 生化学実習

生化学を学ぶことによって得られる、生体を構成する基本分子に関する理解は、生命を科学的に思考する基礎となる。生化学実習では、酵素反応を利用した生体分子の定性、定量を実習する。また、タンパク質、糖、核酸、脂質などの分離、定性、定量を実習し生化学に対する理解を深める。生化学の実習は、臨床検査における様々な分析や研究手法の基礎となるものであるため、基礎的な実験手法やデータのまとめ方についても学習する。

### 病理学

生体を構成する細胞・組織・臓器の変化を発見し、病気に陥った原因を追究するために、病理学用語を学び、組織細胞レベルから疾病や病的変化を学修し、総合的な疾患と形態学的変化を理解する。具体的には、病理学総論として、病理学とは何か、染色体・遺伝子・発生の異常、組織細胞傷害とその修復機構、物質代謝異常、循環障害、炎症、免疫異常、腫瘍について学び、病理学各論として、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器および乳腺、造血臓器系、神経系、運動器系、感覚器系、皮膚系、自己免疫の各疾患について学ぶ。

### 栄養学

臨床検査技師にとって栄養に関する基礎知識は、病院のチーム医療の一員としても必要であり、病気の予防や健康の維持・回復を理解するためにも重要なものである。この授業では、栄養の必須となる糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルと栄養食療法について学ぶ。また、臨床検査として重要な項目の栄養アセスメントタンパクと栄養状態、加齢によるバランス、治療食などの知識を修得する。

### 薬理学

疾患の治療において薬物療法は重要であり、医薬品の生体に及ぼす作用機序を調べるのが薬理学である。この授業では医薬品の有効性や副作用、投与薬剤の体内動態および体内分布、薬物がどのような仕組みで生体に作用するか等の作用機序を理解することで、薬理作用の基本を理解する。また、血中薬物濃度測定は臨床検査の重要な項目でもあり、薬剤が臨床検査に及ぼす直接的影響や間接的な副作用としての影響を理解する。さらに、薬理学に対する理解は治験コーディネーター等のチーム医療を行う上でも重要であり、検査と薬の関連についても総合的に理解を深める。

医学検査の基礎とその疾病との関連

臨床検査学 I

臨床検査学 II

臨床検査学基礎実習

臨床検査の意義、臨床検査およびその教育の歴史、臨床検査技師の役割や使命感などを知り、臨床検査学への意欲を醸成する。また、検体取扱い方（血液・尿・便・喀痰・髄液・咽頭粘液・膿・分泌液・穿刺液等）、採取や保存の方法が検査データに及ぼす影響についても学ぶ。このほか、従来の採血法（採血行為の範囲、採血の種類、注意事項、採血部位と手段、乳幼児採血）に加え、診療の補助としての臨床検査技師の業務に、インフルエンザ採取等の検体採取が業務追加されたことについても紹介する。このほか、将来的な介護への介入、POCTや個別医療、iPS細胞の精度保証など夢のある仕事についても紹介し、意欲を引き出す。さらに、臨床検査における各検査学の概要や医療・病院における位置づけや重要性および役割について理解し、医療分野における専門知識と検査の技術を修得するための基礎的内容を学ぶ。各疾患の重症度のグレードと検査項目の値との関わりを系統的に学び、臨床診断における臨床検査の意義についても理解する。

臨床検査における専門分野の基礎知識を総合的に学ぶ。具体的には、健康診断の検査、肝機能検査、糖尿病検査、腎機能検査、血液検査、輸血検査、心疾患検査、動脈硬化の検査、腫瘍検査、膵機能検査、内分泌疾患の検査、感染症の検査、自己免疫疾患の検査、自己抗体検査の内容について講義するとともに、Reversed C.P.C.（各疾患における症例検討）による臨床検査データの読み方の基礎を身につける。

臨床検査における専門分野の実習を行う上で必要となる検体検査の基礎的な知識と技術を学ぶ。授業では化学容量器、天秤、遠心分離器、攪拌器、恒温槽、分光光度計、pHメータ、顕微鏡などの共通検査機器を組み入れた実習を行う。これにより、臨床化学検査など検体検査で使用することが多い実験器具の正しい使い方から緩衝溶液の調製までを身につけるとともに、病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査などで必要となる顕微鏡の基本構造の理解や操作技術を修得する。また、抗原抗体反応における凝集反応やELISA法の基礎的な知識と技術を修得する。

## 保健医療福祉と医学検査

### 医療概論

医療を支える職種や医療の保険・政策・経済についてのシステムについて理解し、在宅・高齢者ケアや災害医療についても理解を深める。また、健康とは何かを改めて考え、医療がたどってきた歴史的背景と医療の将来展望についても学ぶ。これらにより現代医療の構造と特徴がはっきり理解でき、医療事故の認識や予防医学の重要性について自ら考察でき、医療における臨床検査技師の役割を認識する。

### 公衆衛生学

公衆衛生各分野の理解に必要な基礎的事項である疫学、感染症、母子保健、成人保健、学校保健、精神保健、生活環境、公害、栄養と食品衛生、産業保健、衛生の統計、行政、法規と社会保障について学ぶ。特に、保健医療福祉行政・財政の概略、基盤となる公衆衛生領域について理解する。また、検査と非常に関連が深い、医療および産業廃棄物、上下水道、食品衛生管理、オキシダントを含めた大気汚染物質、騒音などの環境因子について、産業衛生を含めた公衆衛生と国民の健康に関する理解も深める。

## 医療工学

### 医用工学概論

医用工学とは工学的な理論や技術、手法を活用し、疾病の診断・治療・予防などを支援しようとする学問である。授業では医用生体工学の概要、電気・電子素子の基礎、電子と電源回路、生体の生理的および物理的性質、記録と表示、生体からの通信・情報処理について理解し、生体情報を感知するセンサの特性と使用方法について学ぶ。また、生体の物理的特性や測定値をどのように認識するかといった生体計測に関し、各医療機器の特性を学ぶとともに、その安全対策についても理解を深める。

### 医用工学実習

医用工学概論で学んだ知識を医療領域で応用することを目的に、電気電子工学の基礎から生理特性の測定までの実習を行い、測定理論、測定条件、測定手順、測定結果について理解する。また、電氣的安全性とそのための管理法も同時に理解する。具体的には、オシロスコープの使用手法、リサーチ曲線とシミュレーション、CR結合回路、LR結合回路、LC共振回路、整流回路、電磁誘導、論理回路、デジタル演算回路、オームの法則、ホイートストンブリッジ、心電計、差動増幅器、負帰還増幅器に関する説明と実習を行う。

## 専門分野

### 臨床病態学

#### 臨床病態学 I

#### 臨床病態学 II

臨床検査技師として適切な検査と判断ができるように、各症例に関する検査データがどのように疾病や診断に反映するかを基礎分野から理解を深める。その上で、検査データ事例を用いて、その症例データが示す病態や疾患について理解する能力を養う。症例については、臨床化学・免疫検査・血液検査・病理検査・画像診断全般における検査項目ごとの内容を学ぶ。授業では、脳・神経系疾患（脳血管障害、神経系の腫瘍、神経系の感染症、機能的疾患、神経変性疾患、脱髄性疾患、脊髄・脊椎疾患、末梢神経疾患、筋疾患、代謝性疾患、その他の中毒性疾患や神経障害）および呼吸器疾患（感染症、アレルギー性疾患、閉塞性疾患、拘束性肺疾患、肺循環障害、換気異常、腫瘍、胸腔疾患、喫煙）について詳細な解説や補足を加える。

臨床検査技師として適切な検査と判断ができるように、各症例に関する検査データがどのように疾病や診断に反映するかを幅広い分野から理解を深める。その上で、検査データ事例を用いて、その症例データが示す病態や疾患について理解する能力を養う。症例については、臨床化学・免疫検査・血液検査・病理検査・画像診断全般における検査項目ごとの内容を学ぶ。授業では、循環器疾患（心房中隔欠損症や肺動脈狭窄症等の先天性心疾患、虚血性心疾患や心筋症等の後天性心疾患、本態性と二次性高血圧等の血圧異常、期外収縮や心房細動等の不整脈疾患、動脈硬化症や大動脈疾患等の血管の疾患）および血液・造血器疾患（各種貧血等の赤血球系疾患、各種白血病等の白血球系疾患、血小板減少性紫斑病等の出血性疾患）について詳細な解説や補足を加える。

## 形態検査学

### 病理検査学

生体検査や手術によって採取された臓器や組織、細胞などから病気の診断や原因究明を行うための病理学検査について講義する。この授業では、病理組織学的検査法の意義、病理組織標本作製法、各種の染色法、組織化学染色法、電子顕微鏡標本作製法を学ぶ。この際、病理解剖に関連づけて、各種方法を用いる意義を理解する。また、標本の管理や精度管理についても学ぶ。

### 病理検査学実習

病理検査学における学修と理解の上で、病理組織標本作製における一連の作業である、固定、切り出し、包埋、薄切、各種染色（HE染色、特殊染色、免疫染色）、封入、鏡検の行程を実習により学ぶ。また、正常組織における形態学的特徴、機能的特徴を理解するとともに、各種病変組織についても理解する。その際、スケッチを含む結果の記述と考察を行う。また、実習内容についてグループで討論し、その結果を発表することで、知識と技術の定着を図る。

### 血液検査学 I

赤血球や色素から貧血の程度、白血球の多さから炎症の程度を把握するために、血液疾患における診断・治療と臨床検査との関わりを学ぶ。血液形態の成り立ち、血液凝固などの基礎知識を修得し、血液分析装置の原理と手技を含めた各検査項目の測定原理、検査方法、臨床的意義を理解する。具体的には、血液の基礎、血球、止血機構、凝固・線溶系、検体の採取と保存、血球に関する検査、形態に関する検査、血小板・凝固・線溶検査、血液検査結果の評価について学ぶ。

### 血液検査学 II

血液検査学 I で学修した基礎知識や各種検査法の技術知識を用いて、専門的な立場で血液疾患の診断・治療についてより深く学び、実際の臨床の現場（医師）にアドバイスまたは応用できる能力を身につける。また、最新の血液画像システムについても学ぶ。具体的には、血液の基礎、血球、止血機構、凝固・線溶系、検体の採取と保存、血球に関する検査、形態に関する検査、血小板・凝固・線溶検査、血液検査結果の評価についての内容を応用できるように理解する。

### 血液検査学実習

血液検査学 I ・ II の講義で学んだ内容（各検査項目の測定原理、検査方法、臨床的意義）について、基本技術から具体的作業までを実習により修得し理解する。また、顕微鏡を用いて正常の血液細胞と血液疾患の血液細胞との鑑別ができるようにする。具体的には、検体採取と保存（採血法、抗凝固剤の種類と使用方法、検体の処理、保存法）、血球に関する検査（赤血球数、白血球数、血小板数、網赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値、赤血球沈降速度、溶血の検査）、形態に関する検査（末梢血液標本の作成、染色法、末梢血塗抹標本の観察、骨髓標本の作製、骨髓像の観察）、血小板・凝固・線溶検査についての技術を修得する。

### 一般検査学（実習を含む）

腎機能を含む病態と一般検査との関連性を理解し、腎機能に關係する尿タンパク質や浸透圧検査、腎機能以外の尿潜血、ビリルビン、糖・ケトン体、尿沈渣（各種結晶と血球）などの検査方法、測定原理、結果の読み方から判断、臨床的意義について理解する。

### 形態検査学演習

臨床検査技師には、免許取得後、実務経験を積むことにより取得できる、より高度な認定資格が数多く用意されている。ここでは、卒業後のキャリアアップをめざし、これまで3年間で学んできた国家試験レベルの基礎となる知識・技術の確実な修得を確認した上で、認定資格で求められる高度な専門知識の一端を演習により教授する。この授業では特に、就職後に取得をめざす認定血液検査技師など形態検査に關係する認定資格を視野に入れ、血液学的検査に関する

各種検査法、疾患との関わり、結果の解釈について学ぶ。

## 生物化学分析検査学

### 臨床化学検査学 I

血液中の化学成分を調べ、臓器の異常を把握するための検査が臨床化学検査である。この授業では、臨床化学検査の種類だけでなく、血液中の糖質、タンパク質、ビタミン、ホルモンなどの各論を学びながら、疾病経過時における生体内および臨床化学項目の変動や推移を理解する。具体的には、臨床化学分析の目的と特徴、臨床化学分析の単位と標準物質、測定値の管理、基準範囲、臨床判断値、生理的変動と測定技術変動、臨床化学分析の標準体系などを学ぶ。

### 臨床化学検査学 II

臨床化学検査学 I で学んだ各種項目の種類における測定方法および原理について学び、それらの特徴・注意点・臨床的意義について理解する。具体的には、分析法の選択、分光光度分析法、クロマトグラフィ、各種電気泳動法、免疫化学的定量分析法、電気化学分析、酵素的分析法、自動分析法について学び、化学分析法各論である電解質と微量元素、糖質、脂質とリポタンパク、タンパク質、非タンパク性窒素化合物、酵素、骨代謝マーカー、ホルモン、ビタミン等の基礎と臨床について学ぶ。

### 臨床化学検査学実習 I

臨床化学検査学 I・II の知識を理論的に技術応用でき、生体物質の構造および測定原理が理解できているか、化学的な分析方法が正しく操作できているか、得られた結果に対して論理的に解析して考察しているかを確認することを目的に実習を行う。具体的には、塩析・電気泳動・カラムクロマトグラフィを用いた血漿タンパク質の分離分析、薄層クロマトグラフィ法による脂質成分の分画測定、酵素のKm値の求め方、酵素の至適濃度・温度・pH、酸化還元反応や各種酵素法を用いた臨床化学項目測定を行う。また、各種試料の取り扱い方や注意点についても学ぶ。

### 臨床化学検査学実習 II

臨床化学の主要な項目である無機質（鉄・総カルシウム・無機リン）、糖質（グルコースとOGTT負荷試験）、タンパク質（総タンパク・アルブミン・血漿タンパク質分画）、脂質（トリグリセライド・コレステロール、リポタンパク質（沈殿法）、非タンパク性窒素（尿素窒素・クレアチニン・尿酸・ビリルビン）に関して、測定原理や測定方法について自家調整した試料により実習を行い、測定結果の解釈や解析方法について正しいかなどを考察し、臨床的意義と結びつけて理解する。その際には分析装置の理解や精度管理についても学ぶ。

### 遺伝子検査学

近年の医学研究の進歩により、従来の遺伝疾患に加え、糖尿病、心筋梗塞、感染症、乳がん等の遺伝子関与が明らかになった。それにより、臨床検査における遺伝子・染色体検査の重要性が高まっている。本講義では遺伝子・染色体検査の原理や方法及び疾患との関連を教授する。また、検査に伴う倫理についても教授する。さらに、これらを理解するためには、細胞生物学などの基礎分野や、病理学などの臨床分野の知識も要求されるため、それらも踏まえて講義する。

### 遺伝子検査学実習

遺伝子検査の基本として、特定の核酸の存在を証明する知識と手技は、確実に取得しておかなければならない。まずは、遺伝子解析に必要な機器・器具・試薬に関する知識を学び、遺伝子検査に用いるサンプルの収集・処理・保管などの取り扱いについて理解する。次いで、核酸（DNAおよびRNA）の抽出法と、取り扱い上の注意を学ぶ。また、PCR法の原理と実施法、RT-PCR法の原理と実施法、電気泳動法の原理と実施法等についても理解する。それと同時に、遺伝子検査に伴う倫理的課題について深く理解する。

### 放射性同位元素検査学

放射性同位元素についての基本的性質や生成を学び、測定機器・放射性医薬品・各種核医学検査の手技から解析までを理解する。被曝管理や安全な取り扱い方法とその法規についての理解を深め、最終的に、in vivoやin vitro検査において核医学検査がどのように医療に関係し役に立っているかを理論的に解析して、臨床的意義について理解する。具体的には、原子・原子核の構造、放射線の種類と放射線測定法及び測定機器、放射線の性質と検査方法の分類、各種in vivo検体検査とin vitro検体検査、ヨウ素甲状腺摂取率などの体外測定、核種シンチグラフィなどの画像検査などについて学ぶ。

### 生物化学分析検査学演習

臨床検査技師には、免許取得後、実務経験を積むことにより取得できる、より高度な認定資格が数多く用意されている。ここでは、卒業後のキャリアアップをめざし、これまで3年間で学んできた国家試験レベルの基礎・基本となる知識・技術の確実な修得を確認した上で、認定資格で求められる高度な専門知識の一端を演習により教授する。この授業では特に、就職後に取得をめざす認定臨床化学者や認定臨床染色体遺伝子検査師などの認定資格を視野に入れ、また生物化学分析検査における感度の良い測定法が開発されていることを踏まえ、PCR法や化学発光などの遺伝子検査や臨床化学検査を中心に、分析装置、分析方法と原理、操作手順の注意点、診断・治療に関わる結果の解釈等を学ぶ。

## 病因・生体防御検査学

### 微生物検査学 I

微生物検査は、感染症の診断や治療効果を判断する上で必要となる病原微生物の分離同定から薬剤耐性・薬剤感受性に関連した薬剤選択まで幅広く、院内感染や感染症治療などの情報提供には不可欠である。また、分子生物学の技術的

### 微生物検査学 II

病原微生物の形態、培養法、生化学的特徴、代謝、遺伝に関して、病原性を細菌、クラミジア、リケッチア、スピロヘータ、原虫、真菌、ウイルス等に分けて理解し、病原微生物における検査方法の多様性と臨床検査および治療への

### 微生物検査学実習

無菌操作を前提とする微生物検査について、実習を通して微生物の取り扱いやコンタミによる可能性の推測と対応などを理解する。また、採取した検体を培養し、病気を引き起こす細菌などの微生物を検出するために、感染を意識した

進歩に伴う微生物検査の高度化に対応するため  
に多種多様な微生物における検査技術を修得  
することが必要となる。ここでは、病原微生物  
の歴史から現状、病原微生物の構造と機能特  
徴、培養方法や検査原理、病原微生物の感染  
経路や発症メカニズム、微生物の基本構造と  
代謝、病原微生物の治療法や予防法について  
理解する。同時に、細菌の構造・機能から見  
た特徴と分類、細菌の染色法・観察法・鑑別  
法、抗菌薬の分類、抗菌薬の耐性機序、ワク  
チンについても学ぶ。

#### 医動物学

人体に直接病害を起こす動物、間接的にヒト  
の感染症などを媒介する動物とヒトの関わり  
合いについて学ぶ。授業では、寄生虫・原虫  
・衛生動物の分類、分布、形態、発育、生活  
環、ヒトへの感染について系統的に解説し、  
寄生虫検査法などをスライドおよび標本を用  
いて観察しながら学修する。具体的には、赤  
痢アメーバ・腔トリコモナス・マラリア・ト  
キソプラズマ等の原虫類、回虫やアニサキス  
などの線虫類、吸虫類、条虫類、貝・甲殻類  
、ダニ・ハエ・ノミ・シラミ・蚊などの衛  
生動物に関する特徴と検査法について理解す  
る。

#### 免疫検査学実習

免疫検査の沈降反応、凝集反応、溶解反応、  
免疫比濁法、比ろう法、イムノクロマト、EL  
ISA法等の各種測定原理と装置について学び、  
結果が臨床現場でどのように運用されている  
かを自家作製した試薬・試料により理解する。  
具体的には、梅毒血清反応のRPR法およびTP  
PA法、間接蛍光抗体法の鏡検による抗核抗体  
、CH50の補体溶血反応、免疫電気泳動及び  
免疫固定法、サンドイッチELISA法によるH  
Bs抗原、免疫比濁法によるCRP測定とプロ  
ゾーン現象、POCTの検査と意義、イムノ  
クロマトによる薬物検査、競合ELISA法に  
よる唾液検査について実習する。

#### 病因・生体防御検査学演習

臨床検査技師には、免許取得後、実務経験  
を積むことにより取得できる、より高度な  
認定資格が数多く用意されている。ここで  
は、卒業後のキャリアアップをめざし、これ  
まで3年間で学んできた国家試験レベルの  
基礎・基本となる知識・技術の確実な修得  
を確認した上で、認定資格で求められる高  
度な専門知識の一端を演習により教授する。  
この授業では特に、就職後に取得をめざ  
す認定輸血検査技師や認定臨床微生物検査  
技師などの認定資格を視野に入れ、病因・  
生体防御系の機能と制御の基本的知識、微  
生物・ウイルス感染症、アレルギー、自己免  
疫疾患、輸血検査と移植関連検査、これら  
に関係する病態の診断・治療効果判定の  
ための検査の原理と方法、結果の解釈等を  
学ぶ。

応用を学ぶ。特に、細菌学の各論となるグ  
ラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陽  
性有芽胞形成桿菌、グラム陽性無芽胞桿菌  
、グラム陰性桿菌、抗酸菌、クラミジア、リ  
ケッチア、マイコプラズマ、抗生物質の分  
類と特徴について重点的に学ぶ。

#### 免疫検査学 I

院内感染と法定感染、感染症診断の総論、  
免疫検査の各種測定法の目的と原理、免疫  
グロブリン異常の種類と特徴について理解  
する。授業では、試験管内抗原抗体反応で  
ある沈降反応、免疫電気泳動及び免疫固定  
法、直接凝集及び間接凝集反応、抑制反応、  
溶解反応、中和反応、比濁法、比ろう法、  
ウエスタンブロット、鏡検による間接蛍光  
抗体法、競合ELISA法とサンドイッチEL  
ISA法等の検査方法に加え、フローサイ  
トメトリー法の次世代・微量分析について  
も学び、対象となる項目や原理と判定方法  
などを理解する。

#### 輸血・移植検査学

輸血と免疫の関連（輸血の歴史・血液製  
剤の種類）、血液製剤の適正使用のガイド  
ライン、ランドスタイナーの法則、赤血球  
膜とABO血液型（おもて試験・うら試験）  
、ABO亜型と検査、Rh-D血液型とDu  
検査、稀血と遺伝、感作と凝集、各種反  
応増強剤、抗グロブリン試験（直接クーム  
ス・間接クームス）、不規則性抗体検査、  
交差適合試験（主試験・副試験）、母児不  
適合妊娠について学び、輸血の安全性、輸  
血副作用（TACO・TRALI）、血液型不  
適合妊娠と新生児溶血性疾患等についても  
理解する。また、HLA抗原における輸血  
・臓器移植・疾患特異性、移植免疫の重  
要性や臨床的意義、GVHD等についても  
理解する。

無菌的操作技術、滅菌消毒法、分離培養  
法と確認培養法、生化学的検査と免疫学的  
検査による微生物の同定法、染色法と鏡  
検法、薬剤感受性試験法と各種抗菌薬耐  
性因子の検出方法を修得する。具体的には  
、グラム陽性球菌の分離・同定法、グラム  
陰性桿菌の分離・同定法、真菌の培養、  
抗酸菌の培養、嫌気性菌の培養、カンピ  
ロバクター食中毒検査などを行う。

#### 免疫検査学 II

多くの病態の発現原因には免疫が関係して  
おり、免疫検査学 I を基礎とした上で臨  
床免疫を中心とした内容を学ぶ。授業では  
、免疫系の役割と特徴、自然免疫と獲得免  
疫、免疫担当細胞、免疫系の組織・器官、  
リンパ球の発生と多様性の獲得、リンパ球  
の抗原認識と活性化など免疫系の仕組み  
と働き、抗原の種類とエпитープ、免疫グロ  
ブリンの構造、抗体作製法、補体や炎症マ  
ーカー、接着分子とサイトカインについて  
学ぶ。具体的には、補体異常、各種感染  
症、梅毒、ウイルス肝炎、ATL、AIDS、  
アレルギー分類と機序、自己免疫疾患、腫  
瘍細胞と免疫、免疫不全症について理解す  
る。

#### 輸血・移植検査学実習

輸血はマルチの臓器移植といわれ、免疫  
や感染などの問題を含めると、不適切な輸  
血は致命傷となる。安全かつ有効な輸血を  
行うためには、正確な血液型検査、不規則  
性抗体スクリーニング、交差適合性試験の  
技術を修得するとともに、専門的な知識が  
必要となる。授業では、ABO・Rh血液  
型検査（試験管法・カラム法）、RhD陰  
性確認試験、ABO血液型亜型検査（抗体  
吸着分離試験・唾液中血液型物質）、抗グ  
ロブリン試験（直接クームス・間接クーム  
ス）、不規則性抗体検査、新生児黄疸スク  
リーニング検査、交差適合性試験〔試験管  
法（生理食塩水法・ポリエチレングリコー  
ル法）〕における原理、基礎知識、手技を  
修得し、結果解釈について理解する。

**生理機能検査学 I**

生理機能検査は、直接、患者に医療機器を接続または密着させることで、身体内部から出てくるさまざまな物理現象を計測したり、外部から超音波や磁力線などエネルギーを加えることで身体内部の画像イメージを得る検査である。生理機能検査学 I では心電図検査や脈波検査に代表される循環機能検査、呼吸機能検査、血液ガス検査、臨床脳波検査、脳誘発電位検査、針筋電図検査、末梢神経伝導検査、超音波検査、磁気共鳴画像検査、眼底写真検査、サーモグラフィ検査、平衡機能検査、純音聴力検査等の検査の意義と目的、方法、正常所見、注意事項、評価の限界、ノイズと対策ほかを修得する。

**生理機能検査学 II**

ある疾患が疑われる時に特定の生理機能検査が実施される。つまり、疾患ごとに生理機能検査で何が知りたいかという目的が明確に存在するのである。生理機能検査学 II では生理機能検査の中でも主要な心電図検査、ホルター心電図検査、スパイロメトリーまたはフローボリュームなどの呼吸機能検査、血液ガス検査、臨床脳波検査、針筋電図検査、末梢神経伝導検査、心臓超音波検査、腹部超音波、血管体表超音波などを対象として、特定の疾患と関連する様々な異常所見、境界所見を詳細に修得する。また、各種生理機能検査における患者対応の方法や留意事項についても理解する。

**生理機能検査学 III**

生理機能検査学 III では生理機能検査学 I および生理機能検査学 II で修得した内容を総括・補完することで、正常所見と異常所見、境界所見を明確に判読する能力を養う。加えて、生理機能検査で活用する各種ME機器の特性や働きを理解する。また、生理機能検査分野のトピックスである脳外科領域・整形外科領域の手術において盛んに実施されている術中モニタリング検査、睡眠障害とPSG検査、発達障害および高次機能障害・認知障害の生理機能検査所見のほか、糖尿病性神経障害に伴う各種所見、臨床検査技師が知っておきたいX線写真検査・CT検査・PET-CT検査の判読ポイント等を理解する。

**生理機能検査学実習 I**

生理機能検査学実習 I では標準12誘導心電図検査・負荷心電図検査・血圧脈波検査などの循環機能検査、スパイロメトリー・強制呼出曲線・フローボリュームなどの呼吸機能検査、重心動揺検査・標準純音聴力検査などの平衡聴覚検査、心臓超音波・頸動脈超音波などの画像検査の手法と結果判読を実体験を通して修得する。各検査に用いるME機器の構造および取扱法、安全対策を理解する。加えて、患者に対する言葉遣い、挨拶および身だしなみ、接遇や配慮などについて医療人に求められる資質を理解する。生理機能検査に求められる基本的なスキルがコミュニケーション能力であることを認識することが極めて重要である。

**生理機能検査学実習 II**

生理機能検査学実習 II では臨床脳波検査・末梢神経伝導検査（MCS・Fwave・SCS）・ABR検査・SEP検査などの脳神経筋機能検査、無散瞳眼底写真検査、肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓などの腹部超音波、甲状腺ほかの体表超音波などの画像検査の手法と結果判読を実体験を通して修得する。各検査に用いるME機器の構造および取扱法、安全対策を理解する。加えて、患者に対する言葉遣い、挨拶および身だしなみ、接遇や配慮などについて医療人に求められる資質を理解する。生理機能検査に求められる基本的なスキルがコミュニケーション能力であることを認識することが極めて重要である。

**画像検査学演習**

近年、脳科学の発展は著しく、新たな脳機能検査法が開発されている。画像検査学演習では磁気共鳴画像（MRI）を用いた画像検査である拡散強調画像（diffusion weighted image : DWI）、fMRI（functional magnetic resonance imaging）、拡散テンソルトラクトグラフィ（diffusion tensor tractography : DTT）などについて理解する。また、光トポグラフィを用いた脳血流の画像化と解析、また、脳波検査を用いたFFT解析や周波数脳波トポグラフィ解析などの意義と手法、画像評価法を修得する。これらの手法は、患者の検査診断という側面よりも医学研究分野で応用されている技法である。

**生理機能検査学演習**

臨床検査技師には、免許取得後、実務経験を積むことにより取得できる、より高度な認定資格が数多く用意されている。この授業では、卒業後のキャリアアップをめざし、これまで3年間で学んできた国家試験レベルの基礎・基本となる知識・技術の確実な修得を確認した上で、認定資格で求められる高度な専門知識の一端を演習により教授する。この授業では、就職後に取得をめざす超音波検査士や認定心電検査技師などの認定資格を視野に入れ、生体機能検査や画像検査のさらに高度な内容、および疾患との関連や検体検査との関連などを理解する。

**医療情報システム学**

臨床検査におけるシステムは必要不可欠であり、臨床検査情報システム（CLIS・LIS）はパソコンをワークステーションとするシステムが一般的であるが、臨床検査室全体のシステムから病院内外の他システム（医事、病棟、医師の検査オーダー、健康管理センター、外注業者のシステムなど）に接続された医療情報システムは、システムと装置の接続時だけでなく、システム更新に伴う技術や知識に役立つ。授業では、臨床検査情報システム（検査依頼から報

**検査総合管理学**

臨床検査における業務や役割、組織体制、検査情報管理の必要性について理解し、臨床検査の管理や運営方法について部署別に人事および業務の管理、機器の管理や試薬・備品・消耗品の管理、収支管理、安全管理などを学修する。検査依頼、採血、分析、検査結果報告までの各プロセスにおける管理上の問題点を整理し、対策と解決のための精度保証が確立できてこそ検査総合管理といえる。そのために、トレーサビリティ、誤差要因、分析装置の精度を含めた測定

**関係法規**

臨床検査技師等の医療職に関する法律、感染、薬事、保健衛生、生活保護、社会福祉関連の法規、労働基準法を学び、関係法規の目的、免許、試験、業務等、衛生検査所、罰則などについて理解する。また、死体解剖、医療過誤、毒物および劇物取締法による管理と廃棄に関する法規についても学ぶ。さらに、診療の補助としての鼻腔・咽頭ぬぐい液、鼻腔吸引液等の採取、膿、表皮、粘膜等の表在組織の採取、スワブによる便の採取、また基準嗅覚検査および静

告)の基本的な構成と情報処理を学び、情報や統計学の授業で学んだ知識や検査データベースの技術を病態解析に活用できるようにする。

時の精度管理などを理解し、あわせて各種検査機器および測定法の特徴を学ぶ。

脈性嗅覚検査、電気味覚検査およびろ紙ディスク法による味覚定量検査など、近年の法規改正による臨床検査技師の業務範囲の拡大についても講義する。

### 救急検査学

救急検査とは、ショック、意識障害、激しい痛みなどの症状がある患者に対し、救急処置を行いながら、検査結果によって素早く病因を判断するためのものである。ふだん経験しないパニック値や極端値に関し、患者病態を踏まえた上で、再検査するよりも速く検査データを解析し、臨床に知らせる必要がある。この授業では救急検査体制のあり方、システムの構成、救急検査項目に関する測定方法、原理、前処理、分析装置、結果および異常値の解釈と報告について学ぶ。

### 医療安全管理学

#### 医療安全管理学

医療現場では臨床検査を通して質の高い検査を提供するだけでなく、感染対策や病院環境整備などの安全性が担保される必要がある。この授業では医療現場における事故や危険性を未然に察知し、医療従事者としての対処方法について、事例をもとに医療安全を学ぶ。また、臨地実習に先立って患者対応と確認義務、事故や感染、データの確認、守秘義務等についても学ぶ。これにより、患者に安全な医療を提供するためにはどのようなことを考える必要があるかなど、医療過誤や危機管理について考察し、安全対策の課題と現状について理解する。

### 細胞検査士関連科目群

#### 【細胞検査士基礎科目】

#### 臨床細胞学総論 I

細胞診断学を学び、将来細胞検査士として活躍するために必要となる、臨床細胞学について基本的な知識と技術を総合的に学ぶ。Iでは、まず臨床細胞学の序論として、細胞診断学の歴史や目的、癌細胞の判定基準や用語などの知識を修得する。また、正確な細胞診断を行うために欠かすことのできない標本作製について実習を含めて学ぶとともに、その理論的背景を理解する。その上で、正常細胞と細胞の良性変化などに関する知識と形態的特徴について、細胞診断学の基礎となる婦人科系の特に子宮頸部を対象に学ぶ。

#### 臨床細胞学総論 II

細胞診断学を学び、将来細胞検査士として活躍するために必要となる、臨床細胞学について基本的な知識と技術を総合的に学ぶ。IIでは、正常細胞の異形成から癌までの病変組織に関する臨床細胞学的所見について、細胞診断学の基礎となる婦人科系の特に子宮頸部を対象に学ぶ。また、実習では、腫瘍関連病変から腫瘍までの典型的な細胞について顕微鏡で観察し、スケッチを行うことで理解を深める。

#### 臨床細胞学総論 III

細胞診断学を学び、将来細胞検査士として活躍するために必要となる、臨床細胞学について基本的な知識と技術を総合的に学ぶ。IIIでは、婦人科系の子宮体部および呼吸器系を対象に、正常細胞、良性変化、癌に関する臨床細胞学的所見について総合的理解を深める。また、実習では、この授業で対象とする子宮体部と呼吸器の正常細胞から腫瘍関連病変、腫瘍までの典型的な細胞について理解を深めるため、繰り返し顕微鏡で観察し、スケッチを行う。

#### 臨床細胞学演習 I

臨床細胞学総論 I・II・IIIで学んだことをもとに、実習を繰り返して学習し、必要に応じて適宜、教員により、受講生に対し個別のおよび集団的に解説を行う。この授業では、婦人科領域における各種細胞の形態学的特徴を学習し、顕微鏡にて繰り返し観察する。

#### 臨床細胞学演習 II

臨床細胞学総論総論 I・II・IIIで学んだことをもとに、実習を繰り返して学習し、必要に応じて適宜、教員により、受講生に対し個別のおよび集団的に解説を行う。この授業では、婦人科以外の領域、特に呼吸器領域における各種細胞の形態学的特徴を学習し、顕微鏡にて繰り返し観察する。

#### 細胞診断学総論

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成され、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、細胞診断学の序論として細胞診断学総論の講義と実習を行う。近年の癌罹患率の増加、がん検診率の増加を踏まえ、社会における細胞検査士の必要性を考えると、即戦力として社会に貢献できる人材としての知識、技術を習得することが必要である。

#### 細胞診断学各論 I (婦人科系)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、婦人科系細胞診断について講義と実習を行う。

#### 細胞診断学各論 II (呼吸器系)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、呼吸器系の細胞診断について講義と実習を行う。

#### 細胞診断学各論 III (消化器系)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、消化器系の細胞診断について講義と実習を行う。

#### 細胞診断学各論 IV (泌尿器系・体腔液)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、泌尿器・体腔液の細胞診断について講義と実習を行う。

#### 細胞診断学各論 V (乳腺・甲状腺)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、乳腺・甲状腺の細胞診断について講義と実習を行う。

#### 細胞診断学各論 VI (リンパ節・骨・軟部・造血器等)

細胞検査士コースは、細胞診断学に関する総論および6つの各論により構成し、細胞検査士資格認定試験合格を目標に、300時間の講義と600時間の実習を行う。この授業では、リンパ節・骨・軟部・造血器等について講義と実習を行う。

### 総合演習

#### 研究基礎演習

臨床検査に関する研究において、科学的に課題解決するための基本的理念や研究態度を身につける。その際、個人や大学の研究としてだけでなく、社会や地域への医療貢献であることを認識させる。授業ではまず、課題の理解と課題を達成するための効率的かつ積極的な行動や態度を身につけ、参考文献などによる課題や問題点の解決方法を教授し、課題に対する論理的な作業方法と判断力を養う。また、研究ノートの作成方法や研究に必要な倫理感、守秘義務などを学び、研究者としてのルールやマナーなどを修得する。この授業では積極的に討論を実施する。

#### 卒業研究A

各専門領域の教員の指導を受けながら、卒業研究を行い、卒業論文を完成させる。前半は、自らの研究課題を設定し、達成するための研究プロセスを考え、必要な知識・技術を修得する。具体的には、研究課題に関連する過去の研究論文の成果等を調べるとともに、研究に必要な試薬・備品・試料・分析装置などの選択と使用方法の確認やプレ実験を行う。後半は、適宜教員の指導を受けながら、必要な実験を行い、卒業論文の執筆を行う。途中、中間発表を行い、学生や教員による評価や討論を経ることで、学術論文としての完成度を高める。

#### 卒業研究B

卒業研究Bでは、細胞検査士・臨床検査技師として、医療の分野で社会に貢献することを目標に1年次から3年次まで学んできた種々の知識と技術を基に、細胞診断に則した研究を行う。具体的には、研究課題に関連する過去の研究論文を調査し、研究に必要な分析方法を検討し研究計画を立てる。研究に必要な試薬、備品、試料、機器を選択する。担当教員の指導のもとに実験を行い実験結果を分析し、論文としてまとめる。

#### 臨床検査総合演習A

臨床検査学は専門領域が多岐にわたっており、1年次から3年次まで個別領域の知識と技術を段階的に身につけ、臨地実習において現場を体験することにより総合化を行うこととなる。この授業では、さらに専門領域間の関係を学生に意識させつつ、基礎から応用までの知識と技術の総合的な理解を図っていく。また、臨地実習を通して身につけた知識・技術や臨地実習での経験を学生同士が共有することで、知識や技術だけでなく、卒業後の社会人としての資質や臨床への応用能力を高めていく。

#### 臨床検査総合演習B

臨床検査学は専門領域が多岐にわたっており、1年次から3年次まで個別領域の知識と技術を段階的に身につけ、臨地実習において現場を体験することにより総合化を行うこととなる。この授業では、さらに専門領域間の関係を学生に意識させつつ、基礎から応用までの知識と技術の総合的な理解を図っていく。また、臨地実習を通して身につけた知識・技術や臨地実習での経験を学生同士が共有することで、知識や技術だけでなく、卒業後の社会人としての資質や臨床への応用能力を高めていく。なお、このクラスは、細胞検査士コース受講者を対象とする。

### 臨地実習

臨床検査技師としての基本的な実践技術および施設における検査部門の運営に関する知識を修得し、被験者への適切な対応を学ぶ。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。具体的には、病院における検査受付・採血、一般検査、血液検査、免疫検査、生化学検査、細菌検査、遺伝子検査、病理検査、輸血検査、生理検査、解剖などで、実際の検査内容を経験する。また、臨地実習マニュアルを基本にして臨床検査の検体処理、分析、結果報告、解釈までを実体験し、検査の仕組み、検査の相談および情報管理、検査データの活用、精度管理、システム運用等を総合的に理解する。さらに、患者接遇、臨床検査技師としての心構え、応用力等も同時に身につける。